第 1 章　調査に至る経緯と経過

第 1 節　調査に至る経緯

一般国道 9 号は京都府京都市から山口県下関市に至る総延長約 750km で、山陰地方の諸都市を結ぶ幹線道路である。この内、静間～仁摩間の現道は急カーブや急勾配が連続する区間が多く、重大事故が発生しやすい区間である。また代替道路がなく、交通事故や災害により通行止めとなった場合は、大幅な迂回が必要となるなど地域の経済活動に大きな支障をきたしていた。こうした問題を解決するため、島根県大田市静間町から大田市仁摩町大国に至る延長 7.9km を結ぶ自動車専用道路が計画され、平成 20 年度から『静間・仁摩道路』として事業着手されている。

この計画に先立ち、国土交通省から島根県教育委員会に対して計画地内の埋蔵文化財について照会があり、平成 16・17 年度に最初の分布調査を実施した。その後、平成 18 年 2 月、平成 22 年 2 月にも分布調査を実施した。島根県教育委員会では、平成 22 年 5 月 25 日付けで、本線予定地内に 8 遺跡と 4 カ所の要注意箇所が存在することを回答している。平成 23 年度末には工事用道路の分布調査を行い、これについては、平成 24 年 4 月 9 日付けで回答した。

これらの結果を受けて、国土交通省と島根県教育委員会の間で適宜協議が行われ、予定地内の埋蔵文化財の取り扱いについては、平成 25 年 3 月 26 日付け国中整松一官第 248 号で文化財保護法第 94 条第 1 項の規定による通知が文化庁長官あてに提出された。これに対し、平成 25 年 3 月 26 日付け島教文財第 11 号の 62 で、島根県教育委員会教育長から 10 遺跡について記録保存のための発掘調査の実施が勧告された。

この間の平成 21 年 5 月には、静間仁摩道路の計画線に近い大田市五十猛町に所在する鳴滝山鉛鉱山跡について、世界遺産である石見銀山の操業に関わる鉛鉱山である可能性があることから、同年 7 月に現地協議を行った。平成 23 年 3 月の分布調査の結果、坑道そのものは事業地内に含まれていないことを確認した。事業地内に所在する坑道に至る古道及び､そこから枝分かれする通称｢御大師山古道」については、平成 25 年 8 月 19 日付け国中整松調設第 50 号で文化財保護法第 94 条第 1 項の通知があり、平成 25 年 8 月 20 日付け島教文財第 15 の 35 で発掘調査を実施するよう勧告がなされた。平成 25 年 9 月に鳴滝山鉛鉱山古道と御大師山古道周辺の測量と発掘調査を行った。

静間仁摩道路と仁摩温泉津道路の接点で仁摩・石見銀山インターチェンジに隣接する大田市仁摩町大国地内には庵寺石塔と呼ばれる岩窟があり、宝筐印塔などが納められている。この遺跡は、平成 14 年 3 月の分布調査で確認されていたが、平成 15 年 7 月に仁摩温泉津道路に関係して県教育長から国土交通省へ回答した際には、仁摩温泉津道路建設予定地内には含まれていないと認識されていた。その後、平成 19 年 7 月に『石見銀山遺跡とその文化的景観』が世界遺産に登録されると、この付近は世界遺産のバッファゾーンとなった。庵寺石塔内に安置された宝筐印塔は、元禄二 (1688) 年銘がある福光石製石塔で、保存状態がよく、紀年銘があることから石見銀山にある同型式の石塔類研究の基準資料となるもので、貴重なものとされた。この石塔群の保存について、平成 22 年 10 月の取り扱い協議では、「静間仁摩道路」に事業地内に含まれることを確認されたため、島根県教育委員会から国土交通省に対し重要性を説明。同月、大田市石見銀山課が国土交通省に対し、「石見銀山景観保全条例」との調整について協議を行った。これを受けて、国土交通省では工

法変更により岩窟付近を保存することとしたが、工事の影響を受ける岩窟前面のテラス部分については遺構の広がりを確認する必要が生じたため、発掘調査を行うこととなった。

静間仁摩道路建設予定地内の試掘確認調査は、平成 24 年度の古屋敷遺跡を最初に、平成 25 年 10 月に大田市五十猛町地内で、平成 26 年 7 月から 12 月には大国地頭所遺跡など 6 カ所で実施した。その結果、平成 27 年度は静間町及び仁摩町地内で 7 カ所の試掘確認調査を実施した。垂水遺跡、松林寺遺跡、大国地頭所遺跡、庵寺石塔群（テラス部分）の発掘調査を実施することとなった。

第 2 節　調査の経過

古屋敷遺跡は、大田市仁摩町大国に所在する。潮川の左岸、河口から約 3㎞上流に位置し、発掘前は標高 8.7 ～ 8.8 mの水田地帯であった。遺跡の南には庵寺古墳群の所在する丘陵（標高 50 ～ 80 m）、潮川対岸の北には、大国地頭所遺跡、東には石見城跡が所在する。

平成 6 ～ 9（1994 ～ 1997）年度に旧仁摩町教育委員会により五丁地区県営農地環境整備事業に伴う発掘調査が実施され、この中で平成 7・8（1995・1996）年度に古屋敷遺跡の発掘調査が実施された。この時の調査では、弥生時代の土坑、中世の建物跡、石組みを伴う近世の建物跡や弥生時代以降の遺物が確認された。平成 24 年度に、静間仁摩道路建設予定地内の確認調査のため、35 箇所でトレンチ調査を実施したところ、縄文土器、弥生土器など大量の遺物が確認された。この調査により 8,900㎡が発掘調査の対象となり、平成 25 ～ 27（2013 ～ 2015）年度の 3 カ年で調査区を A 区～ G 区の 7 区分して調査することとなった。調査の結果、弥生時代の水田跡、水路跡、縄文時代晩期の木棺墓、河道跡などの遺構や縄文時代後期から弥生時代前期にかけての大量の遺物が確認された。

本書では平成 25 年度に調査した古屋敷遺跡 A 区と平成 26 年度に調査した古屋敷遺跡 E 区について調査の経過を説明する。

平成 25 年度調査を実施した A 区では、6 月 17 日から第 2 層の調査を開始した。調査区北端を中心に遺構を検出した。

7 月 3 日に第 2 層上面の調査と並行しながら、第 2 層を掘削して、第 3 層の調査を開始した。第 3 層の調査と並行しながら、7 月 25 日に下層の状況の確認のためサブトレンチで、標高 7.2 m 付近の暗茶褐色粘質土（土器だまり 1）から、彩文土器片が出土した。

8 月 23 日から調査区を拡張して調査を実施した。（グリッド L4 ～ L7、M7、N7）。8 月 28 日に従来の調査区の第 3 層の調査をほぼ終了して、拡張区 2 層上面の調査開始した。

9 月 30 日に調査区北端付近で、木棺墓（SK2）を検出した。

木棺墓検出に伴う調査指導を数回実施した。10 月 22 日に、及川穣氏、10 月 24 日に中村健二氏の指導を受けた。

11 月 6 日に、縄文時代晩期の木棺墓検出及び現地説明会開催の記者発表を実施して、11 月 9 日に古屋敷遺跡の現地説明会を実施した。

11 月 18 日から 3 層で検出した木棺墓部分を残して 7 層上面の調査を開始した。11 月 20 日に、山田康弘氏、濵田竜彦氏の調査指導を受けた。

11 月 21 日に、12 月 3 日に木棺墓から骨が出土した。

12 月 10 日に、松下孝幸氏、松下真実氏　の指導を受け木棺墓出土骨の取り上げを実施した。

12 月 16 日に土器だまり 2 の調査を開始した。12 月 23 日に木棺墓の調査を終了した。

平成 26 年 1 月に渡邉正巳氏に、自然科学調査のサンプリングを委託した。1 月 21 日に中村唯史氏の指導を受け、現地での調査を終了した。

平成 26 年度に調査を実施した E 区では、6 月 3 日から調査を開始した。

6 月 13 日から石組遺構部分の落ち込みの掘削を開始して、6 月 17 日に水路遺構を検出した。

6 月 18 日から第 8 層の掘削を開始して、6 月 25 日に河道跡を検出した。

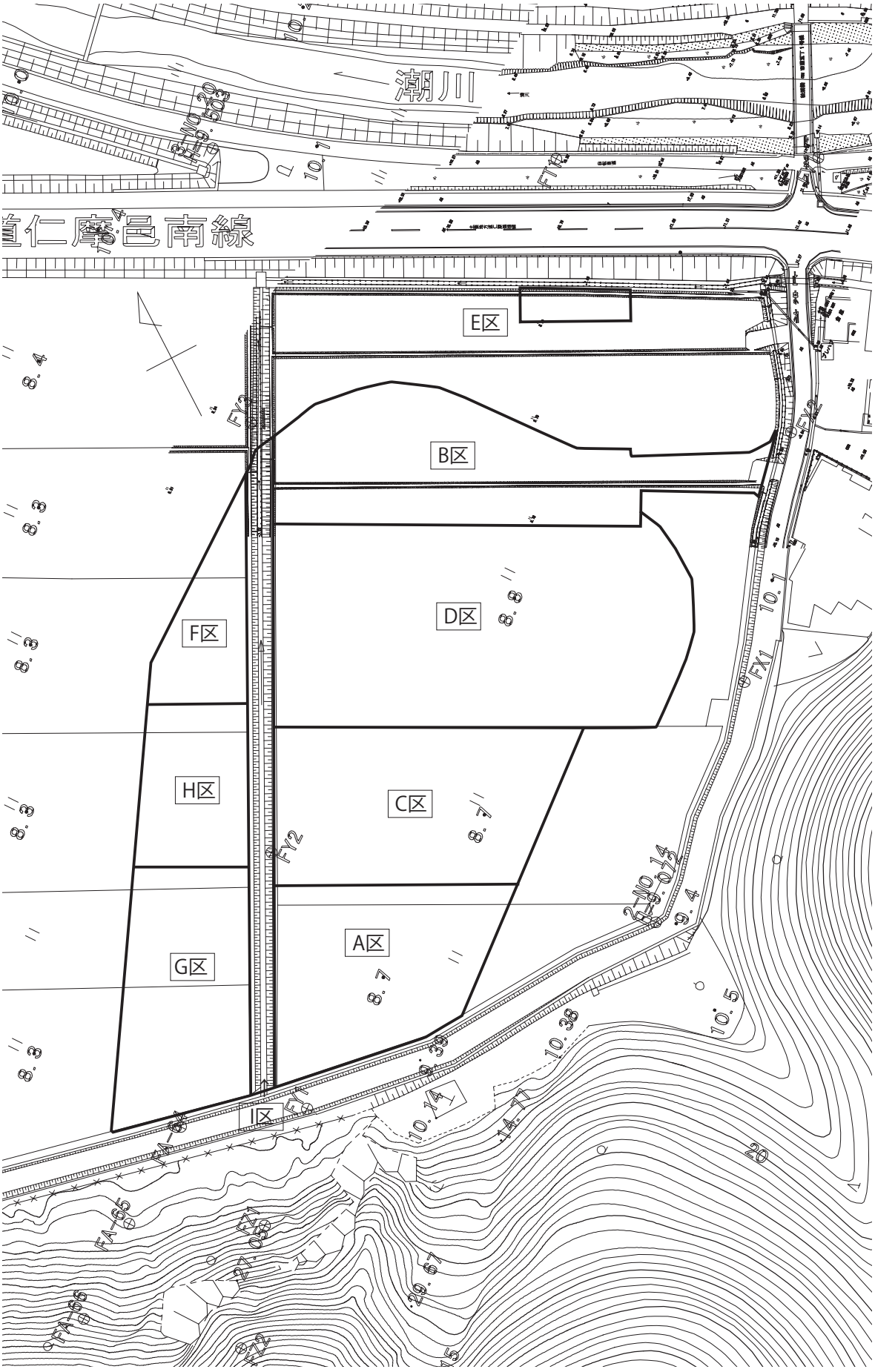
7 月 1 日に河道跡を完掘した。7 月 2 日から下層（第 12 ～ 15 層）の掘削を開始した。限られた調査区なので、掘り下げる範囲を小さくしながら、7 月 7 日に標高 6.7m まで掘り下げて掘削を終了した。

7 月 8 日に測量を終了して、E 区の現地調査を終了した。

第 3 節　調査区の設定

1. 調査区の設定

平成 25 年度に古屋敷遺跡の発掘調査を開始するにあたり、調査実施箇所の区割り及び調査区名の設定、グリッドの設定を行った。排水路、水田畦畔や道路工事の施工位置などにより調査区を区切り、調査順番ごとに A ～ G までのアルファベット順に各調査区名を決定した。その後は年度ごとに設定し平成 25 年度に古屋敷遺跡（A・B 区）、平成 26 年度に古屋敷遺跡（C・D・E・F 区）、を、平成 27 年度には古屋敷遺跡の残された部分（G・H・I 区）の発掘調査を行った。年度ごとの調査順については、調査実施上の都合と、道路建設上の都合を考慮して、国土交通省と協議して決定した。また平成 25 年度の調査開始当初から各年度・調査区とも共通した 1 辺 10 mのグリッドを設定し、各グリッドは調査区北西側に起点に南北方向にアルファベットを、東西方向に数字を割り振って、A1、A2・・・と呼称することとした。



第 1 図　古屋敷遺跡調査区配置図

第２章　古屋敷遺跡の位置と歴史的環境

第１節　古屋敷遺跡の位置と地理的環境

かつて石見国であった島根県西部は中国山地から伸びる丘陵が日本海に迫り、深い入り江となったリアス海岸と、その間に開けた平野や砂丘が交錯する変化に富んだ景観となっている。この内、古屋敷遺跡の位置する大田市仁摩町は、石見東部にあたり、北に大田市五十猛町、南に大田市温泉津町、東には世界遺産『石見銀山遺跡とその文化的景観』の中心である大田市大森町に接している。この内大田市仁摩町大国地区は、大田市仁摩町冠方面から大きく蛇行して日本海に注ぐ潮川の下流部にあたり、狭い山間を抜けた潮川が仁万平野に抜け出て急に開ける場所に当たる。古屋敷遺跡は、大田市大森町方向から西に流れる潮川が運んだ土砂によって形成された平野の東奥に位置しており、周囲の標高は約 9m、日本海からは東へ約 2.2km の位置にある。

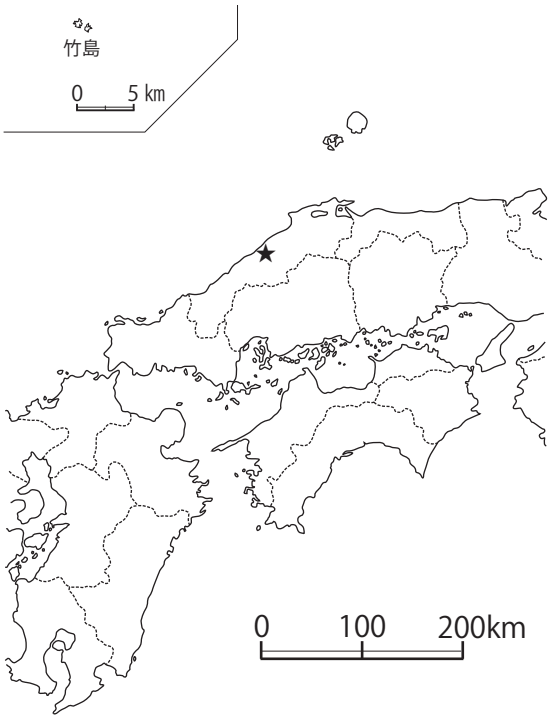
遺跡の南側にある丘陵尾根上には平成 24 年までに発掘調査が行われた庵寺古墳群があったが、現在では仁摩温泉津道路の石見銀山・仁摩インターチェンジとなっている。南には、遺跡に接して、元禄 2(1688) 年銘のある宝筐印塔などを納めた岩窟があり、庵寺石塔群と呼ばれている。また、この庵寺と呼ばれた寺が、遺跡南東側の丘陵にあったらしい。遺跡の北東には標高 153m の竜嵜山があり、山頂の周囲は、石見城跡として世界遺産『石見銀山遺跡とその文化的景観』に含まれている。

仁摩町付近では、海岸線が南北方向に続いており、西に日本海が広がっている。よって、国道９号線・JR 山陰本線は北へ向かうと出雲・松江方面、南に向かうと江津・浜田方面に向かうことになる。

第２節　古屋敷遺跡周辺の歴史的環境遺構

旧石器・縄文時代　大田市仁摩町周辺では旧石器時代の遺跡は知られていない。

久根ヶ曽根遺跡 (52)、鳥居原遺跡 (55)、仁万大橋遺跡 (24) などで縄文前期にさかのぼる土器が出土している。中期・後期になると川向遺跡 (26) や坂灘遺跡 (29) の他、古屋敷遺跡にも近い五丁遺跡 (8) など、次第に遺跡数が増加する。縄文晩期の突帯文土器の時期になると庵寺遺跡 (6)、千後田遺跡 (14) などで土器の出土が知られようになる。これらの遺跡は、いずれも仁万平野縁辺の低湿地や海岸近くの砂丘にあり、当時、入り込んでいた入り海の周囲に縄文人の生活環境が広がっていたことが想像される。三瓶山北麓では三瓶小豆原埋没林が発見されており、炭化木片について 4310 ± 80BP の年代が測定され、この頃に三瓶山の大規模な噴火があったことが推定されているが、仁摩町周辺は三瓶



第２図　古屋敷遺跡の位置

1	古屋敷遺跡	2	大国地頭所遺跡	3	松林寺遺跡	4	庵寺石塔群
5	庵寺古墳群	6	庵寺遺跡	7	於才迫遺跡	8	五丁遺跡
9	孫四田遺跡	10	大月遺跡	11	コヲスミ遺跡	12	ヒヨトリヶ市遺跡
13	京円原遺跡	14	千後田遺跡	15	入石遺跡	16	清石遺跡
17	白石遺跡	18	千人塚遺跡	19	楡ノ木谷横穴群	20	楡ノ木遺跡
21	安養寺古墳群	22	飯田遺跡	23	善興寺橋遺跡	24	仁万大橋遺跡
25	中配前遺跡	26	川向遺跡	27	毘沙門塚古墳	28	毘沙門遺跡
29	坂灘遺跡	30	坂灘古墳	31	矢迫屋横穴群	32	田尻遺跡
33	薮田遺跡	34	大井手遺跡	35	大寺遺跡	36	高浜遺跡
37	明神古墳	38	墓原遺跡	39	打落し遺跡	40	立平浜遺跡
41	赤崎山横穴群	42	宝隆寺裏古墳群	43	石見城跡	44	志源寺遺跡
45	大国城跡	46	天垣内城跡	47	横屋前遺跡	48	白石上屋敷遺跡
49	半城跡	50	ナメラ迫遺跡	51	狐城跡	52	久根ヶ曽根遺跡
53	琴ヶ浜遺跡	54	鳥居原古墳	55	鳥居原遺跡	56	虹ヶ谷城跡
57	茶臼山城跡	58	駒岩遺跡				

第３図　古屋敷遺跡の位置と周辺の遺跡

山の北西に当たるため噴出物等はほとんど見られない。

弥生時代　圃場整備に伴って旧仁摩町が発掘調査を行った古屋敷遺跡からは、多量の前期の土器とともに複数の土壙が検出されている。古屋敷遺跡に隣接する五丁遺跡 (8) や庵寺遺跡 (6) でも、縄文晩期から弥生前期に流れていたと見られる自然流路が見られ、庵寺遺跡では 34 点もの田下駄を始め木製品が出土している。川向遺跡 (26) では円形に配された杭列遺構を始め、前・中期の土器・石器・木製品など多くの遺物が出土している。

庵寺古墳群 (5) では、仁万平野を見下ろす丘陵上で弥生後期の短期間に営まれた複数の加工段が発見され、いわゆる高地性集落として注目される。楡ノ木遺跡 (20) からは後期の竪穴建物跡が検出された。この他、同時期の遺跡としては大寺遺跡 (35)、孫四田遺跡 (9) などがあり、仁万平野周辺の縁辺部に遺跡が点在している。

古墳時代　仁万平野を望む位置に築かれた安養寺 1 号墳は 12 × 8m の方墳で、箱式石棺をはじめ、4 基の主体部を備える。安養寺古墳群 (21) や坂灘遺跡 (29) からは壺棺と見られる大型の土師器壺が出土している。坂灘古墳では、石を２～３段に積み上げた床面に石を敷いた箱式石棺が明らかになっており、人骨や鹿角装刀子が出土している。また、古屋敷遺跡を見下ろす庵寺古墳群 (5) (註 1) でも、八禽鏡が出土した 1 B 号墳など複数の古墳が前期に遡ることが確認された。

古墳時代後期になると、明神古墳 (37)、鳥居原古墳 (54) を始め、五十猛の赤井穴ヶ迫古墳(註 2)など、小平野ごとに有力な古墳が築かれるようになる。庵寺古墳群でも、横穴式石室を持つ 1A 号墳が築かれるなど各地で横穴式石室が見られるようになる。この内、明神古墳は全長 10．1m の大型な横穴式石室に家形石棺を納め、金銅装円頭大刀や銅碗など優れた副葬品を持っていたことが知られ、鳥居原古墳でも双龍環頭大刀など優れた遺物が出土した。五十猛町の赤井穴ヶ迫古墳は石見地方では唯一の切石製横穴式石室を持つ古墳で、海上交通を介した出雲地方などとの交流をうかがわせる。また、楡ノ木谷横穴群 (19)、矢迫屋横穴群 (31)、赤崎山横穴群 (41) など横穴墓も非常に多く知られる地域となっている。一方、大寺遺跡 (35)・藪田遺跡 (33) など古墳時代の遺物が出土する遺跡は少なくないが、住居跡を伴う集落の発見は少ない。

古代　この付近は、『和名類従抄』では邇摩郡大国郷に含まれると思われ、近隣には託農郷がある。また、『延喜式』に見える石見国には波祢、詫濃、楠道、江東、江西、伊甘の６駅家があったとされている。古代山陰道の位置は判明していないが、託農駅が現在の大田市仁摩町宅野付近であれば、比較的近くを山陰道が通っていた可能性がある。近隣での古代の遺跡の様相は明らかでないが、大田市温泉津町の中祖遺跡では古代の瓦が葺かれた建物跡が発見された。また、大田市水上町の白坏遺跡からは「延喜九 (909) 年」と記された木簡が出土し、末端官衙の可能性が指摘されている。近隣では、五丁遺跡 (8) で条里制の畦畔が検出されている。

中世・近世　平安時代末～鎌倉時代の遺跡には白石遺跡 (17) などがある。多数の掘建柱建物跡の他、白磁・青磁などの貿易陶磁が出土した。

大永七年、石見銀山の再発見され、銀鉱山開発が活発すると、戦国大名の争奪の場となる。大国地区においても世界遺産に含まれる石見城跡 (43) があり、銀山開発初期に銀鉱石を運んだとされる石見銀山街道鞆ヶ浦道が近くを通っている。

天正十五 (1587) 年、九州攻め中の豊臣秀吉の元に陣中見舞いに向かう細川幽斎は、その行程を『九州道の記』に残している。丹後から日本海沿いに西に進む幽斎は石見銀山にも立ち寄っており、そ

れによると、大浦に泊まり、大浦から仁万まで海路で移動し、仁万から石見銀山へ向かったとされていることから、仁万から銀山へ向かう、つまり、潮川沿いに古屋敷遺跡の対岸を石見銀山へ向かう道が当時のルートの一つであったと考えられる。

古屋敷遺跡南側の岩盤に穿たれた岩窟には元禄二 (1688) 年の銘を持つ大型の宝筐印塔や正徳五 (1715) 年銘の方柱状石塔などが納められ、庵寺石塔群 (4) と呼ばれている。特に宝筐印塔は石見銀山最盛期に当たる 17 世紀代のもので、組み合わせが式でありながら、すべての部材が良好にそろい、保存状態もよいことからきわめて貴重な資料となっている。

〈註〉

（１）　島根県教育委員会　2014『庵寺古墳群Ⅱ・大迫ツリ遺跡・小釜野遺跡』

（２）　出雲考古学研究会　2015『石棺式石室の研究』

（３）　島根県教育委員会　2013『門遺跡・高原遺跡Ⅰ区・中尾 H』

（４）　島根県教育委員会　2014『市井深田遺跡・荒槇遺跡・鈴見 B 遺跡』

（５）　島根県教育委員会　1970『島根県埋蔵文化財調査報告』第２集

（６）　大田市教育委員会　1981『大田市埋蔵文化財調査報告１　上川内遺跡－田長・高原地区－』

（７）　島根県教育委員会　2015『鈴見 B 遺跡』

（８）　註３文献及び　島根県教育委員会　2015 年『高原遺跡（2 区）』

（９）　註５に同じ

(10)　註４に同じ

(11)　註１に同じ

(12)　註４に同じ

(13)　註１に同じ

(14)　註１に同じ

〈参考文献〉

島根県教育委員会　2002 『増補改訂島根県遺跡地図Ⅱ（石見編）』

島根県教育委員会　1984 『島根県生産遺跡分布調査報告書Ⅱ　石見部製鉄遺跡』

島根県教育委員会　1997 『島根県中近世城館分布調査報告書〈第１集〉石見の城館』

大田市教育委員会　1984 『三瓶川流域遺跡他詳細分布調査Ⅱ』

平凡社　1995 『日本歴史地名体系第 33 巻　島根県の地名』

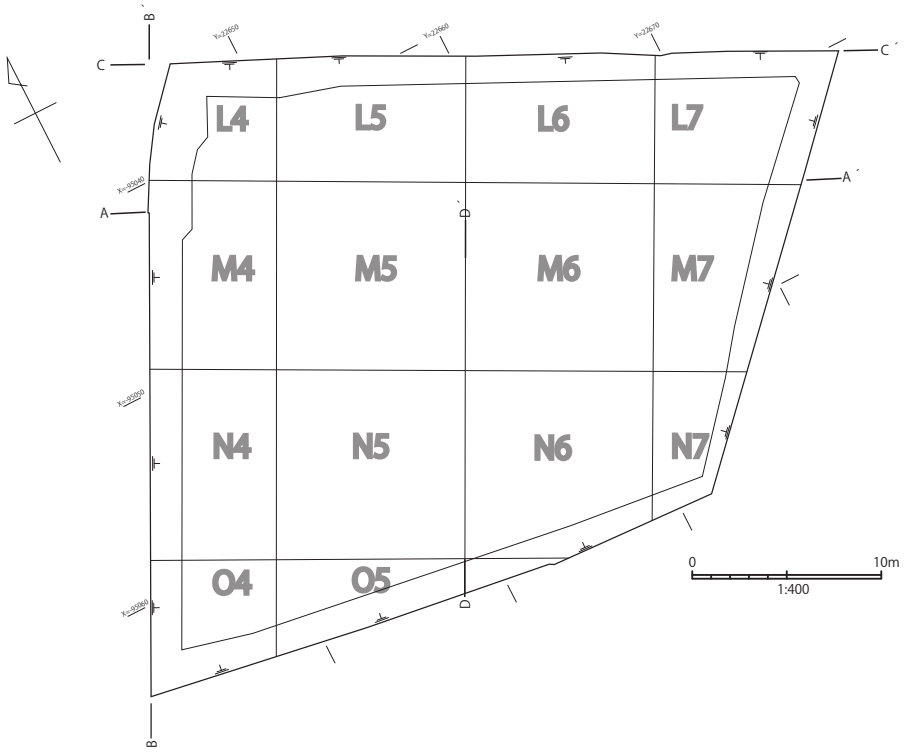
角川書店　1991『角川日本地名大辞典 32　島根県』

第３章　古屋敷遺跡 A 区の調査

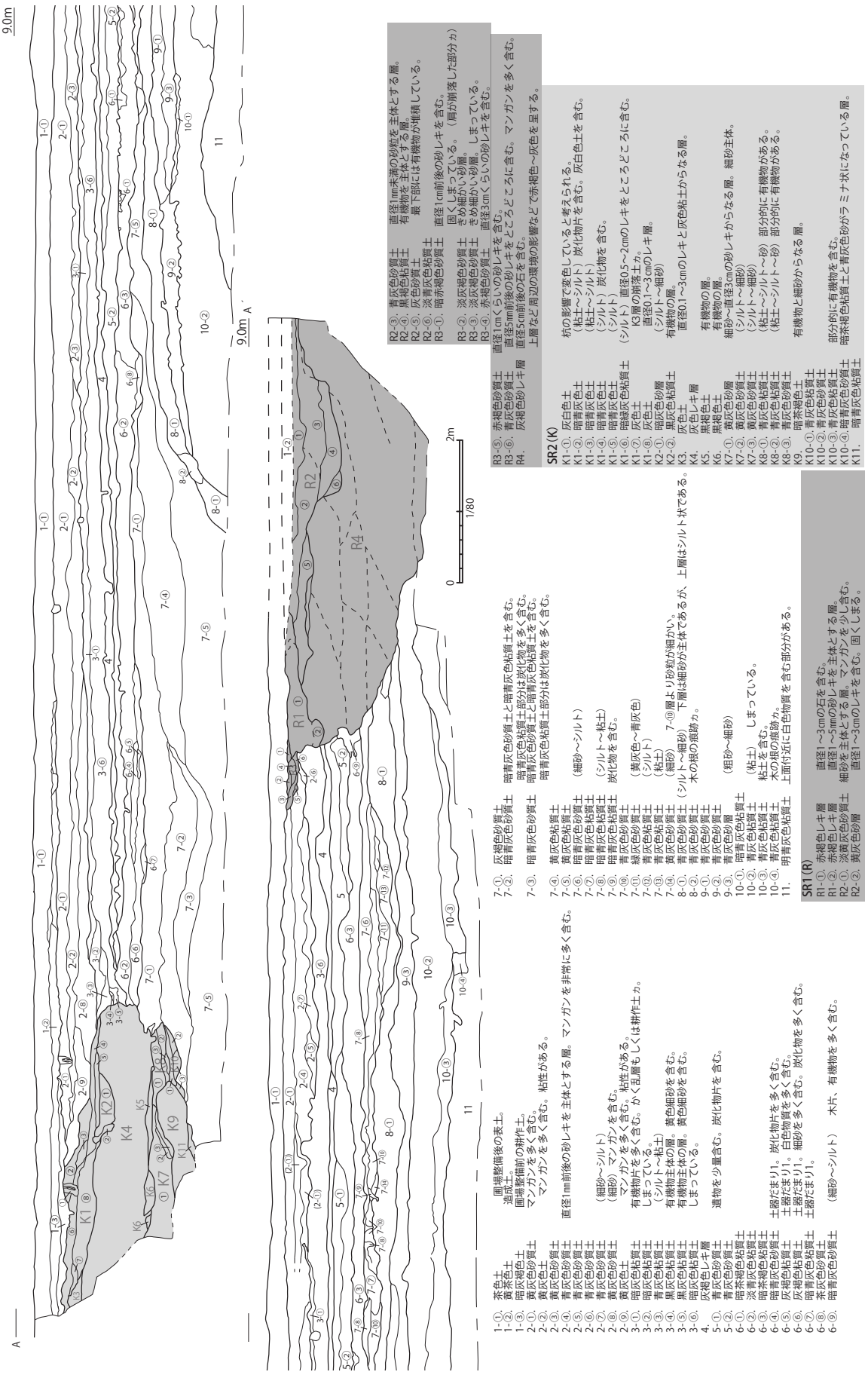
第１節　調査の概要

A 区は標高 8.7 ～ 8.8 mの水田部分に位置する。調査区の層序は、土層図（第５～８図）のとおりである。第 1 層は、圃場整備後の耕作土、現代の造成土、圃場整備前の耕作土である。第２層は粘土からシルト状の灰白色土である。第３層は、灰白色土であり、細砂、シルト、粘土状部分があり細分が可能である。第４層は灰褐色レキ層であり、調査区北部から北東部にかけて（L－Mグリッド境のみ確認された。第５層は青灰色砂質土である。第６層は暗褐色粘質土である。第７層は、青灰色土である。砂質土または粘質土部分があり、細分が可能である。第８層は青灰色砂質土である。第９層は青灰色砂質土であり、部分的に砂礫層を含む。第 10、11 層は青灰色粘質土である。SR1 は、第２層を、SR2 は第３層を切っていると考えられる。SR3 は、上面が SR1、SR2 で削平されているが、第６層を切っていると推測される。

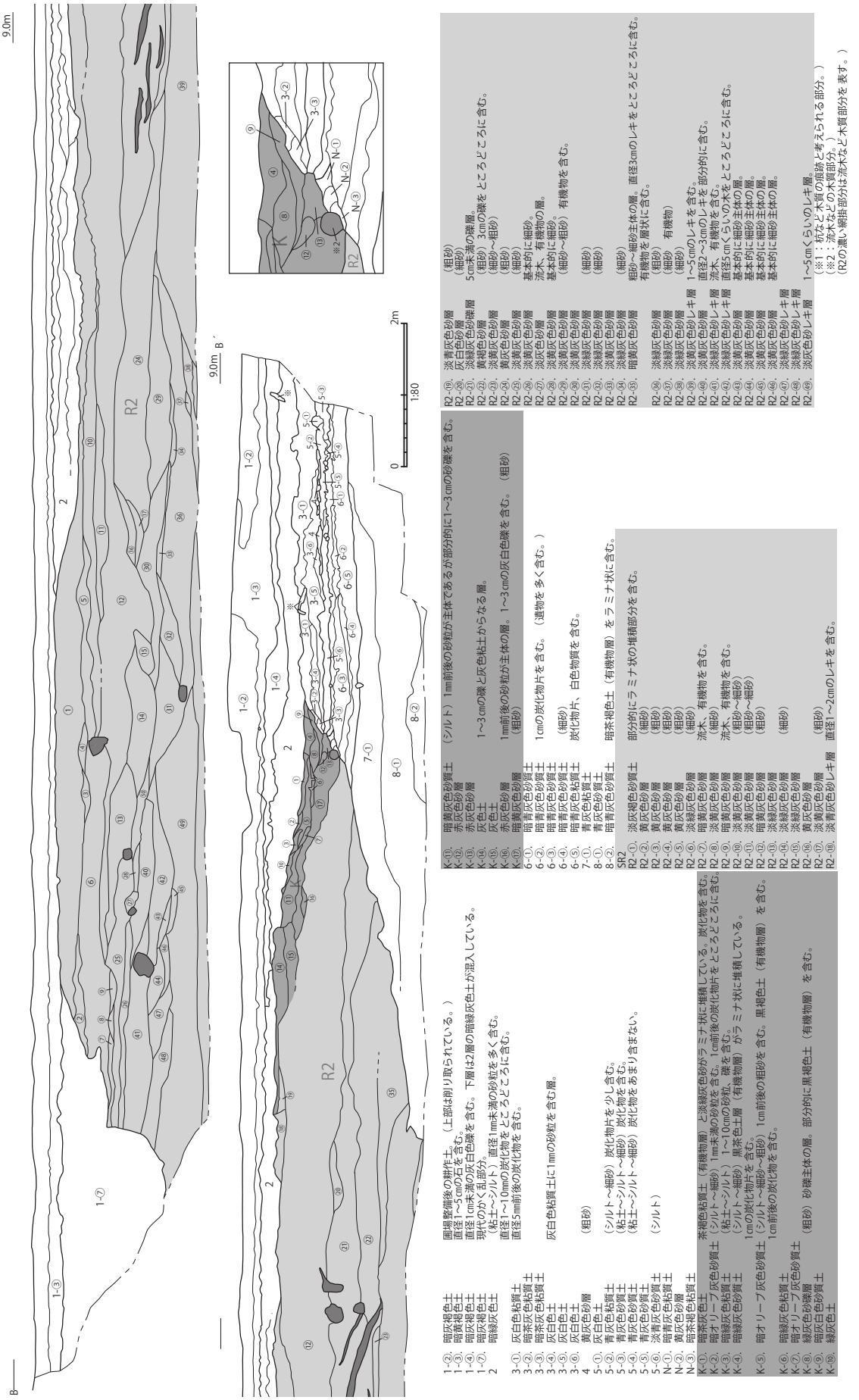
調査 A 区の調査終了後の状況は、第 79 図のとおりである。調査区北東端付近では、標高 6.0m まで調査した。第８～ 10 層の堆積状況は、第７層と類似している。調査区の北西にむかって下がっている。また南西に向かっても下がっている。南東にむかって高くなっている。ただし、第 11 層については、北西方向には下がっており、南方向に向かっては高くなっていたと想定される。ただし、第 79 図はあくまでも調査終了状況を示すもので、第 11 層掘削終了後の地形を表しているものではない。



第４図　古屋敷遺跡 A 区グリッド配置図



第５図　古屋敷遺跡Ａ区北東壁土層図



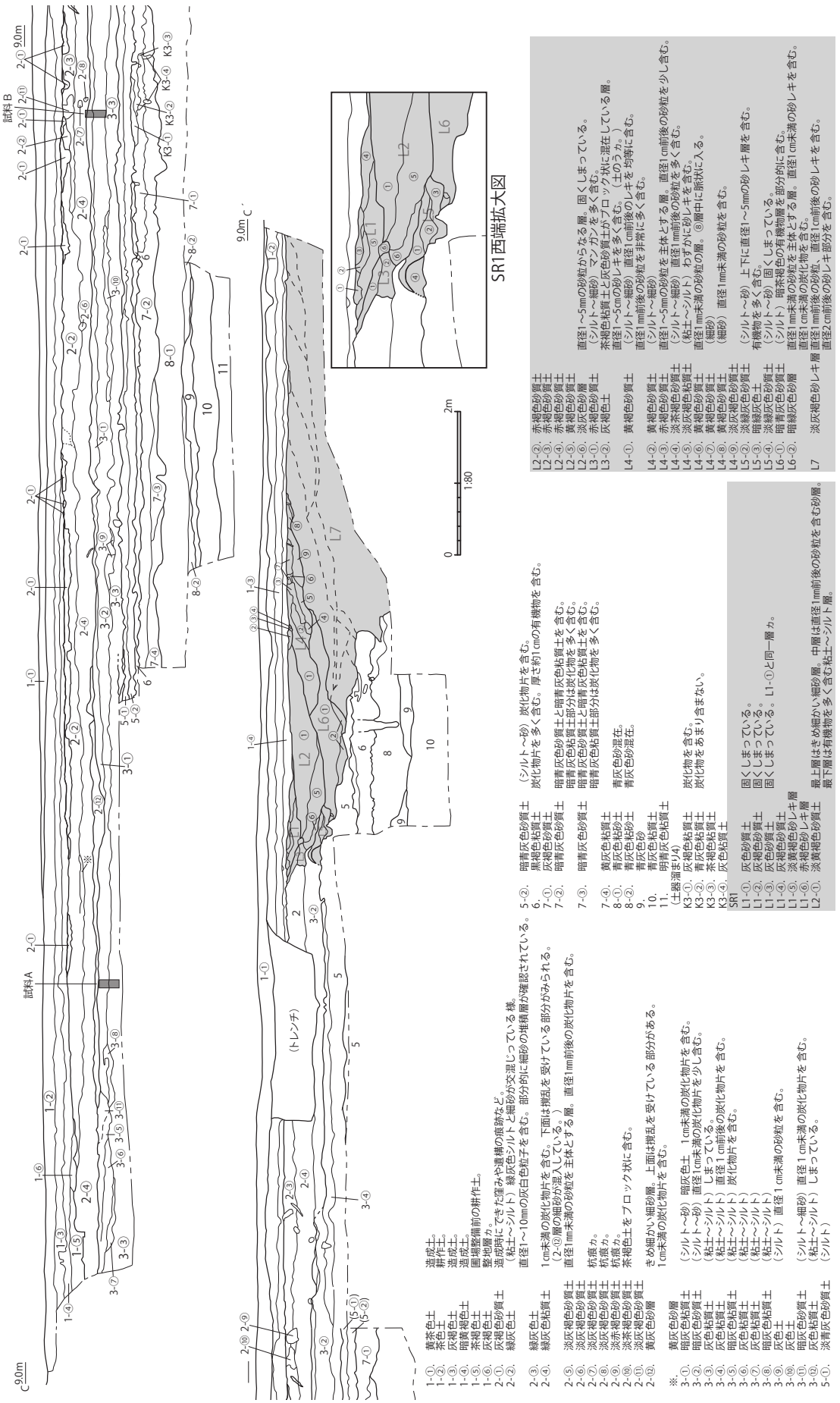
1-②. 暗灰褐色土　圃場整備後の耕作土。（上部は削り取られている。）
1-③. 暗黄褐色土　直径1~5cmの石を含む。
1-④. 暗灰褐色土　直径1cm未満の灰白色礫を含む。下層は2層の暗緑灰色土が混入している。
1-⑦. 暗灰褐色土　現代のかく乱部分。
2　暗緑灰色土　（粘土~シルト）直径1mm未満の砂粒を多く含む。
直径1~10mmの炭化物をところどころに含む。
直径5mm前後の炭化物を含む。

3-①. 灰白色粘質土
3-②. 暗茶灰色粘質土
3-③. 暗茶灰色粘質土
3-④. 灰白色土
3-⑤. 灰白色土
3-⑥. 灰白色砂層　（粗砂）
4　黄灰色砂層
5-①. 灰白色土
5-②. 青灰色粘質土　（シルト~細砂）炭化物片を少し含む。
5-③. 青灰色砂質土　（粘土~シルト~細砂）炭化物を含む。
5-④. 青灰色砂質土　（粘土~シルト~細砂）炭化物をあまり含まない。
5-⑤. 青灰色砂質土
5-⑥. 淡青灰色砂質土　（シルト）
N-①. 暗青灰色粘質土
N-②. 黄灰色砂層
N-③. 暗茶褐色粘質土

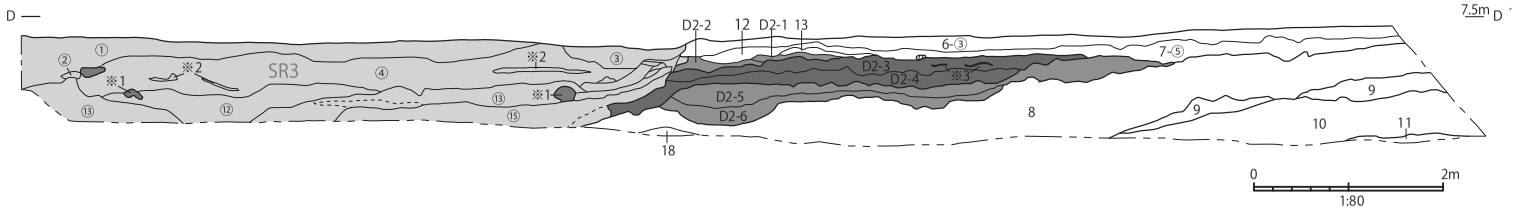
K-①. 暗茶灰色土　茶褐色粘質土（有機物層）と淡緑灰色砂がラミナ状に堆積している。炭化物を含む。
K-②. 暗オリーブ灰色砂質土　（シルト~細砂）1mm未満の砂粒を含む。1cm前後の炭化物片をところどころに含む。
K-③. 暗緑灰色粘質土　（粘土~シルト）1~10cmの砂礫、礫を含む。
K-④. 暗緑灰色砂質土　（シルト~細砂）黒茶色土層（有機物層）がラミナ状に堆積している。
K-⑤. 暗オリーブ灰色砂質土　1cmの炭化物片を含む。
（シルト~細砂~粗砂）1cm前後の粗砂を含む。黒褐色土（有機物層）を含む。
1cm前後の炭化物を含む。
K-⑥. 暗緑灰色粘質土
K-⑦. 暗オリーブ灰色砂質土
K-⑧. 緑灰色砂礫層　（粗砂）砂礫主体の層。部分的に黒褐色土（有機物層）を含む。
K-⑨. 暗灰色砂質土
K-⑩. 緑灰色土　（シルト）1mm前後の砂粒が主体であるが部分的に1~3cmの砂礫を含む。
K-⑪. 暗黄灰色砂質土
K-⑫. 赤灰色砂層
K-⑬. 赤灰色砂層
K-⑭. 灰色土　1~3cmの礫と灰色粘土からなる層。
K-⑮. 炭色土
K-⑯. 赤灰色砂層　1mm前後の砂粒が主体の層。1~3cmの灰白色礫を含む。（粗砂）
K-⑰. 暗黄灰色砂層　（粗砂）
6-①. 暗青灰色砂質土
6-②. 暗青灰色砂質土　1cmの炭化物片を含む。（遺物を多く含む。）
6-③. 暗青灰色砂質土
6-④. 暗青灰色砂質土　（細砂）
6-⑤. 暗青灰色粘質土　炭化物片、白色物質を含む。
7-①. 青灰色粘質土
8-①. 青灰色砂質土
8-②. 暗青灰色砂質土　暗茶褐色土（有機物層）をラミナ状に含む。

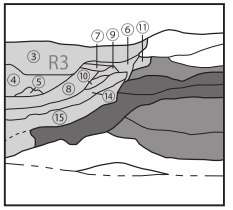
SR2
R2-①. 淡灰褐色砂質土　部分的にラミナ状の堆積部分を含む。
R2-②. 黄灰色砂層　（細砂）
R2-③. 黄灰色砂層　（粗砂）
R2-④. 黄灰色砂層　（粗砂）
R2-⑤. 黄灰色砂層　（粗砂）
R2-⑥. 淡緑灰色砂層　（細砂）
R2-⑦. 暗黄灰色砂層　流木、有機物を含む。
R2-⑧. 淡黄灰色砂層　（細砂）
R2-⑨. 暗黄灰色砂層　流木、有機物を含む。
R2-⑩. 淡黄灰色砂層　（粗砂~細砂）
R2-⑪. 暗黄灰色砂層　（粗砂）
R2-⑫. 淡緑灰色砂層
R2-⑬. 淡緑灰色砂層　（細砂）
R2-⑭. 淡緑灰色砂層
R2-⑮. 淡緑灰色砂層
R2-⑯. 黄灰色砂層
R2-⑰. 淡黄灰色砂層　（粗砂）
R2-⑱. 淡青灰色砂レキ層　直径1~2cmのレキを含む。
R2-⑲. 淡青灰色砂層　（粗砂）
R2-⑳. 灰白色砂層　（細砂）
R2-㉑. 淡緑灰色砂礫層　5cm未満の礫層
R2-㉒. 黄褐色砂層　（粗砂）3cmの礫をところどころに含む。
R2-㉓. 淡黄灰色砂層　（細砂~粗砂）
R2-㉔. 黄灰色砂層　（粗砂）
R2-㉕. 淡黄灰色砂層　（細砂）
R2-㉖. 淡黄灰色砂層　基本的に細砂。
R2-㉗. 淡灰色砂層　流木、有機物の層。
R2-㉘. 淡黄灰色砂層　基本的に細砂。
R2-㉙. 淡黄灰色砂層　（細砂~粗砂）有機物を含む。
R2-㉚. 淡黄灰色砂層
R2-㉛. 淡緑灰色砂層　（細砂）
R2-㉜. 淡緑灰色砂層　（細砂）
R2-㉝. 淡黄灰色砂層
R2-㉞. 淡緑灰色砂層　（細砂）
R2-㉟. 暗黄灰色砂層　粗砂~細砂主体の層。直径3cmのレキをところどころに含む。
有機物を層状に含む。
R2-㊱. 淡緑灰色砂層　（粗砂）
R2-㊲. 淡緑灰色砂層　（細砂）　有機物）
R2-㊳. 淡緑灰色砂層　（細砂）
R2-㊴. 淡黄灰色砂レキ層　1~5cmのレキを含む。
R2-㊵. 淡黄灰色砂層　直径2~3cmのレキを部分的に含む。
R2-㊶. 淡緑灰色砂レキ層　流木、有機物を含む。
R2-㊷. 淡緑灰色砂レキ層　直径5cmくらいの木をところどころに含む。
R2-㊸. 淡黄灰色砂層　基本的に細砂主体の層。
R2-㊹. 淡黄灰色砂層　基本的に細砂主体の層。
R2-㊺. 淡黄灰色砂層　基本的に細砂主体の層。
R2-㊻. 淡黄灰色砂層　基本的に細砂主体の層。
R2-㊼. 淡緑灰色砂レキ層
R2-㊽. 淡緑灰色砂レキ層　1~5cmくらいのレキ層。
（※1：杭など木質の痕跡と考えられる部分。）
（※2：流木などの木質部分。）
（R2の濃い網掛部分は流木など木質部分を表す。）

第 6 図　古屋敷遺跡 A 区北西壁土層図



第７図　古屋敷遺跡Ａ区（拡張区）北東壁土層図





SR3北端部分拡大図

第８図　古屋敷遺跡Ａ区グリッド（M6-N6-O6）土層図

6-③.	暗灰色粘質土	2㎝以下の炭化物を まばらに含む。
7-⑤.	黄灰色粘質土	
8	青灰色砂質土	（シルト～細砂）
9	青灰色砂層	
10	青灰色粘質土	
11	明青灰色粘質土	
12	灰色粘質土	2㎝以下の炭化物を まばらに含む。
13	暗灰褐色粘質土	2㎝以下の炭化物を やや多く含む。
18	灰色砂レキ層	1～15㎝の礫を 多く含む。1～3㎝の礫主体の層。有機物を 多く含む。

土器溜り2(D2)

D2-1	灰白色粘質土	1㎝以下の炭化物をほとんど含まない。(土器だまり2第1層)
D2-2	灰色粘質土	2㎝以下の炭化物を少し含む。(土器だまり2第1層)
D2-3	灰黒色粘質土	3㎝以下の炭化物を多く含む。炭だまり。縄文土器を 多量に含む。 （土器溜り2の遺物のほとんどはこの層から出土している。）
D2-4	灰褐色粘質土	炭化物及び遺物の出土量はD2-3層より少ない。（D2-3層と同時期の遺物を 含むヵ。）
D2-5	灰色砂レキ層	炭化物、礫を 含まない。(土器だまり2第4層)
D2-6	暗灰色粘質土	炭化物、礫を 含まない。(土器だまり2第5層)

SR3

SR3-①.	黄灰色砂レキ層	2㎝以下の円礫を 比較的多く含む。粒子が粗い。
SR3-②.	暗黄灰色粘質土	炭化物、礫を 含まない。
SR3-③.	黄灰色砂レキ層	2㎝以下の円礫を 比較的多く含む。粗い粒子の砂レキからなる層。
SR3-④.	黄灰色砂レキ層	有機物と黄色及び灰色砂レキ層が交互に堆積する。少量の円礫を 含む部分がある。 砂粒は細かい。
SR3-⑤.	暗黄灰色粘質土	炭化物、礫を 含まない。
SR3-⑥.	暗灰色砂層	2㎝以下の炭化物を やや多く含む。（噴砂ヵ）
SR3-⑦.	暗茶黒色粘質土	1㎝以下の炭化物を わずかに含む。
SR3-⑧.	黄灰色砂レキ層	1㎝以下の礫を 含む。粒子は粗い。
SR3-⑨.	灰色砂層	粒子細かい。
SR3-⑩.	黄褐色砂層	粒子細かい。
SR3-⑪.	灰色粘砂土	炭化物を 全く含まない。SR3-⑭層より 濃い灰色を 呈する。。
SR3-⑫.	灰色砂層	わずかである が木片を 含む。底には有機物が 堆積している。
SR3-⑬.	灰色砂レキ層	1～15㎝の礫を 多く含む。1～3㎝の礫主体の層。
SR3-⑭.	灰色粘質土	2㎝以下の炭化物を 少し含む。（D2-2層と同一層と考えられる。）
SR3-⑮.	灰色砂層	3㎝くらいの円礫を 含む部分がわずかにあるが、基本的には粒子は細かく礫を 含まない。

※1：木質（流木ヵ）
※2：有機物層
※3：遺物（土器）

第２節　第２層の調査

第 1 層（耕作土）を除去後に検出された第 2 層上面では、弥生時代以降の遺構が確認された。

第 2 層上面では、溝状遺構 1、土坑 1 、杭列 3、ピット 32 が検出された。このうち第 2 層遺構配置図に図示した杭列 A、杭列 B については、それぞれ東西、南北方向の杭列である。平成に施工された圃場整備前の地割に平行しており、圃場整備前の水田地割に伴うもので江戸時代以降のものと考えられる。ただし、この杭列に伴う遺物が出土しておらず、時期については不明である。また第 2 層は灰色砂質土を基本とするが、調査区の南東端部分では、調査区の堀形に平行して赤褐色砂礫層が検出された。

1. 溝跡 1（第 10 図）

調査区中央やや東よりに位置し、検出面の標高は約 8.4 m、北東 - 南西方向に長さ 4 m、幅 0.2 ～ 0.4m、深さ 5㎝を測る。溝の上部は削平されたと考えられるが、溝底の高さは両端で変わりがなかった。遺物は出土しておらず、時期、性格などは不明である。

2. 土坑 1（第 11 図）

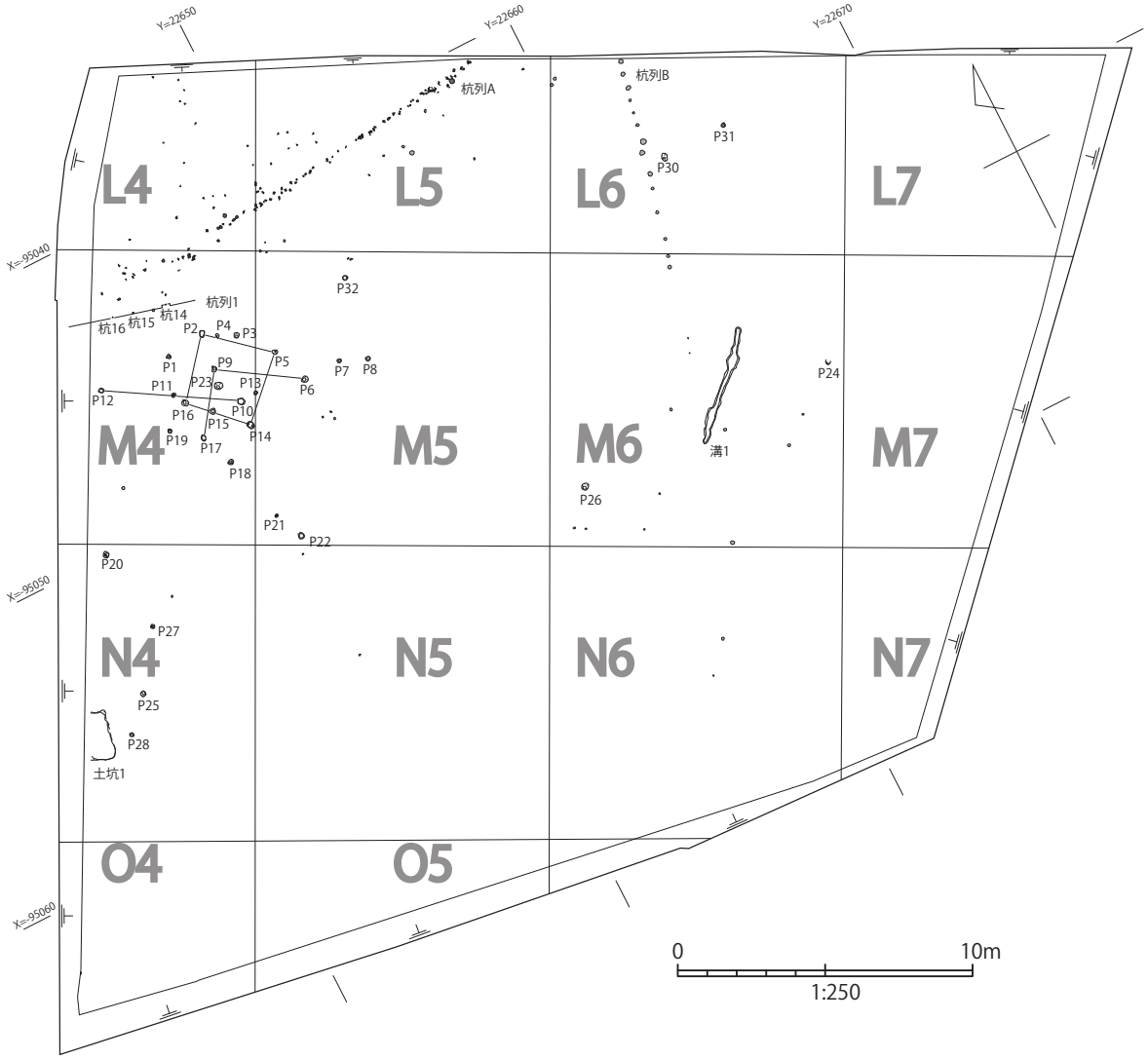
調査区西端に位置し、長軸を南北方向にとり、標高約 8.3 ｍで検出された。全形は確認できなかったが、現状で平面長方形、長さ 1.7 m、幅 0.8 m、深さ 30㎝である。遺物は出土しておらず、時期、性格等は不明である。

3. 杭列 1・A・B（第９・12 図）

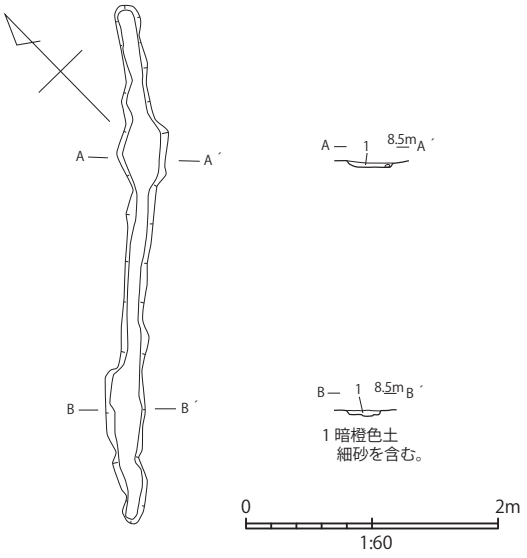
杭列 A は、調査区の北側で検出された。圃場整備前の水田に伴う杭列である。方位は、北 -83.5° - 東にとる。杭列 A が打たれた時期は不明であるが、杭は腐朽しておらず江戸時代以前にまで遡る遺構ではないと推測される。杭列 B は調査区の北東側で検出された。杭は残存していなかった。方位は北 -13.1° - 東にとる。杭列 1 は調査区北端付近に位置し、杭 14、杭 1、杭 15、杭 16 がほぼ直線上に並ぶ状態で検出された。検出された杭上端の標高は 8.4 m付近であり、方位は、西 -15.3° - 南にとる。杭列 1、A、B はすべて第 2 層上面で検出されている。本来第 2 層より上に土砂が堆積していたと考えられるが、後世に削平されている。杭列 1 は削平前の遺構と考えられ、杭列 A・B は削平後の遺構と推測されるため杭列の名称を数字表記とアルファベット表記と数字表記に分けた。杭列 1 と杭列 B とは直交する方位をとるが、関係性は不明である。杭列 1 に伴う遺物は出土していない。依存度が比較的良かった杭 1 は第 14 図 -14 に図示した。矢板状木材の先端の可能性が考えられる。遺構の時期、性格等は不明である。

4. ピット（第 12・13 図）

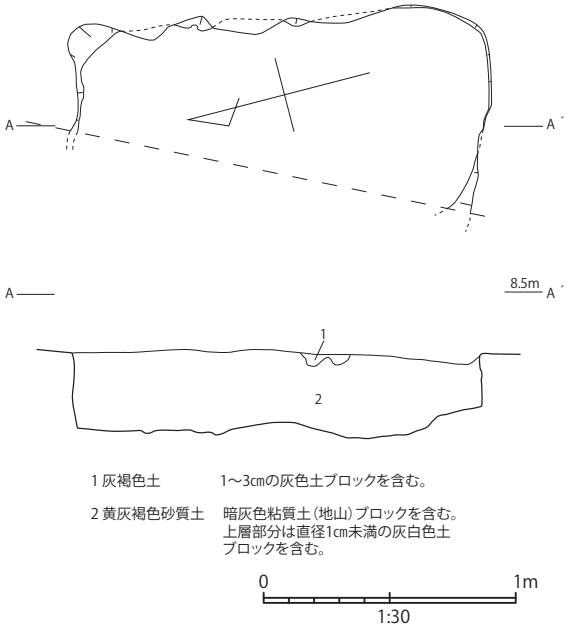
調査区の北西部分を中心に 32 基検出された。標高 8.4 m付近、平面円形から楕円形で、直径 10 ～ 30㎝、深さ 5 ～ 10㎝を測る。ほとんどのピットの埋土は、暗灰褐色粘質土であり、遺物はともなっておらず時期は不明である。柱列又は建物状杭列については並ぶ可能性があるピットは第 12 図のライン A-A′～ G-G′のとおりである。このうち SB1 は 1 間× 1 間（2.4m × 2.4m）、SB2 は L 字状の柱穴配置（P6-P9 間 3.1m、P9-P17 間 2.4m）が確認できる。



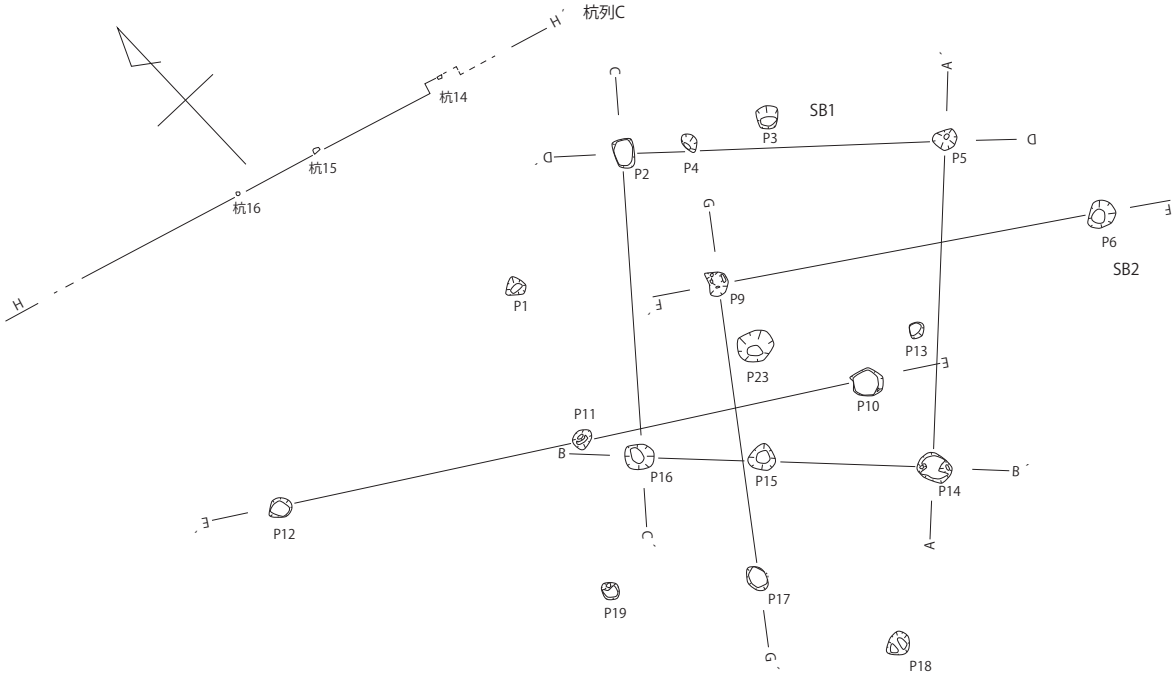
第 9 図　古屋敷遺跡 A 区第 2 層遺構配置図

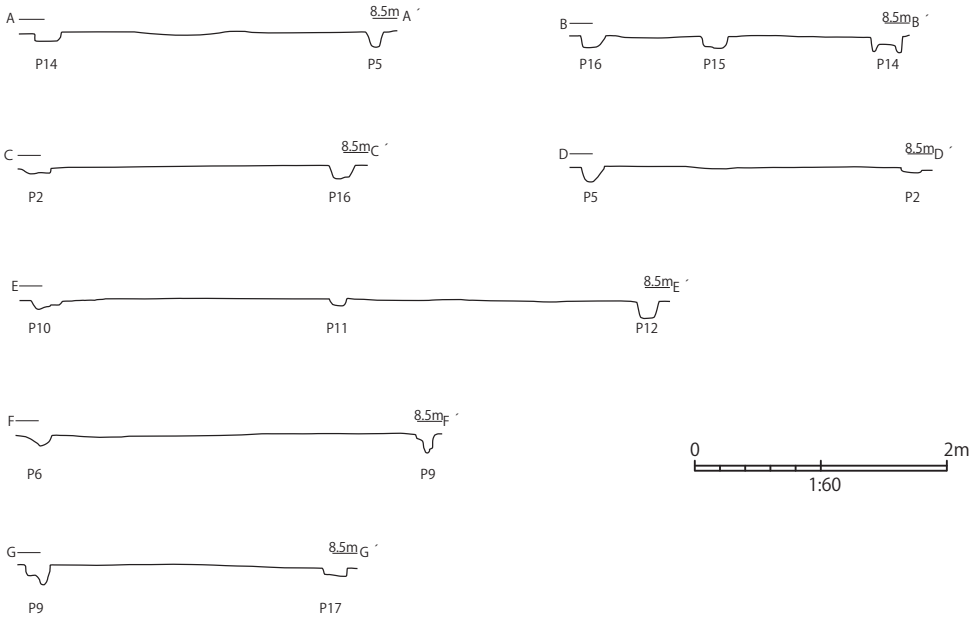


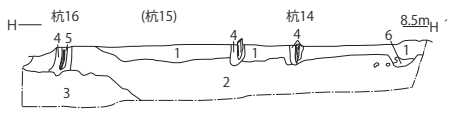
第 10 図　古屋敷遺跡 A 区第 2 層溝 1 実測図



第 11 図　古屋敷遺跡 A 区第 2 層土坑 1 実測図

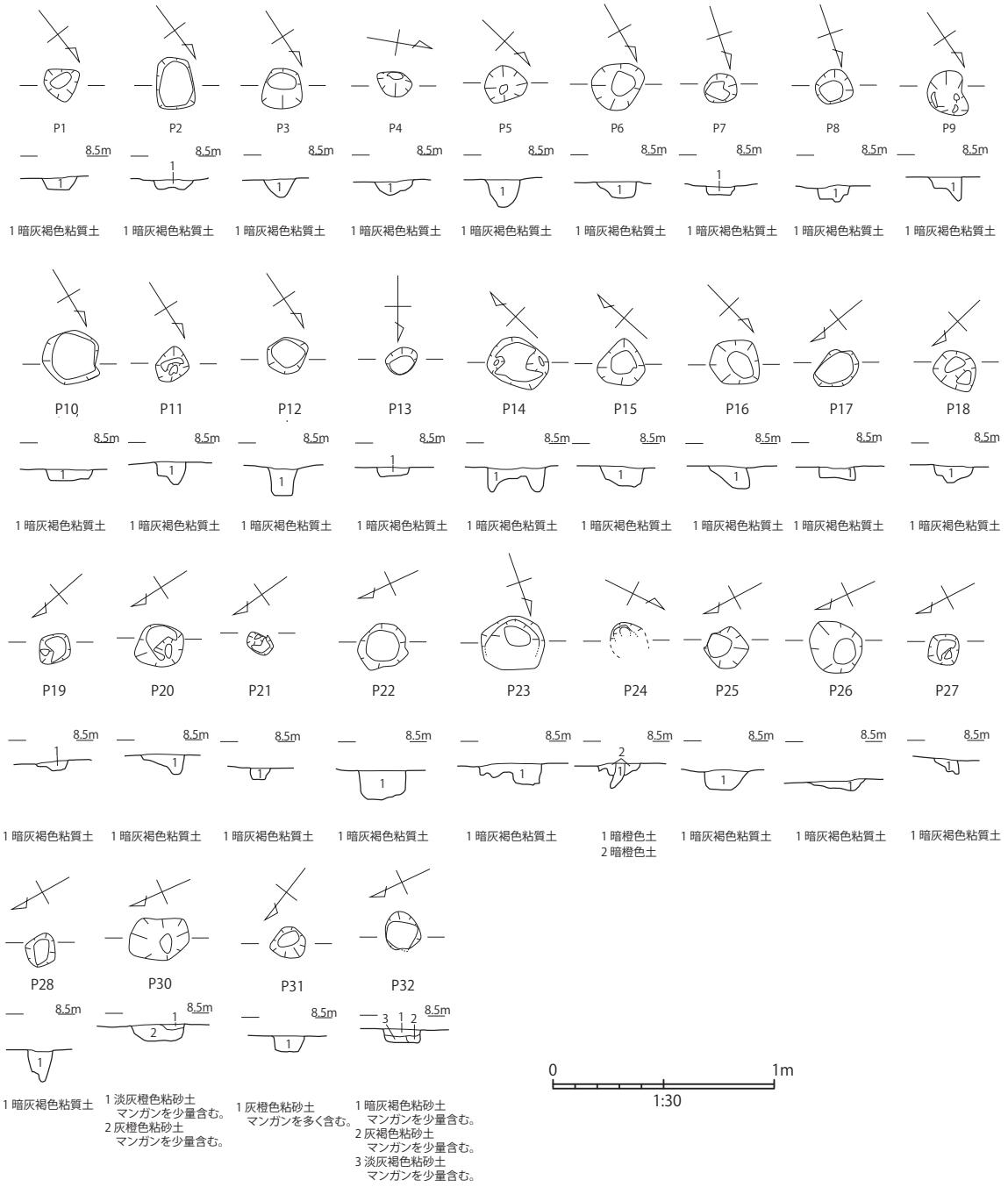




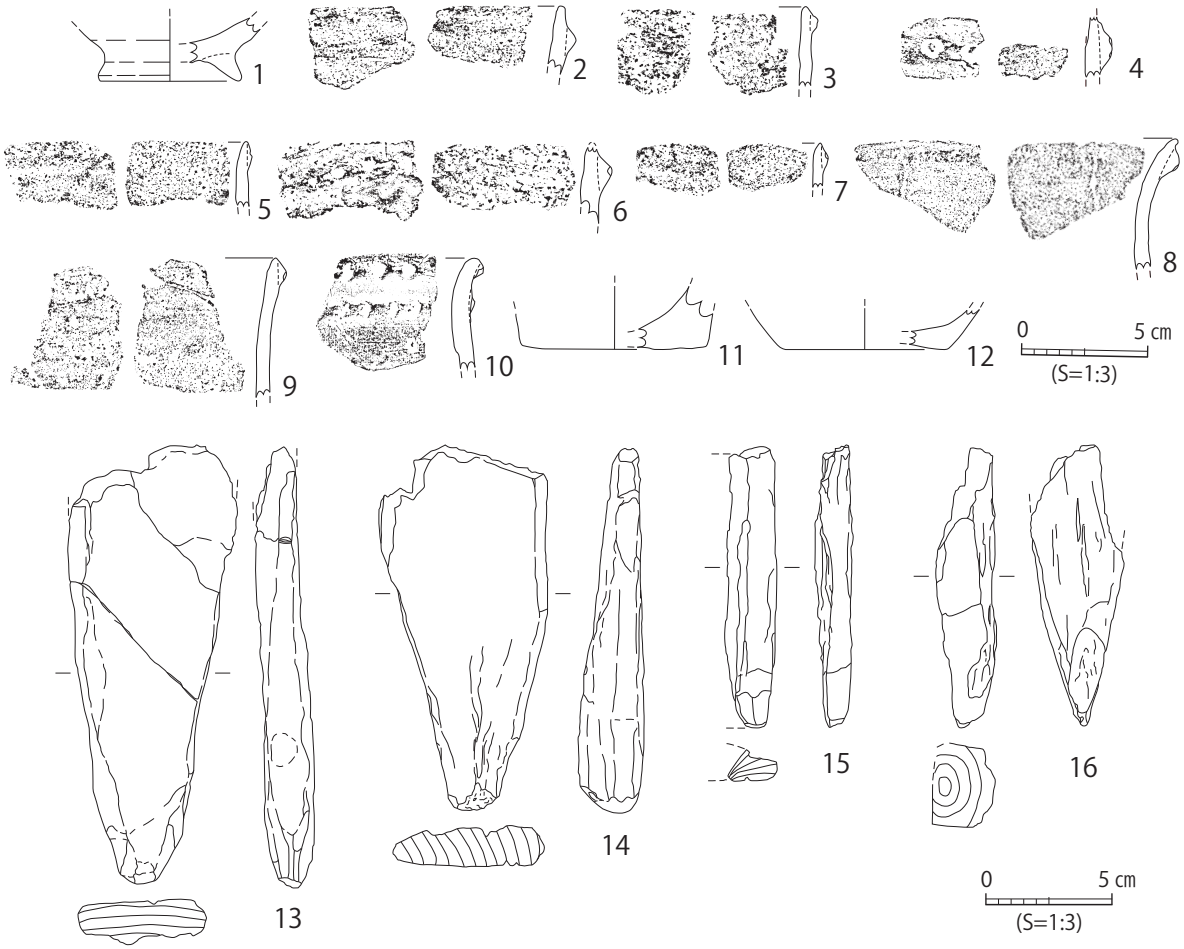


1 黄褐色粘質土　直径1～2㎜の砂粒を含む。
2 黄灰色土　（シルト～細砂）しまっている。炭化物を含む。
3 淡灰色レキ層　直径1～20㎜の礫を含む。しまっている。
4 青灰色土　1、2層が杭の影響を受けた部分。
5 濃青灰色土　1、2層が杭の影響を受けた部分。
6 濃灰色土　粘土と細砂からなる層。杭の影響を受けた部分と考えられる。

第 12 図　古屋敷遺跡 A 区第 2 層ピット・杭列実測図 1



第 13 図　古屋敷遺跡 A 区第 2 層ピット実測図 2



第 14 図　古屋敷遺跡 A 区第 1・2 層出土遺物実測図

5. 第 1・2 層出土遺物実測図（第 14 図）

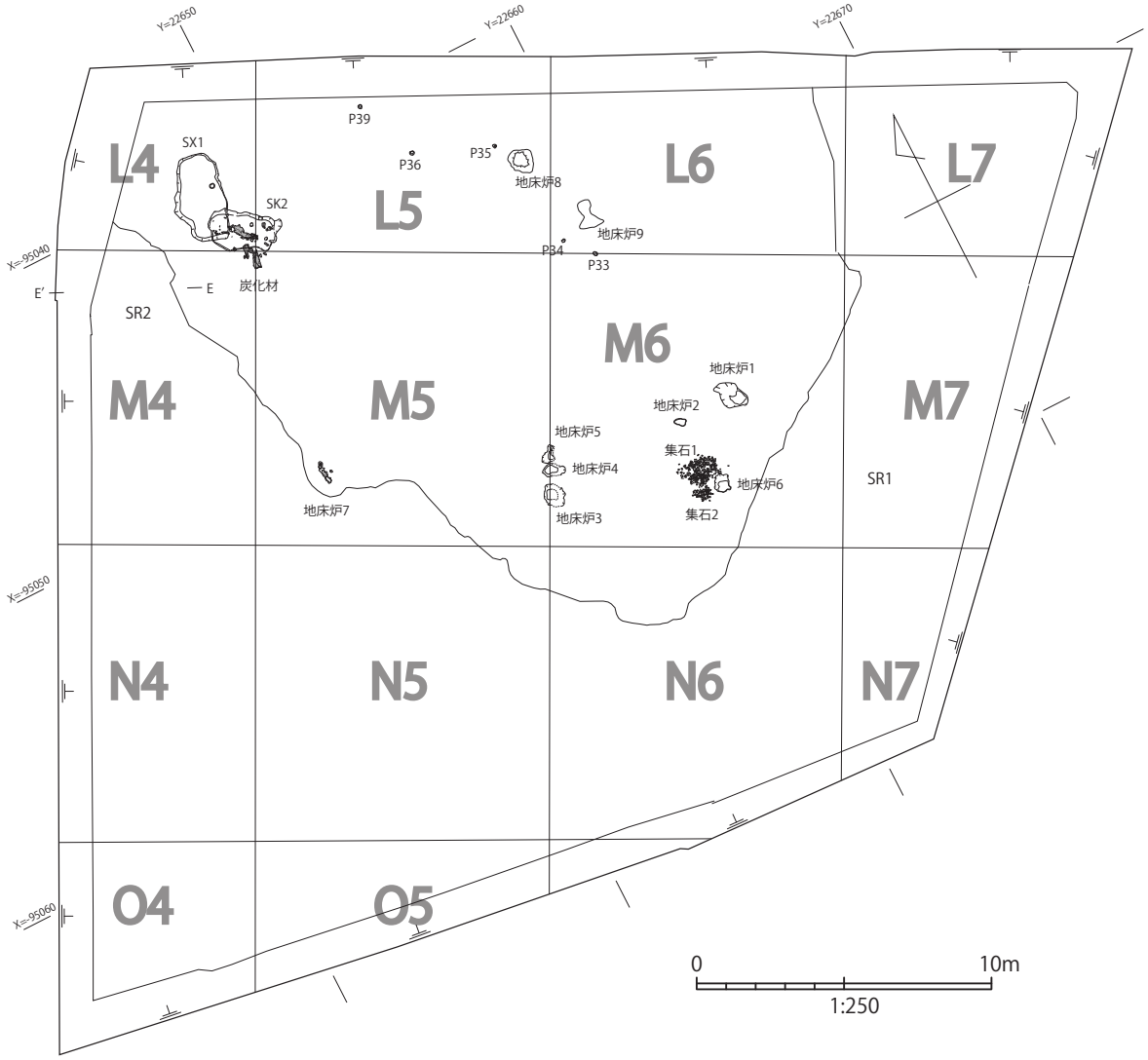
第 1 層もしくは第 2 層出土の可能性がある遺物の実測図である。 1 は土師器・高台付きの坏である。2 ～ 7 は縄文土器・深鉢である。いずれも突帯文土器であり、2、3、7 は無刻目、4 は竹管状工具による刺突状の刻目、5、6 は円形の刻目である。8、9 は突帯文土器である。8 は斜め方向の刻みを持ち、9 は不正形の刺突を持つ突帯文土器である。10 は出土層位不明の二条の突帯文土器である。11 は弥生土器・甕の底部、12 は土師器の可能性が考えられる。13 ～ 16 は第 2 層上面で検出された杭状木製品である。

第３節　第２・３層の調査

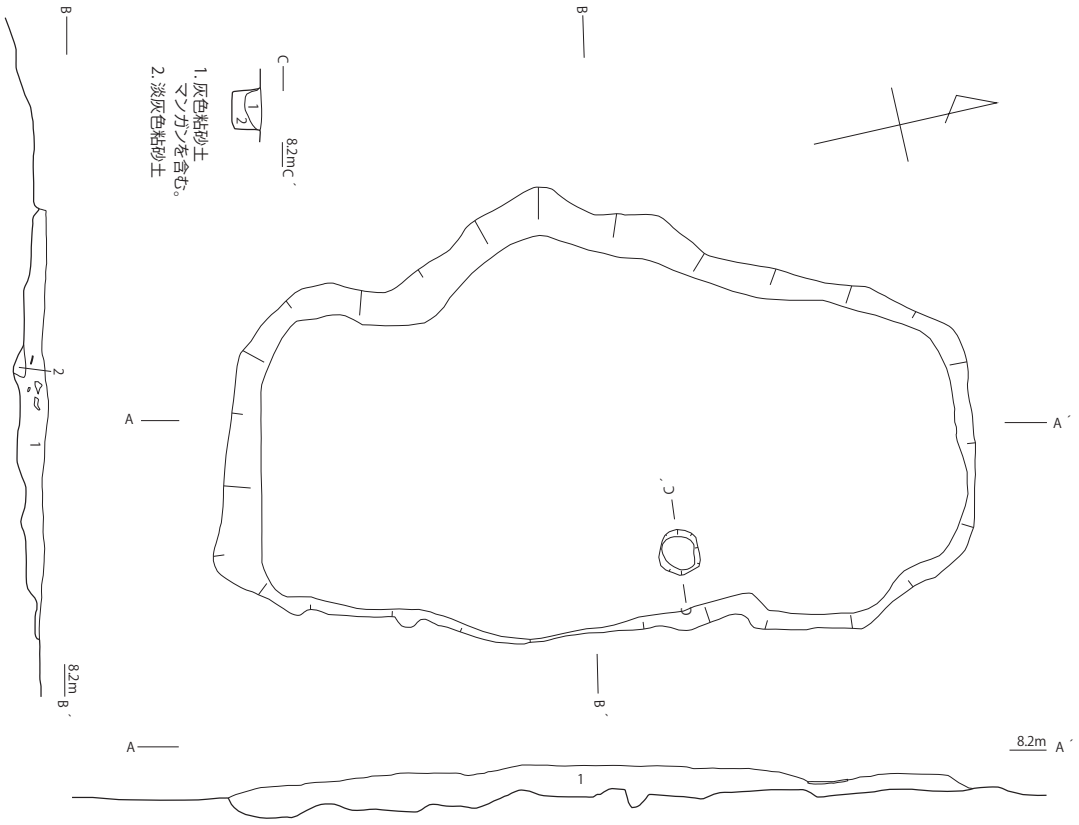
第３層を若干掘り進めた段階で自然河道 SR1・SR2 が検出され、これに挟まれた「U」字形の範囲が SR1・SR2 の浸食を受けていない部分である。これが基盤面となっており、３層では土坑１（SX1）、木棺墓１（SK2）、地床炉９、集石遺構２、ピット６が検出された。第３層は、基本的には灰白色粘質土を基調とした厚さ約 25㎝の土層で、砂質土の有無、色調の違いで①～⑫層に細分した。各細分層は面的に確認することは困難であった。各遺構は検出面に多少の高低差があるが、それぞれの遺構がどの細分層で検出されたのかは判断できなかった。また SX1 が立地した調査区北部では、木棺墓（SK2）や SR2 が検出されるなど、遺構や河道が重層的に展開している様子がうかがえた。

1.SX1（第 16 ～ 18 図）

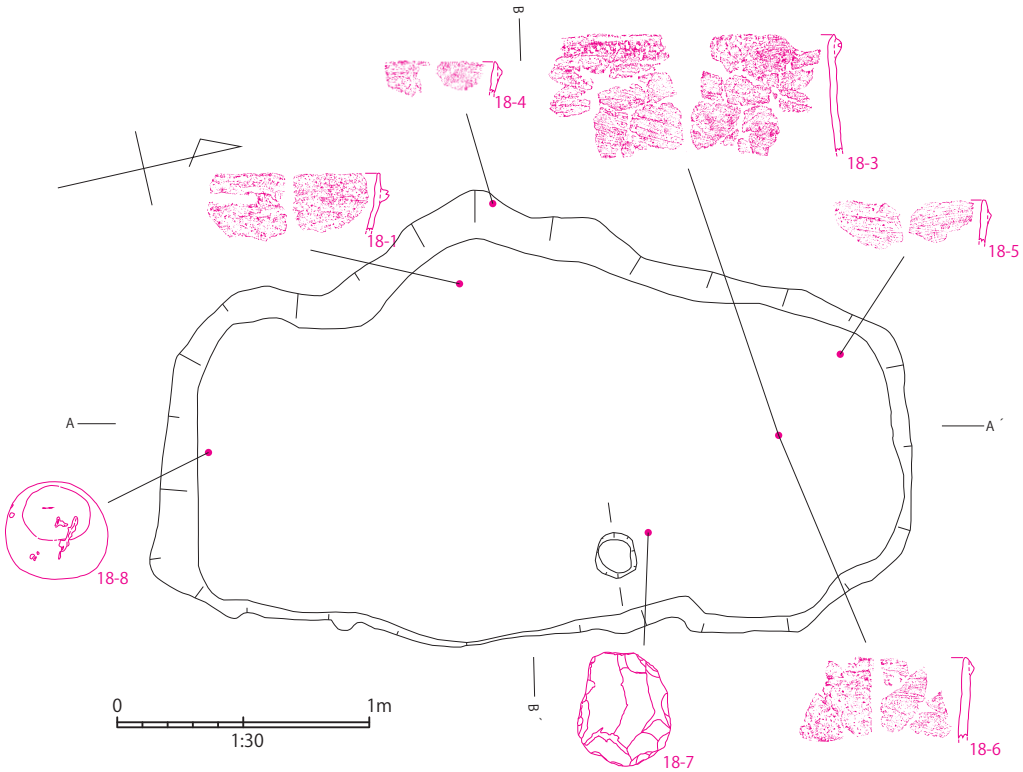
SX1 は、調査区の北端に位置し、第３層上面の標高 8.1m 付近で検出された。木棺墓（SK2）とは、切り合っていない。平面形は不整形な長方形であり、長軸は 3.0m、短軸は 1.5m、深さは 15㎝を測る。埋土は２層確認されており、主体をなす第１層は炭化物を多く含む暗灰黒色土であり、第２層は 5㎜以下の焼土を含む暗茶灰褐色土である。SX1 の東側では、SX1 の埋土を切ってピットが掘り込まれていた。（第 16 図 CC′ライン）このピットでは SX1 埋土と違い炭化物をあまり含んでい



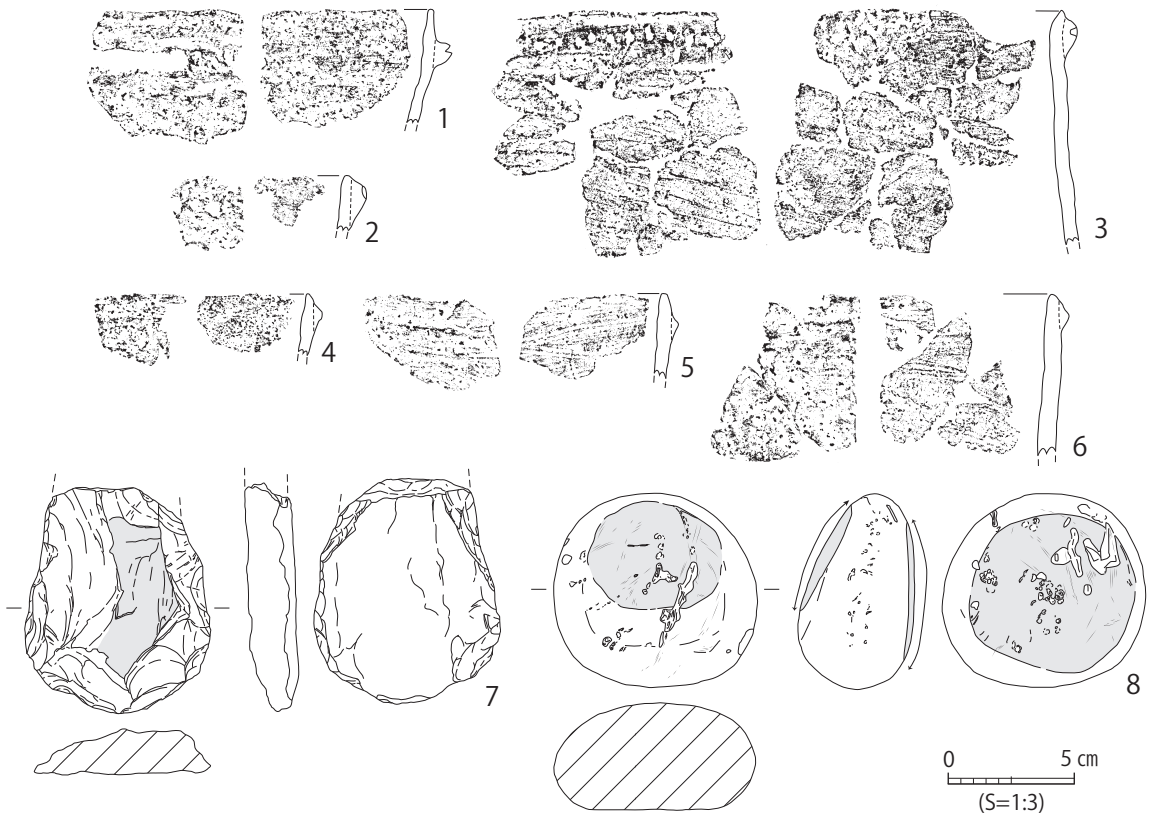
第 15 図　古屋敷遺跡 A 区第 3 層遺構配置図



第 16 図　古屋敷遺跡 A 区第 3 層 SX1 実測図

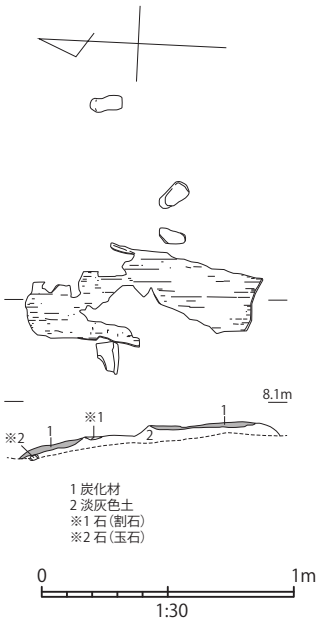


第 17 図　古屋敷遺跡 A 区第 3 層 SX1 遺物出土状況図



第 18 図　古屋敷遺跡 A 区第 3 層 SX1 出土遺物実測図

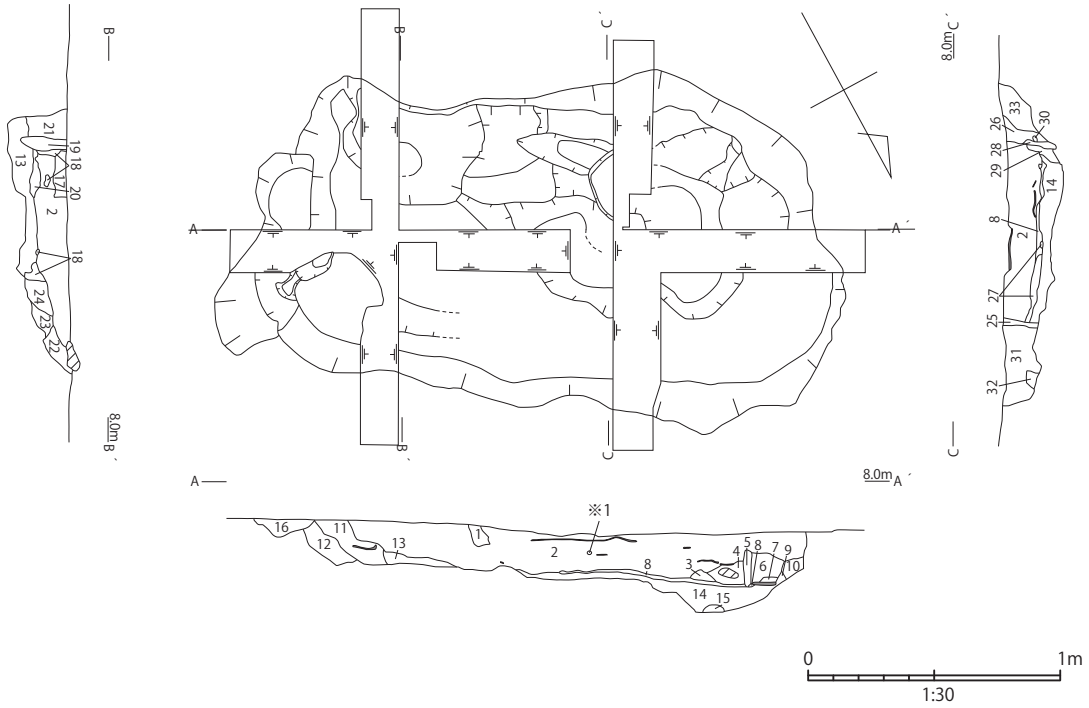
なかった。SX1 内からは突帯文土器､石器が出土した。（第 17･18 図）第 18 図 1 ～ 6 は縄文土器･深鉢の口縁部で、突帯文土器である。1 は突帯部分に楕円形の小さな刺突が施されている。2 は管状の工具による刺突、3 は円形の刺突が施されている。4 ～ 6 には刻目文が施されていない。1 ～ 6 の土器は、全体として灰褐色から黄褐色系の色調を呈している。7 は打製石斧である。欠損している。8 は擦石／敲石である。正面及び背面に磨面があり、正面、背面及び側面に敲打面が残っている。



第 19 図　古屋敷遺跡 A 区
第 3 層炭化材実測図

2. 炭化材（第 19 図）

調査区北部の標高 8.1 m付近で検出された。SX1 の南側 1m の地点であり、SX1 検出レベルより約 10㎝低かった。長さ 1m、幅は現状で 20㎝であるが、本来長方形状の板材と仮定した場合幅 40㎝となる。厚さは、1㎝前後である。この炭化材直下約 20㎝からは木棺墓（SK2）に伴う石材が確認された。炭化材は SK2 南東端に直交するように検出されたが、関係あるものかどうかは不明である。直接伴う遺物は確認されなかったが、SX1 及び木棺墓が検出されたこの付近の第 3 層からは、三田谷文様をもつ土器（第 36 図 2）や注口土器（第 36 図 4）など、比較的多くの遺物が出土している。



縦断面 (AA´)

1.	灰白色粘質土	
2.	黒灰色粘質土	
3.	黄褐色砂質粘質土	1㎝大の炭化物を含む。
4.	黒灰褐色粘質土	
5.	暗灰黒色粘質土	
6.	暗灰褐色粘質土	
7.	暗茶色粘質土	
8.	暗茶褐色土	一部に木質を伴う。
9.	暗茶黒色土	
10.	暗青灰色砂質粘質土	
11.	黒褐色粘質土	
12.	淡灰褐色粘質土	
13.	暗黒灰褐色土	1㎝大の炭化物を含む。
14.	黒色粘質土	黄褐色土ブロックを含む。
15.	黄褐色砂質土	
16.	黒灰色粘質土	

※1. 骨

東横断面 (BB´)

2.	黒灰色粘質土	
17.	暗灰色砂質土	
18.	灰褐色粘質土	
18.	灰褐色粘質土	
19.	黒褐色粘質土	
20.	暗黒褐色粘質土	
21.	暗灰褐色粘質土	
22.	暗灰色粘質土	5㎜以下の炭化物を含む。
23.	暗灰色粘質土	
24.	淡灰褐色粘質土	

西横断面 (CC´)

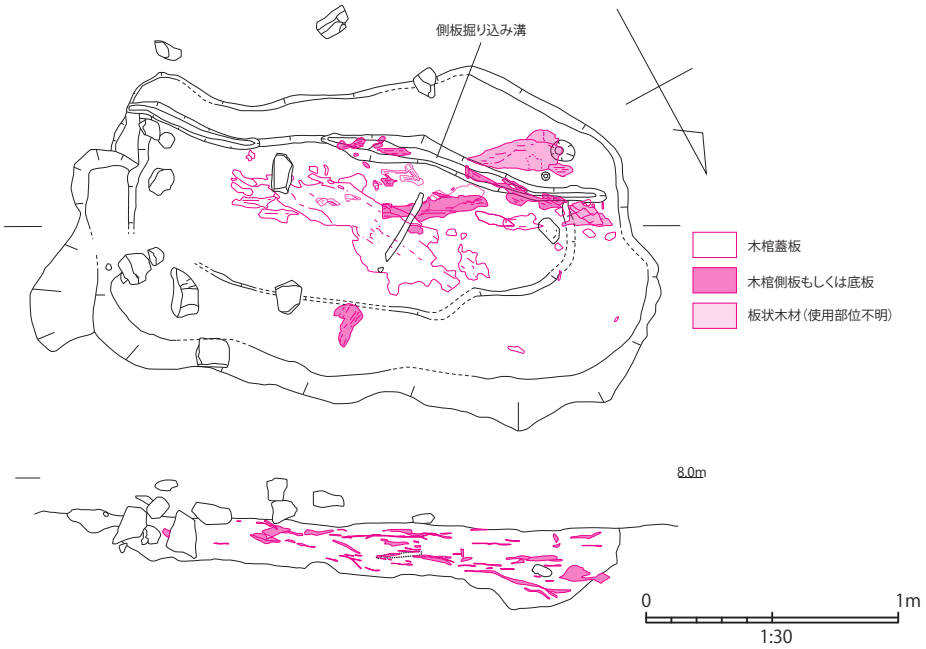
2.	黒灰色粘質土	1㎝大の炭化物を含む。
8.	暗茶褐色土	一部分が灰白色化し、粘性をおびている。
14.	黒色粘質土	黄褐色土ブロックを含む。
25.	灰褐色粘質土	
26.	暗灰褐色粘質土	
27.	淡灰色砂質粘土	
28.	黒褐色粘質土	
29.	暗黒灰色粘質土	
30.	灰白色粘質土	
31.	暗灰褐色粘質土	
32.	淡灰褐色粘質土	
33.	灰褐色粘質土	暗灰褐色土をブロック状に含む。

第 20 図　古屋敷遺跡 A 区第 3 層木棺墓（SK2）実測図

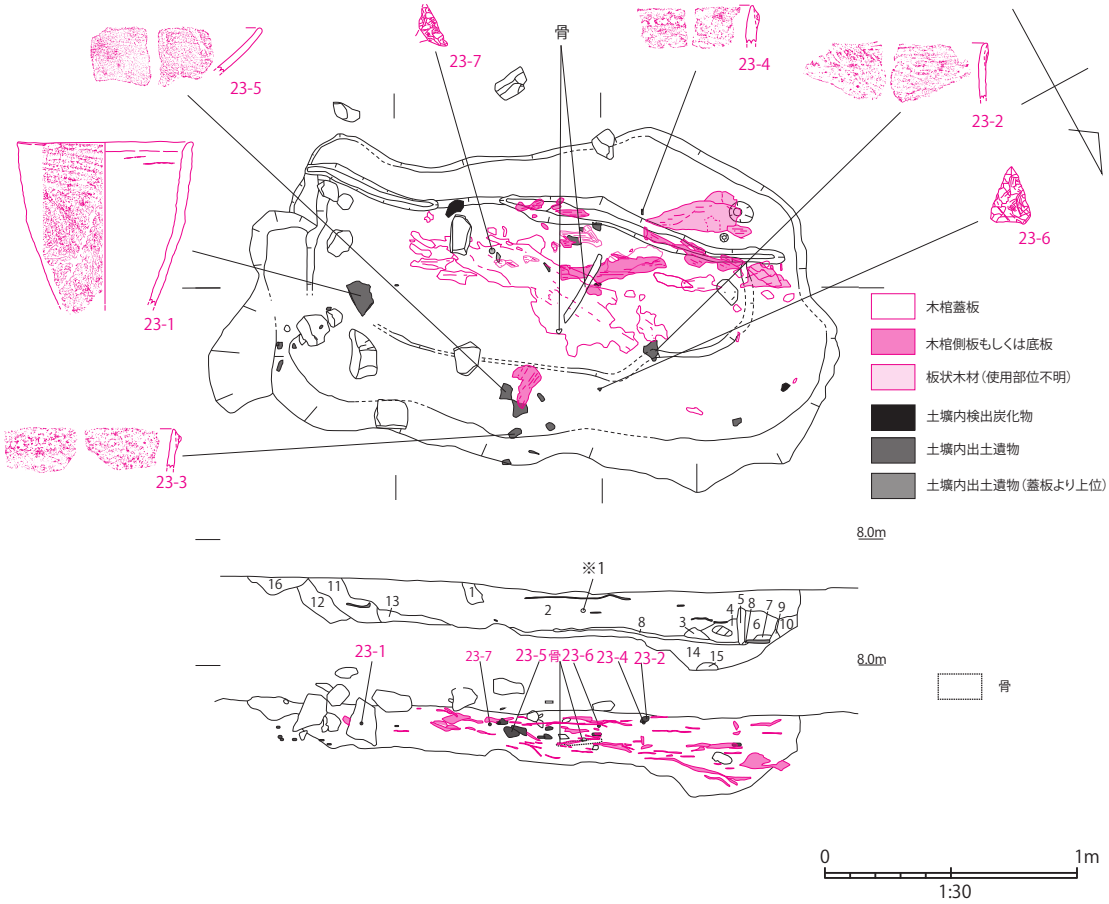
３．木棺墓（SK2）（第 20 ～ 23 図）

調査区北部に位置し、標高 7.9m 付近で検出された。平面的には SX1 と SK2 は重複しているが、SX 1 の基盤となった土を掘削中に SK2 が検出されたことから､SK2 は SX1 より古いと判断される。SX1 の坑底と SK2 検出面との比高差は約 15㎝である。また、第 19 図炭化材は SK1 検出面とほぼ同じレベルかやや低い位置で重複しているが、SK2 に関係するものかどうかは不明である。

墓壙中央部の底面から約 10㎝高い位置で人の大腿骨が出土し、さらに壙底で棺材設置痕跡が認め



第 21 図　古屋敷遺跡 A 区第 3 層木棺墓（SK2）木棺部材出土状況図



第 22 図　古屋敷遺跡 A 区第 3 層木棺墓（SK2）遺物出土状況図

られたとから、SK2 は木棺墓と判断された。

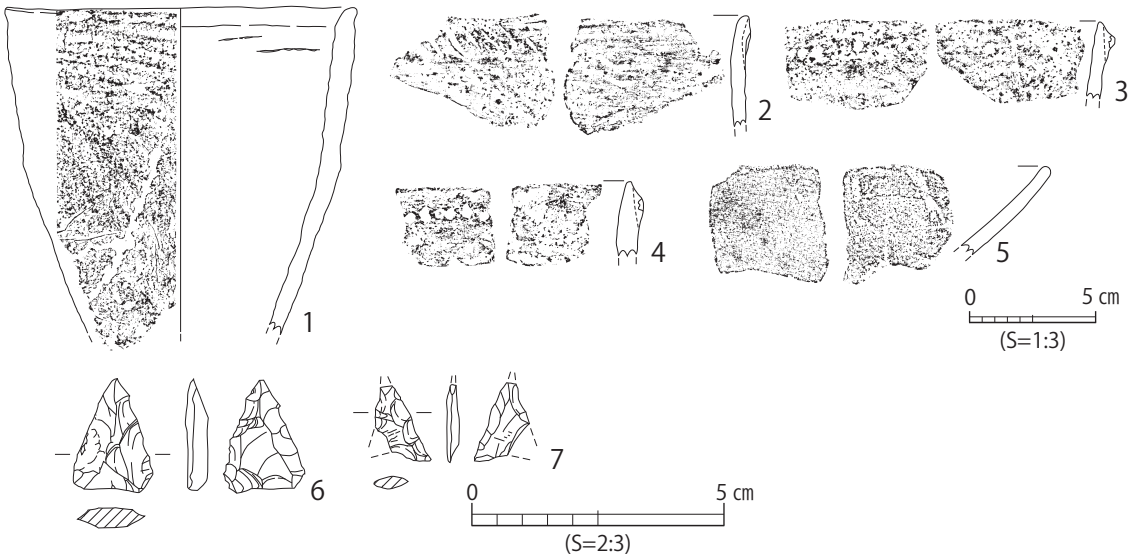
墓壙は、長軸 2.2m、短軸 1.2m を測る。深さは大部分が約 15cm だが、北西部は約 30㎝と他の部分より深くなっている。墓壙底面（第 14 層上面）には、棺の設置痕が細い溝状および段状に残っており、棺の大きさは長軸約 2m、短軸約 65㎝と推定される。棺材設置痕跡は南西側では比較的整った「コ」の字形であるが、北東側では不整形な弧状を呈していることから、北東側は棺の原形を留めていないと思われる。北西部および南西部では、側板が小口板を挟んでいることがわかる。なお、北西側の棺設置痕跡からは、板状の木質が出土し、これが棺側板の一部と考えられた。また、第 20 図 A － A ´ の土層では第 5 層が、同図 C － C ´ の土層では第 25 層と第 28 層が、同図 B － B ´ の土層では第 19 層が、幅 5㎝で垂下しており、これらが棺材の痕跡と思われた。これらの棺材痕跡は、A － A ´、B － B ´ の第 13・14 層上部で収まっていることから、墓壙底に第 13・14 層を敷いたのちに棺が設置されたと考えられる。

墓壙の中央付近では、検出面よりやや下位で長さ 90cm、幅 20㎝、厚さ 1㎝の板材が出土した。木棺の蓋と考えられる。このほか、棺材片と思われる木片が多数棺内から出土した。これらについては、現地で蓋・側板または底板、部位不明に分類し、第 21 図では色分けをして図示した。木片は南東から北西方向に傾斜して堆積しており、北東部分では堆積土層中の上位から下位まで幾重にも重なっていた。腐食した棺蓋が、南東方向から棺内に流入してきたように観察された。

このほか、墓壙の西半分には 20㎝大の礫が散在していた。これらは主に墓壙検出面で出土したが、一部は墓壙内に落ち込んでいた。また、棺内北東隅の底面（第 14 層上面）近くに礫が 1 個出土した。調査時の印象では、棺材を固定する機能があるように感じられた。

墓壙内からは、突帯文土器、無文浅鉢の小片のほか、無文浅鉢の比較的大きな破片や石鏃が出土した。いずれも墓壙の中位から出土しており、原位置を保つものは出土していない。

SK2 出土遺物は、第 23 図のとおりである。遺物は主に棺内中位から上位で出土し木棺内の床面直上からは遺物は出土していない。 1 ～ 4 は縄文土器・深鉢と考えられる。1 は垂直より若干外傾しながら立ち上がる胴部をもち、口縁端部はやや外反する無文の土器である。風化が激しい。木棺内第 11 層出土である。2 ～ 4 は突帯文土器である。突帯に 2 は斜めの「 I 」字の刺突、3、4 は



第 23 図　古屋敷遺跡 A 区第 3 層木棺墓（SK2）出土遺物実測図

管状工具による刺突が施されている。5 は縄文土器・浅鉢である。北側側板の外側から出土している。6・7 は碧玉製の石鏃である。7 は片側の基部分が欠損している。6 は棺内の蓋板の上第 2 層中から、7 は北側側板の外側第 31 層中から出土している。

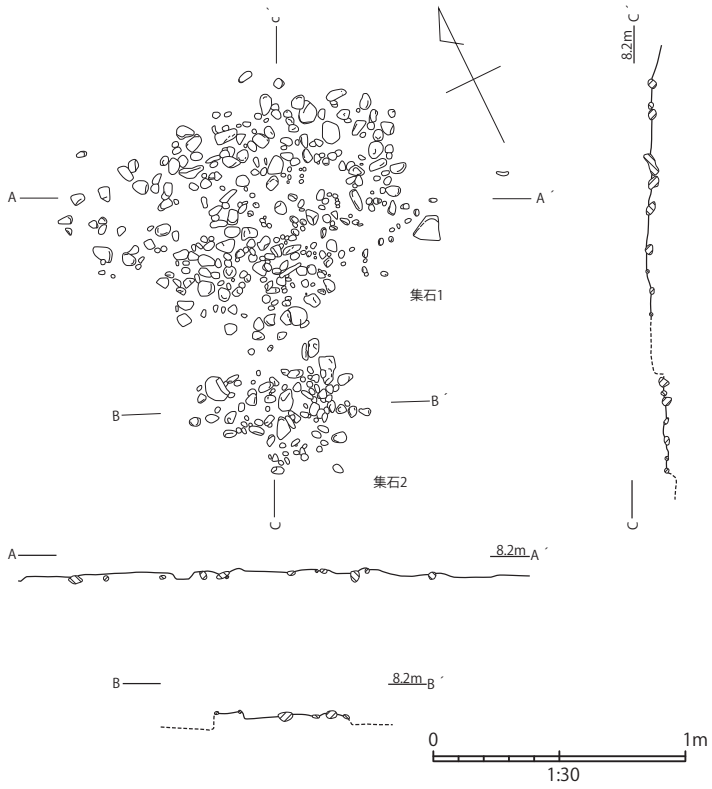
4. 集石 1・2（第 24 図）

集石 1 及び集石 2 は調査区中央のやや東より部分、標高 8.1m 付近で検出された。集石 1 の南隣、集石 2 の東隣部分で検出された地床炉 6 が検出されたレベルよりわずかに掘り下げたレベルで検出された。集石 1 は長軸 1.5m、短軸 1.0 m、集石 2 は長軸 0.7m、短軸 0.4m の楕円状に石が分布するように検出された。平面的には隣り合っているが集石 2 は集石 1 より約 5㎝低いレベルで検出された。直径 10㎝未満の河原石が主体であり、両遺構ともに、集石面の上面が水平であり、石同士は上下にはあまり重なり合っていなかった。炉跡のような焼土面や熱を受けた部分は確認できなかった。遺構に伴う遺物もなく土層堆積状況から縄文時代晩期の突帯文期であるが性格等は不明である。

5. 地床炉（第 25 図）

基盤層に灰色シルト状の堆積物が確認された。この堆積物は平面不整形で、断面は緩く立ち上がっており、火を焚いた痕跡やその灰や炭が地面の窪みに堆積した痕跡と考えられ、地床炉として調査した。

調査区の中央部から北部にかけての部分の標高 8.0 m付近で、合計 9 カ所検出された。同じレベルで検出された地床炉は地床炉 3 ～ 5 のみである。熱を受けた部分が確認できたのは、地床炉 8 のみであり、その他は、炉に伴う灰や炭化物などが窪地に溜まったような状況であったことが推測される。平面的な形状は様々であった。地床炉 1 ～ 6 は調査区中央部の比較的近寄った範囲で検出された。平面的には、地床炉 1 が一番大きく長軸は 1.2m、短軸は 0.8m を測り、地床炉 2 が一番小さく、長軸 0.4m、短軸 0.2m を測る。深さはすべて 10㎝にも満たない。地床炉 7 は調査区中央部西より部分で検出された。平面形状は、長さ 0.8m、幅 0.2m の細長い形で検出された。地床炉 8、9 は調査区北側で検出された。地床炉 8 では直下の地山部



第 24 図　古屋敷遺跡 A 区第 3 層集石 1・2 実測図

分に熱を受けた部分が確認された。平面形は長軸 1m、短軸 0.8m の楕円形で、外輪部 20㎝の部分に被熱痕が確認された。断面がゆるい山形状の炉の上端部が削平されたことが推測される。地床炉 9 は長軸 1m の平面瓢箪形の形状であり、堆積状況は地床炉 1 ～ 7 と似たような状況であった。

6. ピット（第 26 図）

調査区北側で 5 基検出された。P33、34 は標高 8.0m、P35、36 は標高 7.8m、P39 は、標高 7.9m 付近で検出された。P33、34 は第 3 層上面、その他は、第 3 層上面からやや掘り下げた位置で検出された。規模は直径 15㎝、深さは 10㎝前後、埋土は、暗灰色～黒灰色土で、炭化物を含む土であった。遺物は出土していない。性格等は不明である。

7.SR1 ～ 3（第 5 ～ 8 図、第 27 ～ 34 図）

A 区では、砂礫層が堆積した河道跡 SR1 ～ 3 が検出された。第 1 層除去後、調査区東端で SR1 の一部が検出され、その後第 2 層を除去した段階で SR2 北端が確認された。土層図（第 5 図下）では、SR1 は第 2 層を削り込んで形成されたようにも見えるが、R1 を覆っていた第 2 層が削平されている可能性が考えられること、SR1 の西端最上部は別の落ち込み（R3 ①～④層）で削られていることを考えると SR1 の掘り込み面が第 2 層とは断定できない。SR1 によって明らかに削り込まれているのは第 3- ⑥層以下である。

SR2 の土層は、上面が A-A′ライン（第 5 図上）で西から東に向けて、B-B′ライン（第 6 図下）で南から北に向けて傾斜している。全体に第 2- ①～ 2- ⑨層に覆われているが、これらの層はレンズ状に堆積していることから、SR2 埋没後にさらに別の流路によって SR2 上部が削られたと推測される。第 6 図 R ①～⑬層は、SR2 埋没後の流路堆積物と考えられる。なお、SR2 の東端土層はやや乱れており、SR2 によって削り込まれたことが明らかな層は第 3- ⑥以下である。

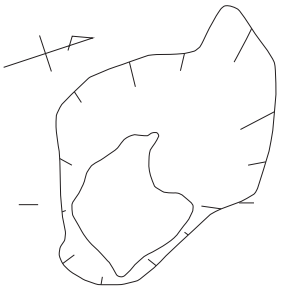
SR3 は、第 6- ③層上面で検出された。（第 8 図）SR1・2 検出面から約 80㎝下まで掘り下げた段階で検出されたことから、SR3 は SR1・2 より古い時期に形成された河道跡と考えてよい。SR3- ⑥層は噴砂と考えられた。SR3 堆積後に災害（地震）があったことが推測される。

SR1、SR2 から出土した土器は、両者とも突帯文と弥生前期土器が混在している。土器の様相からは SR1 と SR2 に時期差がないように思われる。刻み目がないもの（第 29 図 11）や、刻み目が小型化したものがあり（第 31 図 12 ～ 16）、当地の縄文時代最終末または弥生時代初期の様相を示している。

第 29、30 図は SR1 出土遺物である。

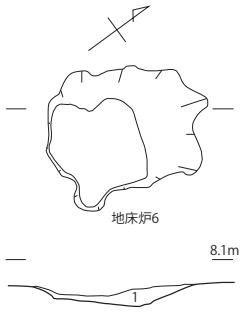
第 29 図 1 ～ 15 は縄文土器・深鉢である。1 は口縁端部の外面と内面の両方に刺突文が施されている。2 ～ 15 は突帯文土器である。 2 は孔列（文）土器である。16 ～ 23 は縄文土器・浅鉢である。24 ～ 28 は弥生土器である。24、25 は壷である。26、27 は壷の底部と考えられる。28 は甕の口縁部である。24 ～ 28 は弥生時代前期の土器と推測される。

第 30 図 1 ～ 11 は弥生土器・甕の底部である。時期は前期から中期にかけてと考えられる。12 は壷形の土器の胴部と考えられる。外面には沈線による文様が施されており、内面には二枚貝によると推測される工具痕が確認できる。13 は鉢もしくは無頸壷と考えられる。中期～後期と考えられる。14 は SR1 出土の弥生土器・甕の底部である。15 は、石器・打製石斧である。

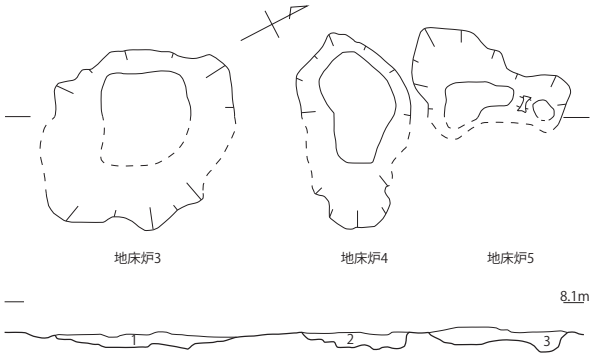


1 暗褐色土　　かく乱。
2 黒色粘質土
3 黒褐色粘質土
4 黒色粘質土　　炭化物片を含む。

1 暗褐色土　　かく乱。
2 黒色粘質土　　炭化物片を含む。
3 黒褐色粘質土



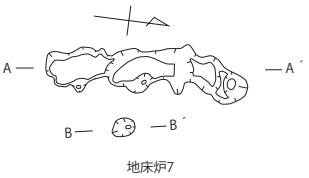
1 暗黒色土　ブロック状に炭化物を含む。



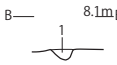
1 黒色粘質土　炭化物片をひじょうに多く含む。上面はかく乱を受けている。

2 黒褐色粘質土　炭化物を多く含む。地山ブロックを含む。

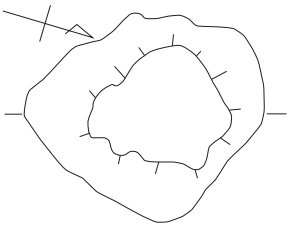
3 黒褐色粘質土　炭化物を多く含む。地山ブロックを含む。



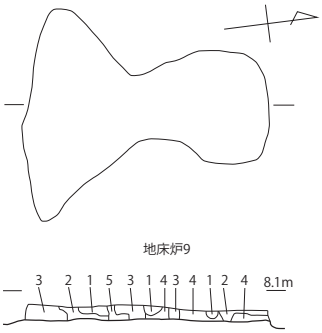
1 暗黒色土　　ブロック状に炭化物を含む。
2 黒色土　　（炭粉）
3 灰褐色粘質土
4 灰黄色粘砂　　わずかに被熱ヵ。



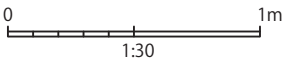
1 黒灰色土　微細な炭化物を含む。



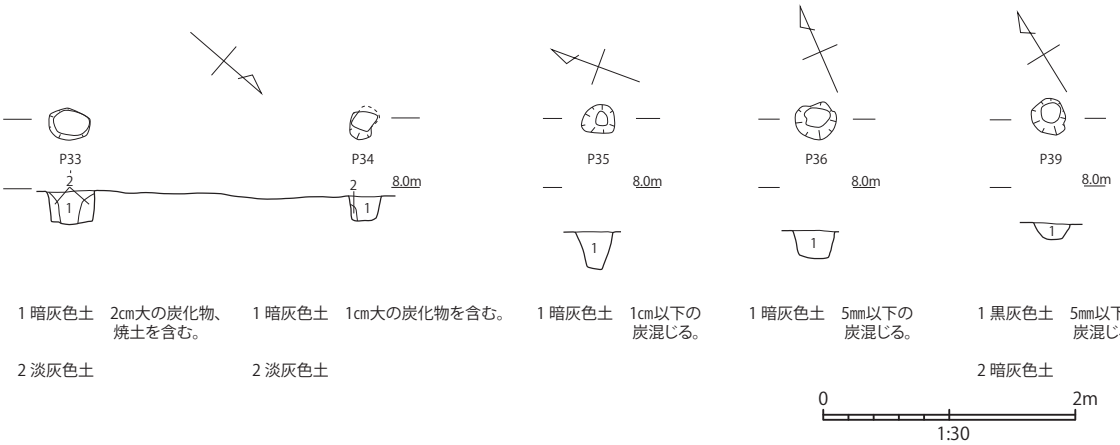
1 暗灰色土　2㎝大の炭化物を多く含む。中央の地山部分は被熱され橙褐色を呈している。



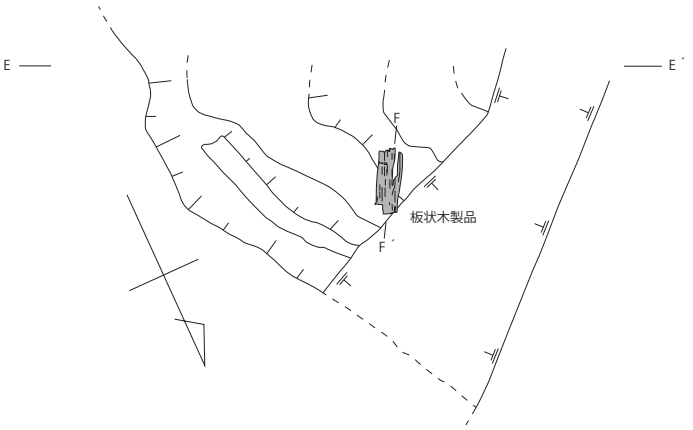
1 暗黒色土　　炭化物を含む。
2 暗灰黒色土　炭化物を含む。
3 暗灰色土　　炭化物を含む。
4 淡灰色土
5 橙褐色土

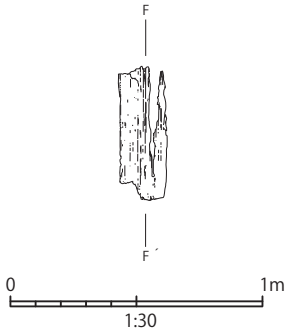


第 25 図　古屋敷遺跡 A 区第 3 層地床炉実測図

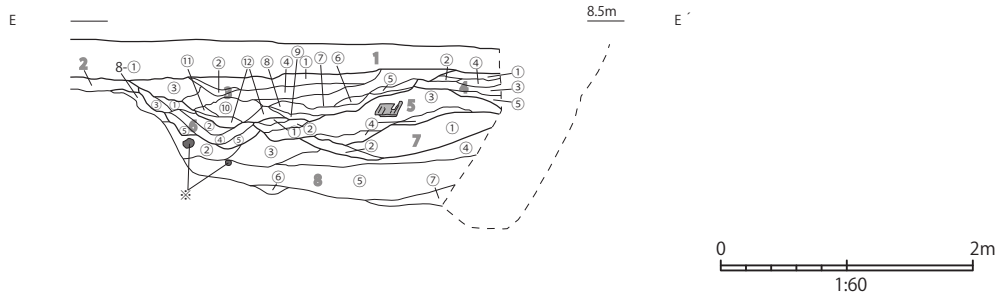


第 26 図　古屋敷遺跡 A 区第 3 層ピット実測図





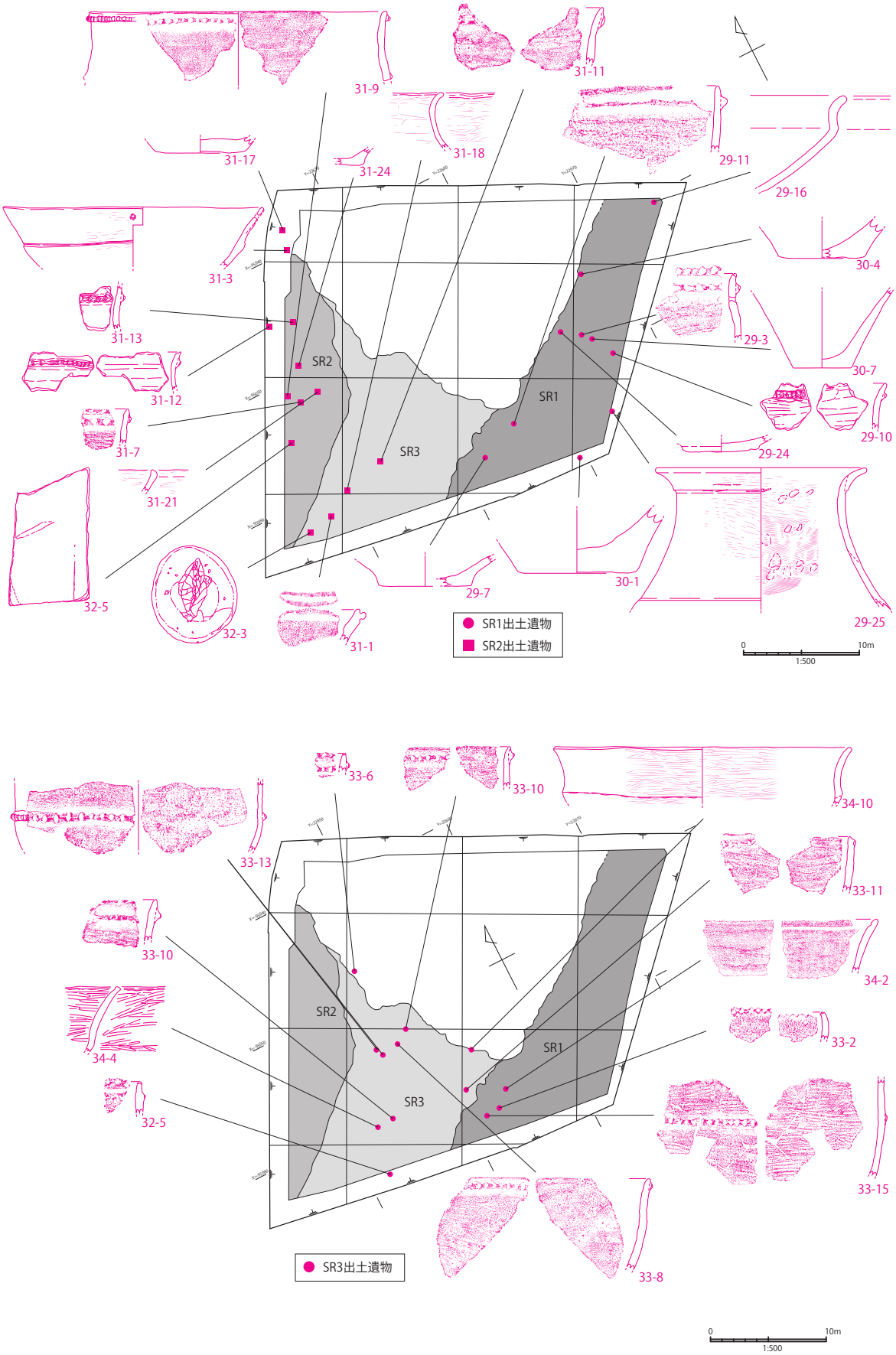
板状木製品出土状況図



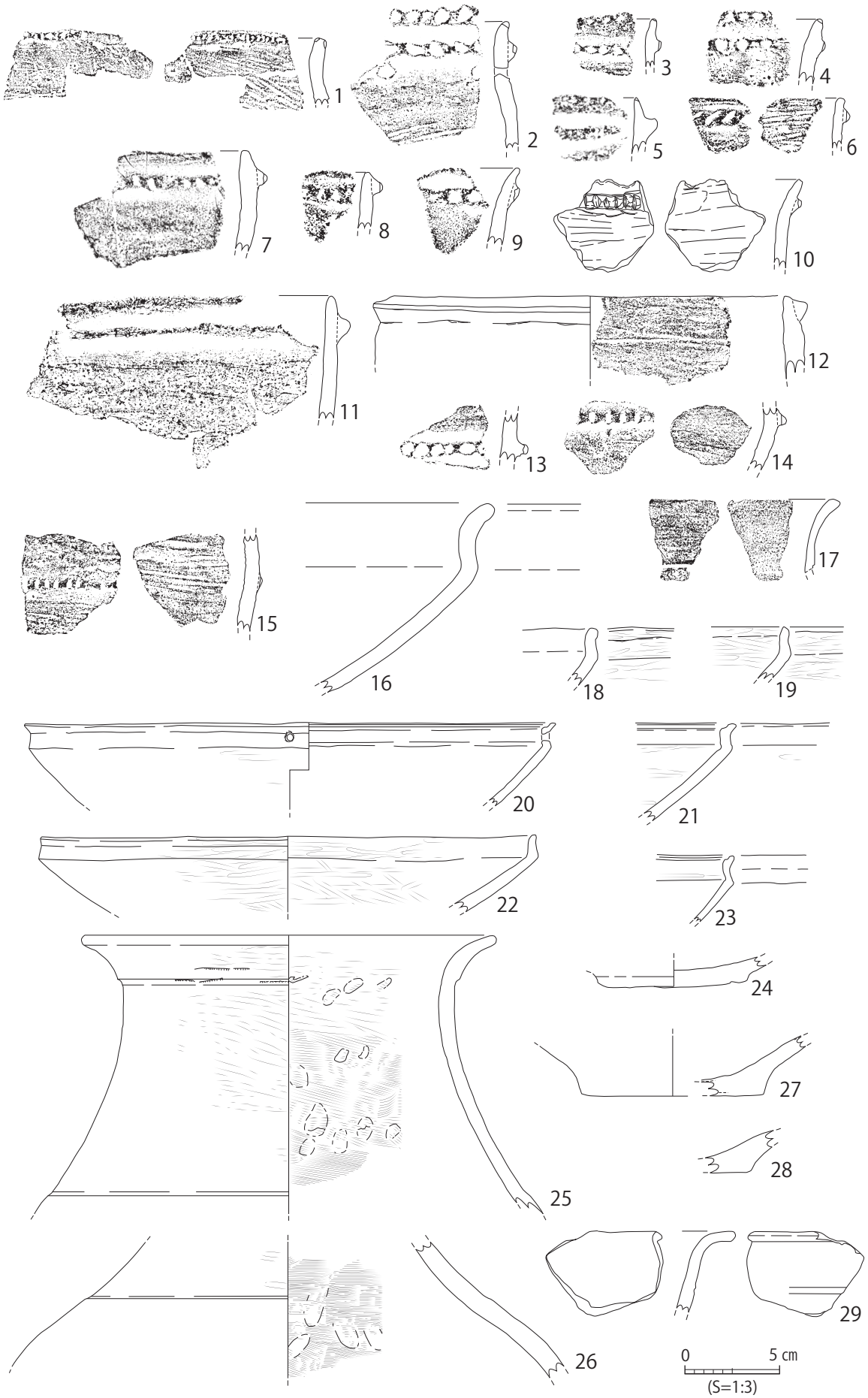
1.　黄色砂層
2.　黄灰色砂質土
3-①.　黄色砂層　炭化物を含む。
3-②.　黄灰色粘砂土　微細砂。
3-③.　黄灰色粘砂土　炭を含まない。
3-④.　淡青灰色粘砂土　炭を含む。
3-⑤.　淡青灰色粘質土　炭をわずかに含む。固くしまる。
3-⑥.　黄灰色砂　下層に有機物層を含む。
3-⑦.　淡青灰色細砂　淡青灰色細砂
3-⑧.　黄灰色砂レキ層　3〜5㎜大のレキを含む。
3-⑨.　暗黄灰色粘質土　炭を含む。
3-⑩.　灰色砂レキ層　3〜5㎜大の砂レキを含む。
3-⑪.　灰色砂レキ層　5㎜以下の砂レキを多く含む。
3-⑫.　暗灰色砂質土　黄灰色砂を含む。
4-①.　青灰色粘質土　2〜5㎜大のレキを含む。
4-②.　灰色粘砂　1〜3㎜大のレキを含む。
4-③.　暗緑灰色粘質土　直径1㎜未満の砂粒を含む。
4-④.　緑灰色土　（シルト〜砂〜粗砂）シルト中に粗砂を部分的に含む。
4-⑤.　暗青灰色砂質土　（粒砂）直径1㎜位の砂粒が主体であるが、ところどころに1〜3㎜大の炭化物を含む。
5-①.　黄灰色砂レキ層　1〜5㎜大のレキを含む。
5-②.　黄灰色砂レキ層　5-①層より砂を多く含む。
5-③.　灰褐色砂レキ層　1〜3㎜大のレキを多く含む。固くしまる。
5-④.　灰色砂レキ層　5㎜以下の砂レキを含む。
6-①.　灰色粘砂　炭化物を含まない。
6-②.　淡褐色粘砂土　有機質層。
6-③.　暗青灰色土
6-④.　暗褐色砂質土　やや粘質である。有機質状に堆積している。
6-⑤.　暗青灰色粘質土　炭を含まない。
7-①.　橙灰色砂　粘砂と層状に堆積している。
7-②.　明灰色細砂
8-①.　淡青灰色粘質土
8-②.　青灰色粘質土　木（流木ヵ）が堆積している。有機質を含む。
8-③.　暗青灰色粘質土　有機物層を含む。
8-④.　暗青灰色砂質土　（シルト〜砂）炭化物片を含む。
8-⑤.　暗茶色砂
8-⑥.　暗灰色細砂
8-⑦.　灰色砂レキ層

※.　木

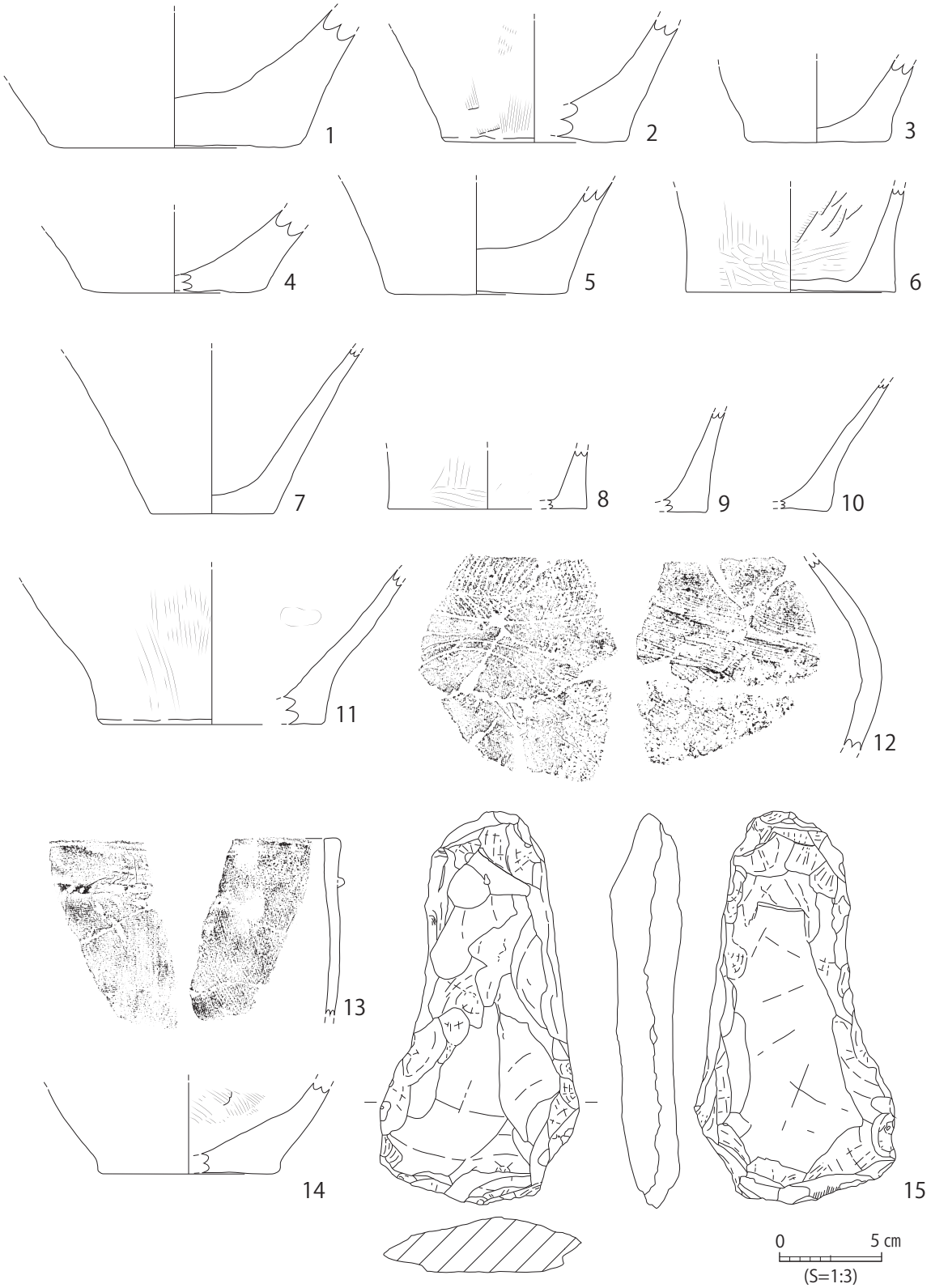
第 27 図　古屋敷遺跡 A 区第 3 層 SR2 実測図



第 28 図　古屋敷遺跡 A 区第 3 層 SR 遺物出土状況図



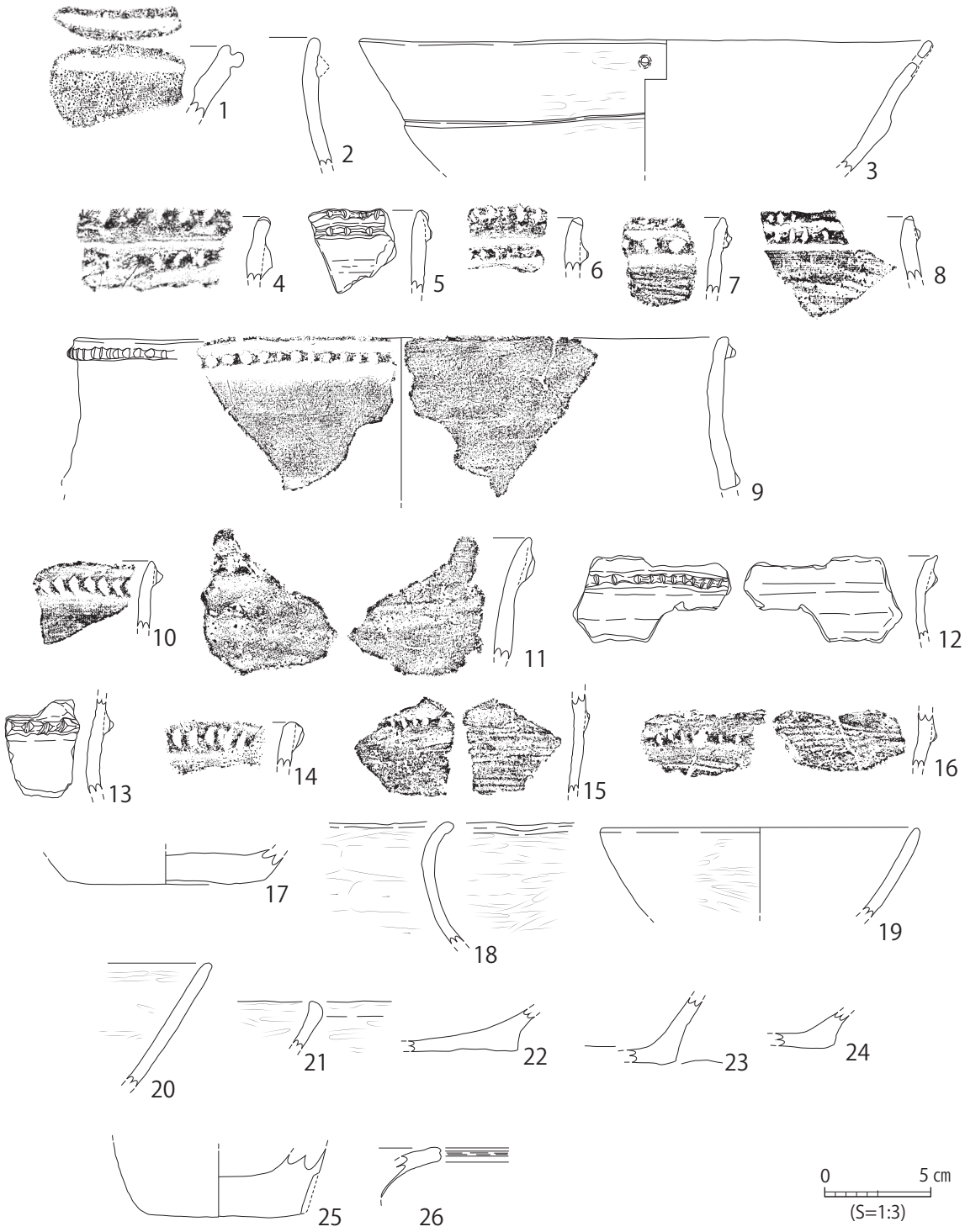
第 29 図　古屋敷遺跡 A 区第 3 層 SR1 出土遺物実測図 1



第 30 図　古屋敷遺跡 A 区第 3 層 SR1 出土遺物実測図 2

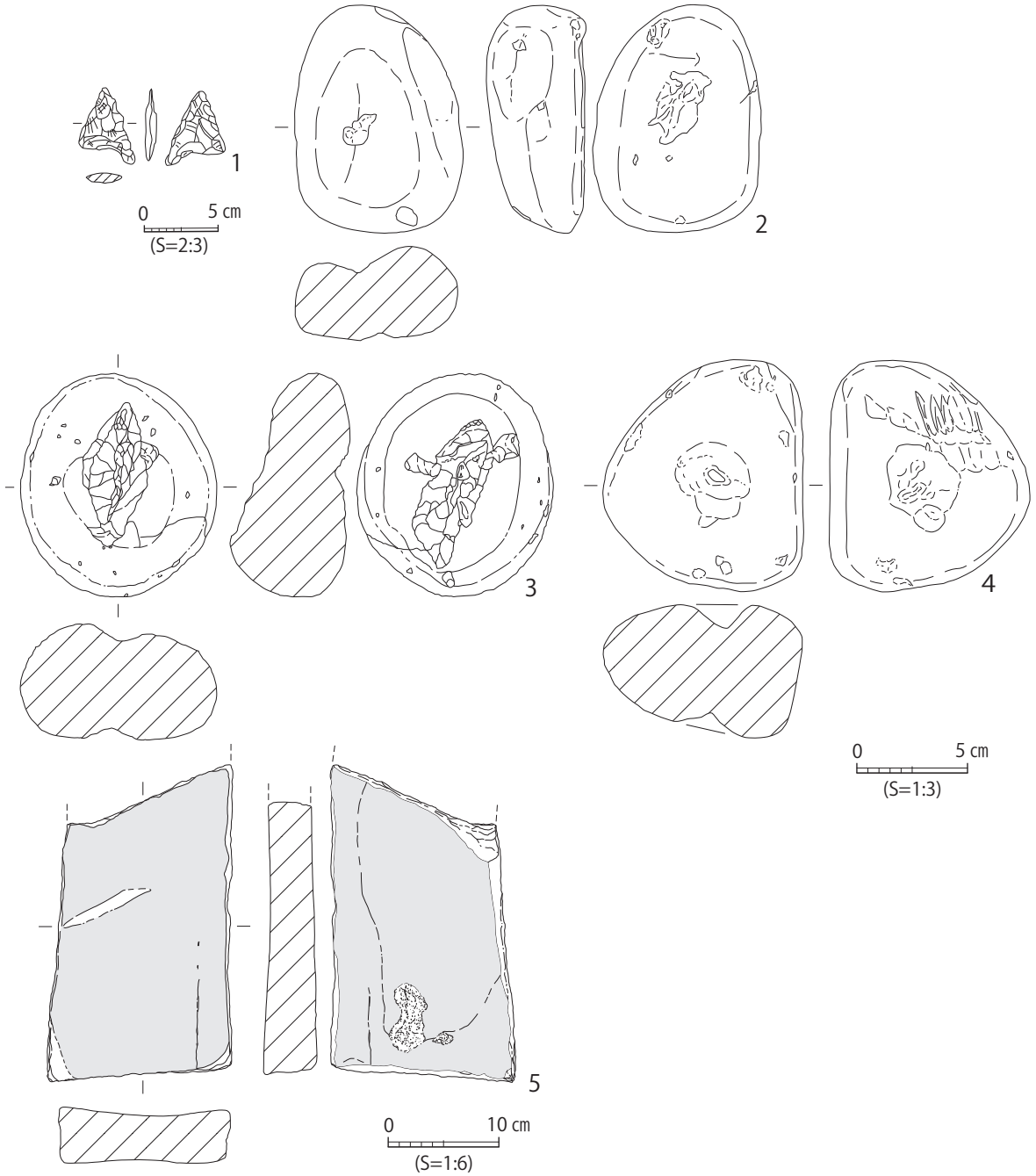
第 31、32 図は SR2 出土遺物である。

第 31 図 1 は縄文土器・浅鉢である。縄文時代後期の土器である。2 は単純口縁であるが口縁部外面に、粘土帯がはがれ落ちたような痕跡が確認され、突帯文土器の可能性が考えられる。3 は縄文土器・浅鉢である。4 ～ 16 縄文土器・深鉢である。突帯文土器である。4 ～ 8 は口縁端部と突



第 31 図　古屋敷遺跡 A 区第 3 層 SR2 出土遺物実測図 1

帯部分に刺突（刻目）が施されている。9 ～ 12 は、口縁端部には刺突（刻目）は施されていないが、突帯部には刺突（刻目）が施されている。[1] 13 は口縁端部が欠損しているが、突帯には刺突（刻目）が施されている。14 は口縁端部に接するように突帯が貼り付けられており、突帯にのみ刺突（刻目）が施されている。15、16 は胴部であり、突帯部に刺突（刻目）が施されている。二条突帯と考えられる。17 は深鉢形の土器の底部である。SX1 出土土器（第 18－3、5）に、色調、胎土、焼成などが似ている。18 ～ 21 は、縄文土器・浅鉢の口縁部である。22 ～ 24 は、縄文土器・浅鉢の



第 32 図　古屋敷遺跡 A 区第 3 層 SR2 出土遺物実測図 2

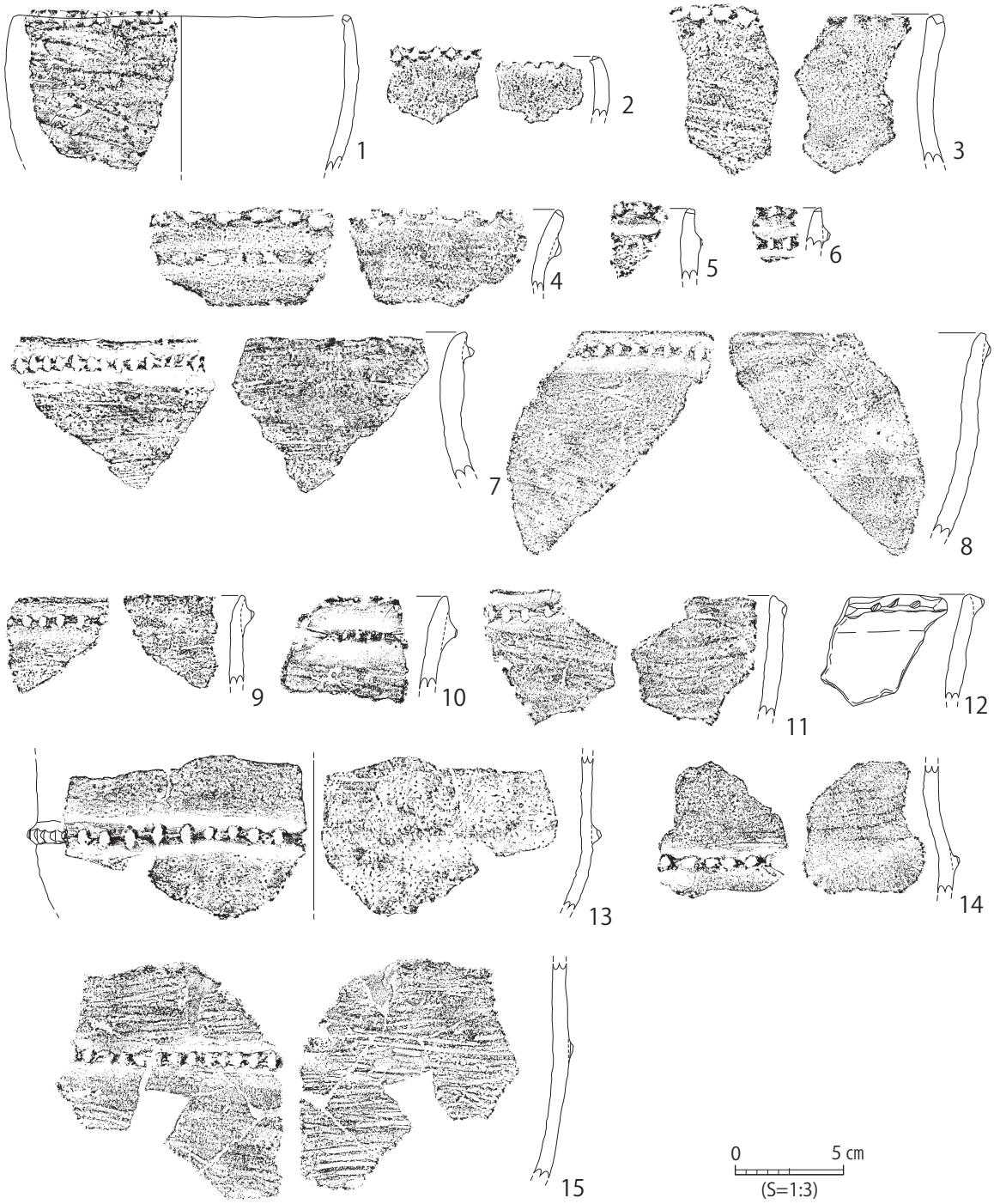
底部と考えられる。26 は弥生土器・甕の底部である。27 は弥生土器・甕もしくは壷の口縁部で、端部に沈線が施されている。25 は前期、26 は中期頃と推測される。

第 32 図 1 ～ 5 は石器である。1 は石鏃で、片側の基部が欠損している。2 ～ 4 は擦石／敲石である。3 の片面に擦痕が確認される。5 は石皿である。両面に擦痕が確認される。

第 33、34 図は、SR3 出土の遺物である。

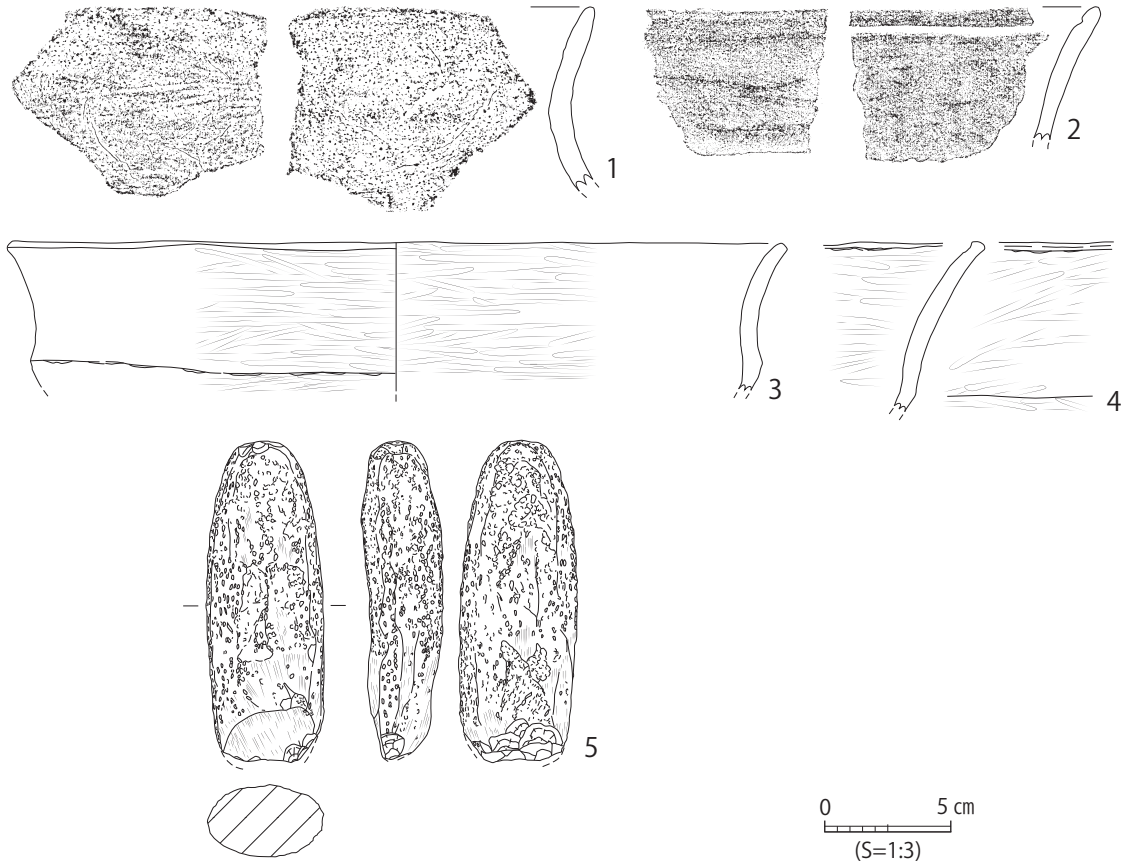
第 33 図 1 ～ 15 は縄文土器・深鉢である。1 ～ 3 は口縁端部に刺突（刻目）が施されている。4 ～ 15 は突帯文土器である。4 ～ 6 は口縁端部と突帯に刺突（刻目）が施されている。7 ～ 12 は口縁端部には刺突（刻目）は施されていないが、突帯部には刺突（刻目）が施されている。13 ～ 15 は胴部であり、突帯部に刺突（刻目）が施されている。二条突帯と考えられる。

第 34 図 1 は、縄文土器・深鉢である。無文であり、風化が激しいが外面には二枚貝条痕が確認

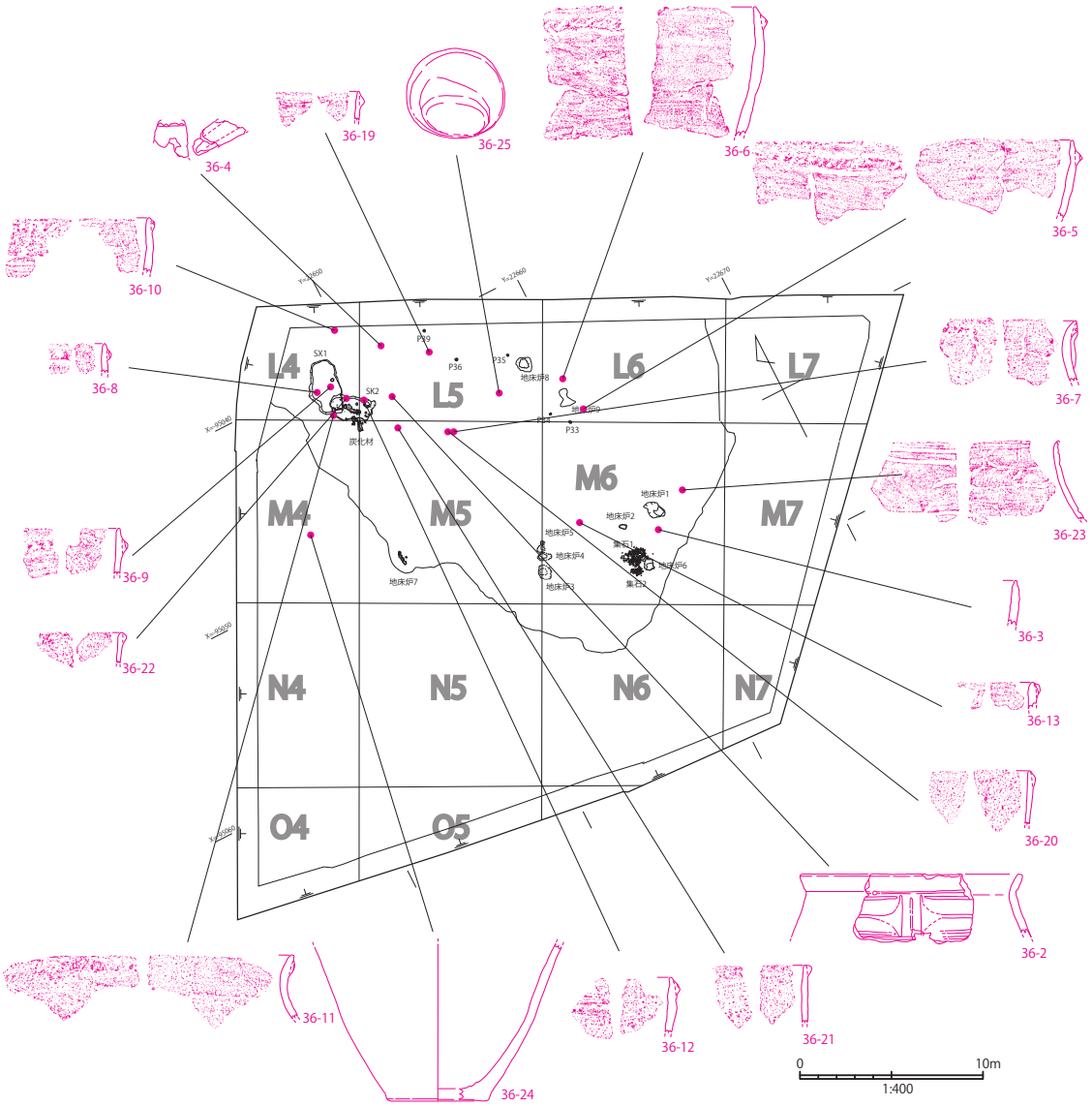


第 33 図　古屋敷遺跡 A 区第 3 層 SR3 出土遺物実測図 1

される。2 ～ 4 は縄文土器・浅鉢である。5 は石器である。磨製石斧と考えられる。破面以外の部分に敲打痕、先端部分には磨面が確認される。



第 34 図　古屋敷遺跡 A 区第 3 層 SR3 出土遺物実測図 2



第 35 図　古屋敷遺跡 A 区第 3 層遺物出土状況図

8. 第 3 層出土遺物（第 35・36 図）

第 36 図 1 ～ 23 は縄文土器である。1 は深鉢であり内外面巻貝条痕と考えられる。2 は深鉢であり口縁部外面に三田谷文様が施されている。口縁端部が「く」の字状に屈曲している。 4 は注口土器の注口部である。5 ～ 22 は突帯文土器の深鉢である。すべて口縁端部には、刺突（刻目）は施されていない。5 ～ 17 は突帯に刺突（刻目）が施されており、18 ～ 22 は刺突（刻目）が施されていない。7 は突帯部分から垂下するように直線状の突帯が 1 箇所貼り付いている。23 は浅鉢である。24 は弥生土器・甕の胴部から底部である。風化が激しい。25 は石器・擦石／敲石と考えられる。両面に磨痕が確認される。

第 36 図　古屋敷遺跡 A 区第 3 層出土遺物実測図

第 4 節　第 5 層の調査

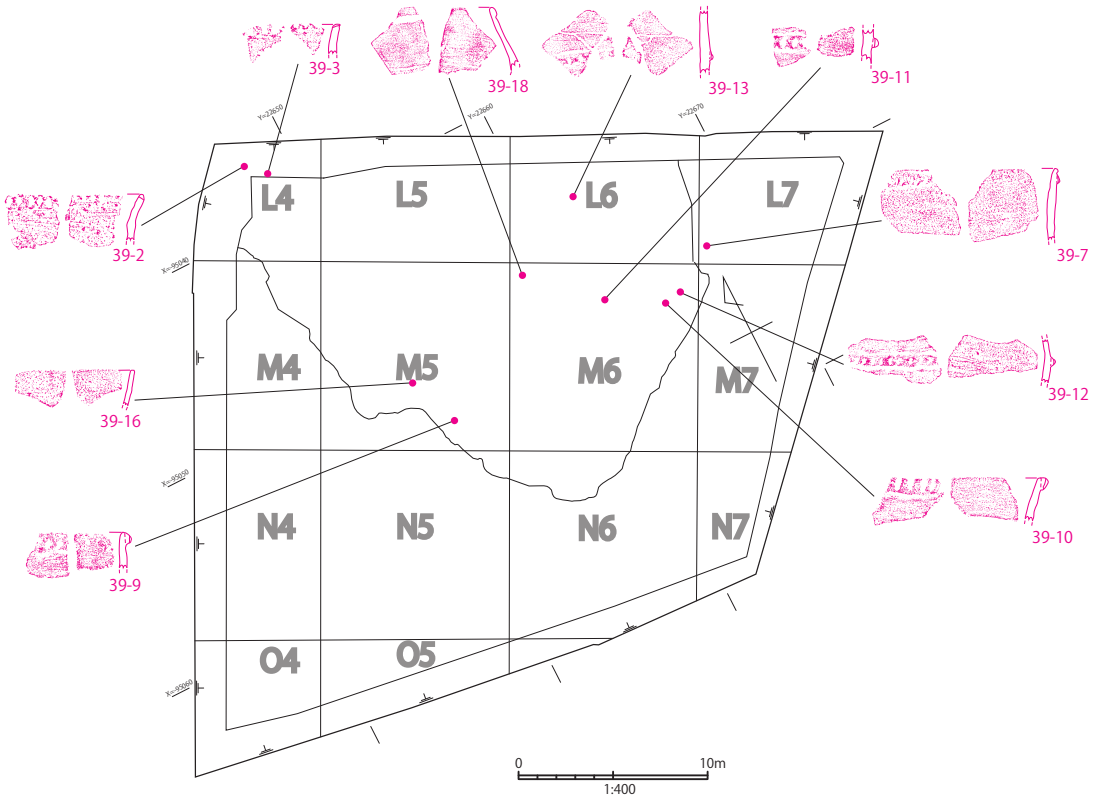
第 5 層は、青灰色の砂質土で、2 層に細分された。この層からは、縄文土器などが出土したが、遺構は検出されなかった。第 5 層から出土したことが確実なのは第 39 図に示したもので、第 38 図は第 3 層から第 5 層のいずれの層から出土したか特定できないものである。また、第 40 図は第 5 層または第 6 層から出土したことは間違いないが、第 5 層出土か第 6 層出土か不明なものを集めた。

1. 第 5 層出土遺物（第 37 ～ 40 層）

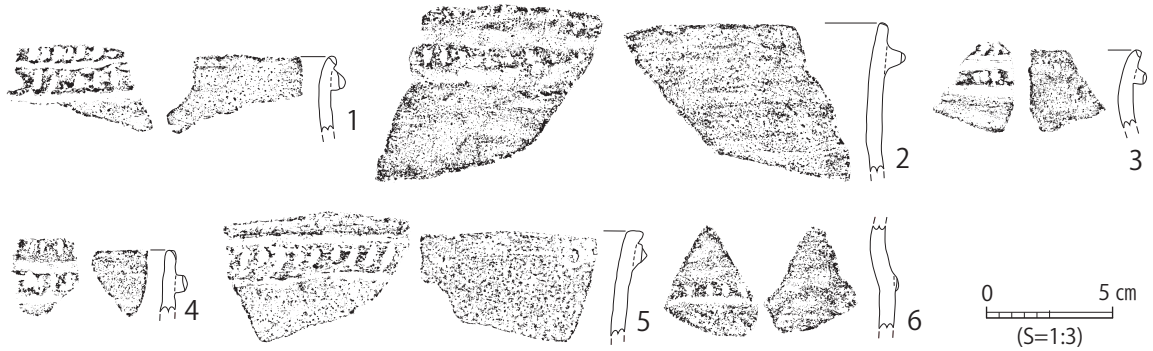
第 3 層の調査終了後、第 6 層の調査面までは重機により掘削を行った。第 37 ～ 40 図は、第 5 層及び第 5 層周辺から出土した遺物の図面である。

第 38 図は、3 ～ 5 層の遺物包含層から出土した土器である。1 ～ 6 は縄文土器・深鉢である。突帯文土器である。1 ～ 5 は口縁部であり、突帯にはすべて刺突（刻目）が施されている。口縁端部は、1、3、4 は刺突（刻目）が施されているが、2、5 は刺突（刻目）が施されていない。6 は二条突帯の体部で刺突（刻目）が施されている。

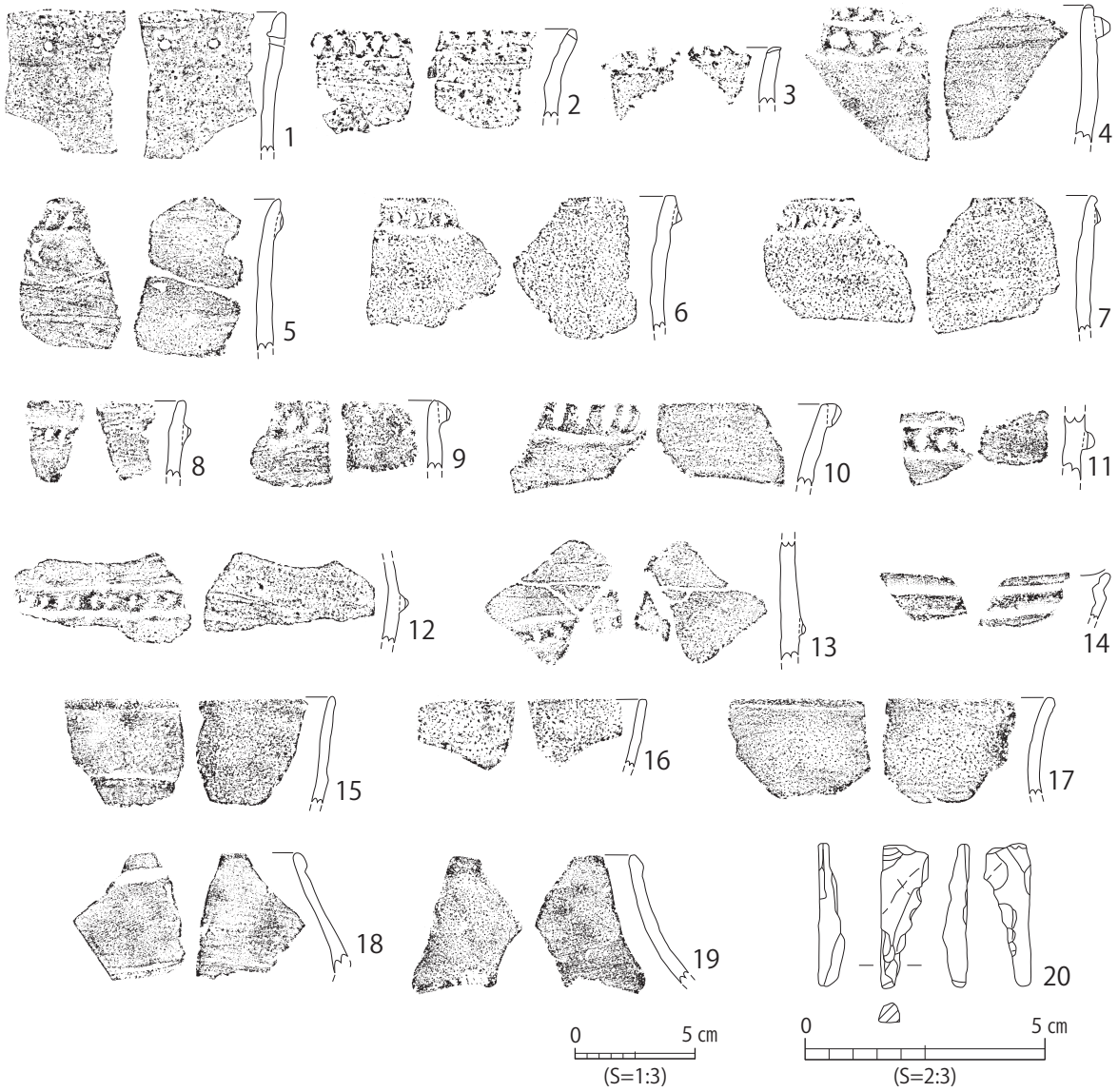
第 39 図は、5 層出土の遺物である。1 ～ 13 は縄文土器・深鉢である。1 は、口縁端部から 1㎝下がった位置に、焼成前に外側から内側に穿孔が施されており、孔列（文）土器である。孔は土器の破面部分を含めて 3 箇所確認され、間隔は 1.5㎝、 2 ㎝である。外側には、二枚貝の腹縁部を押し当てたような痕跡が確認される。やや風化しているが、色調は橙色を呈している。2、3 は口縁端部に刺突（刻目）が施されている。4 ～ 13 は突帯文土器である。4 のみ口縁端部に刺突（刻目）が施されている。5 ～ 10 は突帯部分に刺突（刻目）が施されている。11 ～ 13 は胴部で、突帯に



第 37 図　古屋敷遺跡 A 区第 5 層遺物出土状況図



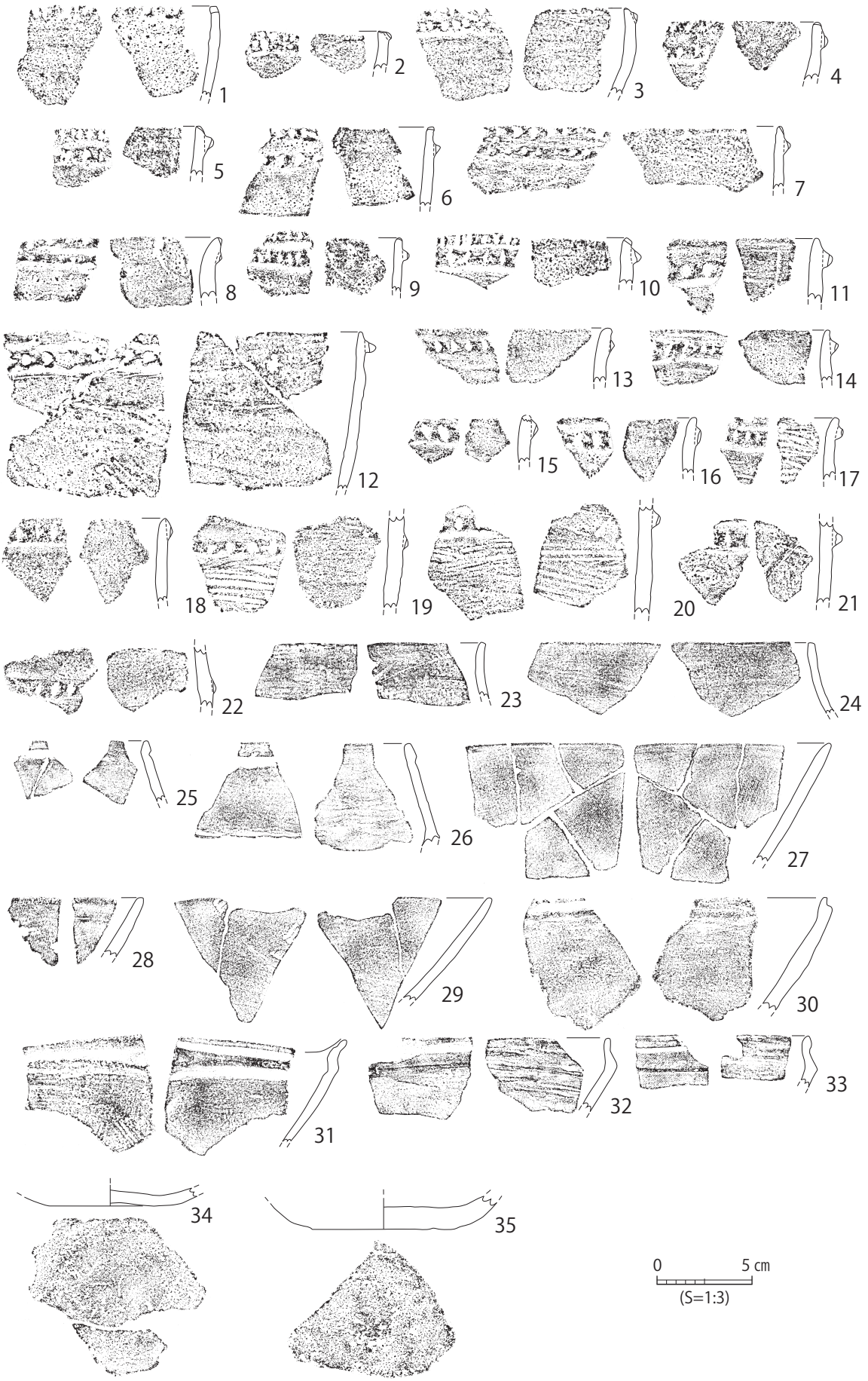
第 38 図　古屋敷遺跡 A 区第 3 ～ 5 層出土遺物実測図



第 39 図　古屋敷遺跡 A 区第 5 層遺物出土状況図

刺突（刻目）が施されている。14 ～ 19 は縄文土器･浅鉢の口縁部である。20 は石器･石錐である。先端部分を欠くが、基部までほぼ完形である。

第 40 図は、5 層もしくは 6 層出土の遺物である。1 ～ 22 は縄文土器・深鉢である。1 は口縁



第 40 図　古屋敷遺跡 A 区第 5・6 層出土遺物実測図

端部に刺突（刻目）が施されている。2 ～ 22 は突帯文土器である。2、3 は口縁端部外面に粘土を貼り付け、端部に刺突（刻目）、突帯部分に、押引状の刺突（刻目）が施されている。4 ～ 10 は、口縁端部と突帯に刺突（刻目）が施されている。11 ～ 14、16 ～ 18 は口縁端部は無文、突帯のみに刺突（刻目）が施されている。19 ～ 22 は胴部であり、突帯に刺突（刻目）が施されている。23 ～ 35 は縄文土器・浅鉢である。23 ～ 33 は口縁部、34、35 は底部である。

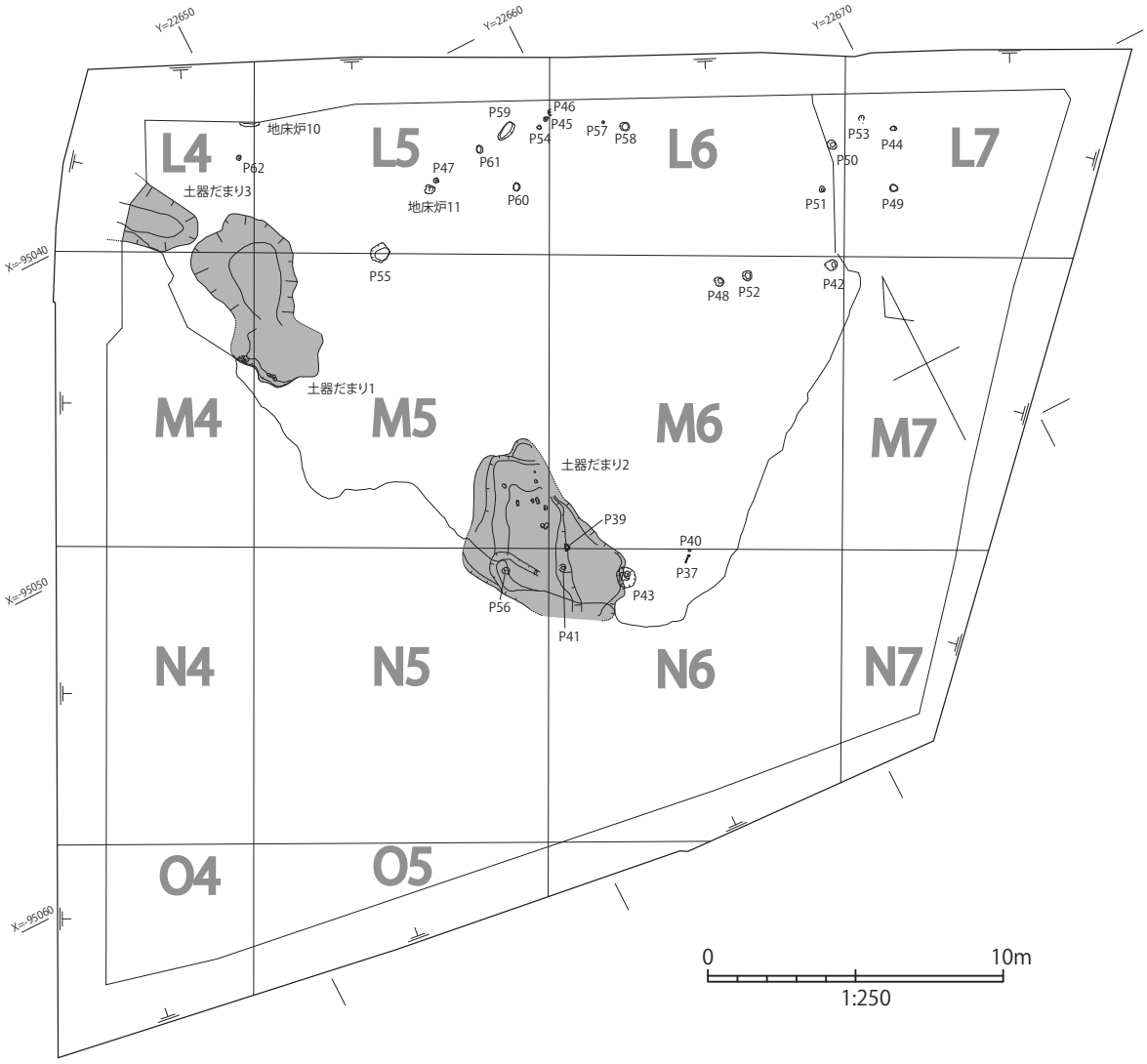
第 5 節　第 6 層の調査

第 6 層では、土器だまり 1、地床炉 1、ピット 3 が検出されている。

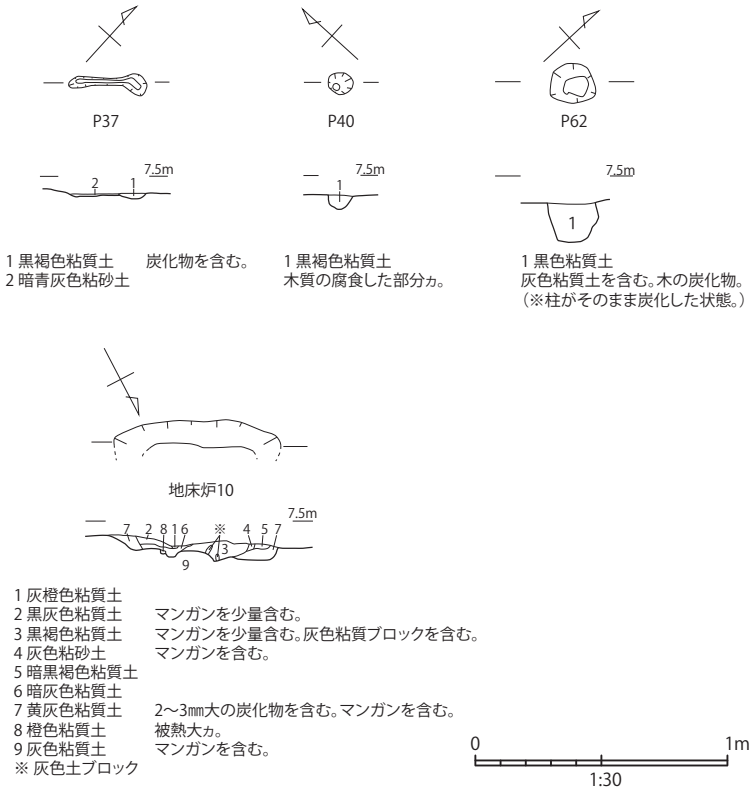
1. 地床炉、ピット（第 42 図）

P37、P40 は標高は 7.4m 付近、調査区中央部で検出された。両者とも黒褐色粘質土が堆積していた。P62 は標高 7.4m 付近、調査区北端部で検出された。柱が炭化した部分と考えられる。性格当は不明である。

地床炉 10 は標高 7.4m 付近、調査区北端で検出された。被熱部分が確認された。



第 41 図　古屋敷遺跡 A 区第 6・7 層遺構配置図



第 42 図　古屋敷遺跡 A 区第 6 層ピット・地床炉実測図

2. 土器だまり 1（第 43 ～ 49 図）

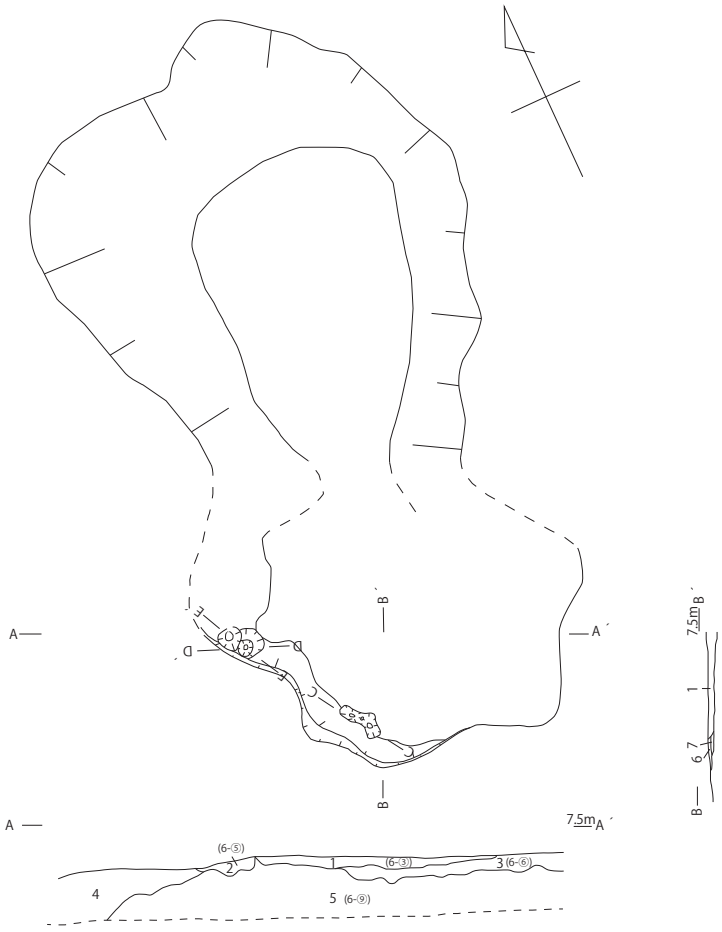
調査区北端部付近に位置する。第 6 層をほぼ除去した段階で検出され、浅い落ち込みに土器が投棄されていた。この落ち込みは、第 7 層を若干掘りくぼめるように形成され、平面形瓢箪形、断面形皿形を呈す。落ち込みの規模は、長軸約 6m、短軸 2 ～ 3.3m を測る。全体に不整形で、人為的な遺構でないように観察された。この部分には上位に炭化物を多く含む層（第 43 図第 1 層）と下位に炭化物をあまり含まない層（同図第 3 層）の 2 層が堆積していたが、遺構がどちらかに集中している様子はなかった。土器だまり 1 からは比較的多くの遺物が出土し、彩文が描かれた土器（第 49 図 1）、赤彩の土器（同図 2・14）、炭化種子が付着した土器（同図 13）などが注目される。

第 47 図 1 ～ 5 は、細別層位不明、6、7 は上層 1（全体 6- ②層）、8 ～ 19 は、上層 2（全体 6- ④層）、第 47 図 20 ～ 22、第 48 図、第 49 図 1 ～ 10 は上層 3（6- ⑥層）、第 49 図 11 ～ 16 は下層（第 7- ①層）出土遺物である。

第 47 図 1 ～ 5 は細別層位不明の遺物である。1 ～ 3 は、深鉢である。突帯文土器である。1 は外面に二枚貝条痕がはっきりと残っている。4 は、浅鉢である。5 は石器・磨製石斧である。全体的に研磨されている。6、 7 は上層 1 出土の深鉢である。突帯文土器である。8 ～ 19 は上層 2 出土遺物である。8 ～ 17 は深鉢である。突帯文土器である。16 は 2 条突帯の胴部と考えられる。18・19 は浅鉢である。20 ～ 22 は、上層 3 出土の、深鉢である。20 は口縁部内面に刺突文が施されており、巻貝による条痕が残っている。21 は胴部で、外面に沈線文、刺突文が施されている。22 は突帯文土器で、口縁端部及び突帯に刺突（刻目）が施されている。

第 48 図は、上層 3 出土遺物である。1 ～ 44 は突帯文土器の深鉢である。1 ～ 21 は口縁端部及び突帯に刺突（刻目）が施されている。1 は、口縁端部より 1.5㎝下がった位置に焼成後に穿孔が施されている。22 ～ 39 は突帯に刺突（刻目）が施されているが、口縁端部にはない。40、41 は、口縁端部、及び突帯にも刺突（刻目）が施された二条突帯文土器である。42 は口縁端部が欠損している。43、44 は二条突帯文土器の胴部である。45 は深鉢底部である。

第 49 図 1 ～ 10 は上層 3 出土遺物である。1 は浅鉢で、彩文土器ある。全体的に黒色基調の器面であり、口縁部外面に赤色の塗料により文様が描き出されている。 底部は残存していないが高台がつく可能性がある。また破面は熱によるためか変色している。2 は朱塗りの鉢もしくは浅鉢で



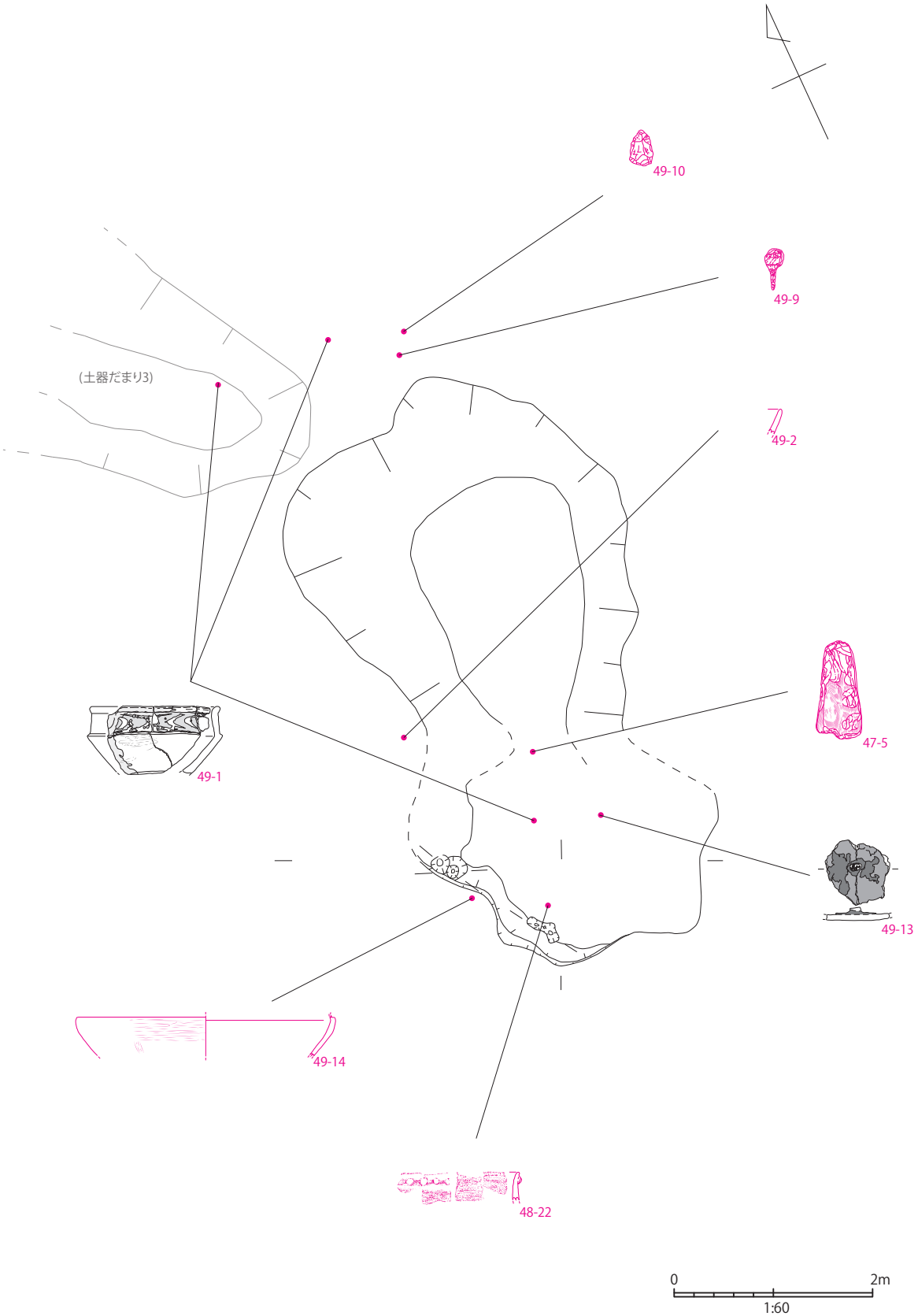
1 暗黄灰色粘質土　（シルト）1～20㎜の炭化物を多く含む。(6-③層)
2 暗灰色細砂　炭化物を多く含む。
3 暗灰色粘砂　（細砂）炭化物を含まない。
4 青灰色砂　（SR2）
5 青灰色粘土　2㎝大の炭化物を含む。
6 暗灰色細砂　炭化物を多く含む。
7 暗灰色粘砂　（細砂）炭化物を含まない。

1 暗青灰色粘質土
（シルト）1～20㎜大の
炭化物を含む。

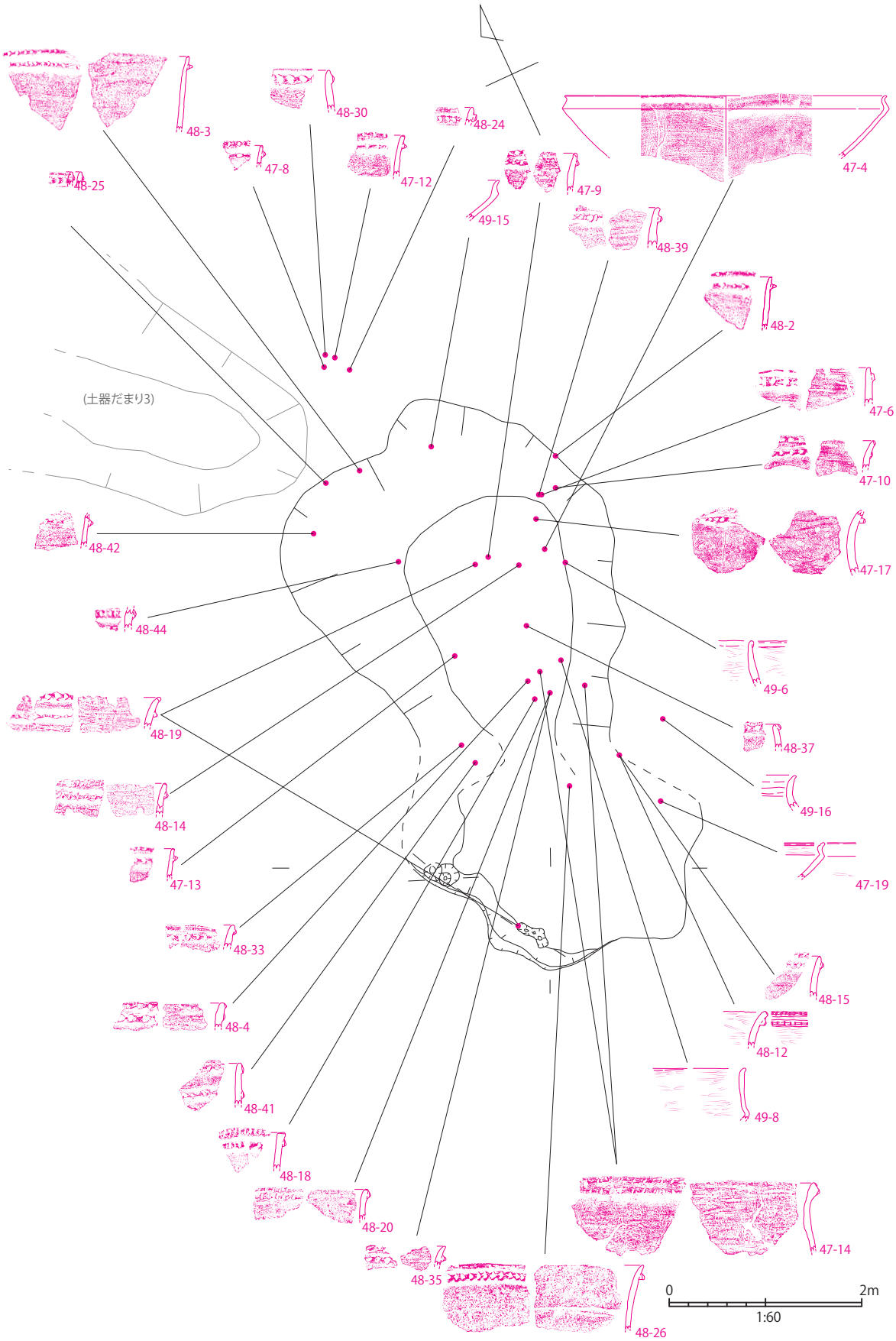
1 黒灰色粘砂
炭化物を含む。

1 暗灰色粘砂
1㎝大の炭化物を含む。
2 黄灰色細砂

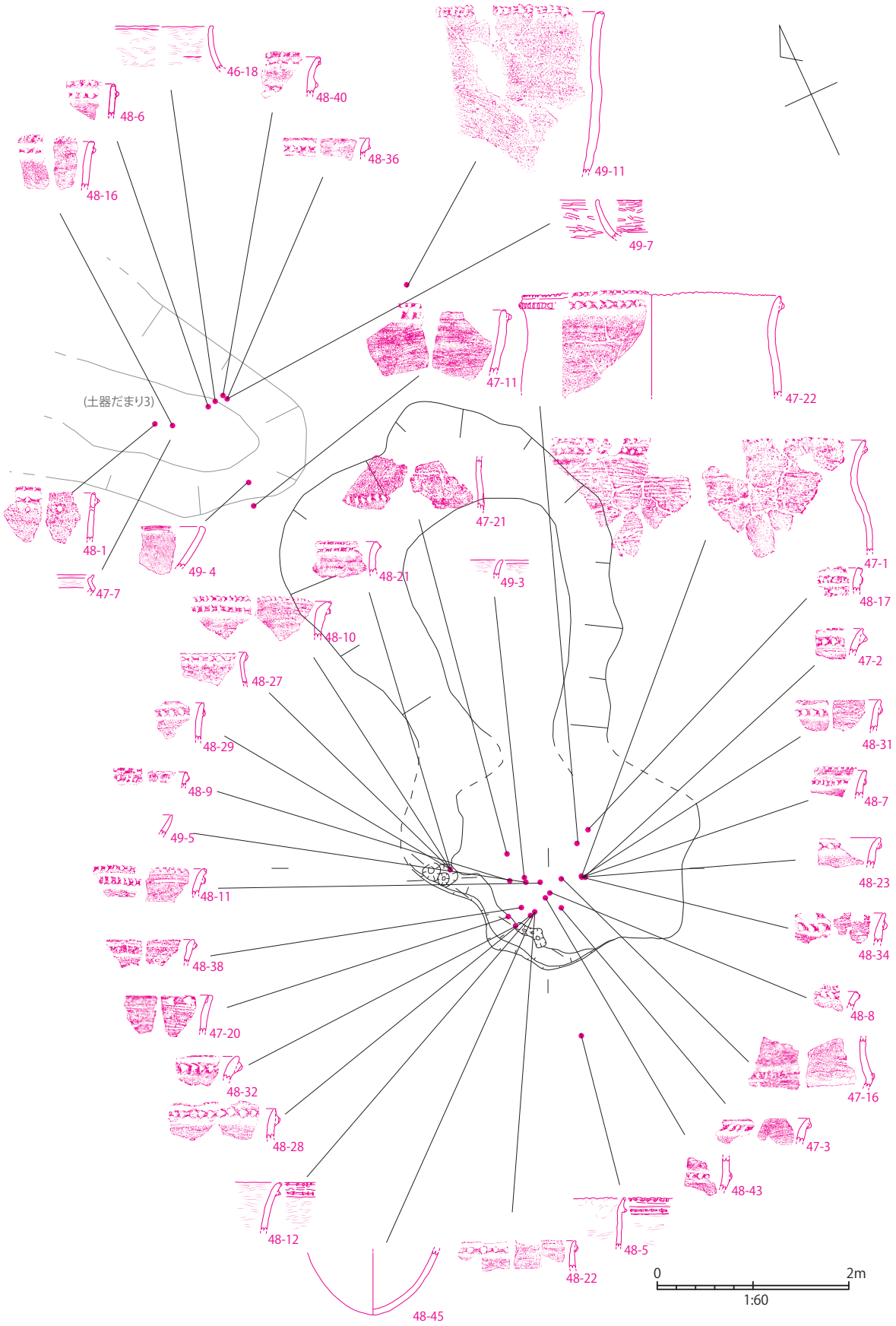
第 43 図　古屋敷遺跡 A 区第 6 層土器だまり 1 実測図



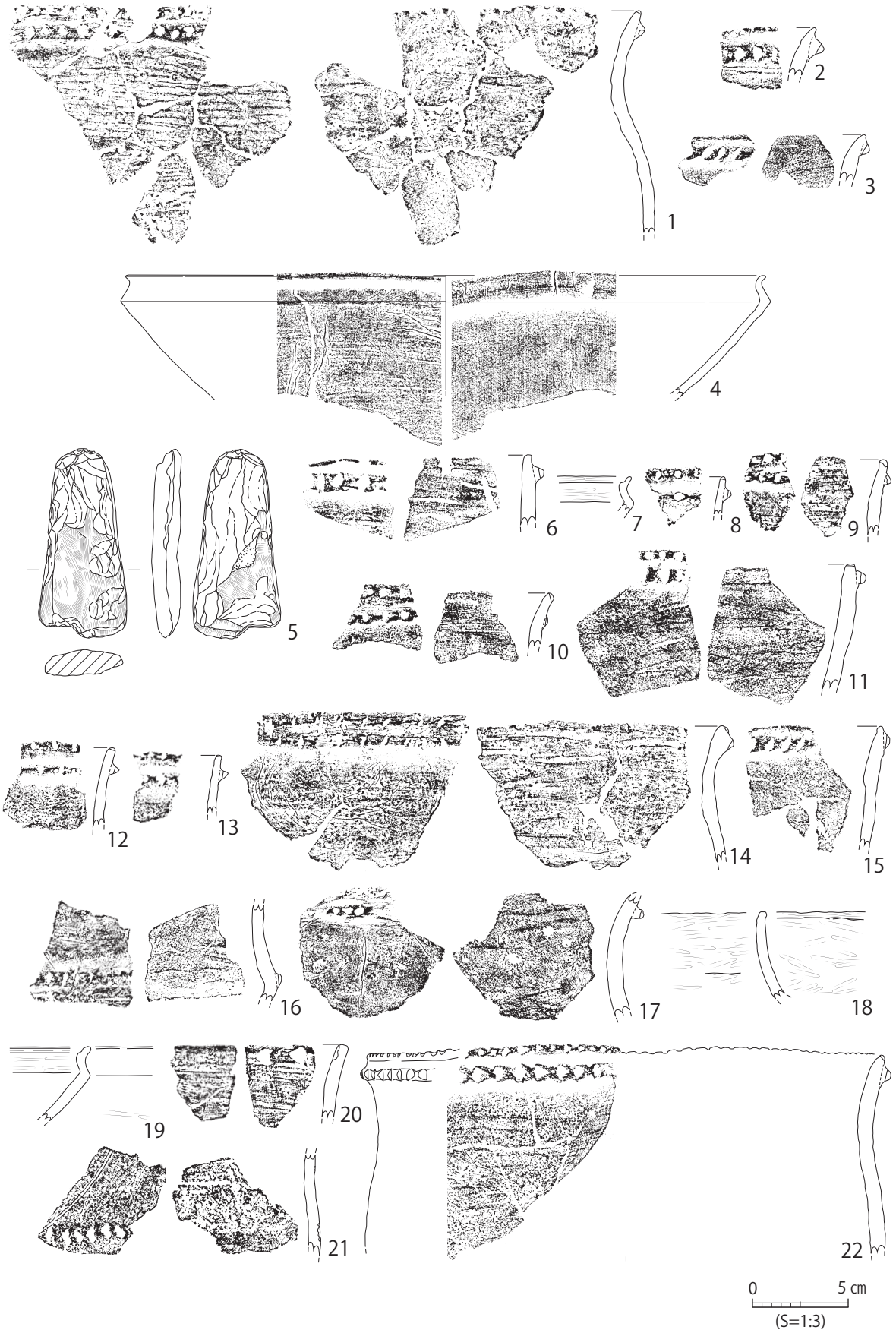
第 44 図　古屋敷遺跡 A 区第 6 層土器だまり 1 遺物出土状況図 1



第 45 図　古屋敷遺跡 A 区第 6 層土器だまり 1 遺物出土状況図 2

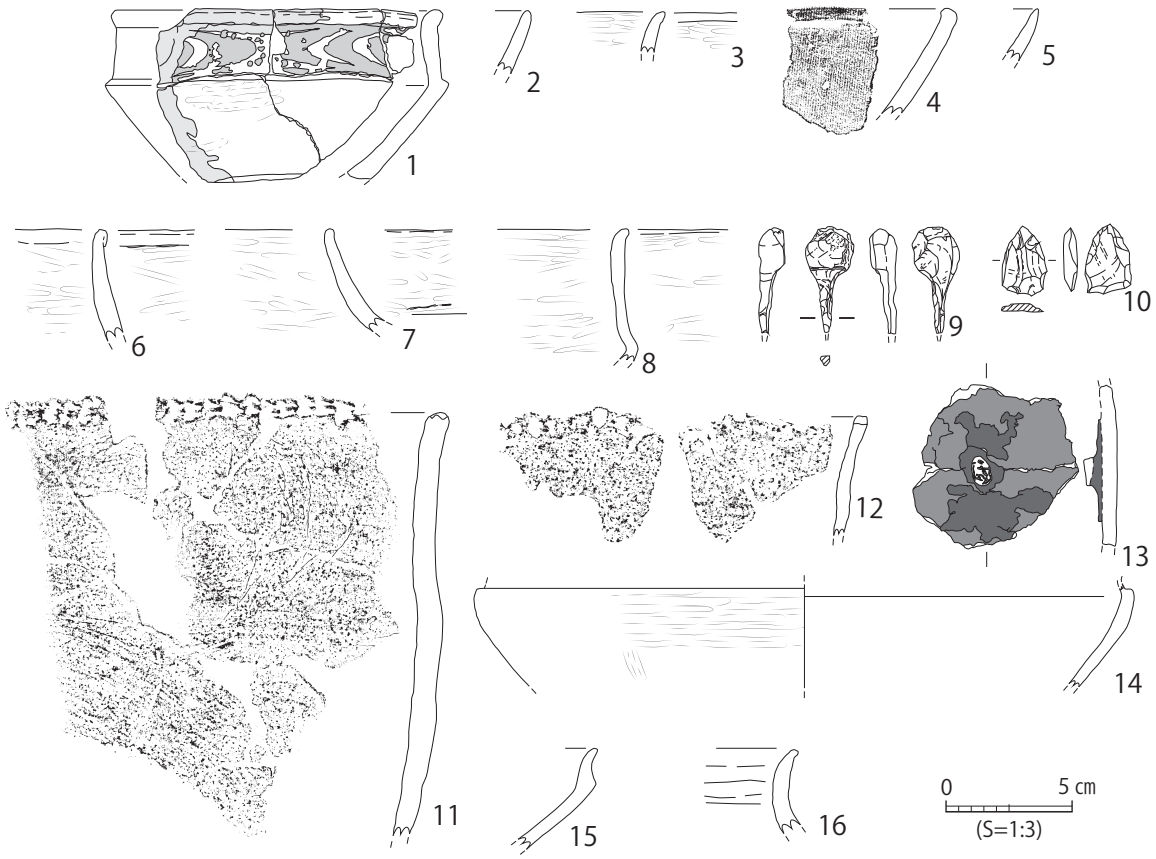


第 46 図　古屋敷遺跡 A 区第 6 層土器だまり 1 遺物出土状況図 3



第 47 図　古屋敷遺跡 A 区第 6 層土器だまり 1 出土遺物実測図 1

第 48 図　古屋敷遺跡 A 区第 6 層土器だまり 1 出土遺物実測図 2



第 49 図　古屋敷遺跡 A 区第 6 層土器だまり 1 出土遺物実測図 3

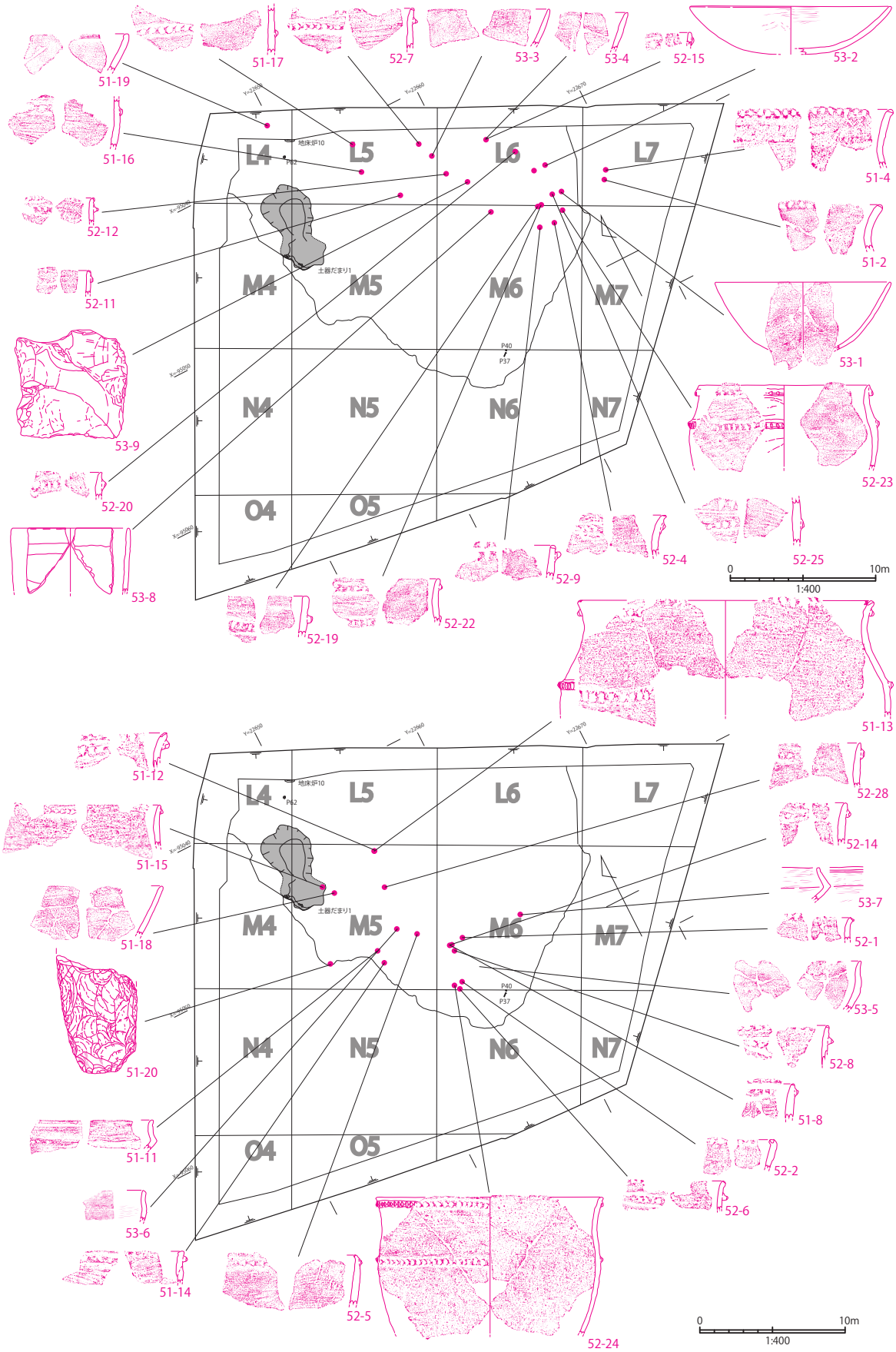
ある。焼成前の塗布の可能性がある。4 ～ 8 は浅鉢である。9、10 は石器である。9 は石錐、10 は石鏃である。

11 ～ 16 は、下層出土の遺物である。11、12 は深鉢であり、口縁端部に、刺突（刻目）が施されている。13 は、粗製の土器であり、内面に炭化物と、植物の実が付着している。14 ～ 16 は浅鉢である。14 は朱塗り浅鉢の体部である。

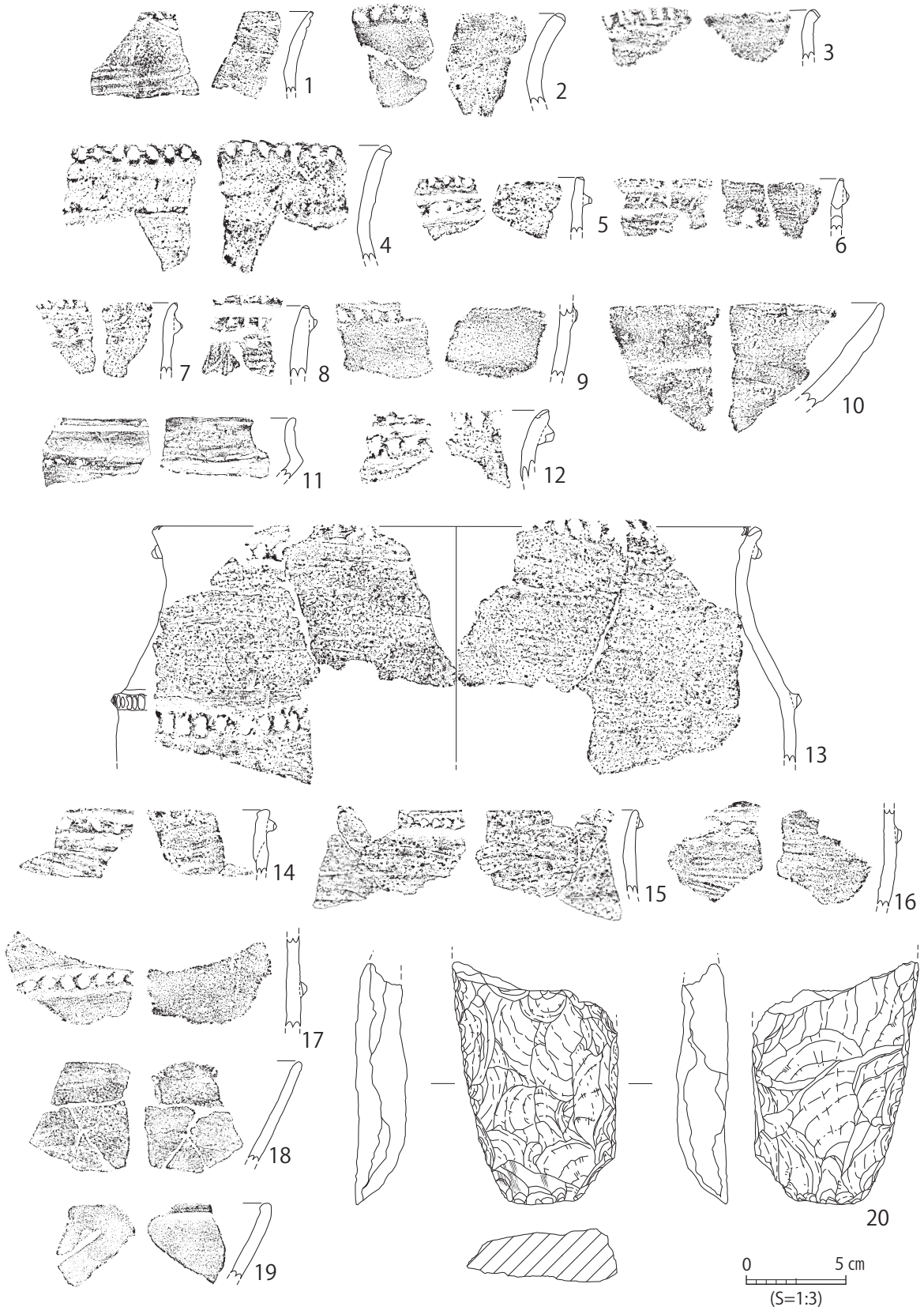
3. 第 6 層出土遺物（第 50 ～ 53 図）

第 6 層は①～⑨層に細分（そのうち④～⑦層は土器だまり 1 の堆積土）したが、細分層位と遺物の出土層位を対応させて取り上げることができたのは、第 51 図 12 ～ 20（②層）、第 52 図 1 ～ 27・第 53 図（③層）、第 52 図 28（⑧層）である。第 51 図 1 ～ 11 は、第 6 層出土ではあるが、細分層位は不明である。

第 51 図 1 ～ 4 は、深鉢と考えられる。1 は巻貝によると考えられる条痕が、内外面に残る。2 ～ 4 は口縁端部に刺突（刻目）が施されている。5 ～ 8 は、口縁端部及び突帯に刺突（刻目）が施されている突帯文土器の深鉢である。9 は二条突帯の深鉢の胴部である。10、11 は浅鉢である。12 ～ 17 は突帯文土器の深鉢である。12、13 は口縁端部及び突帯に刺突（刻目）が施されている。13 は二条突帯で、口縁部及び胴部最大径付近に突帯が付いている。14、15 は口縁端部には刺突（刻目）が施されている。16、17 は二条突帯の胴部である。18、19 は浅鉢である。 20 は石器、打製石斧であり、欠損している。

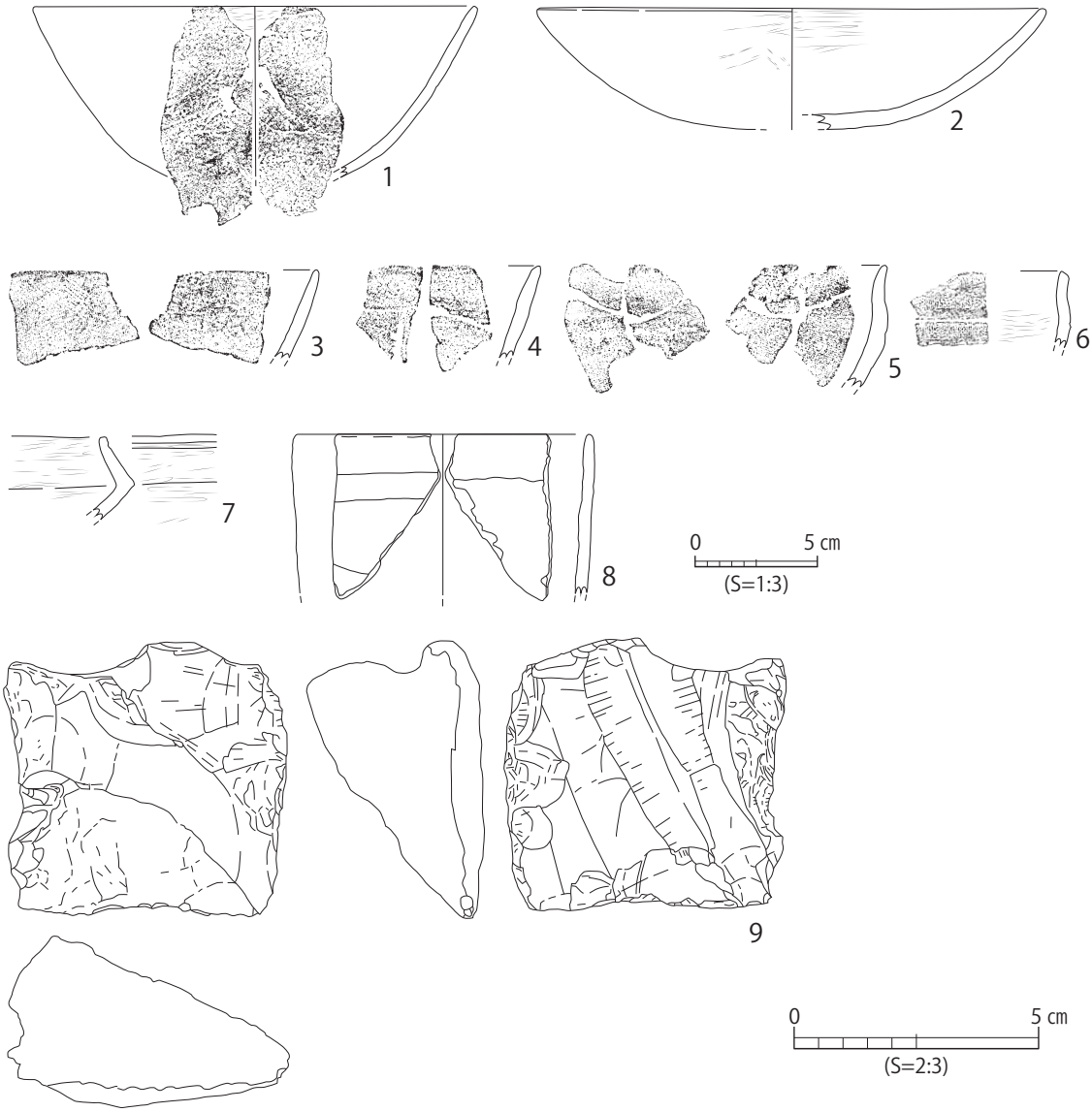


第 50 図　古屋敷遺跡 A 区第 6 層遺物出土状況図



第 51 図　古屋敷遺跡 A 区第 6 層出土遺物実測図 1

第 52 図　古屋敷遺跡 A 区第 6 層出土遺物実測図 2



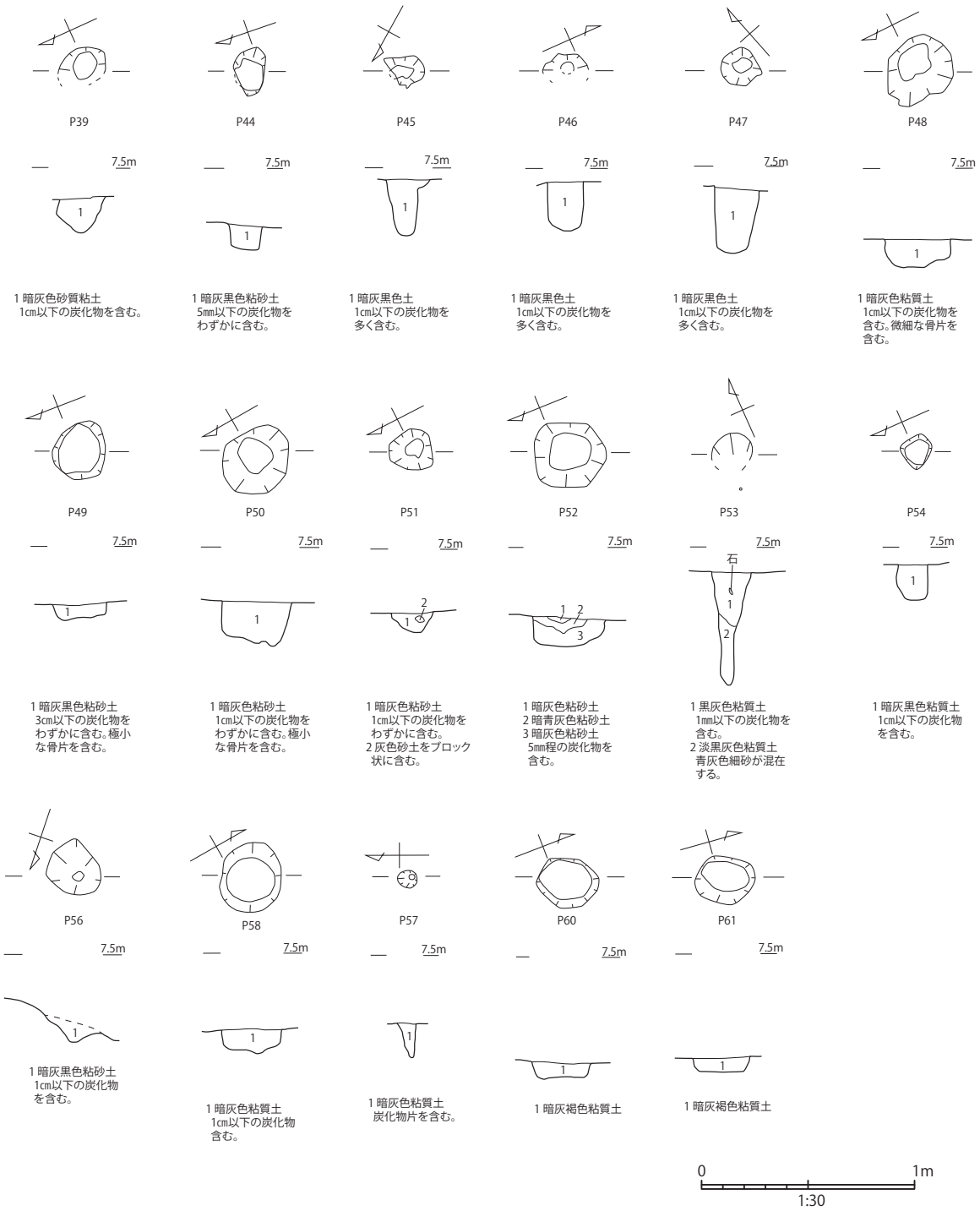
第 53 図　古屋敷遺跡 A 区第 6 層出土遺物実測図 3

第 52 図 1、2 は、深鉢で、口縁端部に、刺突（刻目）が施されている。3 ～ 27 は、突帯文土器の深鉢である。3 ～ 13 は口縁端部及び突帯に刺突（刻目）が施されている。14 ～ 20 は突帯には刺突（刻目）が施されているが、口縁端部には施されていない。21 ～ 26 は二条突帯文である。21 ～ 24 は二条の突帯には刺突（刻目）が施されているが、口縁端部は施されていない。25、26 は胴部である。27 は口縁部であるが口縁端部を欠損している。28 は突帯文土器・深鉢である。

第 53 図 1 ～ 7 は浅鉢である。8 は器種は不明である。鉢や円筒形の土器の口縁部などが推測される。また内外面に赤色の塗料が塗布されている。黒色の土器の器面に、外面には口縁部よりやや下がった位置と、さらに 3㎝下がった位置に、二条の黒色部分が描き出されている彩文土器と考えられる。また内面の口縁部も赤彩されている。9 は石器で、スクレイパーの可能性が考えられる。

第 6 節　第 7 層の調査

第 7 層では、土器だまり 3、地床炉 1、ピット 22 などが検出された。土器だまり 2 は、8 層上面に近い 7 層下位の検出であったが、その他は 7 層上面の検出である。7 層でも下位部分の土器だまり 2 についてはＡ区グリッド（M6-N7-O7）ライン土層図やＡ区南西−北東土層図の観察により、

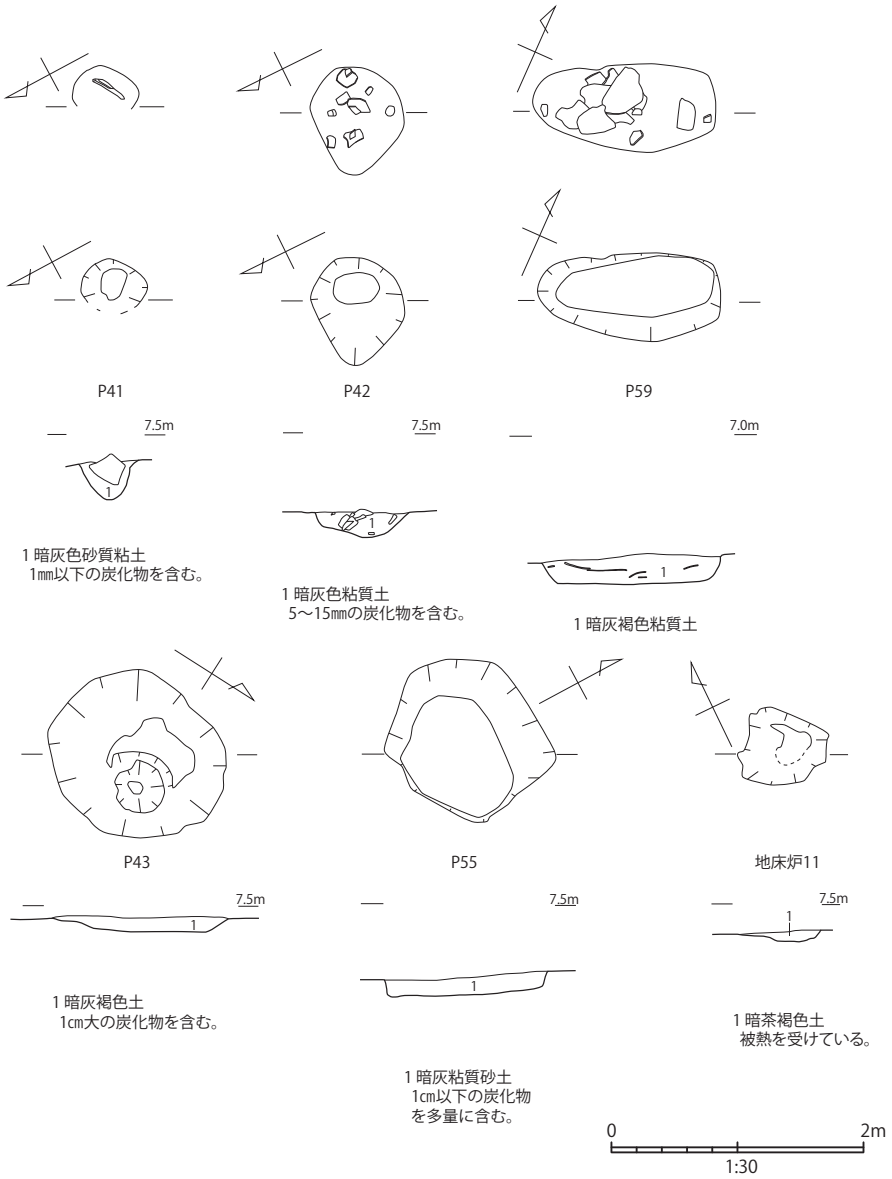


第 54 図　古屋敷遺跡 A 区第 7 層ピット実測図 1

SR3 部分に大量の砂礫が堆積する前の流路により削りとられていたと考えられる。

1. ピット・地床炉（第 54 ～ 56 図）

ピットは調査区北東部端付近と土器だまり 2 の上位で検出された。平面的には、およそ 3 グループに分かれて、分布している。調査区北東端のグリッド L5 ～ L6 にかけて一つのグループ、調査区東端のグリッド L7 付近に一つのグループ、土器だまり 2 の上位に一つのグループである。検出された標高は、7.0 ～ 7.5m である。ピットから出土した遺物は、第 56 図のとおりである。1

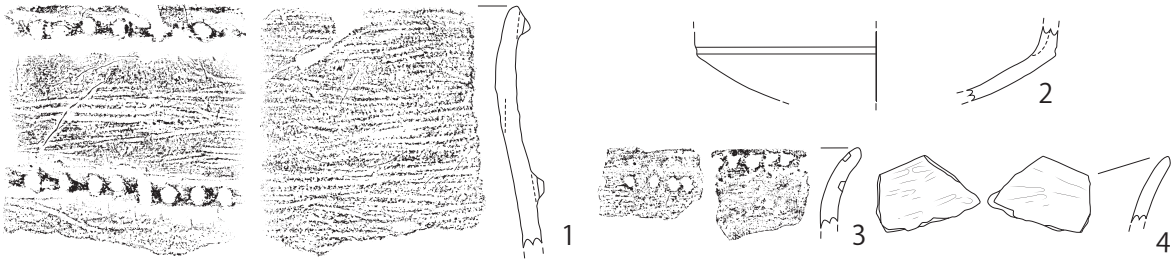


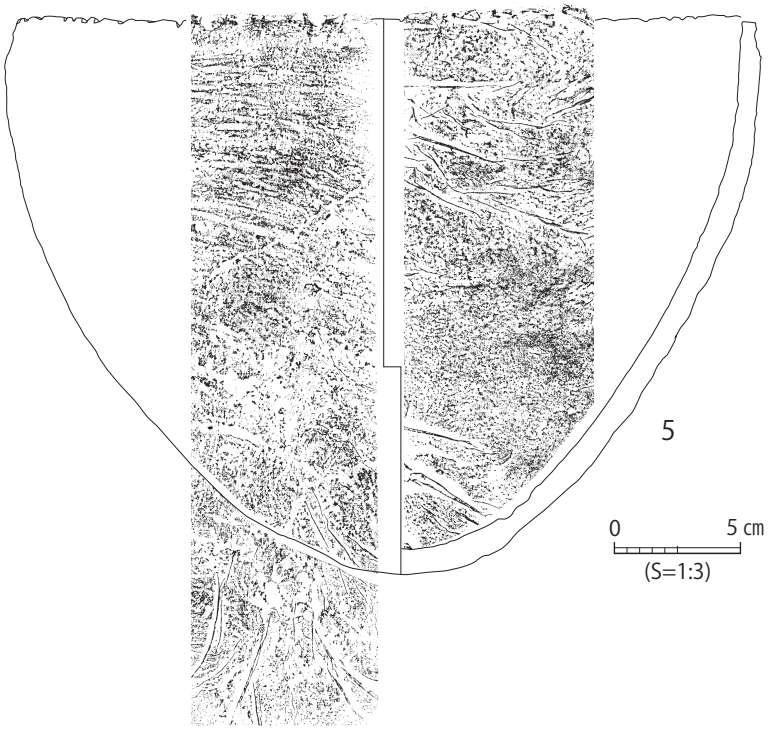
第 55 図　古屋敷遺跡 A 区第 7 層ピット実測図 2

は P41 から出土した二条突帯文土器の深鉢である。内外面に二枚貝による条痕がはっきりと残っている。2 は第 6 層検出の P40 出土の浅鉢である。3 は P42 出土の深鉢の口縁部である。内面の口縁端部付近と外面口縁部から 1.5㎝くらい下がった部分に刺突文が施されている。4 は P55 出土の浅鉢である。波状口縁と考えられる。5 は P59 出土の深鉢である。他のピットは土器の破片 1 点程度の出土であるが、P59 からは、1 個体ではあるが、50％以上復元できる遺物が出土した。粗製の深鉢で、口縁端部には、刺突（刻目）が施されている。

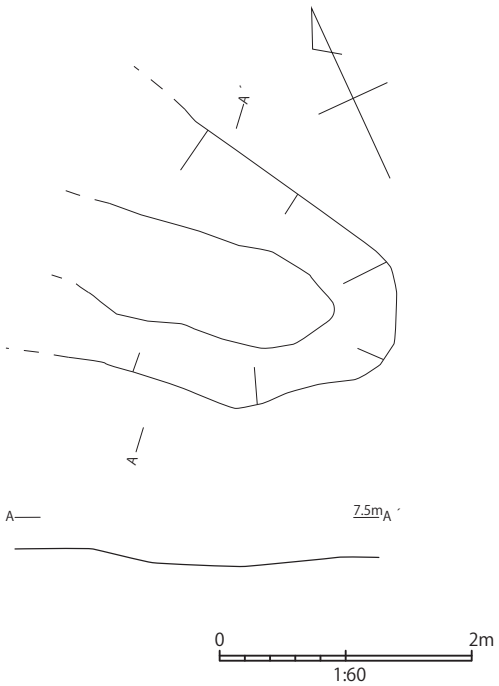
2. 土器だまり 3（第 57・60 図）

調査区北端に位置する。長さ 2.5m、幅 2m, 深さ 10㎝であり、北東方向には調査区の外に広がっている。

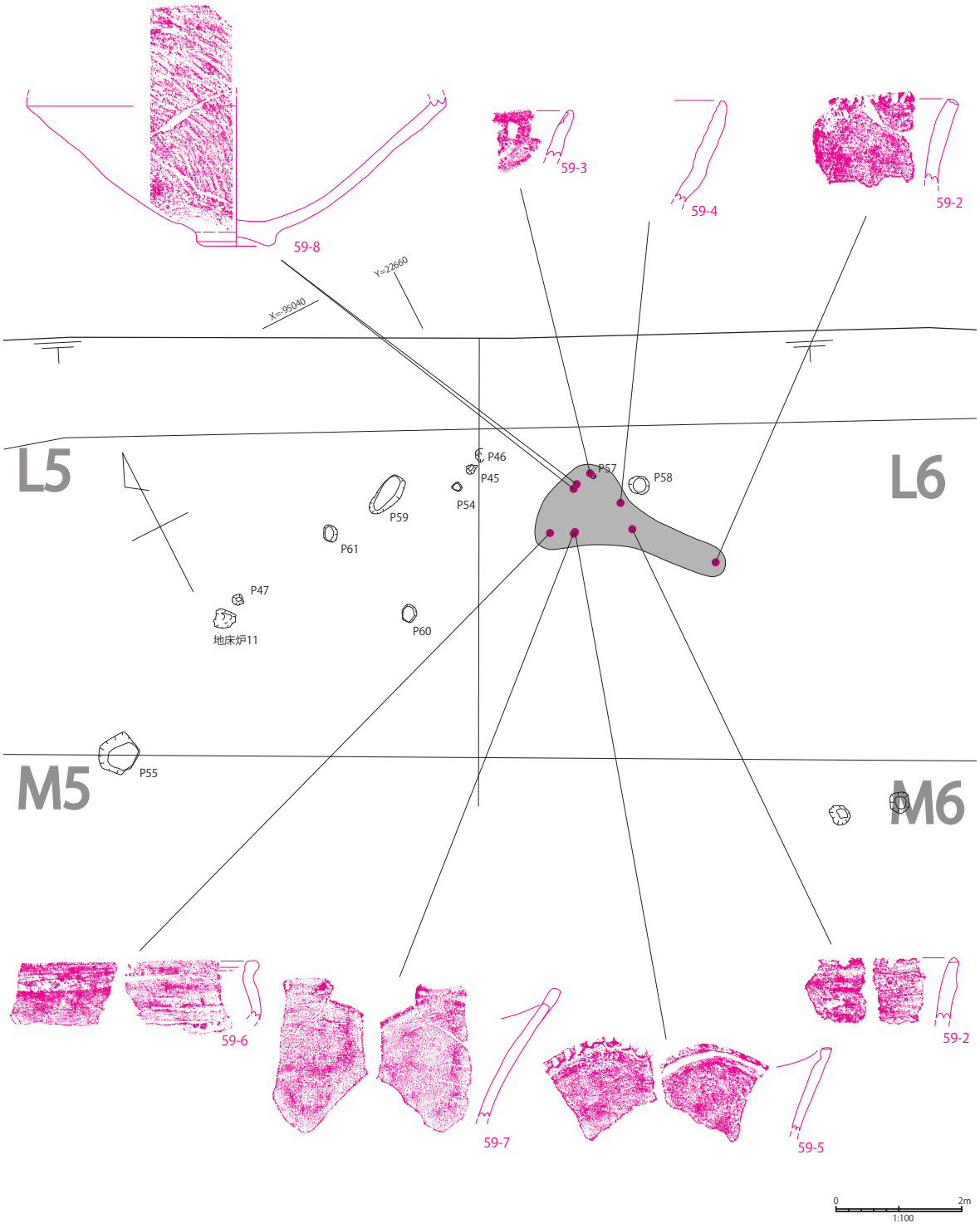




第 56 図　古屋敷遺跡 A 区第 7 層ピット出土遺物実測図



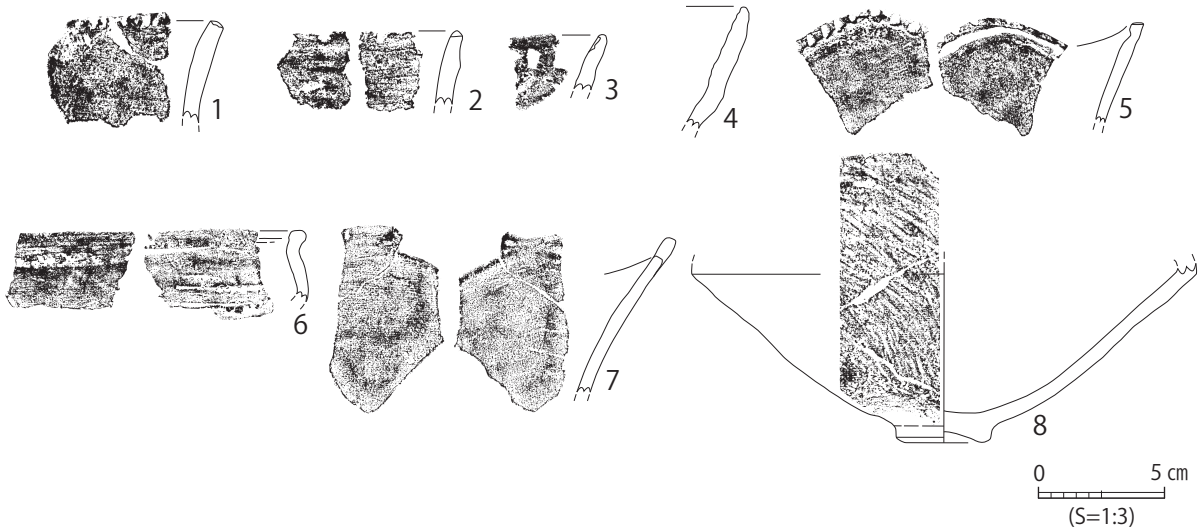
第 57 図　古屋敷遺跡 A 区第 7 層土器だまり 3 実測図



第 58 図　古屋敷遺跡 A 区第 7 層土器だまり 4 遺物出土状況図

3. 土器だまり 4（第 58、59 図）

調査区の北東端部分のピットが集中する部分で検出された。遺物の出土量は多くないが、割石が出土したこと、調査区端の壁面で第 7 層上面に落ち込み部分が確認できたことから土器だまり 4 とした。第 59 図 1 ～ 4 は深鉢である。1、2 は口縁端部に刺突（刻目）が施されている。3 は口縁部内面に刺突文が施されている。5 ～ 8 は浅鉢である。5 は口縁端部内面に沈線があり、端部には刺突（刻目）が施されている。波状口縁である。7 はリボン状突起が付く口縁である。8 は胴部最大径部分から底部にかけての部分であり、外面に二枚貝条痕が残っている。



第 59 図　古屋敷遺跡 A 区第 7 層土器だまり 4 出土遺物実測図

4. 第 7 層出土遺物（第 60 ～ 63 図）

第 61 図及び第 62 図 1 ～ 25 は、細分層位不明の遺物である。第 62 図 25、26 は第 7-①層出土遺物である。第 63 図 1 ～ 2 は第 7-④層出土遺物である。3 ～ 8 は、第 7-⑤層出土遺物である。

第 61 図 1 ～ 6 は、深鉢である。1 ～ 3 は口縁端部に刺突（刻目）が施されている。7、8 は突帯文土器の深鉢である。8 は緩波状口縁である。突帯及び口縁端部に刺突（刻目）が施されている。両者とも 50%以上復元できた。

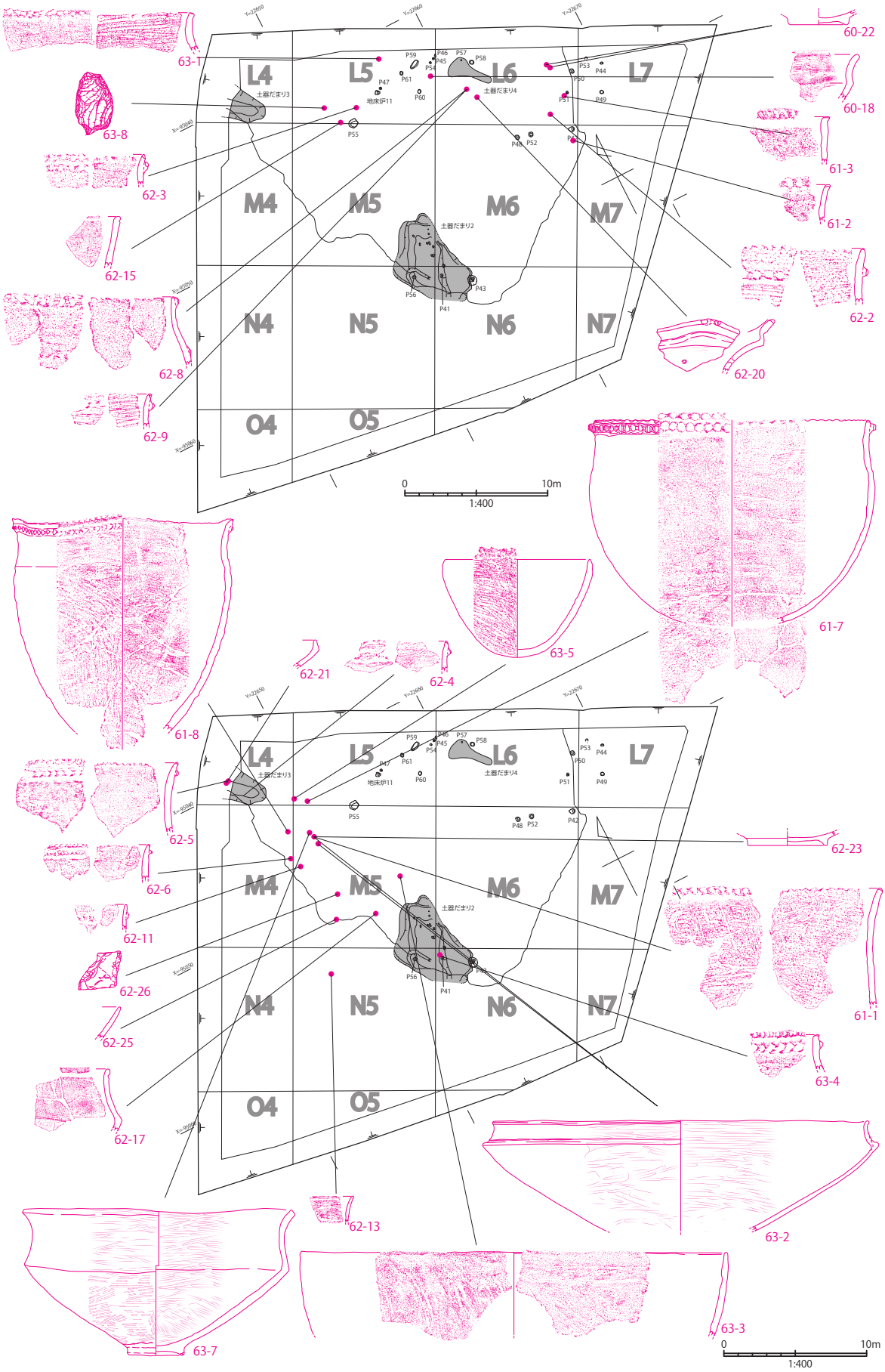
第 62 図 1 ～ 12 は突帯文土器の深鉢である。1 ～ 9 は、口縁端部及び突帯に刺突（刻目）が施されている。10、11 は口縁端部には刺突（刻目）が施されていないが、突帯には施されている。12 ～ 25 は浅鉢である。12 ～ 21 は口縁部である。21 は波状口縁であり、口縁部が「く」の字に屈曲し、口縁端部に 2 箇所刺突（刻目）が施されている。また体部に 1 箇所、焼成後に穿孔が施されている。22 ～ 24 は底部である。25 は浅鉢の口縁部である。26 は石器・スクレイパーである。上下両端が欠損している。

第 63 図 1 は深鉢で、口縁端部に刺突（刻目）が施されている。2、3 は浅鉢である。4、5 は深鉢である。4 は突帯文土器の深鉢で、口縁端部及び突帯に刺突（刻目）が施されている。5 は深鉢である。6、7 は浅鉢である。7 は約 80%復元できた。8 は、石器・打製石斧である。

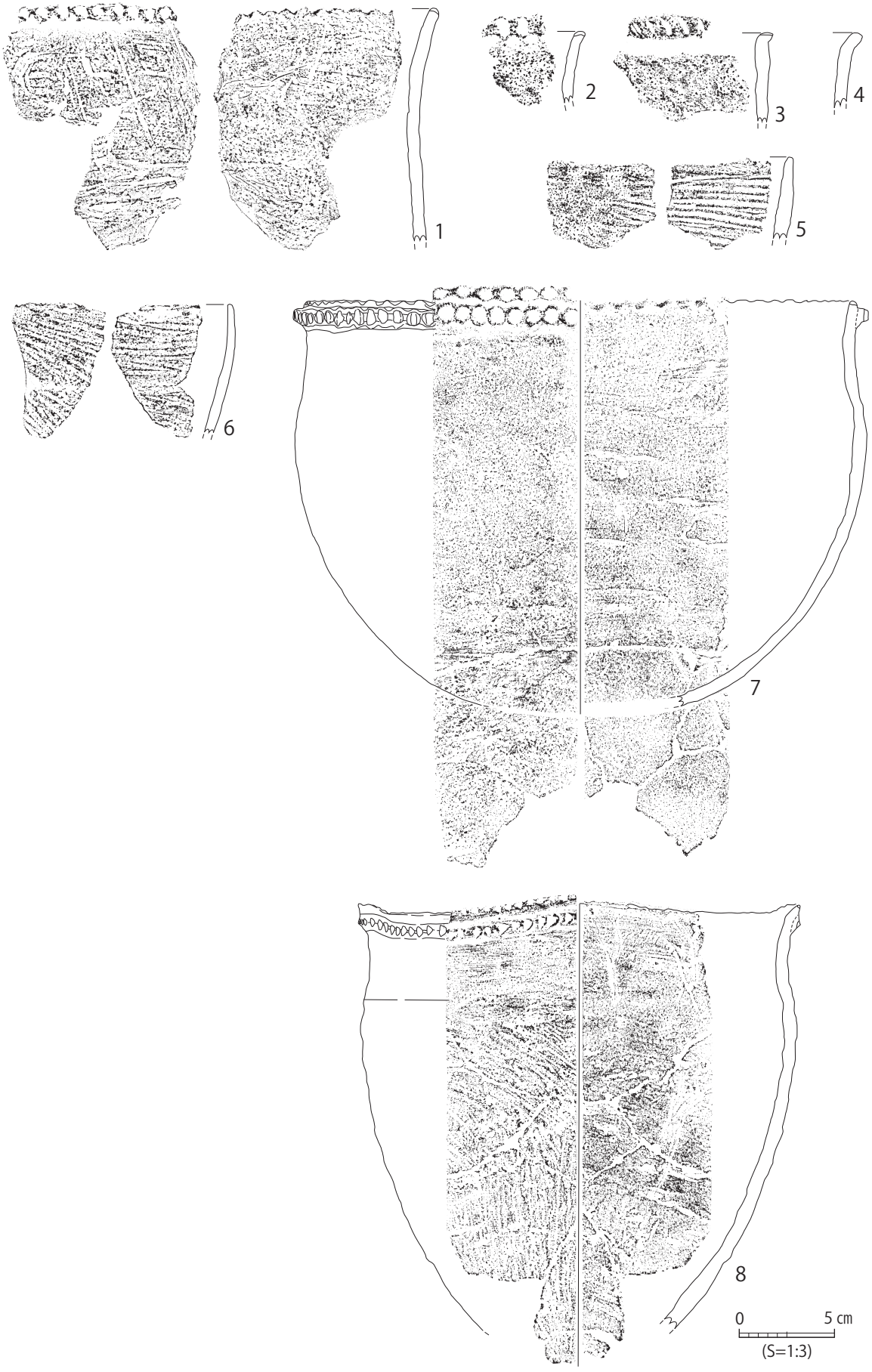
5. 土器だまり 2（第 64 ～ 72 図）

調査区のほぼ中央に位置し、標高 7.0 ～ 7.1 mで検出され、第 7-⑤層と第 8 層にはさまれた状態であった。平面規模は、南北 6.0 m、東西に 4.0 mの不整長方形の落ち込みに遺物が集積していた。（第 64 図）な楕円状である。深さは、一番深い部分では検出面から 30㎝である。5 層に分かれる。土器だまり 2 第 1 層は、全体の第 14・15 層である。多くの遺物が出土したのは D2-3 層及び D2-4 層であり、遺物の他炭化物が多く出土した。とくに D2-2 層は多量の炭化物が出土している。土器だまり 2 の底面は全体に皿状をしているが、南西端は、SR3 によって削られている。

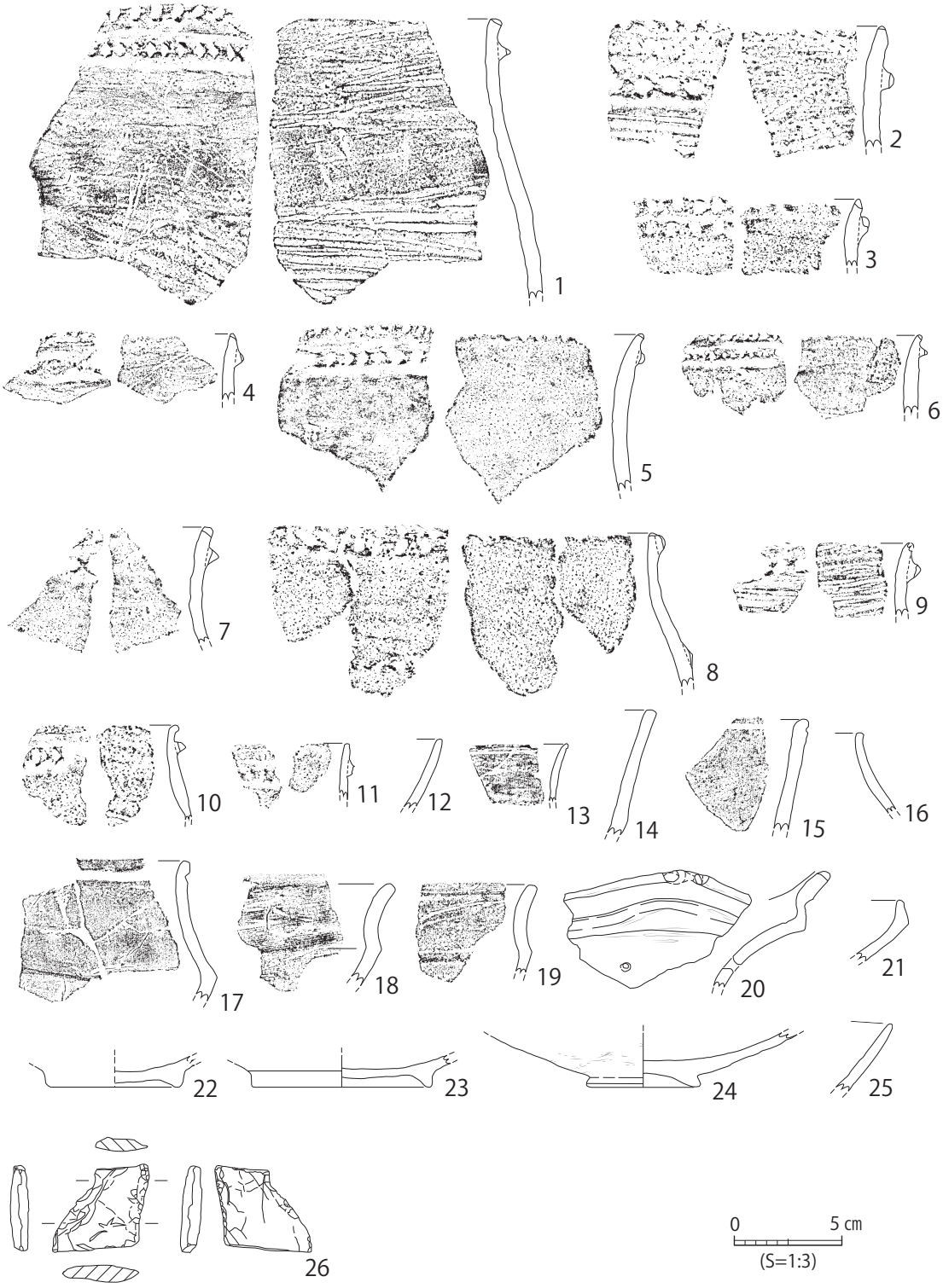
第 68 図 1 ～ 5 は、出土層位不明の遺物である。第 68 図 6、7 及び第 69 図 1 ～ 3 は、土器だまり 2 直上の 7-⑤層出土の遺物である。第 69 図 4 ～ 10 は D2-1 もしくは D2-2 層出土の遺物である。第 70 図及び第 71 図 1 ～ 11 は D2-3 層出土遺物である。第 71 図 12 ～ 17 及び第 72 図 1



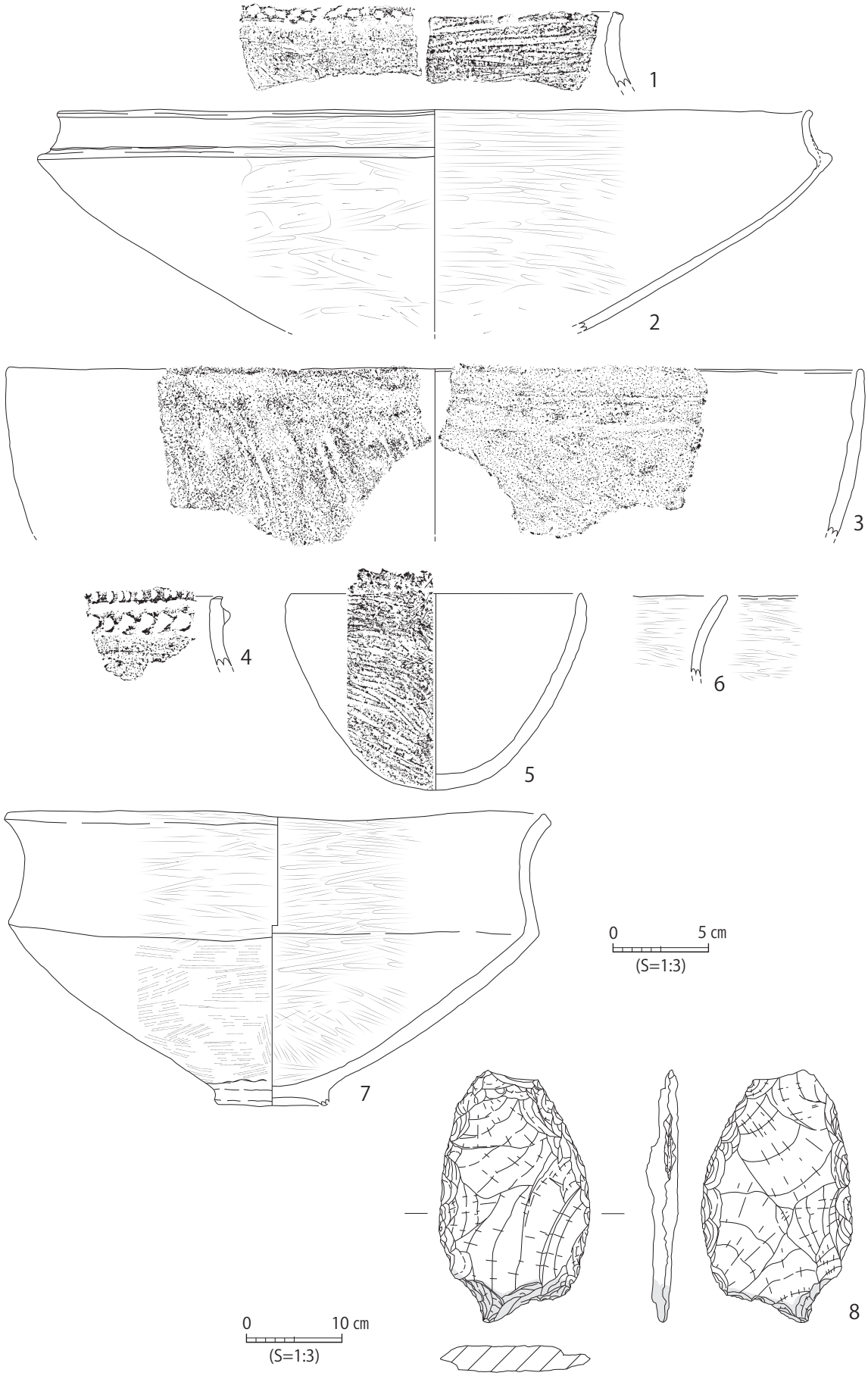
第 60 図　古屋敷遺跡 A 区第 7 層遺物出土状況図



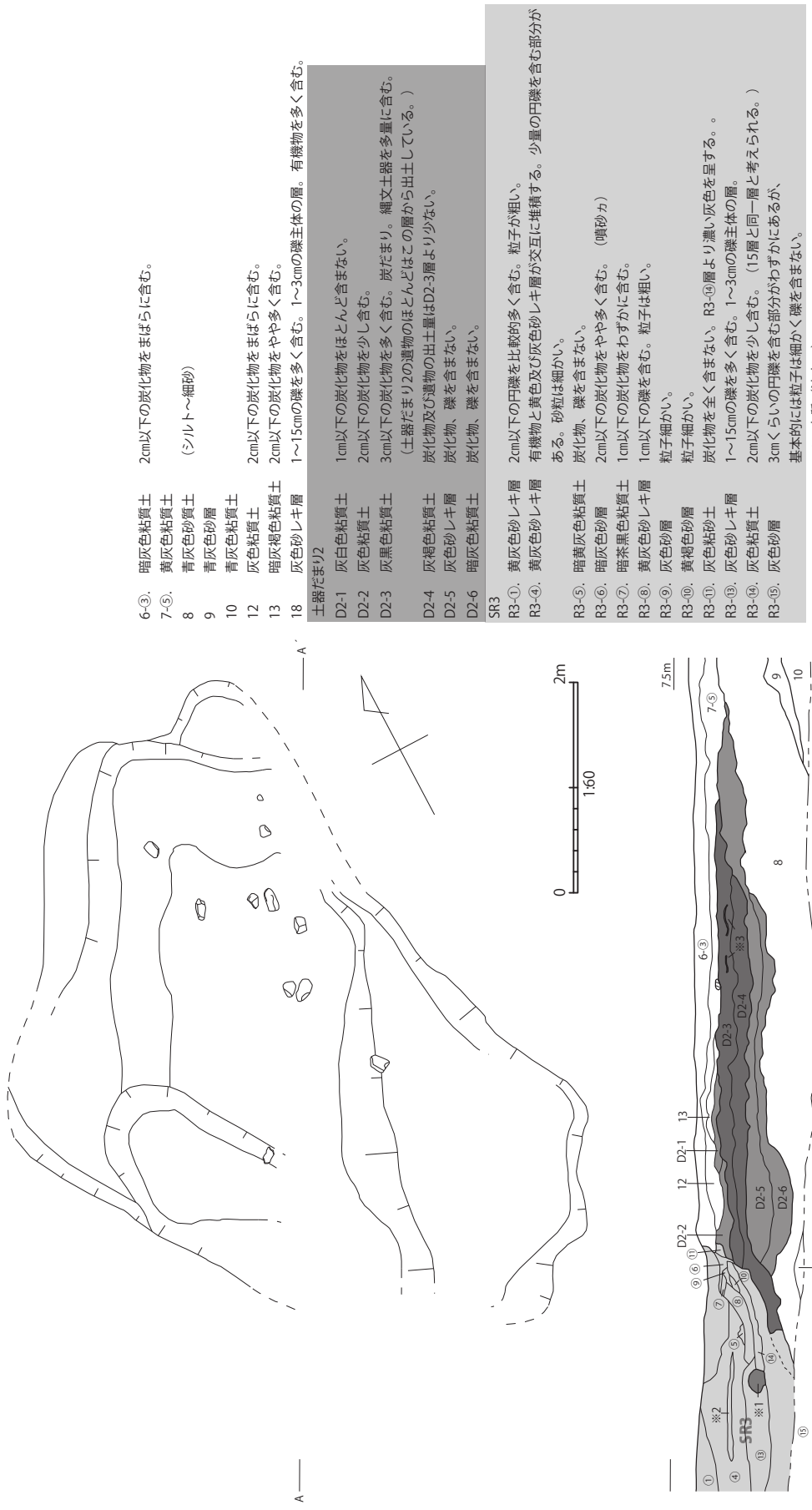
第 61 図　古屋敷遺跡 A 区第 7 層出土遺物実測図 1



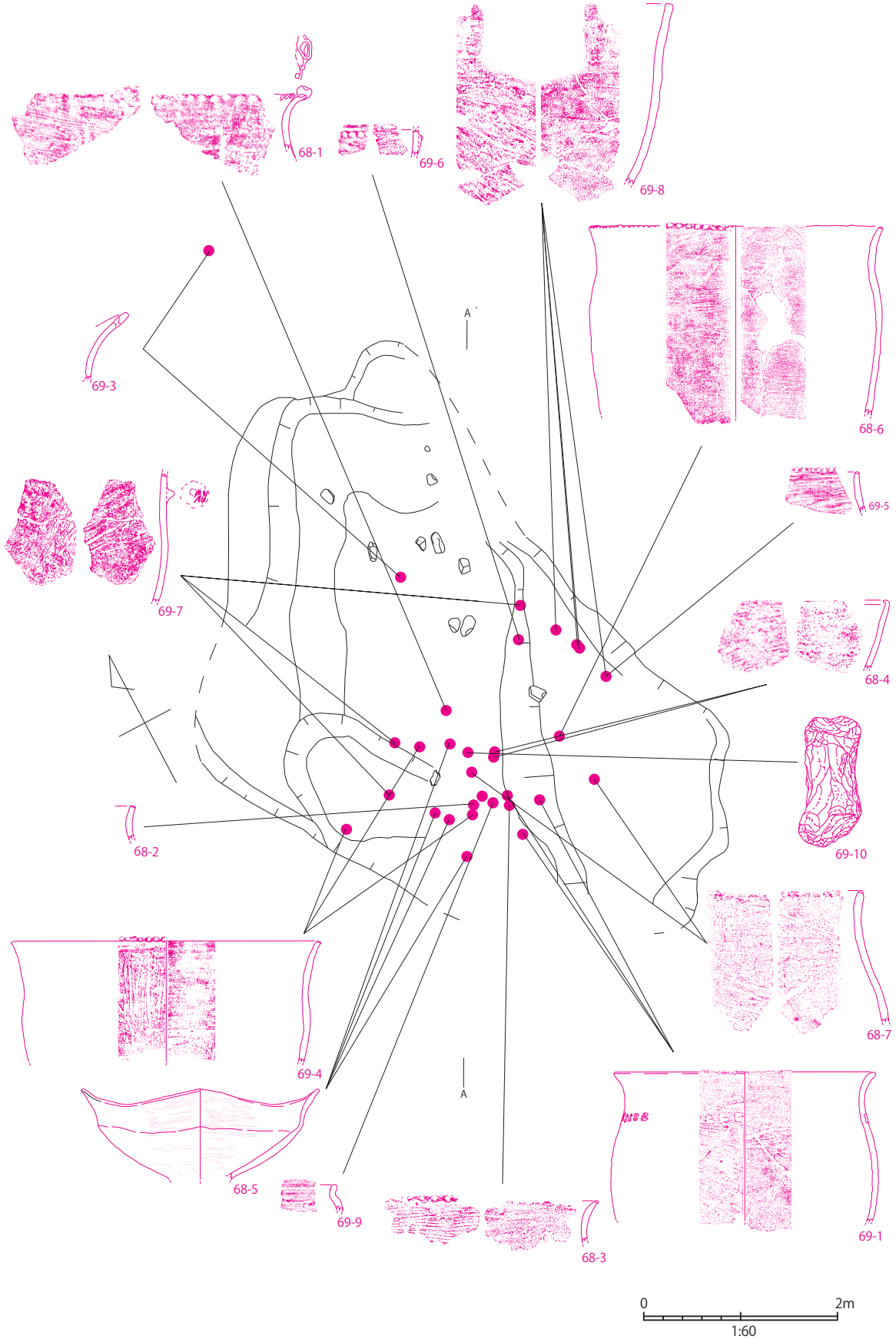
第 62 図　古屋敷遺跡 A 区第 7 層出土遺物実測図 2



第 63 図　古屋敷遺跡 A 区第 7 層出土遺物実測図 3

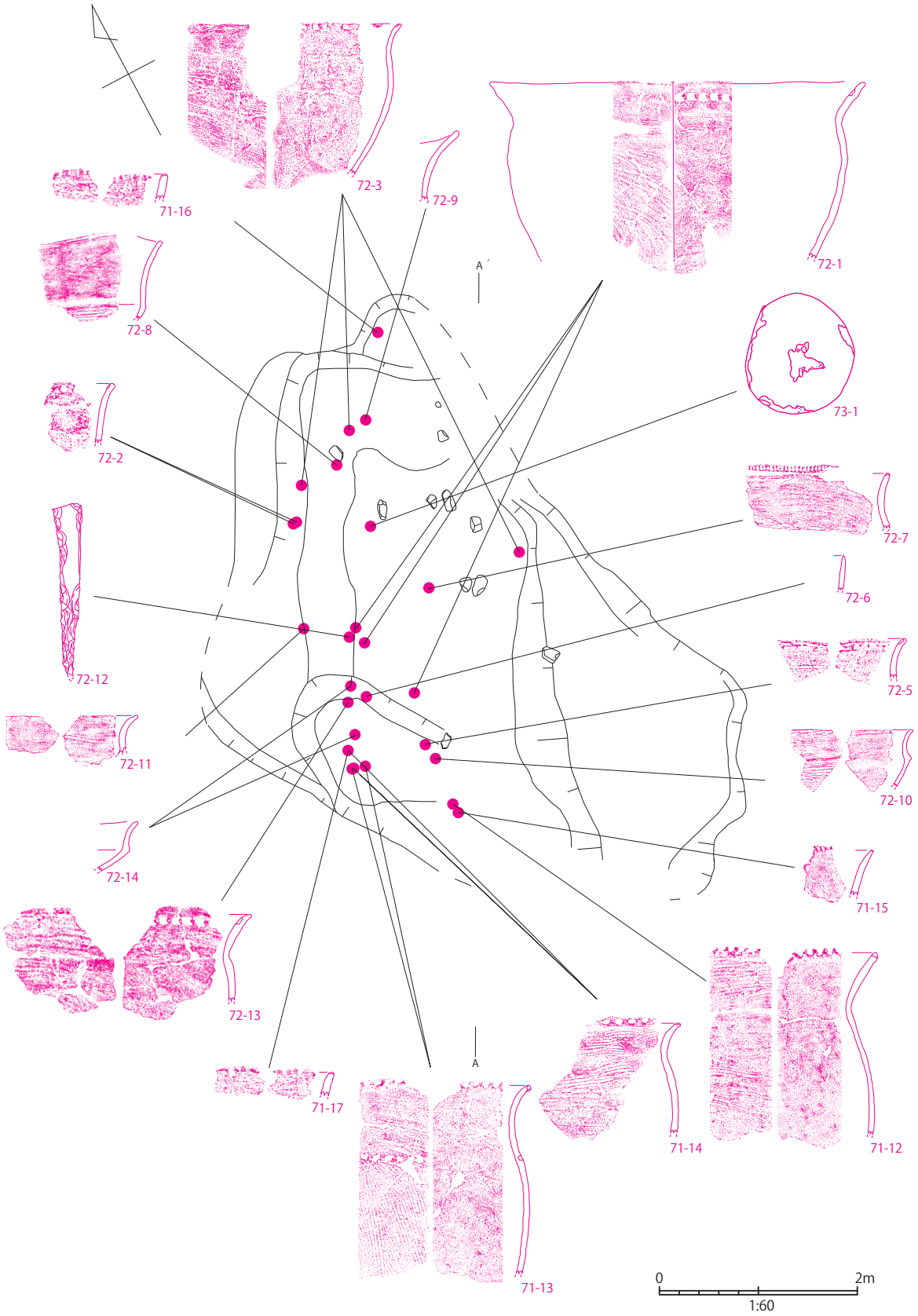


第 64 図　古屋敷遺跡 A 区第 7 層土器だまり 2 実測図

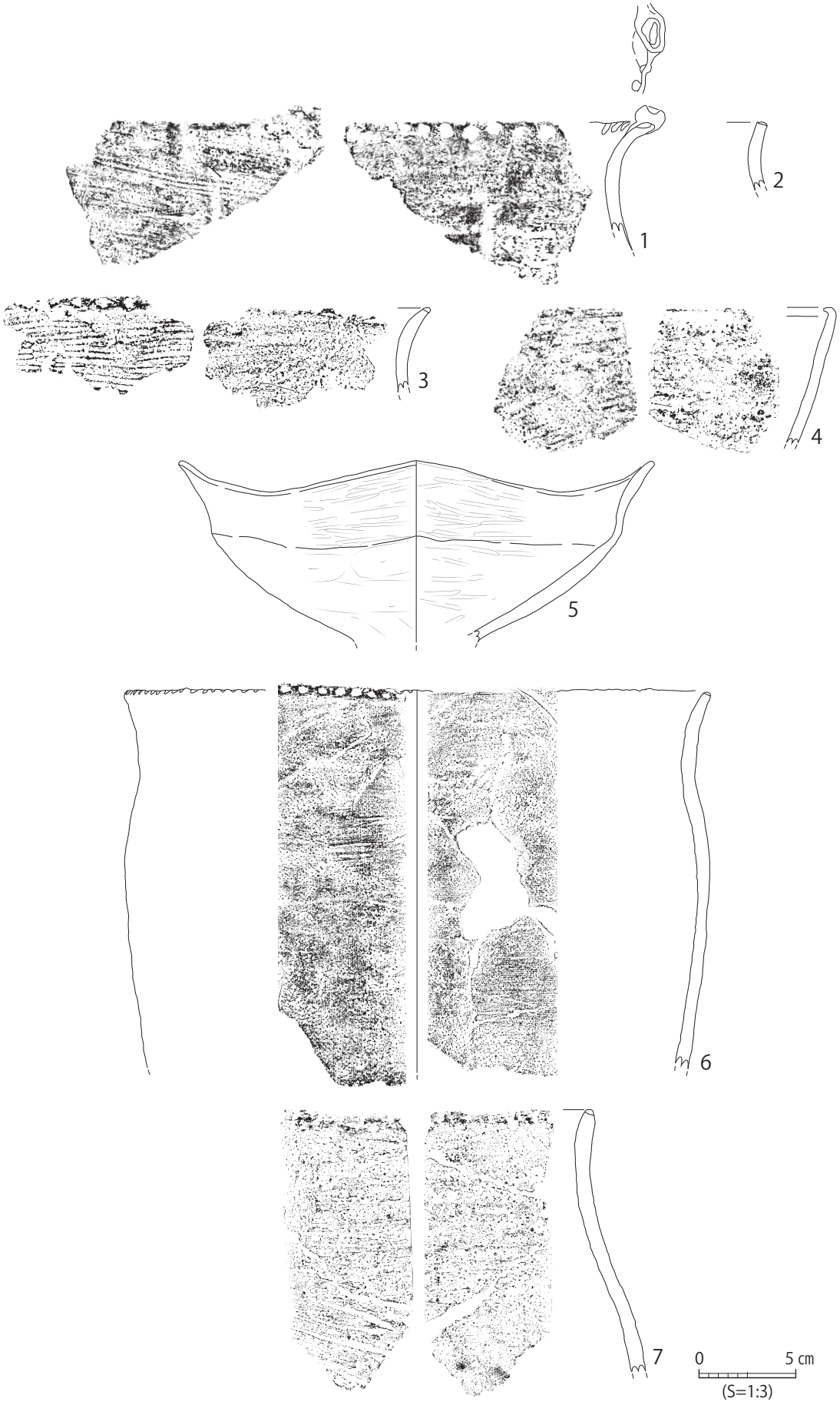


第 65 図　古屋敷遺跡 A 区第 7 層土器だまり 2 遺物出土状況図 1

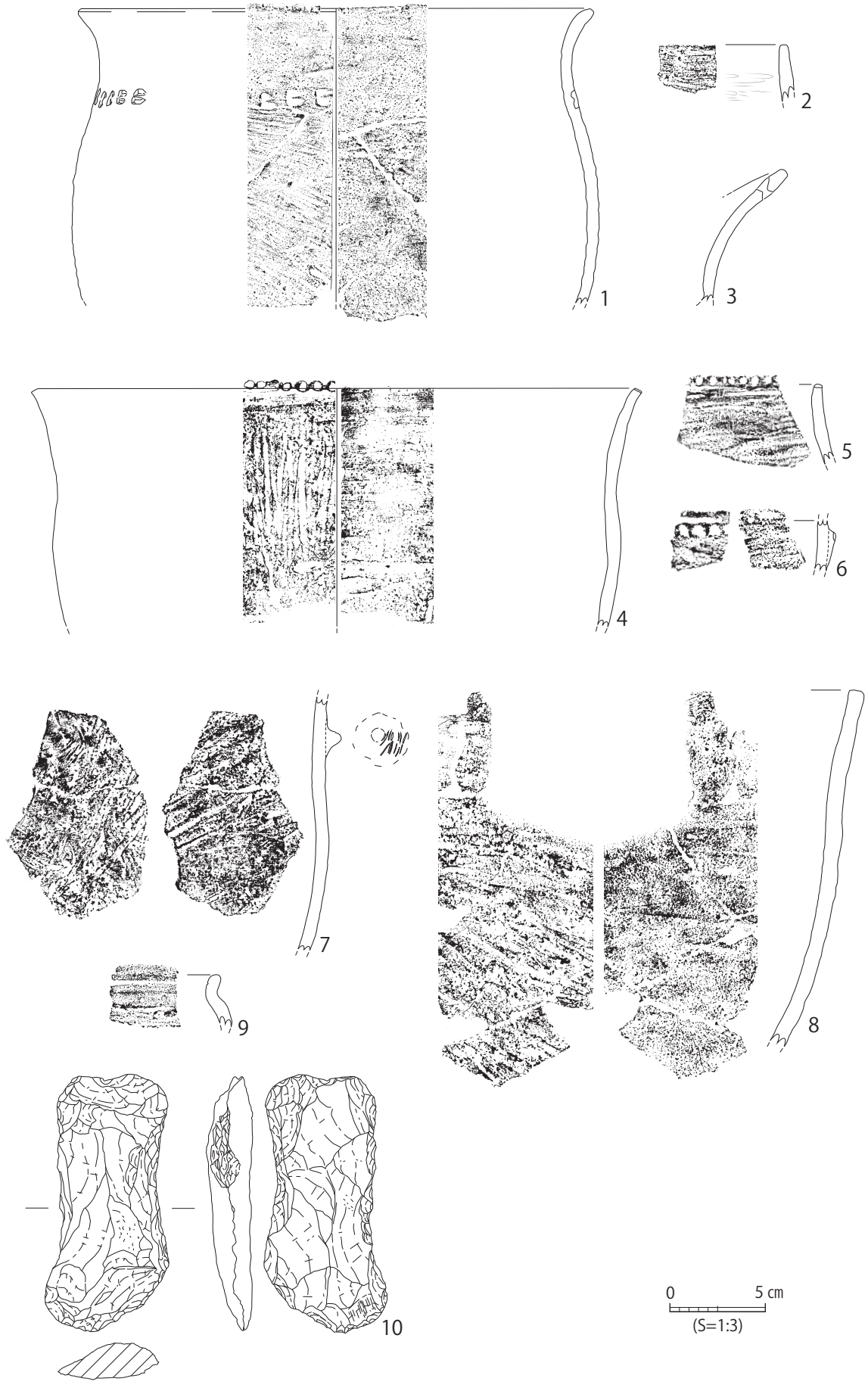
第 66 図　古屋敷遺跡 A 区第 7 層土器だまり 2 遺物出土状況図 2



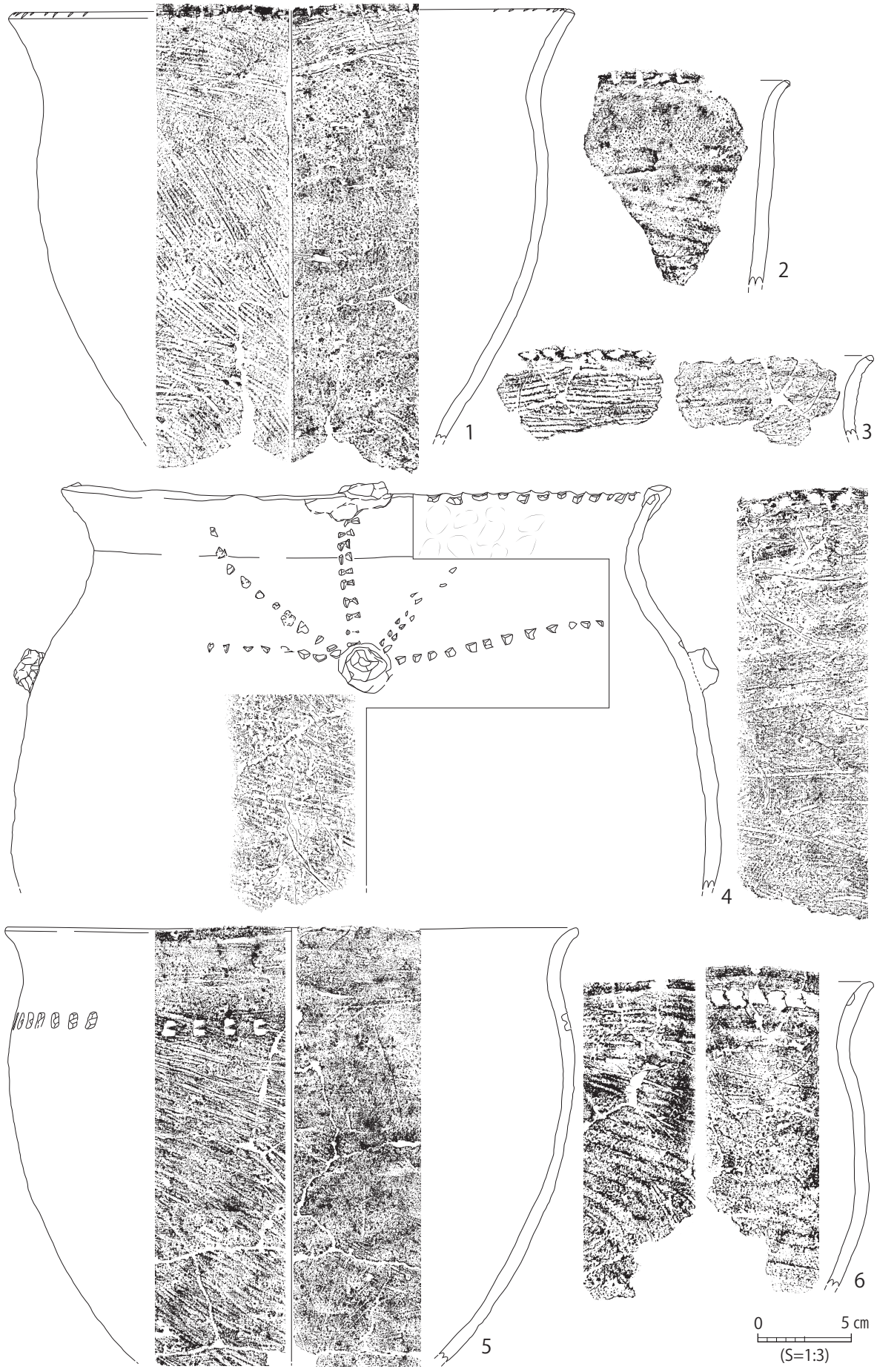
第 67 図　古屋敷遺跡 A 区第 7 層土器だまり 2 遺物出土状況図 3



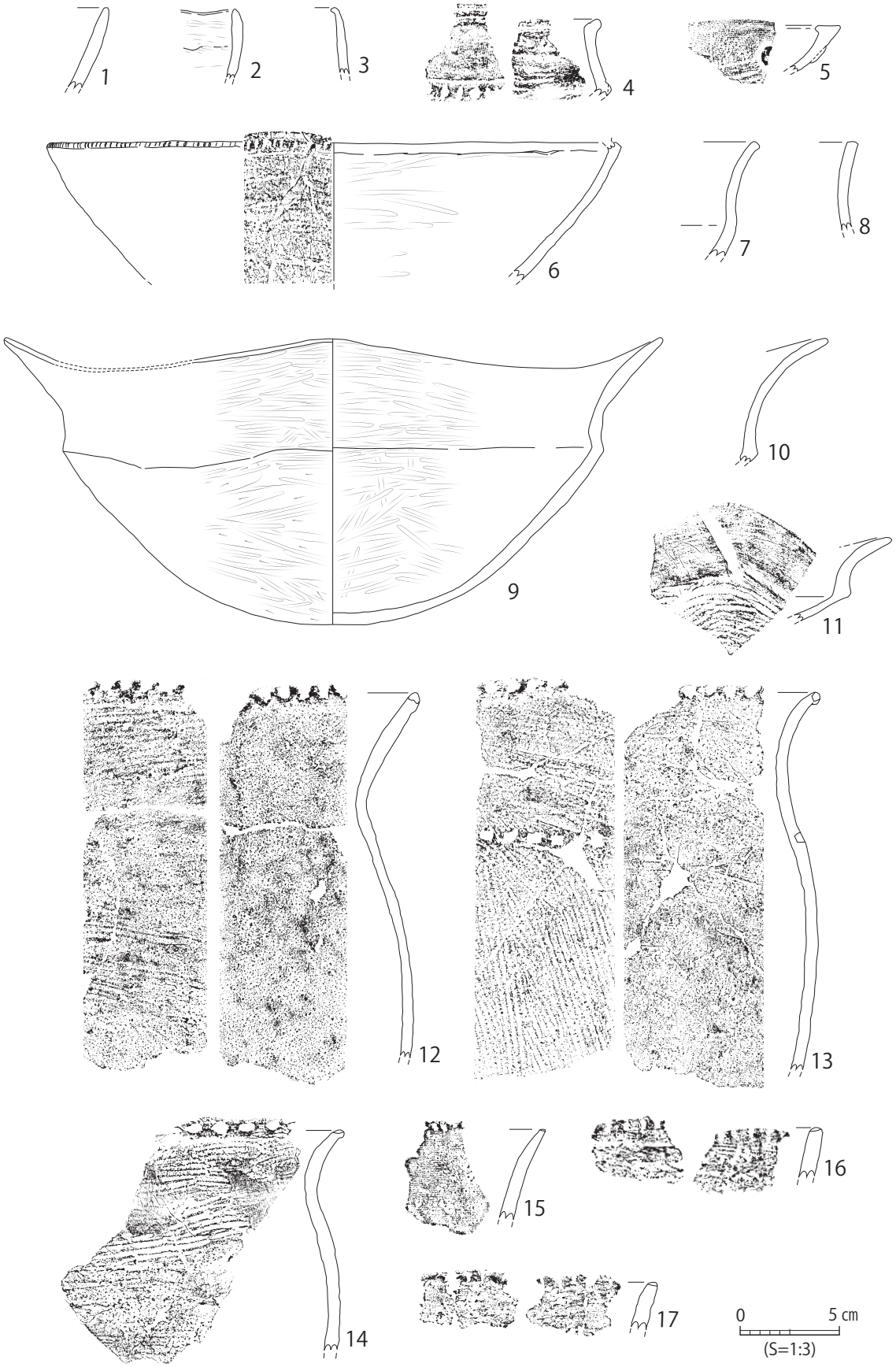
第 68 図　古屋敷遺跡 A 区第 7 層土器だまり 2 出土遺物実測図 1



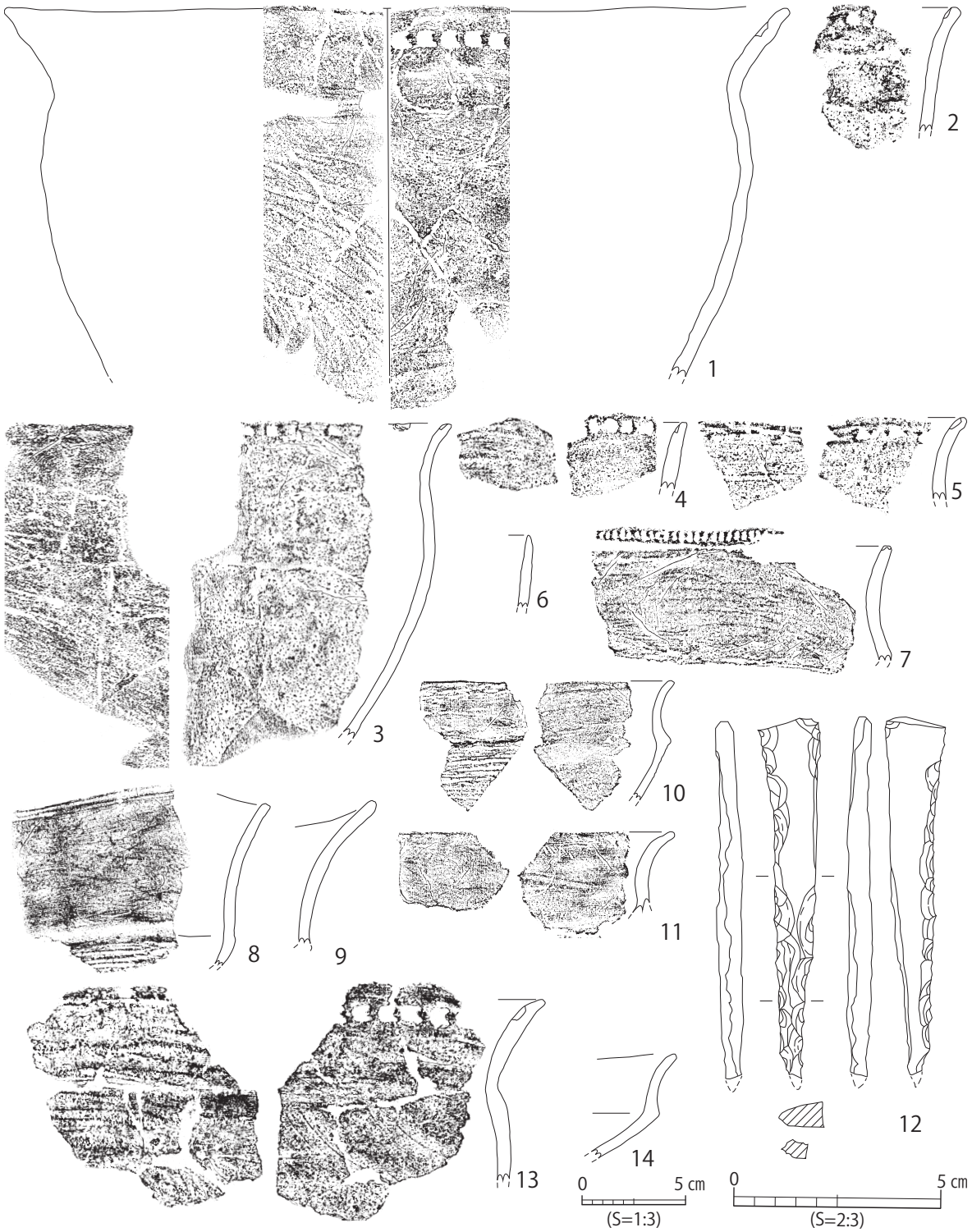
第 69 図　古屋敷遺跡 A 区第 7 層土器だまり 2 出土遺物実測図 2



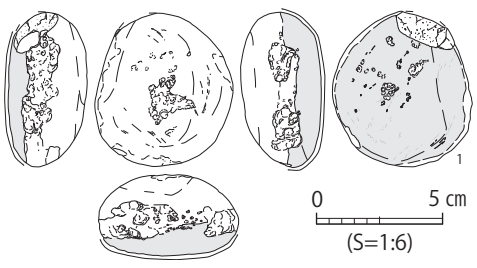
第 70 図　古屋敷遺跡 A 区第 7 層土器だまり 2 出土遺物実測図 3



第 71 図　古屋敷遺跡 A 区第 7 層土器だまり 2 出土遺物実測図 4



第 72 図　古屋敷遺跡 A 区第 7 層土器だまり 2 出土遺物実測図 5



第 73 図　古屋敷遺跡 A 区第 7 層土器だまり 2 出土遺物実測図 6

～ 12 は D2-4 層出土遺物である。第 72 図 13、14 及び第 72 図は D2-5 層出土遺物である。

第 68 図 1 ～ 4 は深鉢である。1 は口縁部に小さな突起が付いている。現状で 1 箇所浮文が付いている。また口縁部内面に連続刺突文が施されている。突起は刺突文が施された後、その上から粘土を貼り付けている。内外面には、二枚貝条痕が残っている。また土器の色調は灰白色を呈している。第 70 図 4 と同一個体の可能性が考えられる。2､3 は口縁端部に刺突（刻目）が施されている。内外面に二枚貝条痕がよく残っている。 4 は口縁端部が内面にかぎ状に折り曲げられている。5 は波状口縁の浅鉢である。6、7 は口縁端部に刺突（刻目）が施されている深鉢である。7 はＶ字状の刺突である。

第 69 図 1、2 は深鉢である。1 は頚部に押し引き状の連続刺突文が施されている。刺突文の約 1㎝上には、水平方向に沈線上の落ちこみが残っている。この落ち込み部分から下は斜め方向の条痕がはっきりと残っている。3 は浅鉢である。波状口縁と考えられ、波頂部下には、焼成後に穿孔が施されている。わずかに残存する底部外面には、二枚貝条痕が残っている。口縁部外面は最終的にはミガキ調整であるが、口縁端部付近に二枚貝腹縁部痕と考えられる浅い圧痕が確認される。4、5 は口縁端部に刺突（刻目）が施されている深鉢である。外面口縁部から胴部にかけては粗い縦方向のミガキ状の調整が施されている。器形、調整、胎土などから 7 と同一個体の可能性が高いと考えられる。6 は口縁端部が欠損しているが、口縁部外面に突帯が付き、刺突（刻目）が施されている。やや異形ではあるが、土器だまり 2 では唯一の突帯文土器の可能性がある。深鉢と考えられる。7 は､深鉢と考えられ､胴部外面に直径約 1.5㎝、高さ約 8㎜の鈕状の浮文が貼り付けられている。浮文の横にはへら状の工具で沈線が幾重にも付けられている。8 は無文の深鉢である。他の土器に比べ固く、焼き締まった感がある。胴部外面下半は斜め方向の巻貝条痕と考えられる。9 は浅鉢である。10 は石器・打製石斧である。先端部分が欠損したと考えられる。

第 70 図 1 ～ 6 は深鉢である。1 ～ 3 は口縁端部に刺突状の刻み目文が施されている。1・3 の外面は､二枚貝条痕が顕著に残っている。4 は外反する短い頸部をもち胴部が強く張る深鉢である。口縁内面上端には連続刺突文が施され、上面が凹む小突起が付されている。胴部には上面が凹む円形浮文が付され、それに取り付くように連続刺突文が付けられている。連続刺突文の意匠は、胴部が水平、肩部・頸部が下向きの矢印状の意匠である。外面には二枚貝条痕がよく残っている。

第 71 図 1 ～ 3 は､深鉢である。4 ～ 11 は浅鉢である。4 は「く」の字に屈曲する部分に刺突(刻目)が施されている。5 は外面に円形の浮文が付いている。6 は「く」の字に屈曲する部分に刺突(刻目)が施されている。12 ～ 17 は深鉢である。口縁端部に刺突（刻目）が施されている。12 の外面は、二枚貝条痕が残っている。また胴部外面は橙色を呈していいる。13 は頚部と胴部の境界付近の水平方向に連続刺突文が施されている｡刺突文下の胴部外面には二枚貝条痕がはっきりと残っている。14 は､外面に二枚貝条痕が残る。16､17 の口縁端部にはＶ字状の細い刺突(刻目)が施されている。

第 72 図 1 ～ 6 は深鉢である。1 ～ 5 は、口縁部内面に連続刺突文が施されており、2 ～ 5 は口縁端部とほぼ接している。7 ～ 11 は浅鉢である。7 は口縁端部に密に刺突(刻目)が施されている。外面には黒色物質の付着が観察できる。12 は石器・石錐である。13 は、口縁部内面に連続刺突文が施されている。14 は浅鉢である。

第 73 図 1 は、石器・擦石／敲石である。

第 7 節　8・10・11 層の調査

1.8 層出土遺物（第 74・75 図）

第 74 図 1、2 は深鉢である。口縁端部に刺突（刻目）が施されている。1 は、口縁部内面の端部から 0.5㎝下に、口縁部外面の端部から 1.5㎝下にそれぞれ連続刺突文が施されている。3 は浅鉢である。

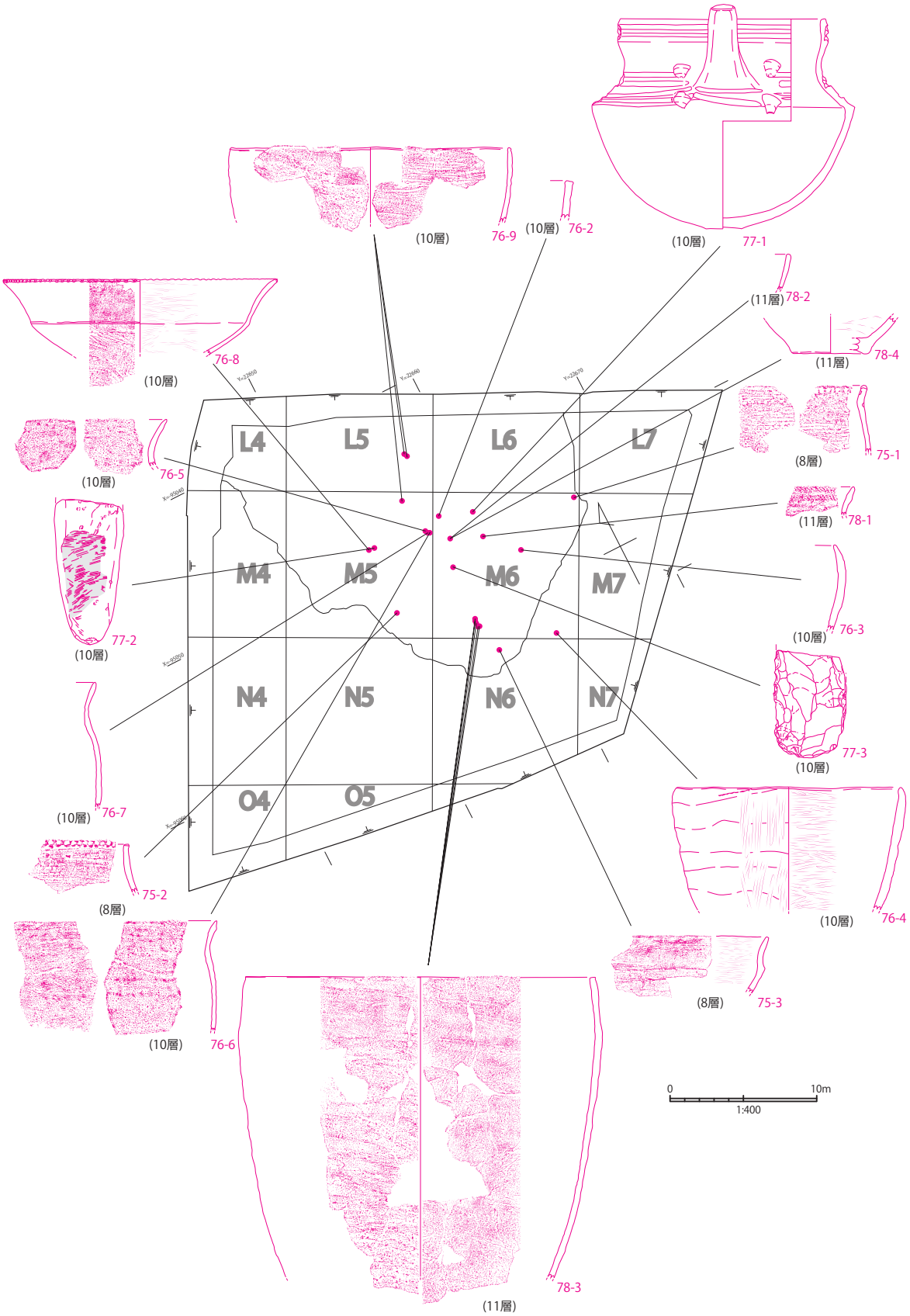
2. 第 10 層出土遺物（第 74・76・77 図）

第 76 図 1 ～ 7 は深鉢である。1 は外面の頚部を除く部分に擬似羽状縄文が施されている。後期中葉崎ヶ鼻 2 式もしくは沖丈式である。全体的に風化している。4 の外面は縦方向のミガキがわずかに確認できる。5 ～ 7 は頚部が緩く「 S 」字状に屈曲する。8 は浅鉢である。8 は口縁端部に刺突（刻目）が施されている。

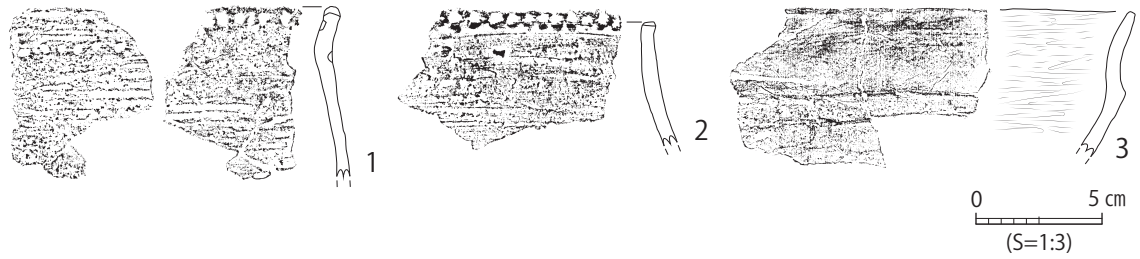
第 77 図 1 は注口土器である。三分の二程度復元された。口縁部は「く」の字形に屈し、胴部最大径で明瞭な稜が付く。文様は 4 口縁部、頸部、胴部の 3 箇所に 2 条ずつ凹線文が付けられている。口縁部と頸部には対をなして推定 8 箇所施されている。これとは別に注口の首位をめぐるように 5 箇所配されている。2 は擦石 / 敲石、3 は打製石斧である。2 は側面に磨面が、また全体的に敲打痕が多く確認できる。

3. 第 11 層出土遺物（第 74・78 図）

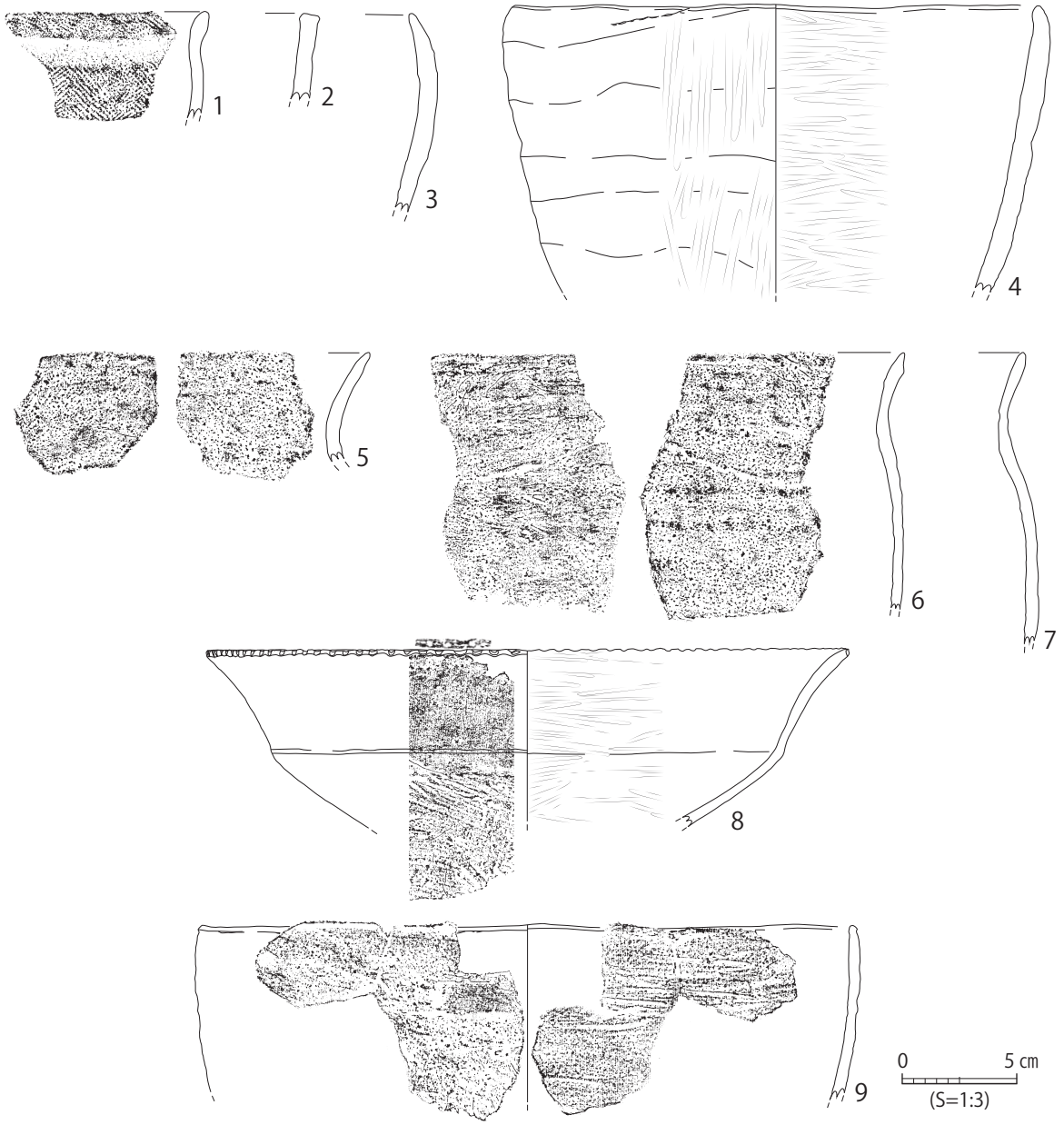
第 78 図 1 は口縁部外面に縄文が施されている。後期中葉と思われる。3 は口縁から胴部にかけての粗製深鉢である。4 は深鉢の底部である。5 は外面に凹点文とそれにとりつく沈線文が施されている。



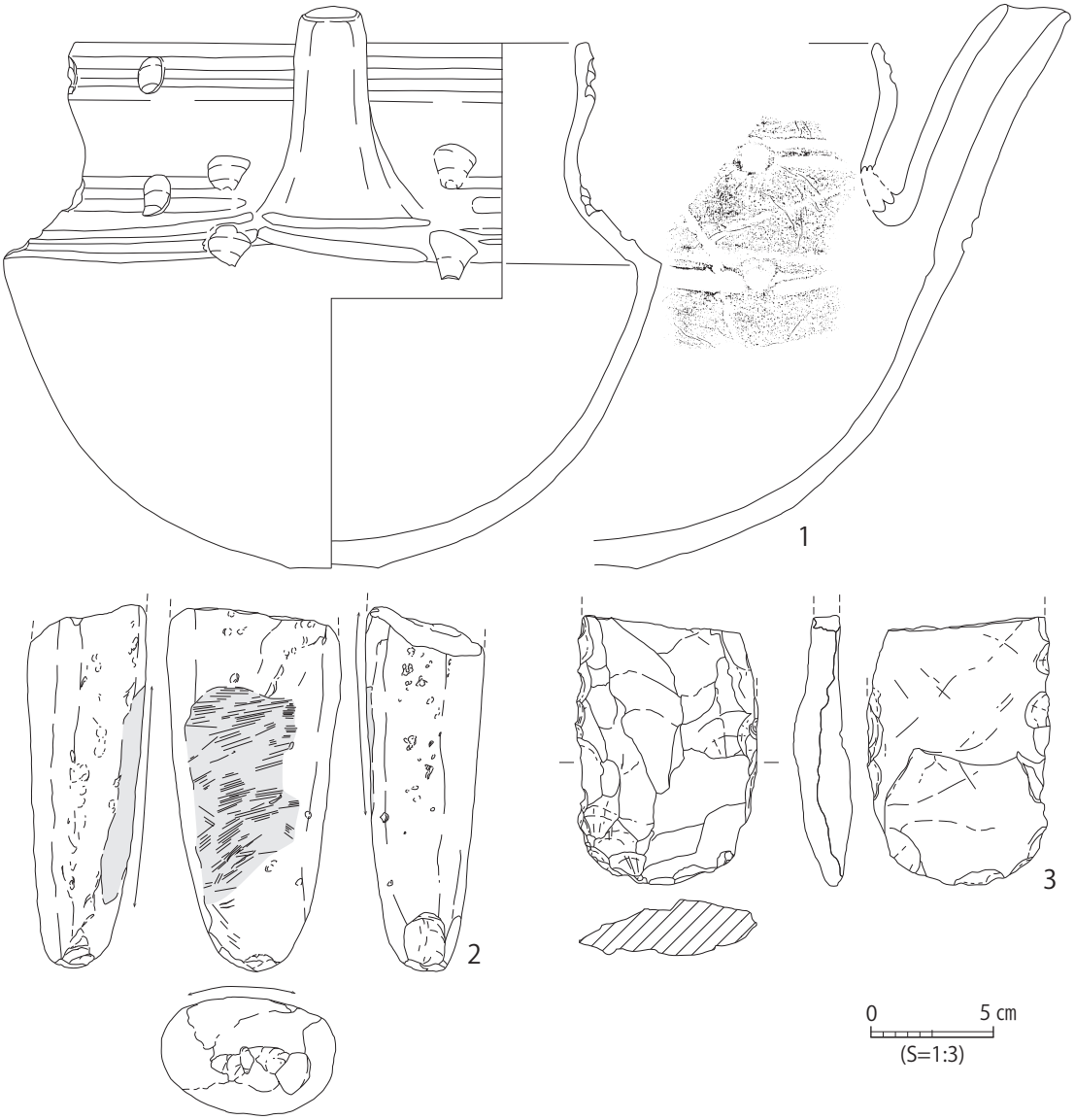
第 74 図　古屋敷遺跡 A 区第 8 ～ 11 層遺物出土状況図



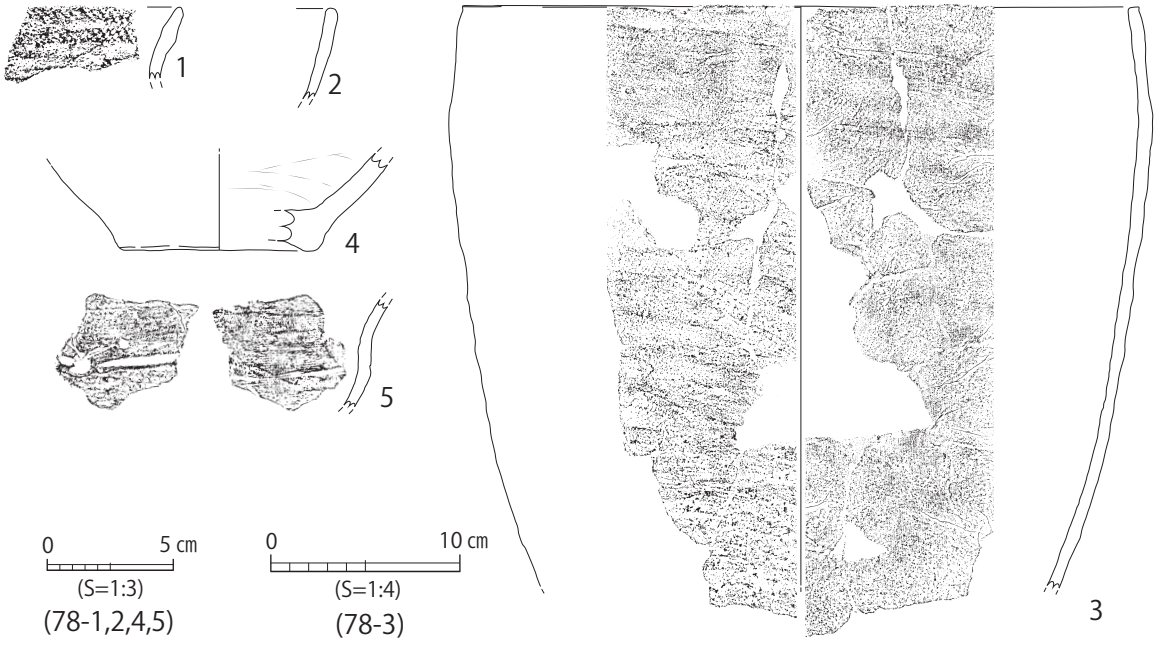
第 75 図　古屋敷遺跡 A 区第 8 層出土遺物実測図



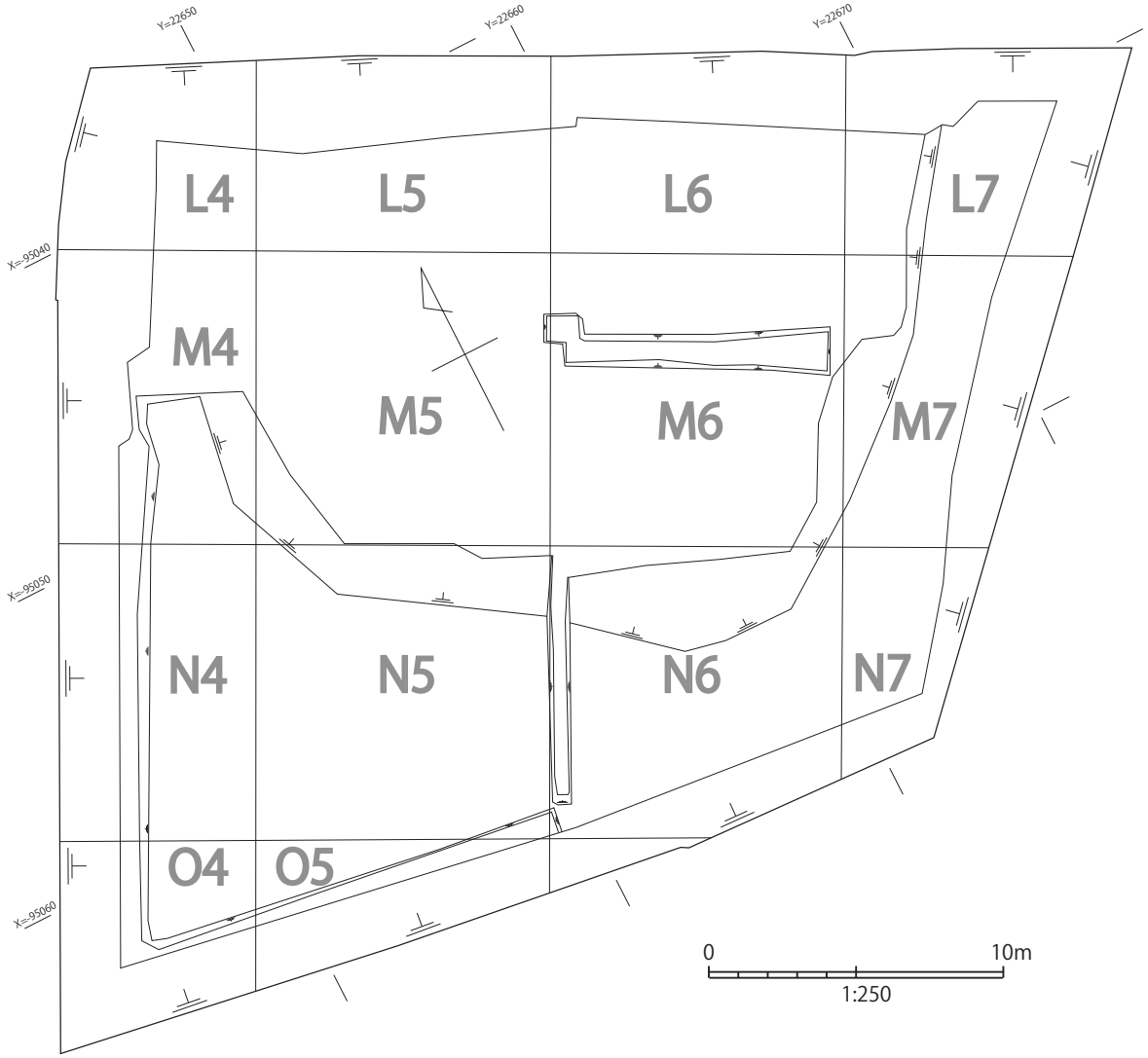
第 76 図　古屋敷遺跡 A 区第 10 層出土遺物実測図 1



第 77 図　古屋敷遺跡 A 区第 10 層出土遺物実測図 2



第 78 図　古屋敷遺跡 A 区第 11 層出土遺物実測図



第 79 図　古屋敷遺跡 A 区調査終了後平面図

第 4 章　古屋敷遺跡 E 区の調査

第 1 節　調査の概要

E 区は標高 8.7m の水田部に位置し、遺跡全体では北にあり水路遺構、河道跡が検出された。

第 80 図は、E 区で検出された遺構の配置図である。複数の層位で確認されたものを 1 つの図で示した。一番東に位置する水路遺構は河道跡を切る形で検出された。調査区西側で検出された浅い落ち込み部分は、第 12 層上面で検出されている。河道跡は、第 12 層を切る形で検出されている。調査区中央部や北東壁土層図で検出された木質が、灰色粘土化したと考えられる痕跡は、第 12 ～ 15 層で検出されている。杭などの人為的なものかどうかは不明である。

第 81 図は調査区北東壁土層図である。第 1 層は圃場整備後の畦畔盛土や現代の造成土である。第 2-3 層は道路の側溝に関係する土である。第 5 層は水路遺構部分を埋めた土と考えられる。第 6 層は、浅い落ち込みの埋土もしくは中世の路面の可能性が考えられる。第 7 層は黄色の細砂層で、石材側溝時の溝の埋土もしくは洪水時に堆積した砂の可能性がある。第 10 層は河道埋没後の自然堆積の可能性が考えられる。第 8-11 層は河道の埋土である。第 8-①層は河道部分の自然堆積と考えられる。第 8-②層は河道に併設していた道の法面盛土もしくは流土の可能性が考えられる。第 9 層は中世の道の溝などの痕跡の可能性がある。第 12 層は自然堆積の黄色砂である。時期は不明であるが、表面観察のみでは、A 区第 2 層と似ている。第 13 層は、黄白色土層であり、表面観察では、A 区第 3 層と似ている。第 14 層は、第 15 層を削り込んで堆積しており自然河道の痕跡と考えられる。河道の時期は不明である。第 16 層は中世の道部分の法面にあたり、杭や盛土の痕跡の可能性が考えられる。17 は水路遺構の石材の抜き取り痕と考えられる。

第 2 節　第 8 層の調査

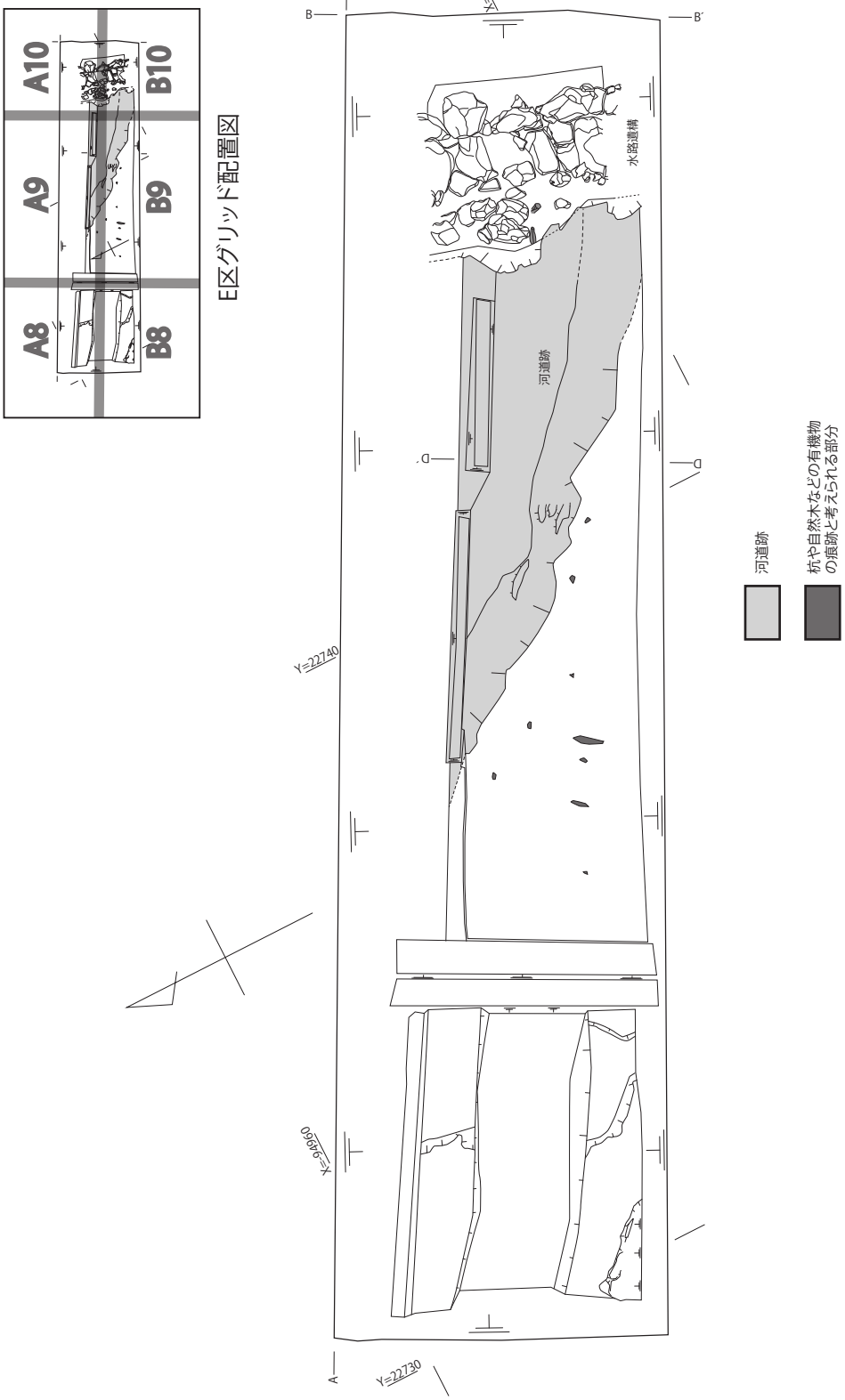
1. 水路遺構（第 80、81、84 図）

調査区の南東端付近に位置し、南北方向に作られた石組の水路遺構である。水路の内法で幅約 1m を測り、長さ約 3m、深さ 40㎝の範囲を検出した。東側の側壁石列に比べ、西側の側壁石列は不ぞろいで、南側には石列がないことから、西側石列は原位置ではない可能性がある。水路の長軸の方位は N-19°‐ E である。この遺構は河道跡を 2.1 mの幅で掘り込んだ後に、石を組んで水路としている。基底部には 30㎝～ 1 m大の平坦な石が敷かれていた。側壁は平坦面が内側に向くように並べられ、石の大きさは東側が長さ 60 ～ 80㎝、西側が 30 ～ 40㎝と、東側に大型の石がみられた。側壁は、基本的には基底部の石の上に置かれていたようである。掘り形上面と側壁上面との比高差が 20㎝あるが、検出された側壁石列の上にさらに石が積まれていたかどうかは判断できない。なお、西側側壁石列の南端には杭が 2 本立っていたが、この遺構に伴うものかどうかは不明である。埋没した時期は近世以降と考えられる。

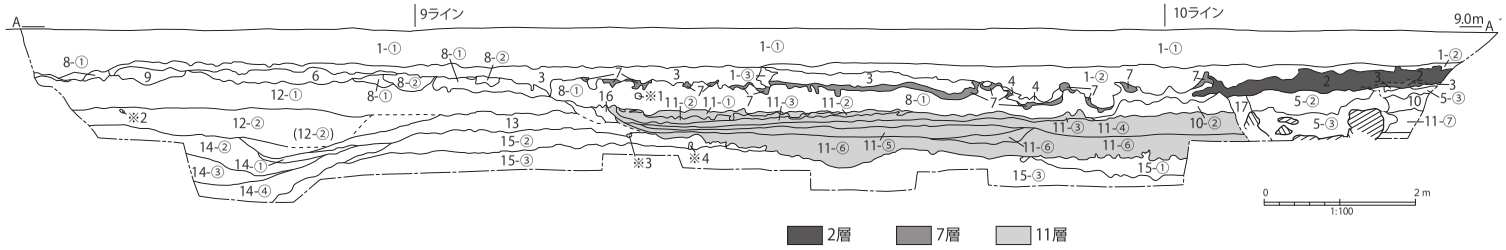
遺物は、埋土から青花・皿の破片（86-8）、釉薬のかかっていない黒瓦片が出土している。

2. 河道跡（第 80 ～ 83 図）

調査区中央部から東端にかけての標高 8.0m 付近、長さ約 8 m、深さ 70㎝の範囲でで検出された。河道の南肩だけ検出された。調査区東端を起点とみた場合おおよそ N-42° -W の方向に流れており

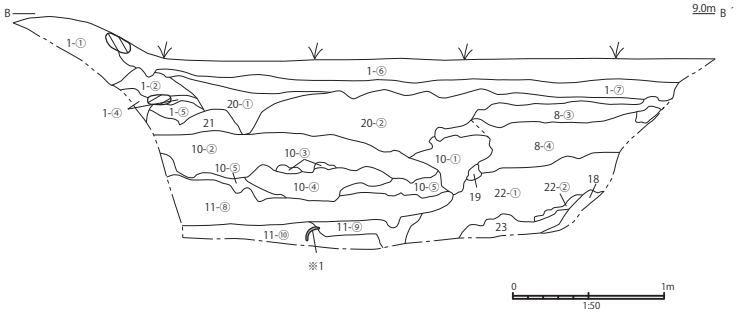


第 80 図　古屋敷遺跡 E 区遺構配置図



1-①. 暗茶褐色土　現代の畦畔盛土
1-②. 暗茶褐色土
2. 暗赤茶色粘土　淡青灰色の石材を含む。(濃い網掛部分。)
3. 暗青灰色砂質土　下層境は橙色に変色している。部分的に4、5層を含む。
4. 暗灰色砂質土
5. 灰色砂質土　黄砂を含む。
5-②. 灰色土　黄色細砂と灰褐色土を含む。
5-③. 暗青灰色土　暗青灰色粘質土(10層)で埋められた層ヵ。有機物を含む。
6. 暗黄灰色砂質土　浅い落ち込みの埋土。
7. 黄色砂層　きめ細かい砂層。(薄い網掛部分。)
8-①. 灰色砂質土
8-②. 暗灰色砂質土
9. 黄色砂層
10. 暗青灰色粘質土
10-②. 暗緑灰色土　11-⑥層と緑灰色土(地山ヵ)が混じっているような層。
11-①. 黄色砂層　(細砂)
11-②. 灰色粘質土　(粘土～シルト)やわらかい。
11-③. 暗緑灰色砂層　(細砂)ラミナ状に有機物を含む。
11-④. 暗緑灰色砂層　(細砂)有機物層を多く含む。
11-⑤. 黄色砂層　(細砂)
11-⑥. 暗灰色粘質土　(粘土)有機物を含む。直径1～3㎝くらいの砂粒をところどころに含む。
12-①. 黄色砂層　(細砂)しまっている。
12-②. 黄色砂層　(細砂)
13. 黄白色土　粘質土に細砂を含む。(細砂部分は根などの影響ヵ)
14-①. 黒褐色土　有機物を多く含む。
14-②. 緑灰色砂層
14-③. 緑灰色砂層
14-④. 黒褐色土　有機物を多く含む。
15-①. 暗青灰色粘質土　有機物を多く含む。
15-②. 灰色粘質土　しまっている。
15-③. 緑灰色砂層　(シルト～砂)
16. 灰褐色砂質土　杭の痕もしくは盛土ヵ。砂粒を多く含む。
17. 暗緑灰色土　暗青灰色粘質土(10層)に緑灰色土を含む。
※1～4. 灰色粘質土　木質など有機物の痕跡ヵ

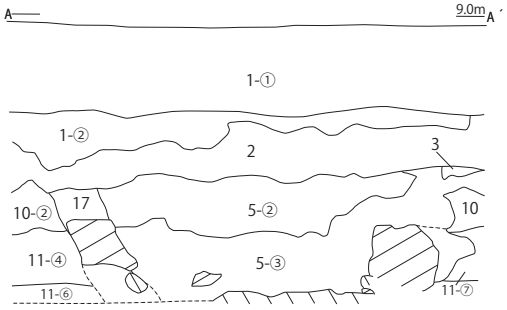
第81図　古屋敷遺跡E区北東壁土層図



1-①. 暗茶褐色土　現代の畦畔盛土。
1-②. 暗茶褐色土
1-④. 暗灰色土　造成土。
1-⑤. 暗灰色土　造成土。
1-⑥. 暗茶褐色土　耕作土。
1-⑦. 茶褐色土　造成土。直径5㎝未満の赤灰色レキを含む。
8-③. 黄褐色砂質土
8-④. 暗緑灰色砂質土　有機物を多く含む。
10-①. 暗青灰色砂質土　かく乱部分ヵ。
10-②. 暗青灰色粘質土
10-③. 暗緑灰色土
10-④. 暗青灰色砂質土
10-⑤. 暗灰色土
11-⑧. 暗緑灰色砂質土　有機物（層）を多く含む。
11-⑨. 暗灰色粘質土　直径1～3㎜の砂粒を含む。
11-⑩. 暗灰色粘質土　砂粒をあまり含まない。
18. 青灰色粘質土
19. 黄褐色砂質土　（細砂～シルト）
20-②. （現代のかく乱層）　コンクリート片を含む。
21. 淡黄色砂層　（細砂）
22-①. 暗灰色粘質土　直径1～5㎜位の砂粒を多く含む。
22-②. 暗灰色粘質土　緑灰色土ブロックを含む。
23. 暗灰色粘質土　砂粒をあまり含まない。緑灰色土ブロックを含む。第11-⑩層と同一層の可能性もある。

※1.（土師器：85-5）

第 82 図　古屋敷遺跡 E 区南東壁土層図



1-①. 暗茶褐色土　現代の畦畔盛土
1-②. 暗茶褐色土
2. 暗赤茶色粘土　淡青灰色の石材を含む。
3. 暗青灰色砂質土　下層境は橙色に変色している。部分的に4、5層を含む。
5-②. 灰色土　黄色細砂と灰褐色土を含む。
5-③. 暗青灰色土　暗青灰色粘質土(10層)で埋められた層ヵ。有機物を含む。
10. 暗青灰色粘質土
10-②. 暗緑灰色土　11-⑥層と緑灰色土（地山ヵ）が混じっているような層。
11-④. 暗緑灰色砂層　（細砂）有機物層を多く含む。
11-⑥. 暗灰色粘質土　（粘土）有機物を含む。直径1～3㎝くらいの砂粒をところどころに含む。
17. 暗緑灰色土　暗青灰色粘質土（10層）に緑灰色土を含む。

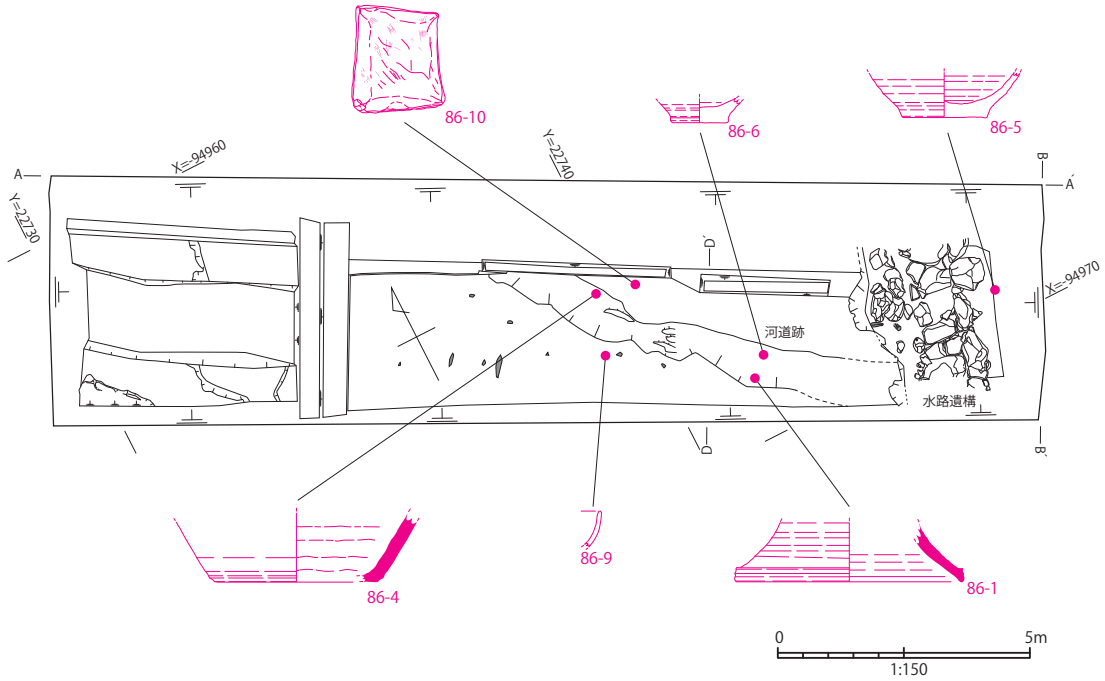
第 83 図　古屋敷遺跡 E 区石組遺構実測図

北側に緩く曲がってる。河道の中央付近の法面には、ステップ状になっている部分が確認された。ステップは最大のものでも、幅 50㎝、長さ 10㎝である。第 83 図は、横断面の土層図（DD′ライン）である。第 1 層は、第 2 層部分からの流土と考えられる。第 2 層は圃場整備以前の畦道部分にあたる可能性があり、畦道の造成土と考えられる。第 3 ～ 5 層はこの河道の埋土である。第 4 層が砂層、第 5 層が粘質土と、上下の層で土質が大きく変わっている。第 5 層は堆積の速度が遅いと考えられるのに対して、第 4 層は急激に堆積したと思われた。第 5 層の底に直径 10㎝強の円形の窪みが確認された。第 7 ～ 10 層は水平に堆積しており、地山と考えられる。河道傾斜面や底面から長さ 30㎝大の石材が出土した。人為的に配置された可能性も考えられる。

出土遺物は、第 5 層から須恵器・壷（86-4）、土師器・皿（86-6）、東南壁土層図の第 11 −⑩層から土師器・坏（86-5）、砥石 2 個（86-10、86-11）が出土している。土師器・皿（86-6）が下限の遺物とすると、中世前半の河道と考えられる。

1.　暗緑灰色土　比較的しまてついる。直径1〜5㎜の 砂粒を含む。(2層と同一層もしくは、2層の流土ヵ。)
2.　灰褐色砂質土　しまっている。直径2〜3㎜の砂粒を多く含む。
3.　灰色土　(細砂〜シルト)
4-①. 黄色砂層　(細砂) きめ細かい。黄色砂層が主体の層。
4-②. 淡緑色砂層　(細砂〜シルト) 有機物層がラミナ状に堆積している。
5-①. 暗灰色土　暗灰色粘質土に1〜10㎜の砂粒、レキを多く含む。地山ブロックを含む。(造成土ヵ)
5-②. 暗灰色土　暗灰色粘質土に1〜5㎜の砂粒、レキを多く含む。
5-③. 暗灰色土
5-④. 暗灰色土　ステップもしくは地山崩落部分ヵ。
5-⑤. 暗灰色土　直径1〜5㎜の砂粒、レキを含む。
5-⑥. 暗灰色土　肩付近は直径1〜5㎜の砂粒を含む。有機物を多く含む。直径5㎜前後の地山レキを含む。
6.　灰褐色砂質土　杭痕ヵ。
7.　黄白色土　(細砂〜シルト) 上層付近は直径1〜5㎜の砂粒を含む。
8.　黄白色土　(細砂〜シルト) 砂粒を含まない。
9.　灰白色土　しまている。
10.　緑灰色土　(シルト〜砂)

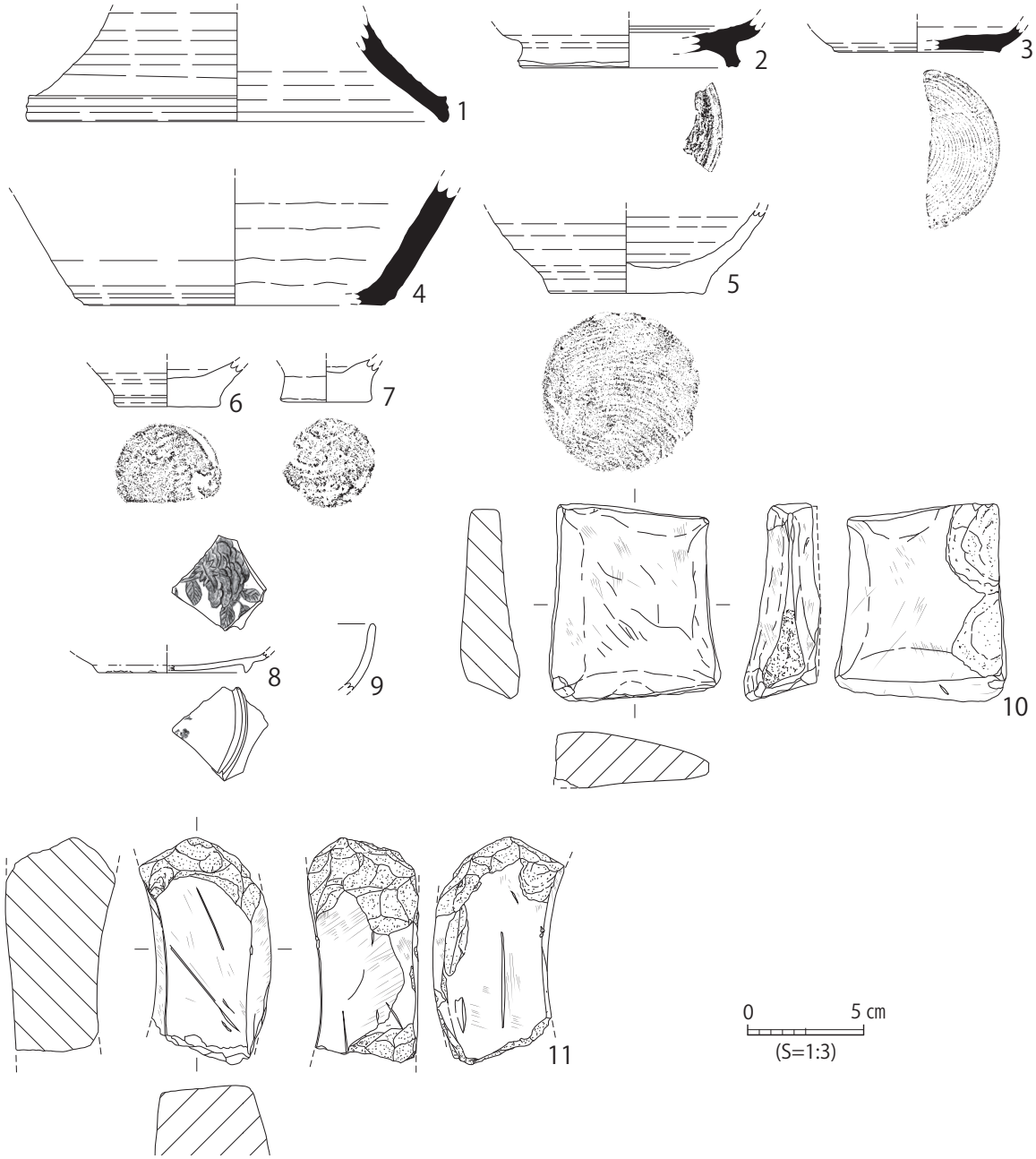
第 84 図　古屋敷遺跡 E 区河道跡実測図



第 85 図　古屋敷遺跡 E 区遺物出土状況図

3.E 区出土遺物（第 85、86 図）

1 ～ 4 は須恵器である。高坏の脚部と考えられる。第 8 層から出土している。2 は長頸瓶の底部と考えられる。破片であるが、底部は糸切りである。3 は須恵器・坏の底部である。回転糸切りである。第 8 層から出土している。4 は壷の底部と考えられる。外面には回転ヘラケズリ調整されている。河道出土である。時期の詳細はわからないが、1 は古墳時代の須恵器が考えられる。2 ～ 4 は奈良時代から平安時代前半にかけてと推測される。5 ～ 7 は土師器である。5 は坏の底部である。底部は回転糸切りである。河道跡出土である。6 は回転糸切りの皿の底部と考えられる。7 は回転糸切りの柱状高台皿の底部と考えられる。第 8 層出土である。時期の詳細は不明であるが、5 は平安時代後半から中世前半、6、7 は中世前半と考えられる。8 は青花・皿の底部である。見込みに牡丹の可能性がある絵付けがあり、底部外面に「宣徳年製」と考えられる銘が施されている。また高台畳付けには、砂土目が残る。時期は 16 世紀代と考えられる。9 は石見焼・鉢の口縁部と考えられる。8 層が上層から撹乱を受けた部分から出土している。幕末から明治時代の時期の可能性が考えられる。10、11 は石製品・砥石である。河道跡から出土している。



第 86 図　古屋敷遺跡 E 区出土遺物実測図

第５章　自然科学分析

古屋敷遺跡Ａ区発掘調査に伴う自然科学分析

渡辺正巳（文化財調査コンサルタント株式会社）

はじめに

本報は、文化財調査コンサルタント株式会社が、古屋敷遺跡Ａ区での縄文時代晩期堆積層での耕作の可能性の検討を目的として、島根県教育庁埋蔵文化財調査センターから委託を受け実施した、土壌の軟Ｘ線写真観察、花粉分析及び植物珪酸体分析報告書の概報である。

古屋敷遺跡は、島根県中央部、大田市仁摩町に立地する遺跡である。

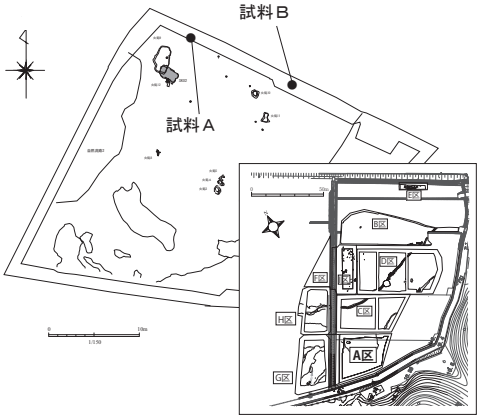
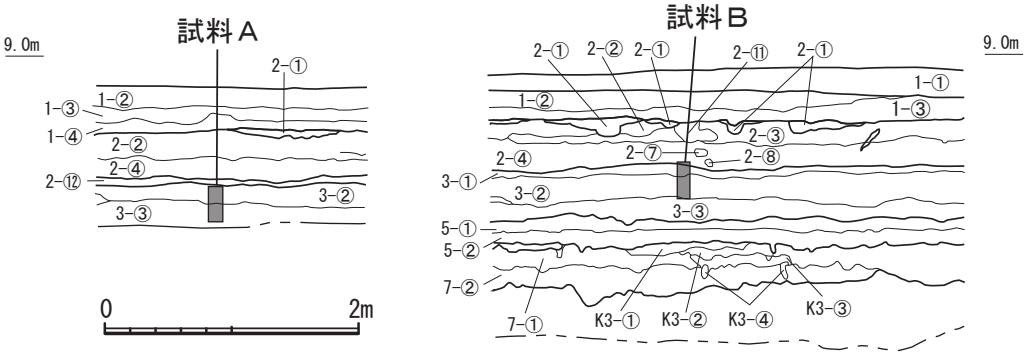


図１調査区配置と試料採取地点

試料について

古屋敷遺跡発掘調査での調査区の配置、及びＡ区内での試料採取地点を、図１に示す。さらに、各地点の断面図（図２）中に、分析試料（軟Ｘ線写真観察用試料）の採取層準（位置）を示す。また、各種分析試料は軟Ｘ線写真観察試料から分取した。分取位置は、各ダイアグラム中にグレーのハッチで示している。



1-①：黄茶色土(造成土)　1-②：茶色土(耕作土)　1-③：灰褐色土(造成土)　1-④：暗黄褐色土(造成土)
2-①：灰褐色砂質土(造成時にできた窪みや遺構の痕跡など)
2-②：緑灰色土((粘土～シルト)緑灰色シルトと細砂が交混じっている様)
（直径1～10㎜の灰白色粒子を含む、部分的に細砂の堆積層が確認されている。）
2-③：緑灰色土　2-④：緑灰色粘質土(1㎝未満の炭化物片を含む、下面は撹乱を受けている部分がみられる。)
2-⑦：淡灰褐色砂質土(杭痕か)　2-⑧：淡灰褐色砂質土(杭痕か)　2-⑪：淡灰褐色砂質土
2-⑫：黄灰色砂層(きめ細かい細砂層、上面は撹乱を受けている部分がある。1㎝未満の炭化物片含む。)
3-①：暗灰色粘質土((シルト～砂)暗灰色土 1㎝未満の炭化物片を含む。)
3-②：暗灰色砂質土((シルト～砂)直径1㎝未満の炭化物片を少し含む。)
3-③：灰色粘質土((粘土～シルト) しまっている。)　5-①：淡青灰色砂質土(シルト)　5-②：暗青灰色砂質土((シルト～砂)炭化物片を含む。)
7-①：灰褐色砂質土　7-②：暗青灰色砂質土(暗青灰色砂質土と暗青灰色粘質土を含む。暗青灰色粘質土部分は炭化物を多く含む。)
K3-①：灰褐色粘質土(炭化物を含む。)　K3-②：青灰色粘質土(炭化物をあまり含まない。)　K3-③：茶褐色粘質土　K3-④：灰色粘質土

図２試料採取位置（Ａ区北壁断面図：部分）

分析方法

(1) 軟Ｘ線観察方法

ブロック試料から、25cm × 10cm × 1cm の透明アクリルケースを用いて観察資料を分取し、調整を行った。 軟Ｘ線撮影は、増感紙を挟んだ印画紙に 40 ～ 45kVp・30mA の電流で 50 秒～ 1 分 20 秒の間、軟Ｘ線を照射した（観察した軟Ｘ線写真は、ネガ画像である。）。記載は、「土壌記載薄片ハンドブック（久馬・八木：訳監修, 1989）」に準じて実施した。

(2) 微化石概査方法

花粉分析用プレパラート及び花粉分析処理残渣を用いて花粉（胞子）、植物片、炭片、珪藻、火山ガラス、植物珪酸体の含有状況を概観し、4 段階で示した。

表 1 同定分類群
（同定分類群と推定母植物の関係）

同定レベル	コード	分類群	対応する栽培植物
1	1	イネ	イネ
3	3	イネ籾殻（穎の表皮細胞）	イネ
	21	ムギ類（穎の表皮細胞）	コムギ・オオムギ
	41	オヒシバ属（シコクビエ型）	シコクビエ
栽培植物との対応が明らかな分類群	61	キビ族型	ヒエ・アワ・キビ
	62	キビ属型	キビ
	64	ヒエ属型	ヒエ
	66	エノコログサ属型	アワ
	84	ウシクサ族Ｂ	サトウキビ
	91	モロコシ属型	モロコシ
	93	ジュズダマ属型	ハトムギ
4	11	サヤヌカグサ属	サヤヌカグサ・アシカキ
	13	マコモ属	マコモ
	31	ヨシ属	ヨシ
	33	ダンチク属	ダンチク
	35	ヌマガヤ属型	ヌマガヤ
	51	シバ属型	シバ属
	71	トダシバ属	トダシバ属
	81	ススキ属型	ススキ属
	83	ウシクサ族Ａ	チガヤ属など
	201	メダケ節型	メダケ節
	203	ネザサ節型	ネザサ節
母植物との対応が明らかな分類群	205	チマキザサ節型	チマキザサ節・チシマザサ節
	207	ミヤコザサ節型	ミヤコザサ節
	209	マダケ属型	マダケ属
	350	カヤツリグサ科（スゲ属など）	スゲ属
	390	シダ類	シダ類
	501	ブナ科（シイ属）	シイ類
	503	ブナ科（アカガシ亜属）	カシ類
	510	クスノキ科	バリバリノキなど（クスノキ以外）
	520	マンサク科（イスノキ属）	イスノキ属
	530	アワブキ科	アワブキ科
	540	モクレン属型	モクレン属
	570	マツ科型	マツ科
	580	マツ属型	マツ属

(3) 花粉分析方法

渡辺（2010）に従って実施した。花粉化石の観察・同定は、光学顕微鏡により通常 400 倍で、必要に応じ 600 倍あるいは 1000 倍を用いて実施した。原則的に木本花粉総数が 200 粒以上になるまで同定を行い、同時に検出される草本・胞子化石の同定も行った。また中村（1974）に従ってイネ科花粉を、イネを含む可能性が高い大型のイネ科（40 ﾐｸﾛﾝ以上）と、イネを含む可能性が低い小型のイネ科（40 ﾐｸﾛﾝ未満）に細分している。

(4) 植物珪酸体分析方法

藤原（1976）のグラスビーズ法に従い行った。プレパラートの観察・同定は、光学顕微鏡により通常 400 倍で、必要に応じ 600 倍あるいは 1000 倍を用いて実施した。同定に際して、表 1 に示す母植物との対応が明らかな、イネ亜科の機動細胞を中心とした分類群を対象とした。また、植物珪酸体と同時に計数したグラスビーズの個数が 300 を超えるまで計数を行った。

分析結果

(1) 軟Ｘ線観察結果

図 3、4 に試料ごとの実視写真、軟Ｘ線写真、解析結果を示す。

① 試料Ａ

試料採取にあたり、トレンチ壁面を掘り込んで試料を採取した。このため、断面図（図 2）から読み取れる層準と、ズレが生じていいる。

1) 2-④層

粗粒砂混じりシルト質粘土からなり、中粒砂がブロック状に混じる。実視では黄褐色を呈する酸化鉄の検出が斑状に多く認められる。軟Ｘ線写真では、根跡と考えられる直線的なチャンネルが顕著である。その太さは 1mm 以下のものが多いが、数 mm のものも目立つ。また、チャンネルの太さに関係なく、周囲を酸化鉄で覆われる（準被覆）ペドフィーチャーが顕著に認められる。全体にペッドの発達は弱い。

1) 2-⑫層

シルト質極細砂からなる。実視では黄褐色を呈する酸化鉄の検出が斑状に認められるが、右隅にはやや大きな塊となっている。また、数 mm 以下の炭片が点在する。軟Ｘ線写真では、根跡と考えられる直線的

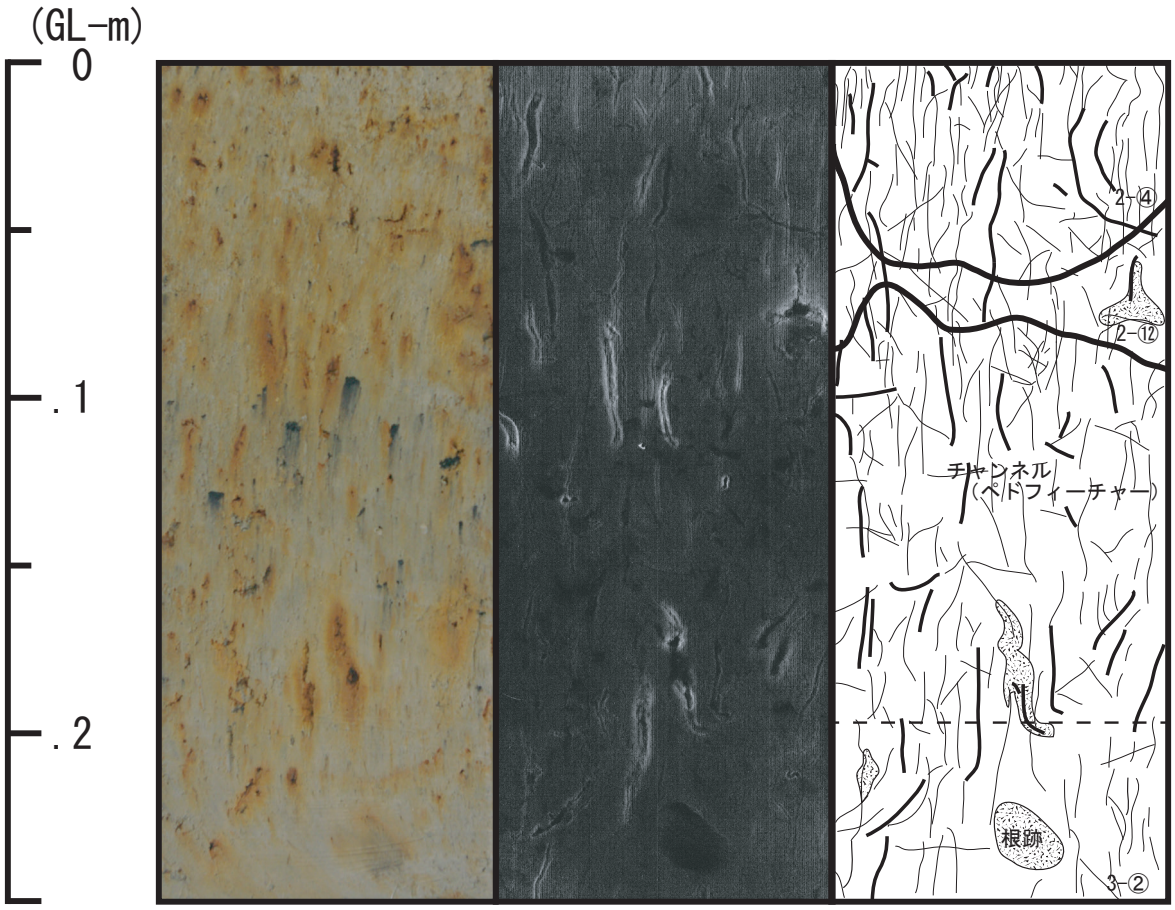


図 3 軟Ｘ線写真観察結果（試料Ａ）
（左：実視　中：軟Ｘ線　右：解析結果）

なチャンネルが顕著で、多くは上位の 2-④層から 2-⑫層を貫いて下位の 3-②層に達している。その太さは 1mm 以下のものが多いが、数 mm のものも目立つ。さらに、チャンネルの太さに関係なく、周囲を酸化鉄で覆われる（準被覆）ペドフィーチャーが顕著に認められる。また、実視で右隅に認められた塊状の酸化鉄は、根跡と考えられる暗色部の周囲を準被膜するペドフィーチャーであることが分かる。全体にペッドの発達は弱い。

2）3-②層

中～粗粒砂混じり粘土からなる。炭片の含有状況や酸化鉄の検出量及びチャンネルの分布量から、上部と下部に２分される。以下では、上部と下部に分けて記載を行う。

上部：実視では黄褐色を呈する酸化鉄が短い帯状に検出し、2-⑫層との境界部に多く検出される。また数 mm ～ 1mm 以下の炭片が点在し、その含有量は上部ほど多く、下部に向かって漸移的に減少する。軟Ｘ線写真では、根跡と考えられる直線的なチャンネルが顕著である。その太さは 1mm 以下のものが多いが、数 mm のものも目立つ。また、チャンネルの太さに関係なく、周囲を酸化鉄で覆われる（準被覆）ペドフィーチャーが顕著に認められる。全体にペッドの発達は弱い。

下部：実視では黄褐色を呈する酸化鉄の検出が僅かに認められる。また、炭片はほとんど確認できない。さらに、下部中央に長径 3cm ほどでオリーブ色を呈する部分が認められ、根跡と考えられ。軟Ｘ線写真では、根跡と考えられる直線的なチャンネル及びその周囲を酸化鉄で覆われる（準被覆）ペドフィーチャーが認められるが、上部に比べ少ない。全体にペッドの発達は弱い。また、下部中央に長径 3cm ほどの暗色を呈する根跡が確認できる。

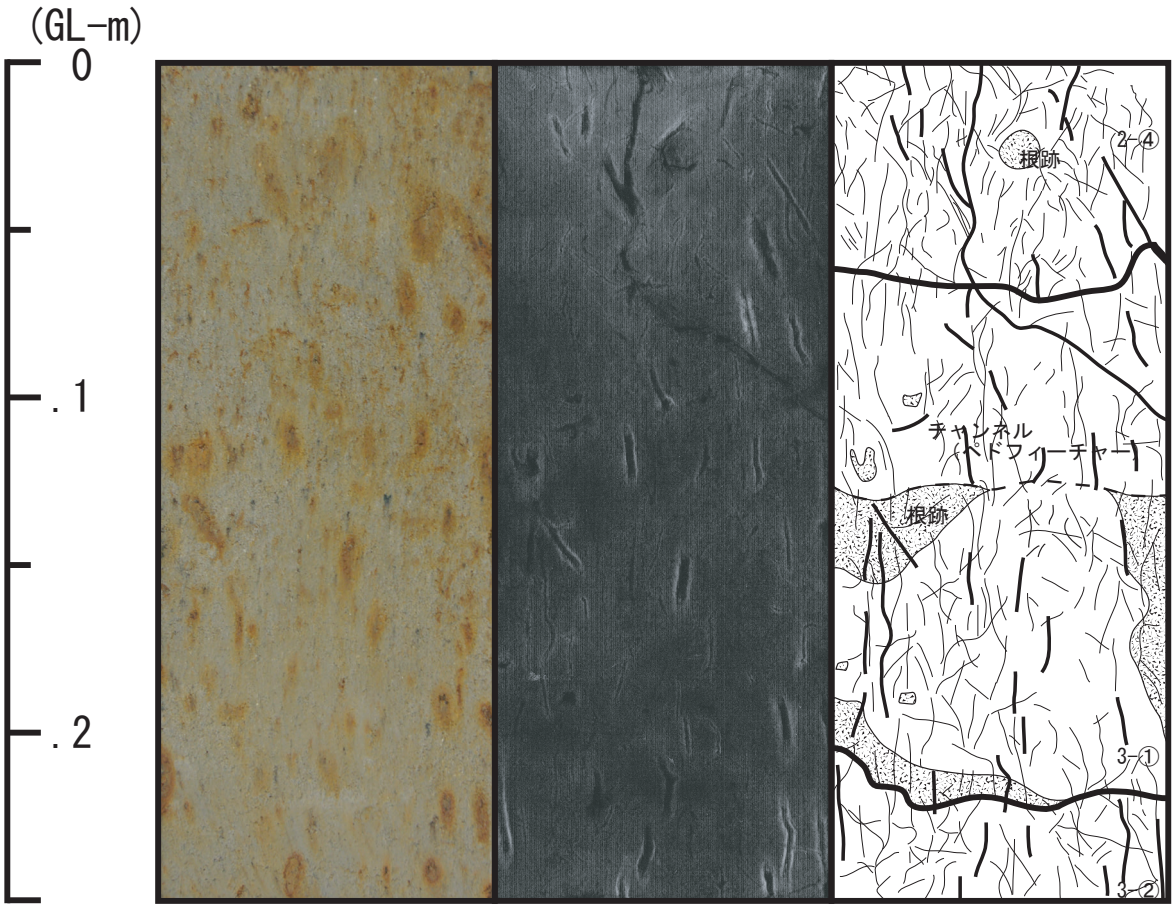


図４軟Ｘ線写真観察結果（試料Ｂ）
（左：実視　中：軟Ｘ線　右：解析結果）

① 試料Ｂ

1）2-④層

粗粒砂混じり細～中粒砂質シルトからなる。実視では黄褐色を呈する酸化鉄の検出が認められる。酸化鉄は所によって帯状に検出される。軟Ｘ線写真では、根跡と考えられる直線的なチャンネルが顕著である。その太さは 1mm 以下のものが多いが、数 mm のものも目立つ。また、チャンネルの太さに関係なく、周囲を酸化鉄で覆われる（準被覆）ペドフィーチャーが顕著に認められる。全体にペッドの発達は弱い。

1）3-①層

層相から、粗粒の上部と細粒の下部に２分される。以下では、上部と下部に分けて記載を行う。

上部：シルト質細～中粒砂からなる。実視では黄褐色を呈する酸化鉄の検出が認められる。特に、下部との境界付近ではより明瞭である。また、数 mm 以下の炭片が点在する。軟Ｘ線写真では、根跡と考えられる直線的なチャンネルが顕著である。その太さは 1mm 以下のものが多いが、数 mm のものも目立つ。また、チャンネルの太さに関係なく、周囲を酸化鉄で覆われる（準被覆）ペドフィーチャーが顕著に認められる。全体にペッドの発達は弱い。

下部：中～粗粒砂混じり細粒砂質シルトからなるが、試料内で下部の周囲を囲むようにシルト混じり細粒砂が分布し、根跡の可能性が指摘できる。実視では黄褐色を呈する酸化鉄の検出が僅かに認められる。また、数 mm 以下の炭片が点在するが、特に上部との境界近くで量が多い。軟Ｘ線写真では、根跡と考えられる

表 2 微化石概査結果

地点名	分析№	花　粉	炭	植物片	珪　藻	火山ｶﾞﾗｽ	ﾌﾟﾗﾝﾄ･ｵﾊﾟｰﾙ
試料Ａ	1	△	○	△×	×	△	△
	2	△×	◎	△×	×	△×	△
	3	△	◎	△×	×	△	○
試料Ｂ	1	△	◎	△×	×	△	△
	2	△	◎	△×	△×	△	△
	3	△	◎	△×	×	△	△
	4	△	◎	△×	×	△	△

凡例 ◎ ：十分な数量が検出できる　○ ：少ないが検出できる　△ ：非常に少ない
△×：極めてまれに検出できる　× ：検出できない

直線的なチャンネルが顕著である。その太さは 1mm 以下のものが多いが、数 mm のものも存在する。また､チャンネルの太さに関係なく､周囲を酸化鉄で覆われる（準被覆）ペドフィーチャーが顕著に認められる。全体にペッドの発達は弱い。また、シルト混じり細粒砂の部分はやや明るい色調を示す。

3) 3- ②層

中～粗粒砂混じり細粒砂質シルトからなる。実視では黄褐色を呈する酸化鉄の検出が僅かに認められる。また、上位の 3- ①層で認められた炭片がほとんど認められない。軟Ｘ線写真では、根跡と考えられる直線的なチャンネルが顕著である。その太さは 1mm 以下のものが多いが、数 mm のものも存在する。また、チャンネルの太さに関係なく、周囲を酸化鉄で覆われる（準被覆）ペドフィーチャーが顕著に認められる。全体にペッドの発達は弱い。

(2) 微化石概査結果

表 2 に微化石概査結果を示す。分析試料全般に、炭片を除く微化石、火山ガラスの含有量が少なかった。

(3) 花粉分析結果

分析結果を図 5、6 の花粉ダイアグラム及び表 3 の花粉組成表に示す。花粉ダイアグラムでは木本花粉総数を基数として分類群ごとに百分率を算出し、木本（針葉樹）花粉、木本（広葉樹）、草本・藤本花粉、胞子の区分でスペクトルの色を変えて示した。また右側に、区分ごとの累積百分率と、1g 当たりの花粉と胞子の含有量を示した。

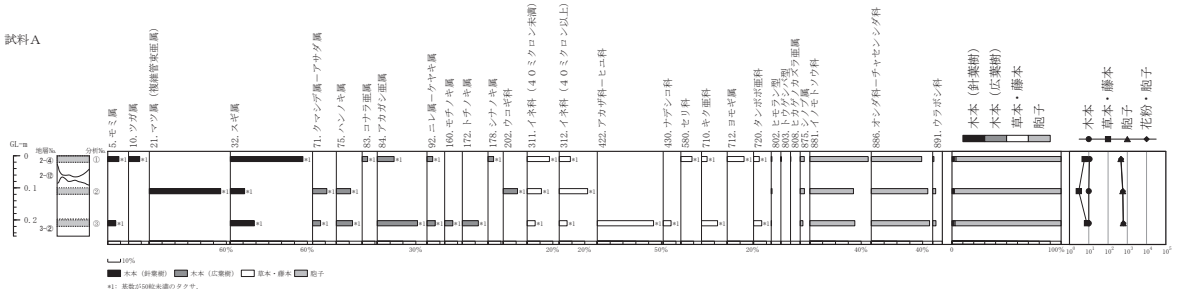


図 5 試料Ａの花粉ダイアグラム

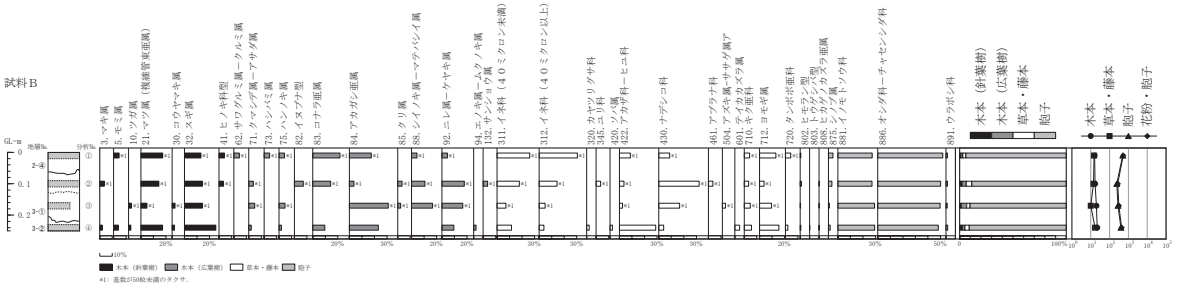


図 6 試料Ｂの花粉ダイアグラム

（4）植物珪酸体分析結果

分析結果を図 7 の植物珪酸体ダイアグラム及び表 4 の植物珪酸体組成表に示す。に示す。植物珪酸体ダイアグラムでは、1g あたりの含有数に換算した数を、検出した分類群ごとにスペクトルで示した。

表 3 花粉組成表

	調査区	A区											
	地点名	A地点						B地点					
	地層名	2-②		3-②				2-②		3-①		3-②	
	試料番号	1		2		3		1		2		4	
3	*Podocarpus*	マキ属								1	4%	1	2%
5	*Abies*	モミ属	2	9%			1	6%	1	4%			2	4%
10	*Tsuga*	ツガ属	2	9%							1	2%	1	2%
21	*Pinus(Diploxylon)*	マツ属：複維管束亜属			5	56%			4	17%	4	14%	2	5%	9	17%
30	*Sciadopitys*	コウヤマキ属											1	2%	1	2%
32	*Cryptomeria*	スギ属	13	57%	1	11%	3	19%	3	13%	4	14%	6	14%	13	25%
41	Cupressaceae type	ヒノキ科型							1	4%	1	4%				
62	*Pterocarya-Juglans*	サワグルミ属ークルミ属							1	4%						
71	*Carpinus-Ostrya*	クマシデ属ーアサダ属			1	11%	1	6%			1	4%	2	5%	1	2%
73	*Corylus*	ハシバミ属							1	4%						
75	*Alnus*	ハンノキ属			1	11%	2	13%	1	4%			2	5%	1	2%
82	*Fagus japonica* type	イヌブナ型									2	7%				
83	*Quercus*	コナラ亜属	1	4%					5	22%	4	14%			5	10%
84	*Cyclobalanopsis*	アカガシ亜属	3	13%			5	31%	4	17%	1	4%	13	31%	12	23%
85	*Castanea*	クリ属									1	4%	1	2%		
88	*Castanopsis-Pasania*	シイノキ属ーマテバシイ属							1	4%	3	11%	7	17%		
92	*Ulmus-Zelkova*	ニレ属ーケヤキ属	1	4%			1	6%	1	4%	5	18%	7	17%	5	10%
94	*Aphananthe-Celtis*	エノキ属ームクノキ属													1	2%
132	*Zanthoxylum*	サンショウ属									1	4%				
160	*Ilex*	モチノキ属					1	6%								
172	*Aesculus*	トチノキ属					2	13%								
178	*Tilia*	シナノキ属	1	4%												
202	Araliaceae	ウコギ科			1	11%										
311	Gramineae(<40)	イネ科（４０ミクロン未満）	4	17%	1	11%	1	6%	6	26%	5	18%	3	7%	6	12%
312	Gramineae(>40)	イネ科（４０ミクロン以上）	2	9%	2	22%	1	6%	7	30%	4	14%	2	5%	2	4%
320	Cyperaceae	カヤツリグサ科													1	2%
345	Liliaceae	ユリ科									1	4%				
420	*Fagopyrum*	ソバ属													1	2%
422	Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科ーヒユ科					7	44%	2	9%	1	4%	1	2%	15	29%
430	Caryophyllaceae	ナデシコ科					1	6%	2	9%	9	32%	7	17%	2	4%
461	Cruciferae	アブラナ科									1	4%				
504	*Azukia-Vigna*	アズキ属ーササゲ属											1	2%		
580	Umbelliferae	セリ科	2	9%												
601	*Trachelospermum*	テイカカズラ属													2	4%
710	Carduoidae	キク亜科	1	4%			2	13%	1	4%	1	4%	2	5%	3	6%
712	*Artemisia*	ヨモギ属	3	13%					3	13%	1	4%	4	10%	8	15%
720	Cichorioideae	タンポポ亜科	1	4%			1	6%	1	4%					1	2%
802	*Urostachys sieboldii* type	ヒモラン型	5	22%	3	33%	2	13%	4	17%	4	14%	2	5%	5	10%
803	*Urostachys serratum* type	トウゲシバ型	2	9%											1	2%
808	Subgenus *Lycopodium*	ヒカゲノカズラ亜属	2	9%							1	4%	1	2%	1	2%
875	*Davallia*	シノブ属	30	130%	17	189%	21	131%	28	122%	12	43%	5	12%	14	27%
881	Pteridaceae	イノモトソウ科	433	1883%	177	1967%	348	2175%	210	913%	121	432%	186	443%	305	587%
886	Aspid.-Asple.	オシダ科ーチャセンシダ科	374	1626%	229	2544%	450	2813%	398	1730%	223	796%	316	752%	501	963%
891	Polypodiaceae	ウラボシ科	9	39%	12	133%	25	156%	9	39%	5	18%	6	14%	14	27%
898	MONOLATE-TYPE-SPORE	単条溝胞子	24	104%	35	389%	66	413%	39	170%	17	61%	31	74%	67	129%
899	TRILATE-TYPE-SPORE	三条溝胞子	39	170%	35	389%	52	325%	35	152%	11	39%	27	64%	39	75%
木本花粉総数			23	2%	9	2%	16	2%	23	3%	28	6%	42	7%	52	5%
草本花粉総数			13	1%	3	1%	13	1%	22	3%	23	5%	20	3%	41	4%
胞子総数			918	96%	508	98%	964	97%	723	94%	394	89%	574	90%	947	91%
総数			954		520		993		768		445		636		1,040	
含有量(粒数/g)			476		590		630		531		272		310		438	

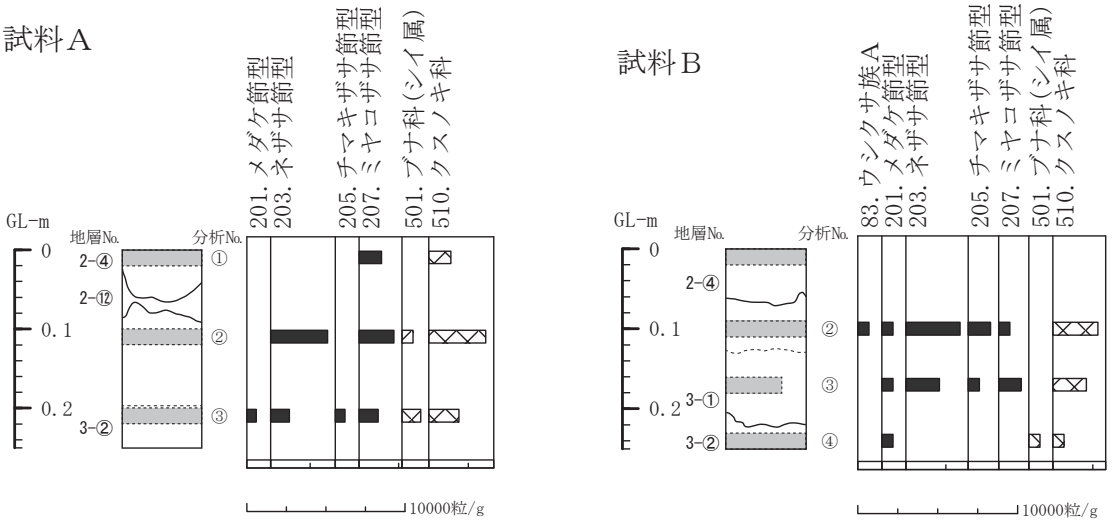


図 7 植物珪酸体ダイアグラム（左：A 地点、右：B 地点）

表 4 植物珪酸体組成表

調査区	A区					
地点名	A地点			B地点		
地層名	2-②	3-②		3-①		3-②
試料番号	1	2	3	2	3	4
1 イネ	－	－	－	－	－	－
	－	－	－	－	－	－
	－	－	－	－	－	－
81 ススキ属型	－	－	－	－	－	－
	－	－	－	－	－	－
	－	－	－	－	－	－
83 ウシクサ族A	－	－	－	1	－	－
	－	－	－	7	－	－
	－	－	－	－	－	－
84 ウシクサ族B（サトウキビ属を含む）	－	－	－	－	－	－
	－	－	－	－	－	－
	－	－	－	－	－	－
201 メダケ節型	－	－	1	1	1	1
	－	－	6	7	7	7
	－	－	0.07	0.08	0.08	0.09
203 ネザサ節型	－	5	2	5	3	－
	－	36	12	34	21	－
	－	0.17	0.06	0.17	0.10	－
205 チマキザサ節型	－	－	1	2	1	－
	－	－	6	14	7	－
	－	－	0.05	0.10	0.05	－
207 ミヤコザサ節型	2	3	2	1	2	－
	14	22	12	7	14	－
	0.04	0.06	0.04	0.02	0.04	－
501 ブナ科（シイ属）	－	1	2	－	－	1
	－	7	12	－	－	7
	－	－	－	－	－	－
510 クスノキ科	2	5	3	4	3	1
	14	36	19	28	21	7
	－	－	－	－	－	－
520 マンサク科（イスノキ属）	－	－	－	－	－	－
	－	－	－	－	－	－
	－	－	－	－	－	－
プラント・オパール総数	4	14	11	14	10	3
カウントガラスビーズ数	439	416	483	435	431	400
カウント総数	443	430	494	449	441	403
試料重量（×0.0001g）	6999	7021	7041	7021	7035	7020
ガラスビーズ重量（×0.0001g）	134	133	134	133	134	133

上段　検出粒数
中段　検出密度（単位；×100粒/g）
下段　推定生産量（単位;kg/㎡・cm）

花粉・胞子化石の含有量が少なかった原因について

(1) 花粉化石の含有量の少ない原因

通常は以下のようなことが考えられている。

1．堆積速度が速いために、堆積物中に花粉化石が含まれない。

2．花粉化石の平均的な粒径（数～ 100 μ）と堆積物の粒度が著しく異なり、堆積物中に花粉化石が含まれない。

3．土壌生成作用に伴う堆積物で、堆積速度が極めて遅く、堆積した花粉化石が紫外線により消滅した。

4．花粉化石が本来含まれていたが、堆積後の化学変化により花粉化石が消滅した。

5．有機物に極めて富む堆積物で花粉以外の有機物も多く、処理の過程で花粉化石が回収できなかった。

(2) 分析試料（堆積物）の状態

今回の分析試料（堆積物）の状態は、以下の通りであった。

軟Ｘ線写真観察では、土壌化の指針であるペッドの発達が弱く、土壌化がさほど進んでいなかった。微化石概査結果（表 1）で示したように、炭（微粒炭）が多く含まれているが、その他の微化石の含有量は少なかった。全ての試料で花粉・胞子化石の含有量が少なく、胞子化石の割合が高い（花粉化石の割合が低い）。

(3) 花粉・胞子化石の含有量が少なかった原因

炭（微粒炭）が多く含まれることから、本来有機物も多く含まれていた可能性がある。堆積物の粒径も細粒であることから、堆積速度はさほど速くなかったと考えられる。一方、酸化鉄、酸化マンガンの検出が顕著であることから、含まれていた有機物（植物質）や珪藻、プラントオパールなどの珪酸質までも、堆積後の化学変化によって分解したことが分かる。また、酸化環境下で胞子化石の保存状態が花粉化石に比べよいことから、胞子化石が選択的に残存したものと考えられる。

縄文時代晩期での耕作について

耕作が推定された縄文時代晩期の遺物が出土する 3-①層、3-②では、軟Ｘ線写真観察結果（図 3、4）で示したようにペッドの発達が弱く、土壌化の程度が弱い（長期間に亘り地表面にあり、動植物による擾乱、分解を受けたとは考えにくい。）。また、植物珪酸体分析（図 7）ではイネを初めとする､イネ科栽培種由来の可能性がある分類群は検出されていない。花粉分析（図 5､6）でも、稲作を示唆するイネ科（40 ミクロン以上）の高率での出現は認められなかった。一方､試料Ｂ分析№ 3（3-①層）でアズキ属 - ササゲ属、4（3-②層）でソバ属が検出されている。上記の事柄から、縄文時代晩期での稲作に関しては否定的であるが、ソバやアズキなどの雑穀類が栽培された可能性は指摘できる。

ただし、検出量がごく僅かであることや、地層内に根跡と考えられる生物擾乱が多く認められることから、上位の耕作土から混入した可能性も否定できず、今後の追従が必要である。

周辺地域の古植生の推定

邇摩平野では、今回の調査地点から 100 ～ 200m ほど離れた五丁遺跡及び庵寺遺跡において花粉分析が実施・報告されている（渡辺・山田，2010）。今回の花粉分析で十分な花粉化石が検出された、試料Ｂ 3-②層：分析№ 4（縄文時代晩期）と同時期の分析は、庵寺遺跡下部地点で実施されていた（渡辺・山田，2010）。

今回の分析では、渡辺・山田（2010）に比べスギ属が低率であることが特徴であった。一方で、マツ属（複維管束亜属）、その他の針葉樹、コナラ亜属が高率を示している。このことは、互いに数 100m の位置関係であるが、入り組んだ地形と調査地の立地に起因すると考えられる。庵寺遺跡は潮川の形成する沖積平野から外れており、潮川に合流する小河川沿いの小谷に位置する。谷斜面が両側に近く、スギの生育に適していたと考えられる。一方、今回のＡ区は潮川が形成する沖積平野上に立地し、特にＡ区には丘陵が迫っている。恐らく丘陵上の植生の影響が強く表れていると考えられる。

縄文時代晩期のやや冷涼な時期（Ａ区試料Ｂ 3-②層）には、モミやツガ、コウヤマキといった温帯針葉樹種が丘陵上でカシ類と混淆していたと考えられる。マツ類やナラ類も主として丘陵上に

生育していたと考えられるが、何らかの人手が加わった後に、遷移林として入り込んでいたものと考えられる。また、植物珪酸体分析で検出されたシイノキ属やクスノキ科の樹木は、カシ類とともに丘陵上に生育していたと考えられる。一方スギは、低地の水際に散在していたと考えられるが、堆積環境が不安定なために、さほど大きな林を成すことがなかったと考えられる。

まとめ

邇摩平野の東端近くに立地する古屋敷遺跡において、耕作土と考えられる地層を対象とした花粉分析、植物珪酸体分析及び軟Ｘ線写真観察による堆積構造の記載、年代測定を行った。特筆すべき考察結果は、以下の事柄である。

(1) 花粉分析を 7 試料で実施したが、多くの試料で花粉化石の含有量が少なかった。軟Ｘ線写真観察、含有物概査結果を踏まえると、堆積後の化学変化によって植物質、珪酸質が劣化、消滅したものと考えられる。

(2) 縄文時代晩期に水田耕作が行われた可能性は低い。一方、ソバ、アズキなどの栽培が行われた可能性が指摘できた。今後の追従が必要である。

(3) 縄文時代晩期の遺跡周辺での古植生を推定した。従来（渡辺・山田，2010）考えられていた植生より、低地でのスギが少なく、丘陵上の植生は多様性に富んでいたことが分かった。

〈参考文献〉

久馬一剛・八木久義訳監修（1989）土壌記載薄片ハンドブック．p.176，博友社，東京.

中村　純（1974）イネ科花粉について，とくにイネを中心として．第四紀研究 , 13，187-197.

藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究（1）－数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法－．考古学と自然科学，9，15-29

渡辺正巳（2010）花粉分析法．必携 考古資料の自然科学調査法，174-177. ニュー・サイエンス社.

渡辺正巳・山田和芳（2010）五丁遺跡・庵寺遺跡発掘調査に伴う自然科学分析．梨ノ木坂遺跡 庵寺古墳群 庵寺遺跡Ⅱ，一般国道 9 号仁摩温泉津道路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書，3，93-130，国土交通省中国地方整備局・島根県教育委員会.

第 6 章　総括

第 1 節　遺構

第 11 層（縄文時代後期崎ヶ鼻式併行期～後期滋賀里 I 式併行期）

出土遺物の様相から縄文時代後期の宮滝式併行期と考えられる。第 11 層を確認できたのはグリッド L6、L7 付近であった。青灰色粘質土が基盤層を形成している。遺構などは確認されていない。

遺物は後期崎ヶ鼻式併行期の深鉢（第 78 図 1）、後期滋賀里 I 式併行期の浅鉢（第 78 図 5）などが少量出土している。

第 10 層（縄文時代後期宮滝式併行期～晩期篠原式併行期）

第 10 層は調査区の東部から西部にかけて堆積している。調査区東部の標高が西部に比べて高い東から西へ傾斜面状になっている地形だったと考えられる。遺構は確認されていない。遺物は、後期宮滝式併行期の注口土器（第 77 図 1）など後期～晩期篠原式併行期の土器、石器が出土している。

第 8・9 層（縄文時代晩期篠原式併行期）

第 8・9 層は基本的に砂～砂質土である。第 10 層と同様に東から西へ傾斜面状になった地形だったと推測される。遺構は確認されていない。遺物は、少量の晩期篠原式併行期の土器が出土している。

第 7 層（縄文時代晩期篠原式併行期～晩期突帯文期）

第 7 層は砂質土層を細分層として含む粘質土が主体の層である。第 7-⑤層（第 5 図）は標高が低い調査区西側に堆積しており、上層の第 7-①、④層堆積時には調査区内は水平に近い地形になったと想定される。第 7 層では、晩期篠原併行期から突帯文期にかけての多くの遺構・遺物が確認されている。このうち　土器だまり 2 では、晩期篠原式併行期の遺物がまとまって出土している。

第 6 層（縄文時代晩期突帯文期）

第 6 層は、茶褐色系の粘質土が主体の層である。土器だまり 1 や多くの遺物が出土しているので、安定した基盤面が形成され、一定の期間生活面として利用されていたと考えられる。

土器だまり 1 では、彩文土器の浅鉢（第 49 図 1 ）が出土している。口縁部外面端部に「C」字文が施されている。器面を黒色に焼成するかもしくは焼成後に黒色の塗料を塗布して文様を描く素地を作ったと考えられる。その後赤色の顔料を用いて、文様を描き出している。下地を黒色にして、赤色の上塗りで文様を描く方法は雀居遺跡（福岡県福岡市）出土の三叉文を持つ壷形土器及び彩文土器や居徳遺跡（高知県土佐市）出土の木胎漆器・蓋などに描かれている方法と同様である。

また今回出土した浅鉢は黒色部分である「C」字部分に赤色塗料で点描が施されている。居徳遺跡出土の木器の黒色部分にも似たような点描が施されており共通の文様の可能性が考えられる。文様が描かれている浅鉢は、突帯文期の西日本で普遍的にみられるものである。描かれている文様のモチーフは大洞 C_2 式～ A_2 式の系譜を引くものと考えられる。万場 I 遺跡（島根県雲南市）出土

の彩文土器である夜臼式の壷に描かれている文様も同様と考えられ、これは縄文時代晩期突帯文期の日本列島における東西交流の現れととらえられている。今回彩文土器が出土したことにより、万場 I 遺跡などと同様に古屋敷遺跡も東西交流の影響下にあったこたが確認された。

赤色塗料の材料は、蛍光 X 線分析装置による元素の同定の結果、ベンガラと考えられる。

また第 6 層から器種不明の彩文土器（第 53 図 8）が出土している。彩文土器・浅鉢と同じく外面を黒色素地に赤色塗料で 2 条の線が描き出されているが､文様全体のモチーフなどは不明である。

これらの彩文土器の出土は、島根県内では万場 I 遺跡に次ぐ 2 例目のである。

SR3（縄文時代晩期突帯文期）

グリッド (M6-N6-O6) 土層図（第 8 図）より、SR3 は第 6-③層を浸食しているので SR3 がで埋没するのは第 6 層が堆積した後に氾濫があったと考えられる。SR-③層で噴砂と考えられる部分が確認できることから SR3 埋没後に大規模な災害（地震）があったことが想定される。

遺物は、晩期篠原式併行期～突帯文期の土器、石器が出土していることより晩期突帯文期に埋没したと考えられる。

第 5 層（縄文時代晩期突帯文期）

第 5 層は砂質土であり、出土遺物は、晩期篠原式併行期～突帯文期の土器、石器が出土している。深鉢（第 39 図 1）は口縁端部に穿孔が施されており、いわゆる孔列（文）土器と考えられる。特徴としては単純口縁の深鉢であり、孔も貫通している。

SR2（縄文時代晩期突帯文期～弥生時代前期）

北東壁土層図（第 5 図）において SR2 の堆積である K3 層以下の堆積は、少なくとも第 3 層を浸食して堆積していると考えられる。

遺物は縄文時代後期～弥生土器前期が出土している。

第 4 層（縄文時代晩期突帯文期）

第 4 層は砂礫層であり、調査区の北側部分のみで確認された。遺構・遺物は確認されていない。

第 3 層（縄文時代晩期突帯文期～弥生時代前期）

第 3 層は細砂が堆積している層を細分層で含むが基本的には、黄灰色のシルト～粘質土である。

木棺墓（SK2）をはじめとする多くの遺構、遺物が確認されており、安定した生活面が形成されていたと考えられる。

木棺墓（SK2）の木棺の規模を検討するに当たり、比較的良好に残存していた南側側板を基に左右対称として復元すると、長さ 193㎝、幅 66㎝となる。両側板で小口板を挟む構造と推測される。また西側の小口板は底板に載っていたと考えられる。明確な小口穴は確認されなかったが、東側小口部分にわずかな段差が確認できる。また南側側板部分は長さ 1.9m、幅 5 ～ 10㎝、深さ 5㎝の溝状の落ち込みが検出された。木棺を構築する時に側板を固定するために意図的に掘られた段差と考

えられる。底板及び蓋板も使われており、蓋板と推測される材の 1 つは、現状で長さ 90㎝、幅 20㎝、厚さ 1㎝を測り、確認できた一個体の部材の中では最大であった。また側板の可能性もあるが木棺裏込めに木材が使われていた可能性も考えられる材も出土している。

墓壙内からは、土器片 17 点、石鏃 2 点、石材剥片、炭化物片が出土している。土器はすべて破片である。出土状況は様々であるが、床面直上の可能性がある遺物は第 23 図 1 のみである。石鏃（第 23 図 7）は蓋板の上から出土している。石鏃（第 23 図 6）は北側側板の外で検出されたが、北側側板は外側（北側）に倒れたことが想定されるので元は蓋板の上や棺内にあった可能性も考えられる。その他の土器片は埋土もしくは墓壙内への流入土や裏込土などに混入していたなど様々な可能性が考えられる。また墓壙中央部の底板直上では、人の大腿骨が出土した。両端が欠損しているため断定は難しいが、成人女性の可能性が示唆された。東側を頭位と想定した場合、骨の出土状況から膝を南向きに向けて屈曲した体位が想定される。

今回検出された木棺墓の特徴は、①（頭位側に）棺を固定するための石材を伴う。②側板で小口板を挟む形態を採る。③側板を固定する穴（溝）を有するが、小口穴を伴わない。④石鏃が副葬されている可能性がある。⑤人骨が出土しており、亡骸は横向きで膝を折り曲げた状態だったと想定される。

①棺を固定するための石材については、晩期後葉（弥生早期）に北部九州において支石墓の下部構造の木棺墓に裏込石や棺台などに石材を伴う例があり、その影響も考えられる。②側板で小口を挟む形態については晩期後葉（弥生早期）の木棺墓では小口板で側板を挟む形態が多いが、両側板で小口板を挟む形態も池島・福万寺遺跡（大阪府東大阪市）、上出 A 遺跡（滋賀県近江八幡市安土町）近畿地方で確認されている。③小口穴を伴わない形態については晩期後葉（弥生時代早期）では小口穴を伴う例が多いが、側板の穴（溝）や小口穴を伴わない例も江辻遺跡（福岡県糟屋郡粕屋町）で確認されている。④石鏃が副葬されている例は、弥生時代前期ではあるが堀部第 1 遺跡出土木棺墓では、床直上などから出土している。⑤体位については同じく堀部第 1 遺跡第 28 号墓では、人骨（下肢骨）が出土しており、横向きの膝を折り曲げた状態だったとされている。

以上から木棺墓の形態としては、墓壙及び木棺が（後世の災害等の影響のためか）不整形であったり、小口板が底板に載っていたりと特異な部分もあるが、大きな枠では縄文時代晩期後葉から弥生時代前期にかけて北部九州から近畿地方で見られる木棺墓の形態と共通する部分が確認された。木棺墓の時期については、弥生土器の供伴しない縄文時代晩期突帯文期と考えられる。

SR1（弥生時代前期～中期）

第 3 層を切って形成されたと推測される。北東壁土層図（第 5 図）の SR1 の R4 層から弥生土器前期（第 29 図 -25：Ⅰ -2 様式）の土器が出土しており、R4 層以下の層位はこの時期の堆積と考えられる。しかし上位の層である R1 ～ R3 層は前期に堆積した R4 層の上面に形成された流路や R4 層を形成する砂礫層の流土部分と推測される。出土遺物から R1 ～ R3 層堆積の時期は弥生時代前期～中期と考えられる。

第 2 層（弥生時代以降）

弥生時代前期以降の堆積と考えられる。時期不明の遺構が検出された部分もあるが、第 2 層上部は後世に削平された可能性が考えられる。

第 2 節　遺物

縄文土器の編年

A 区では、篠原式から突帯文末期にかけての土器が重層的に良好な状態で出土したため、ここで編年案を示しておく。区分は、後期末・晩期前葉（1 ～ 3 期）・突帯文 1 ～ 4 期とする。後期から晩期前葉にかけては十分な資料が得られていないが、従来の区分に従って後期末＝滋賀里Ⅰ式、晩期前葉 1 期＝滋賀里Ⅱ式、同 2 期＝滋賀里Ⅲ a 式、同 3 期＝篠原式と想定した。2 期以前は他の調査区の成果に期待したい。突帯文期は、古屋敷遺跡 A 区での層位を重視した編年であって、他の遺跡との整合性を検討していない。山陰地方中部または西部を包括する編年は、将来に期する。

後期末～晩期前葉 2 期（1 ～ 3）　1 は凹点文と連孤状の沈線文が描かれ、後期末・滋賀里Ⅰ式に類似すると考えられる。2 は、口縁部外面にわずかに稜がつき、滋賀里Ⅲ b 式と篠原式の中間的な様相を持つ。類例が少なく、安定的に型式組成するかどうか不明である。3 は長頸の浅鉢で口縁端部に細かな刻み目が施されている。2・3 は下位の層から出土していることから一応晩期前葉 2 期としておくが、同 3 期に下る可能性もある。

晩期前葉 3 期（4 ～ 8）7 層土器だまり 2 で一括性の高い資料が出土した。深鉢は、頸部が大きくくびれて胴部が張り、口頸部が短めの器形が目立つ（4・5）。胴部の張りが弱いものも一定量存在する（第 68 図 6 など）。口縁部内面（5）・口唇部（4）に刺突文列が施されるものが多い。刺突文列は肩部にも横走する（4）が、5 のように意匠を描くものは稀である。深鉢は、口頸部と頸部以下で調整方向・手法を変えたものが多い。4・5 は二枚貝条痕の調整方向を変えた例だが、口頸部にナデ調整が施されるものもある。浅鉢は、長頸（6・8）と短頸（7）が出土している。長頸浅鉢のうち、6 は方形浅鉢である。平面形は方形だが、典型的な方形浅鉢とは違って波頂部下の胴部が明瞭に突出しないことから、萌芽的な方形浅鉢と考えられる。ほかに、口頸部がやや短い浅鉢（7）が組成するようである。底部は 8 が丸底、6 が 14 のような小型の平底である。浅鉢の平底はこの段階から存在するが、主体は丸底かもしれない。

突帯文 1 期（9・10）　突帯が口唇から離れた位置に付され、口唇部・突帯に大きめの刻み目文が施されたものである。突帯文出現期と考えられ、二条突帯文は出現していないと思われる。この段階の深鉢は、口唇部がしっかりと面取りされるという説明がなされるが、9 など面取りが顕著でないものがみられる。突帯の位置が古相を示すことから、この段階に位置付けたが、A 区では良好な状態で出土していないため、他調査区での検討が必要である。

突帯文 2 期（11 ～ 15）　7 層で良好な資料が得られた。7 層からは、突帯文 3 期以降の深鉢は出土していない。深鉢は頸部のくびれが緩くなるが、口頸部と頸部以下の調整の違いは前段階までと同じである。口唇部はやや先細状となるものが多くなり、突帯が口唇部に接するようになる。刻み目は突帯・口唇ともに比較的大きめである。7 層からは二条突帯が 1 点出土している（第 62 図 8）が、この段階では二条突帯は主体とはならないと思われる。浅鉢は、①鉤状口縁の長頸（方形？）浅鉢（12）、②短頸の「く」の字口縁浅鉢（15）、③口縁部が内傾する「く」の字形の浅鉢（13）がこの時期に出現する。ほかに①と②の中間的な器形（14）があるが、これは各層から出土しているため時期を限定できない。

突帯文 3 期（16 ～ 26）　5・6 層、6 層土器溜 1・SR3 出土土器から抽出した。これらの層からは

突帯文 4 期の深鉢は出土していない。深鉢は、二条突帯が一定量組成する。一部に突帯が口唇部に接して一体化したものがある（20）。刻み目文はやや小型のものが多く、口唇部に施文されるものは前面から施文されることが多い。刻み目文は口唇に施されるもの（16・19）と施されないもの（11･20）がある。調整は口縁部から胴部まで一様で、条痕･ケズリを消す意図がみられる（17･18・20）。深鉢で底部まで残る個体はないが、平底が存在しないことから、この段階までは深鉢は丸底だった可能性が高い（25）。浅鉢は、前期に続き短頸の「く」の字口縁浅鉢（22）、口縁部が内傾する「く」の字形の浅鉢（23）が主体的である。24 は小型だが、23 と同じ系譜の土器と考えられる。26 は頸部が明瞭に屈曲する浅鉢で、口縁内面が肥厚して段がつくものである。これは 7 層以下では出土していない。

突帯文 4 期（25 ～ 36）　3 層および SR1・2 出土土器から抽出した。深鉢に施文される刻み目文は、斜線状を呈する V 字刻み目（27 ～ 29）で、無刻み（30･31）がこの時期から出現する。また、28 のように垂下する隆帯が付加されるものもある。調整は比較的雑で、器面に凹凸が顕著である（27・29）。口唇部は先細（27）か、突帯が口唇に接して一体化している（29・31）。この段階での 2 条突帯は確認されていない。浅鉢は、2 期から続く短頸「く」の字形口縁（32）や内傾口縁のもの（33）のほかに、全体器形は 32 と同じながら口縁形態が 3 期 26 同様内面に段が付くもの（35）、「く」の字形口縁だが胴部に稜がつかず丸くなるもの（36）、鉢形の有文浅鉢（37）、胴部外面に段が付くもの（36）などが出現する。37 の文様は「三田谷文様」である。これらは、SR1 で遠賀川式土器（38・39）とともなっているが、SR2 および 3 層では遠賀川式土器は出土していない。遠賀川式土器が主体となるのは、さらに後のことかもしれない。

第 3 節　まとめ

古屋敷遺跡 A 区では、縄文時代晩期の遺構、遺物が大量に検出され、その後の弥生時代前期から中期にかけての河道跡とそれに伴う一定量の遺物も確認された。また、時期不明のピットや平安時代の土師器など古墳時代以降の遺物も確認された。

E 区では、古墳時代の須恵器や、中世前半の河道跡、近世以降の水路遺構が確認された。

また第 1 図で示した B ～ D、F ～ H 区では、縄文時代後期から弥生時代前期にかけての遺構・遺物が確認されている。

本報告書の調査区では、縄文時代晩期の突帯文期において、東日本の影響がみられる文様が施された彩文土器の出土や、中国地方では 2 例目となる木棺墓の検出など、他地域との交流や影響を窺わせる貴重な資料が確認できたと考えられる。

後期末～晩期前葉2

10層

1(78-5)

2(76-6)

3(76-8)

晩期前葉3

7層土器溜2

4(71-13)

5(70-4)

6(68-5)

7(73-10)

8(71-9)

突帯文1・2

7層

9(62-2)

10(62-1)

11(61-8)

12(62-20)

13(63-2)

14(63-7)

1・2・9

0　1/4　10cm

15(63-2)

0　1/6　10cm

突帯文3

6層・6層土器溜り1・SR3

16(48-3)

17(33-13)

18(52-24)

19(51-13)

20(52-23)

22(47-4)

23(49-6)

24(49-1)

25(48-45)

26(40-31)

突帯文4

27(36-5)

28(36-7)

29(36-18)

30(29-11)

3層・SR1

31(29-12)

32(29-22)

33(36-23)

34(29-16)

35(29-20)

36(31-3)

37(36-2)

38(29-27)

39(29-26)

第87図　古屋敷遺跡A区土器編年表（1・2・9は1/4）他は1/6）（）は挿図番号

【参考文献】

澤下孝信　2009 「縄文時代の木棺墓 - 下関市御堂遺跡例の検討 -（上）」『研究紀要　第 13 号』下関市立考古博物館

澤下孝信　2010 「縄文時代の木棺墓 - 下関市御堂遺跡例の検討 -（下）」『研究紀要　第 14 号』下関市立考古博物館

中村健二　2007 「木棺墓からみた西日本の縄文から弥生へ」『縄文から弥生へ　－農耕社会の形成と実年代－』滋賀県立安土考古博物館

中村健二　2009 「木棺墓小考」『究班』

中村健二　2010「Ⅸ . 近畿地方の縄文集落の葬墓制」『シリーズ　縄文集落の多様性Ⅱ　葬墓制』雄山閣

幡中光輔　2011 「人間活動からみた島根県の縄文時代遺跡と地域社会『古代文化研究　№ 19』 島根県古代文化センター

濵田竜彦　2006 「中国地方における縄文・弥生移行期の東日本系土器」『考古学ジャーナル　2006 10　549　特集　西日本の亀ヶ岡式土器』 ニューサイエンス社

山田康弘　2014「山陰地方における弥生時代前期の墓地構造」『国立歴史民俗博物館研究報告　第 185 集　農耕社会の成立と展開　-弥生時代像の再構築-』国立歴史民俗博物館

小学館　　1997『世界陶磁全集　17　韓国古代』

独立行政機構法人国立文化財機構　2007 『日本の美術 12　№ 499　縄文土器晩期』

講談社　1989 『古代史復元 4　弥生農村の誕生』

講談社　1996 『歴史発掘 2　縄文土器出現』

（株）アム・プロモーション　2008 『総覧　縄文土器』

石川県能都町教育委員会　2002 『真脇遺跡 2002　史跡真脇遺跡整備事業に係る第 3 ～ 6 次発掘調査概要』

滋賀県教育委員会　2001 『上出 A 遺跡』

（財）大阪府文化財センター　2008 『池島・福万寺遺跡 5（池島Ⅱ期地区 04-2 調査区）』

（財）高知県文化財団埋蔵文化財センター　2003 『居徳遺跡群Ⅳ』

福岡市教育委員会　1995 『雀居遺跡』

（財）北九州市教育文化事業団　1988 『貫川遺跡 1 』

（財）広島県埋蔵文化財調査センター　1994 「岡の段 C 遺跡」『中国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告（Ⅳ）』

岡山県教育委員会　1995 『南溝手遺跡 1』

鳥取県教育委員会　2013 『本高弓ノ木遺跡（5 区）Ⅰ』

鳥取県教育文化財団　1993 『井手胯遺跡』

鳥取県教育文化財団　1999 『古市遺跡群 1　古市カハラケ田遺跡　古市河原田遺跡』

仁摩町教育委員会　1999 『五丁遺跡群発掘調査報告書』

鹿島町教育委員会　2005 『堀部第 1 遺跡』

雲南市教育委員会　2009 『万場Ⅰ遺跡』

島根県古代文化センター　2014 『山陰地方の縄文社会』

島根県教育委員会　1998 『板屋Ⅲ遺跡』

島根県教育委員会　2000 『三田谷Ⅰ遺跡　vol.3』

島根県教育委員会　2005 『宮ノ脇遺跡　家の後Ⅱ遺跡 1』

島根県教育委員会　2007 『林原遺跡』

島根県教育委員会　2006 『原田遺跡 (2) － 2 区の調査－』

島根県教育委員会　2009 『五丁遺跡　庵寺遺跡Ⅰ　於才迫遺跡』

土器観察表

挿図番号	図版番号	種別	器種	併行型式(時期)	gd	遺構	層位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	特徴	調整		胎土	色調	
14 - 1	25	土師器	高台付坏	-	L4	-	1層	-	-	(5.6)	-	外：	回転ナデ	密、(1㎜未満の赤色粒、4㎜以下の白色粒を含む)	外：	橙5YR7/6
												内：	(回転?)ナデ		内：	浅黄橙7.5YR8/4
14 - 2	25	縄文土器	深鉢	突帯文	L6	-	2～3層	-	-	-	（無刻目）突帯	外：	ナデ	3㎜以下の砂粒を含む	外：	灰黄褐10YR6/2
												内：	ナデ		内：	灰黄褐10YR6/2
14 - 3	25	縄文土器	深鉢	突帯文	L4	-	2～3層	-	-	-	（無刻目）突帯	外：	ナデ	2㎜以下の砂粒を含む	外：	にぶい黄橙10YR 6/3
												内：	ナデ		内：	黒N2/
14 - 4	25	縄文土器	深鉢	突帯文	L4	-	2～3層	-	-	-	突帯、竹管による刺突	外：	ナデ	3㎜以下の砂粒を含む	外：	にぶい黄橙10YR7/3
												内：	ナデ		内：	にぶい黄橙10YR7/2
14 - 5	25	縄文土器	深鉢	突帯文	L6	-	2～3層	-	-	-	突帯、円形状の刺突	外：	磨滅	2㎜以下の砂粒を含む	外：	にぶい黄橙10YR6/3
												内：	磨滅		内：	黒褐10YR3/1
14 - 6	25	縄文土器	深鉢	突帯文	L4	-	2～3層	-	-	-	突帯、円形の刺突、口縁端部欠損	外：	ナデ	3㎜以下の砂粒を含む	外：	灰白10YR7/1
												内：	ナデ		内：	橙7.5YR6/6
14 - 7	25	縄文土器	深鉢	突帯文	L4	-	2～3層	-	-	-	突帯、円形状をした刺突	外：	磨滅	1㎜以下の砂粒を含む	外：	にぶい赤褐5YR5/3
												内：	磨滅		内：	黒褐10YR3/1
14 - 8	25	縄文土器	深鉢	突帯文	M6	-	2層	-	-	-	突帯、斜方向の刻目	外：	ナデ	3㎜以下の砂粒を含む	外：	明赤褐5YR5/8
												内：	ナデ		内：	明赤褐5YR5/8
14 - 9	25	縄文土器	深鉢	突帯文	L6	-	2層	-	-	-	突帯、平面形が不整形の刺突	外：	ナデ	4㎜以下の砂粒を含む	外：	灰黄褐10YR6/2
												内：	ナデ		内：	にぶい黄褐10YR5/3
14 - 10	25	縄文土器	深鉢	突帯文	M5	-	ー	-	-	-	突帯文、刻目、工具不明、わずかに煤残る	外：	ナデ	密、◇3㎜大の砂粒をわずかに含み、◇1㎜以下の砂粒を多く含む	外：	にぶい黄橙10YR7/2
												内：	ナデ		内：	灰黄2.5YR6/2
14 - 11	25	弥生土器	甕	-	M6	-	2層	-	-	7.4	摩滅により不明瞭、外面煤付着	外：	ナデヵ	粗、（2㎜以下の石英・長石、4㎜以下の砂粒を多く、6㎜未満の赤色粒子を少し含む）	外：	にぶい赤褐5YR5/3
												内：	ナデヵ		内：	浅黄橙10YR8/3
14 - 12	25	土師器	（坏もしくは皿）	-	L4	-	2層	-	-	6.4	摩滅により不明瞭	外：	ナデヵ	粗、（2㎜未満の雲母、角閃石を少し、2㎜以下の石英・長石その他砂粒を多量に含む）	外：	にぶい黄橙10YR7/3～灰黄2.5Y7/2
												内：	ナデヵ		内：	橙5YR6/6～6/8
18 - 1	26	縄文土器	深鉢	突帯文	L4	SX1	3層	-	-	-	（無刻目）突帯、楕円形をした小さな刺突	外：	ナデ	3㎜以下の砂粒	外：	褐灰10YR6/1
												内：	ナデ		内：	灰黄褐10YR5/2
18 - 2	26	縄文土器	深鉢	突帯文	L4	SX1	3層	-	-	-	突帯、管状の工具による刺突	外：	ナデ	4㎜以下の砂粒	外：	にぶい黄橙10YR7/3
												内：	ナデ		内：	浅黄橙10YR8/3
18 - 3	26	縄文土器	深鉢	突帯文	L4	SX1	3層	-	-	-	突帯、円形の刺突	外：	ナデ	5㎜以下の砂粒	外：	橙7.5YR6/6
												内：	ナデ		内：	にぶい黄橙10YR 7/3
18 - 4	26	縄文土器	深鉢	突帯文	L4	SX1	3層	-	-	-	（無刻目）突帯	外：	ナデ	2㎜以下の砂粒	外：	明黄褐10YR6/6
												内：	ナデ		内：	黄灰2.5Y6/1
18 - 5	26	縄文土器	深鉢	突帯文	L5	SX1	3層	-	-	-	（無刻目）突帯	外：	ナデ	4㎜以下の砂粒	外：	灰黄2.5Y7/2
												内：	ナデ		内：	灰黄2.5Y7/2
18 - 6	26	縄文土器	深鉢	突帯文	L5	SX1	3層	-	-	-	（無刻目）突帯	外：	ナデ	3㎜以下の砂粒	外：	にぶい黄橙10YR7/3
												内：	ナデ		内：	浅黄2.5Y7/3
23 - 1	26	縄文土器	深鉢	-	L4	SK2	3層	(14.0)	-	-	全体磨滅している、煤痕残る	外：	条痕	やや粗い、径3㎜以下の砂粒を多く含む	外：	橙7.5YR7/6
												内：	ナデヵ		内：	暗灰黄2.5Y5/2

挿図番号	図版番号	種別	器種	併行型式(時期)	gd	遺構	層位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	特徴	調整		胎土	色調	
23 - 2	26	縄文土器	深鉢	突帯文	L4	SK2	3層	-	-	-	突帯、斜めl字形の刻目	外：	ナデ	3㎜以下の砂粒を含む	外：	にぶい黄橙10YR7/3
												内：	ナデ		内：	灰黄2.5Y7/2
23 - 3	26	縄文土器	深鉢	突帯文	L4	SK2	3層	-	-	-	（無刻目）突帯、管状の工具で刺突、一部磨滅	外：	ナデ	5㎜以下の砂粒を含む	外：	にぶい黄橙10YR7/2
												内：	ナデ		内：	黄灰2.5Y4/1
23 - 4	26	縄文土器	深鉢	突帯文	-	SK2	3層	-	-	-	突帯、刺突、管状工具による刺突	外：	ナデ	2㎜以下の砂粒を含む	外：	灰黄褐10YR4/2
												内：	ナデ		内：	灰黄褐10YR5/2
23 - 5	26	縄文土器	浅鉢	-	L5	SK2	3層	-	-	-	-	外：	ミガキ	2㎜以下の砂粒を含む	外：	黒7.5Y2/1
												内：	ミガキ		内：	暗灰黄2.5Y5/2
29 - 1	27	縄文土器	深鉢	篠原式	M7	SR1	-	-	-	-	内傾する器形、刺突文雑、浅い刺突文半裁竹管ヵ、沈線	外：	二枚貝条痕、ナデ	やや粗い、径2～3㎜大の砂粒を若干含み、径1㎜以下の砂粒を多く含む	外：	浅黄2.5Y7/3
												内：	二枚貝条痕		内：	灰白2.5Y8/2
29 - 2	27	縄文土器	深鉢	突帯文	M7	SR1	-	-	-	-	D字形刻目、口縁端部V字形刻目、内から外へ穿孔、刻目突帯文、刻目文　孔列(文)土器	外：	ナデ	3㎜以下の砂粒を含む	外：	灰黄2.5Y7/2
												内：	ナデ		内：	灰白2.5Y8/1
29 - 3	27	縄文土器	深鉢	突帯文	M7	SR1	-	-	-	-	全体的に磨滅している、刻目突帯文、刻目	外：	磨滅	密、径2㎜未満の砂粒多く含む	外：	暗灰黄2.5Y5/2
												内：	磨滅		内：	黒褐2.5Y3/2
29 - 4	27	縄文土器	深鉢	突帯文	M7	SR1	-	-	-	-	刻目、刻目突帯文、全体的に磨滅して調整不明	外：	磨滅	やや粗、径2㎜以下の砂粒を多く含む	外：	灰黄褐10YR5/2
												内：	磨滅		内：	にぶい黄褐10YR5/3
29 - 5	27	縄文土器	深鉢	突帯文	M7	SR1	-	-	-	-	刻目、突帯文、全体的に磨滅して調整不明	外：	磨滅	やや粗、径2㎜以下の砂粒を多く含む	外：	橙5YR6/6
												内：	磨滅		内：	青黒5B2/1
29 - 6	27	縄文土器	深鉢	突帯文	M7	SR1	-	-	-	-	刻目突帯文、全面煤残る、端部平ら	外：	-	密、径2㎜大の砂粒を若干含む	外：	褐灰10YR5/1
												内：	二枚貝条痕		内：	黒褐10YR3/2
29 - 7	27	縄文土器	深鉢	突帯文	M7・L7	SR1	-	-	-	-	刻目、突帯文、外面に煤残る、内面は磨滅して調整不明	外：	ナデ	密、径1㎜以下の砂粒を多く含む	外：	にぶい黄褐10YR4/3
												内：	磨滅		内：	暗灰黄2.5Y4/2
29 - 8	27	縄文土器	深鉢	突帯文	M7	SR1	-	-	-	-	全体磨滅していて調整不明	外：	磨滅	やや粗、径3㎜以下の砂粒を多く含む	外：	黄灰2.5Y6/1
												内：	磨滅		内：	黄灰2.5Y5/1
29 - 9	27	縄文土器	深鉢	突帯文	M7	SR1	-	-	-	-	刻目突帯文、全面磨滅していて調整不明	外：	磨滅	密、径1㎜以下の砂粒を多く含む	外：	灰黄2.5Y7/2
												内：	磨滅		内：	灰黄2.5Y6/2
29 - 10	27	縄文土器	深鉢	突帯文	M7	SR1	-	-	-	-	突帯文、刻目	外：	ナデ・二枚貝条痕	密、径3㎜以下の砂粒を若干含む	外：	にぶい黄橙10YR7/2
												内：	二枚貝条痕ヵ		内：	にぶい橙7.5YR7/4
29 - 11	27	縄文土器	深鉢	突帯文	N6	SR1	-	-	-	-	（無刻目）突帯文	外：	条痕（巻貝ヵ）	◌1～2㎜の砂粒を多く含む	外：	にぶい黄2.5Y6/3
												内：	条痕		内：	にぶい黄2.5Y6/3
29 - 12	27	縄文土器	深鉢	突帯文	M7	SR1	-	-	-	-	（無刻目）突帯文	外：	ナデ	やや粗、径2㎜以下の砂粒を多く含む	外：	にぶい黄橙10YR6/3
												内：	二枚貝条痕		内：	灰黄褐10YR6/2
29 - 13	27	縄文土器	深鉢	突帯文	M7	SR1	-	-	-	-	刻目突帯文、二条突帯、内面磨滅していて調整不明	外：	ナデヵ	密、径1㎜以下の砂粒を多く含む	外：	褐灰10YR4/1
												内：	磨滅		内：	褐灰10YR6/1
29 - 14	27	縄文土器	深鉢	突帯文	M7	SR1	-	-	-	-	外面煤痕、刻目突帯文、一部煤厚く残る、二条突帯	外：	条痕	密、径1㎜未満の砂粒を多く含む	外：	灰黄褐10YR4/2
												内：	条痕		内：	灰黄褐10YR5/2
29 - 15	27	縄文土器	深鉢	突帯文	M7	SR1	-	-	-	-	刻目突帯文、外面煤痕、胴部二条突帯	外：	-	密、径1㎜以下の砂粒を多く含む	外：	灰黄褐10YR4/2
												内：	二枚貝条痕		内：	褐灰10YR6/1

挿図番号	図版番号	種別	器種	併行型式(時期)	gd	遺構	層位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	特徴	調整		胎土	色調	
29‐16	27	縄文土器ヵ	(浅鉢)	(晩期ヵ)	L7	SR1	-	-	-	-	風化のため調整不明	外：	-	◌1〜2㎜の砂礫を多く含む(赤褐色粒子を多く含む)	外：	橙7.5YR6/6
												内：	-		内：	にぶい橙7.5YR7/3
29‐17	27	縄文土器	浅鉢	-	N5・O5	SR1	-	-	-	-	指の痕、沈線	外：	ミガキ・ナデ	密、径1㎜以下の砂粒を多く含む	外：	黒5Y2/1
												内：	ナデヵ		内：	灰5Y4/1
29‐18	27	縄文土器	浅鉢	-	M7	SR1	-	-	-	-	外面に煤残る	外：	ミガキ	密、径1㎜未満の砂粒を多く含む	外：	褐灰10YR4/1
												内：	ナデヵ		内：	暗灰N3/
29‐19	27	縄文土器	浅鉢	-	M7	SR1	-	-	-	-	-	外：	ミガキ	密、径0.5㎜未満の砂粒を多く含む	外：	黒7.5Y2/1
												内：	ミガキ		内：	黄灰2.5Y4/1
29‐20	27	縄文土器	浅鉢	-	M7	SR1	-	(27.8)	-	-	一条沈線、一部煤痕、全面ミガキヵ	外：	ミガキヵ	密、径1㎜未満の砂粒を多く含む	外：	黒褐2.5Y3/1
												内：	ミガキヵ		内：	黒5Y2/1
29‐21	27	縄文土器	浅鉢	-	M7	SR1	-	-	-	-	外面のミガキ砂粒が大きく動いた痕あり、一条沈線	外：	ナデ・ミガキヵ	密、径1㎜以下の砂粒を多く含む	外：	灰黄2.5Y7/2
												内：	ミガキ		内：	灰黄2.5Y6/2
29‐22	27	縄文土器	浅鉢	-	M7	SR1	-	(36.0)	-	-	-	外：	ミガキ	密、径0.5㎜未満の砂粒を多く含む	外：	暗灰N3/
												内：	ミガキ		内：	暗灰N3/
29‐23	27	縄文土器	浅鉢	-	M7	SR1	-	-	-	-	内面および外面の一部煤残る	外：	-	やや粗、径1㎜以下の砂粒を多く含む	外：	黒2.5Y2/1
												内：	-		内：	黒褐2.5Y3/2
29‐24	27	縄文土器	浅鉢	晩期ヵ	M6	SR1	-	-	-	7.2	底部が高台状になっている	外：	ヘラミガキヵ	きめ細かい、◌1㎜前後砂粒を少し含む、◌0.5㎜くらいの砂粒を含む	外：	にぶい黄2.5Y6/3
												内：	ナデヵ		内：	黄灰2.5Y5/1
29‐25	27	弥生土器	壺	Ⅰ-2様式	L7	SR1	-	21.5	-	-	口縁部と頸部の境、頸部と胴部の境に一段、ヘラによる段、ヘラによる緩い段	外：	ハケメのちヘラミガキ・タテハケメのちヨコ〜ナナメヘラミガキ	粗、（2㎜以下の雲母、石英、長石、5㎜以下の砂粒、赤色粒を多く含む）	外：	橙5YR6/6
												内：	口縁部〜頸部ハケメ指頭圧痕あり・ナナメハケメのちヨコヘラミガキ・ヨコ（〜ナナメ）ハケメ、指頭圧痕あり		内：	橙5YR6/6
29‐26	27	弥生土器	壺	Ⅰ-2様式ヵ	M7	SR1	-	-	-	-	外面下半はほとんど摩滅している	外：	ヨコ方向ヘラミガキ	密、（2㎜以下の雲母を少し、2㎜以下の石英、長石、3㎜以下の砂粒を多く含む）	外：	淡黄2.5Y8/3
												内：	ヨコハケメ・指頭ハケメ		内：	灰黄2.5Y7/2
29‐27	27	縄文土器	深鉢	-	N6	SR1	-	-	-	-	黒色の炭化物が付着している（土器の表面にしみ込んでいるよう）、調整は不明、土器内に炭化物状物質がしみ込んでいるヵ	外：	-	きめ細かい、◌1㎜未満の砂粒を含む	外：	灰黄2.5Y6/2
												内：	ナデヵ		内：	黒褐2.5Y3/1
29‐28	27	弥生土器	-	前期ヵ	M4	SR1	-	-	-	-	風化はげしく調整不明	外：	-	◌1〜5㎜の砂粒を含む（赤橙色、灰白色粒子を含む）	外：	橙5YR6/6
												内：	-		内：	橙5YR7/6
29‐29	27	弥生土器	甕	-	M7	SR1	-	-	-	-	外面に少なくとも一条の凹線、ヘラ沈線、摩滅により調整不明	外：	-	粗（4㎜以下の砂粒を多量に含む）	外：	にぶい黄橙10YR7/4
												内：	-		内：	にぶい橙7.5YR7/4
30‐1	27	弥生土器	壷ヵ	前期ヵ	N7	SR1	-	-	-	12.0	外面風化が激しい部分あり（ヨコたおしの時期が長かったのか）	外：	ナデのちタテ方向のミガキヵ	◌1〜3㎜の砂粒を含む（灰白色粒子が多い）	外：	にぶい橙7.5YR7/4
												内：	調整不明		内：	浅黄2.5Y7/3
30‐2	28	弥生土器	甕ヵ	前期ヵ	M7	SR1	-	-	-	(8.8)	内面、底部が磨滅していて調整不明	外：	タテハケメ	◌1〜3㎜の砂粒を多く含む（灰白色粒子が多い）	外：	にぶい黄橙10YR7/4
												内：	-		内：	にぶい黄橙10YR7/4
30‐3	28	弥生土器	壷ヵ	前期ヵ	M6・M7・M8	SR1	-	-	-	7.0	まもう激しく調整不明、底部もみ痕？	外：	-	◌2㎜くらいの砂粒を多く含む	外：	にぶい橙7.5YR7/3
												内：	-		内：	にぶい黄橙10YR6/3

挿図番号	図版番号	種別	器種	併行型式(時期)	gd	遺構	層位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	特徴	調整		胎土	色調	
30‐4	28	弥生土器	-	前期ヵ	M7	SR1	-	-	-	(9.0)	調整不明（摩耗はげしい）風化	外：	-	◇1〜3㎜の粒子を多く含む、（赤褐色粒子多い、その他、灰白色、灰色など）、灰艶	外：	にぶい黄橙10YR7/4
												内：	-		内：	にぶい黄橙10YR7/3
30‐5	28	弥生土器	-（甕）	前期ヵ	M6	SR1	-	-	-	9.0	風化はげしく調整不明	外：	-	◇1〜2㎜の砂粒を多く含む、◇1〜5㎜の赤褐色粒子をところどころ含む）	外：	浅黄橙10YR8/4
												内：	-		内：	浅黄2.5Y8/4
30‐6	28	弥生土器	甕	-	M7	SR1	-	-	-	10.3	-	外：	ヘラミガキ、底面丁寧なナデ、一部ヘラケズリ	密、0.5㎜程度の白砂粒を含む、石英微細粒含む	外：	にぶい黄橙10YR7/2
												内：	ナナメハケメ(のちナデ？)ヘラミガキ、底ナデ		内：	にぶい黄橙10YR7/2
30‐7	27	弥生土器	(壺もしくは甕)	中期ヵ	M5・M7	SR1	-	-	-	6.0	2個体	外：	タテ方向のミガキ	きめ細かい（わずかに◇1〜2㎜の粒子を含む（白・透明））	外：	浅黄2.5Y7/3
												内：	-		内：	にぶい黄2.5Y6/4
30‐8	28	弥生土器	甕	-	M7	SR1	-	-	-	9.8	内外面煤付着	外：	ヘラミガキ・底面に丁寧なナデ	密（0.5㎜以下の石英、1㎜以下の白色砂粒を含む）	外：	にぶい黄褐10YR5/3
												内：	ヘラケズリヵ		内：	褐灰10YR4/1
30‐9	28	弥生土器	(壺もしくは甕)	中期ヵ	-	SR1	-	-	-	-	調整不明、内外面煤付着	外：	-	きめ細かい（◇1〜2㎜の砂粒をわずかに含む）	外：	淡黄2.5Y8/3
												内：	ミガキヵ		内：	にぶい黄2.5Y6/3
30‐10	28	弥生土器	-	-	M7	SR1	-	-	-	-	調整不明、黒褐色（ススヵ）を呈している	外：	-	きめ細かくしまっている、◇1㎜未満の灰白粒子、半透明の黒光りする粒子を多くふくむ、在地か？	外：	にぶい黄橙10YR6/3
												内：	（ミガキヵ）		内：	黒褐2.5Y3/1
30‐11	28	弥生土器	甕ヵ	中期ヵ	L7	SR1	-	-	-	-	内面指頭圧痕	外：	ハケメ・ナデヵ	きめ細かい・1㎜未満の砂粒を含む	外：	灰黄褐10YR5/2
												内：	ナデヵ・指頭圧痕		内：	黒褐10YR3/1
30‐12	28	弥生土器	壷ヵ	中期ヵ	N6	SR1	-	-	-	-	綾杉文様あり、2条の波状文、外面調整不明、内面付着物質（黄褐色10YR5/6）あり、内面（条痕の可能性あり）	外：	-	◇1〜5㎜の粒子を含む、（◇1〜2㎜の灰白色粒子、◇1〜5㎜の赤橙色粒子）	外：	橙7.5YR6/6
												内：	ハケメ		内：	にぶい黄褐10YR5/4
30‐13	28	弥生土器	鉢ヵ	(中〜後期)ヵ	L7	SR1	-	-	-	-	（口縁部刻目貼付突帯）	外：	口縁端部ヨコナデ・体部タテ方向のヘラミガキ	きめ細かい、◇1㎜未満の砂粒を少し含む	外：	にぶい黄橙10YR7/3
												内：	口縁端部ヨコナデ、体部ハケメ・指頭圧痕・ハケメ		内：	浅黄橙10YR8/3
30‐14	29	弥生土器	甕	-	M7	SR1	-	-	-	8.9	外面磨滅により不明瞭	外：	ナデヵ	やや粗、（3㎜以下の石英・長石・赤色粒・砂礫を多く含む）	外：	にぶい黄橙10YR7/4
												内：	ナナメハケメ・ナデ		内：	灰黄2.5Y6/2
31‐1	29	縄文土器	浅鉢	後期ヵ	O4	SR2	-	-	-	-	内面に段をもつ、全面磨滅していて調整不明	外：	-	密、径2㎜以下の砂粒を多く含む	外：	灰白5Y7/1
												内：	-		内：	黒Hue10Y2/1
31‐2	29	縄文土器	壺ヵ	突帯文	N5	SR2	-	-	-	-	傾き不明、内傾する器形？壺の可能性あるが、鉢、壺にしては径が大きいヵ、擬口縁、突帯文ヵ	外：	-	密、径1㎜以下の砂粒を多く含む	外：	にぶい黄橙10YR7/2
												内：	-		内：	暗灰N3/
31‐3	29	縄文土器	浅鉢	-	L4	SR2	-	(26.6)	-	-	1条の沈線、端部平坦で面をつくる、磨滅していてわかりづらいが外内面にていねいなミガキ、孔たて×よこ＝4×3cm、粘土を貼った接合面が断面に見える	外：	ミガキ	密、径1mm未満の砂粒を多く含む	外：	灰黄2.5Y7/2
												内：	ミガキ		内：	浅黄2.5Y7/3
31‐4	29	縄文土器	深鉢	突帯文	N4	SR2	-	-	-	-	刻目突帯文	外：	-	密、径4〜2㎜大の砂粒を若干含み、1㎜以下の砂粒を多く含む	外：	灰黄褐10YR5/2
												内：	-		内：	灰黄褐10YR6/2
31‐5	29	縄文土器	深鉢	突帯文	M5	SR2	-	-	-	-	刻目突帯文、全体的に磨滅している	外：	-	密、径2㎜以下の砂粒を多く含む	外：	灰黄褐10YR5/2
												内：	-		内：	灰黄褐10YR5/2
31‐6	29	縄文土器	深鉢	突帯文	O4	SR2	-	-	-	-	刻目、刻目突帯文、全体摩耗している	外：	-	密、径1㎜以下の砂粒を多く含む	外：	黄灰2.5Y5/1
												内：	-		内：	灰黄2.5Y7/2
31‐7	29	縄文土器	深鉢	突帯文	N4	SR2	-	-	-	-	二枚貝条痕ヵ、外面わずかに煤残る、内外面ともに磨滅している、刻目突帯文	外：	-	密、径1㎜以下の砂粒を多く含む	外：	暗灰黄2.5Y5/2
												内：	二枚貝条痕ヵ		内：	黒N2/

挿図番号	図版番号	種別	器種	併行型式(時期)	gd	遺構	層位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	特徴	調整		胎土	色調	
31‐8	29	縄文土器	深鉢	突帯文	O4・O5	SR2	-	-	-	-	端部に約5㎜間隔の刻目がある部分（Ⓐ）と、刻目がない部分（Ⓑ）が存在する感じ（破片なので詳しくはわからない）、Ⓐ端部刻目、Ⓐより外反し、刻目なしⒷやや面とり	外：	条痕（のちナデヵ）	◌1㎜前後の砂粒を含む	外：	浅黄2.5Y7/3
												内：	ナデ		内：	浅黄2.5Y7/3
31‐9	31	縄文土器	深鉢	突帯文	N4	SR2	-	(30.4)	-	-	突帯、刻目、突帯文ヵ	外：	-	やや粗、径1㎜以下の砂粒を多く含む	外：	黒褐2.5Y3/2
												内：	-		内：	暗灰黄2.5Y3/2
31‐10	29	縄文土器	深鉢	突帯文	N5	SR2	-	-	-	-	刻目突帯文、磨滅していて調整不明、ナデ	外：	ナデ	密、径1～2㎜大の砂粒をわずかに含み、径1㎜未満の砂粒を多く含む	外：	黄灰2.5Y6/1
												内：	-		内：	黒7.5Y2/1
31‐11	29	縄文土器	鉢	突帯文	N5	SR2	-	-	-	-	磨滅の為、調整不明、刻目突帯	外：	-	やや粗、径2㎜以下の砂粒を多く含む	外：	灰黄2.5Y6/2
												内：	-		内：	黄灰2.5Y5/1
31‐12	29	縄文土器	深鉢	突帯文	M4	SR2	-	-	-	-	刻目突帯文、磨滅していて調整不明	外：	-	密、径3㎜以下の砂粒を多く含む	外：	暗灰黄2.5Y5/2
												内：	-		内：	暗灰黄2.5Y5/2
31‐13	29	縄文土器	深鉢	突帯文	M4	SR2	-	-	-	-	内外面磨滅していて調整不明、刻目突帯文	外：	-	やや粗、径3㎜以下の砂粒を多く含む	外：	にぶい橙5YR6/4
												内：	-		内：	灰黄2.5Y6/2
31‐14	29	縄文土器	深鉢	突帯文	O4	SR2	-	-	-	-	刻目突帯文、全体磨滅していて調整不明	外：	-	密、径2～3㎜以下の砂粒を若干含み、径1㎜以下の砂粒を多く含む	外：	灰白5Y7/2
												内：	-		内：	黒褐2.5Y3/2
31‐15	29	縄文土器	深鉢	突帯文	M5	SR2	-	-	-	-	二枚貝条痕、刻目突帯文、外面全面煤付着、二条突帯	外：	二枚貝条痕	密、径4～2㎜大の砂粒をわずかに含み、径1㎜未満の砂粒を多く含む	外：	灰黄褐10YR5/2
												内：	二枚貝条痕		内：	灰白2.5Y7/1
31‐16	29	縄文土器	深鉢	突帯文	M5	SR2	-	-	-	-	刻目突帯文、外面煤痕、二条突帯	外：	二枚貝条痕・ナデ	密、径1㎜以下の砂粒を多く含む	外：	灰黄褐10YR5/2
												内：	二枚貝条痕		内：	灰白2.5Y7/1
31‐17	29	縄文土器ヵ	-	-	L4	SR2	-	-	-	(9.4)	調整不明	外：	-	◌1～3㎜の砂粒を多く含む	外：	浅黄2.5Y8/3
												内：	-		内：	浅黄2.5Y7/3
31‐18	29	縄文土器	浅鉢	-	N5	SR2	-	-	-	-	精製浅鉢、全体的に磨滅していて調整がわかりにくい	外：	ミガキ	密、径1㎜以下の砂粒を多く含む	外：	灰5Y4/1
												内：	ミガキ		内：	黄灰2.5Y5/1
31‐19	29	縄文土器	浅鉢	-	L7・M7	SR2	-	-	-	-	表面磨滅している、調整不明	外：	粗いミガキ	密、径1㎜未満の砂粒を多く含む	外：	褐灰10YR6/1
												内：	ナデ		内：	灰5Y5/1
31‐20	29	縄文土器	浅鉢(単純)	-	N4	SR2	-	-	-	-	外面磨滅、ナデ、内面丁寧なナデ	外：	ナデ	密、径1㎜以下の砂粒を多く含む雲母含む	外：	浅黄2.5Y7/3
												内：	ミガキ		内：	にぶい黄橙10YR7/4
31‐21	29	縄文土器	浅鉢	-	N4	SR2	-	-	-	-	全面磨滅していて調整わかり難い	外：	ミガキ	密、径2～1㎜の砂粒をわずかに含む、径1㎜未満の砂粒を多く含む	外：	黄灰2.5Y6/1
												内：	ミガキ		内：	黒褐2.5Y3/1
31‐22	29	縄文土器	浅鉢ヵ	-	N4・O4	SR2	-	-	-	-	-	外：	ナデヵ	きめ細かい、◌1㎜未満の砂粒を含む	外：	黒褐2.5Y3/1
												内：	ナデヵ		内：	黄灰2.5Y4/1
31‐23	29	縄文土器ヵ	深鉢ヵ	-	O4	SR2	-	-	-	-	-	外：	ナデヵ	◌1～3㎜の砂粒を含む、（灰白色、赤褐色粒子を含む）	外：	浅黄2.5Y7/3
												内：	ナデヵ		内：	浅黄2.5Y7/3
31‐24	29	縄文土器ヵ	深鉢ヵ	-	M4	SR2	-	-	-	-	調整不明、褐色物質（暗オリーブ5Y4/4）付着	外：	-	◌1㎜未満の砂粒を多く含む、（灰白色礫を含む）	外：	浅黄2.5Y7/3
												内：	-		内：	浅黄2.5Y7/3
31‐25	30	弥生土器	-	前期ヵ	M4	SR2	-	-	-	7.6	調整不明（風化のため）、底部はもともとの段差か、粘土がとれたか不明	外：	-	◌1～2㎜の砂粒を含む、比較的密	外：	淡黄2.5Y8/4
												内：	-		内：	淡黄2.5Y8/3
31‐26	29	弥生土器	不明	中期ヵ	O4	SR2	-	-	-	-	（口縁端部）一条の凹線	外：	ヨコナデ	きめ細かい、1～3㎜の砂粒を少し含む	外：	にぶい黄橙10YR7/3
												内：	ヨコナデ		内：	灰黄褐10YR6/2
33‐1	31	縄文土器	深鉢	-	O4・O5	SR3	-	(15.2)	-	-	-	外：	-	密、径3㎜以下の砂粒多く含む	外：	黄灰2.5Y4/1
												内：	-		内：	黒褐2.5Y3/1
33‐2	31	縄文土器	深鉢	-	N6	SR3	-	-	-	-	磨滅していて調整不明、刻目	外：	-	密、径1㎜以下の砂粒を多く含む	外：	にぶい赤褐2.5YR5/4
												内：	-		内：	灰褐7.5YR5/2

挿図番号	図版番号	種別	器種	併行型式(時期)	gd	遺構	層位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	特徴	調整		胎土	色調	
33‐3	31	縄文土器	深鉢	-	N6	SR3	-	-	-	-	刻目	外：	-	やや粗、径3㎜以下の砂粒を多く含む	外：	灰黄褐10YR5/2
												内：	-		内：	にぶい黄橙10YR7/2
33‐4	31	縄文土器	深鉢	-	N5	SR3	-	-	-	-	刻目、刻目突帯	外：	-	やや粗、径2㎜以下の砂粒を多く含む	外：	黄灰2.5Y6/1
												内：	-		内：	にぶい黄橙10YR6/4
33‐5	31	縄文土器	深鉢	突帯文	O5	SR3	-	-	-	-	刻目突帯文欠損、刻目	外：	-	やや粗、径2㎜以下の砂粒多く含む	外：	黒N2/
												内：	-		内：	暗灰N3/
33‐6	31	縄文土器	深鉢	突帯文	M5	SR3	-	-	-	-	刻目突帯文、煤残る、刻目	外：	-	密、径1㎜以下の砂粒を多く含む	外：	黒褐2.5Y3/1
												内：	-		内：	褐灰10YR4/1
33‐7	31	縄文土器	深鉢	突帯文	N5	SR3	-	-	-	-	突帯文、刻目	外：	-	やや粗、径3㎜以下の砂粒多く含む	外：	灰黄2.5Y6/2
												内：	-		内：	灰オリ‐ブ7.5Y5/2
33‐8	31	縄文土器	深鉢	突帯文	N5	SR3	-	(28.8)	-	-	刻目突帯文、外面条痕	外：	条痕	やや粗、径4～2㎜大の砂粒を若干含む、径1㎜以下の砂粒を多く含む	外：	黄灰2.5Y5/1
												内：	-		内：	にぶい黄2.5Y6/3
33‐9	31	縄文土器	深鉢	突帯文	N5	SR3	-	-	-	-	刻目突帯文	外：	ナデ	密、径2㎜以下の砂粒を多く含む	外：	黄褐2.5Y5/3
												内：	-		内：	黒N2/
33‐10	31	縄文土器	深鉢	突帯文	N5	SR3	-	-	-	-	突帯文、浅い刻目、焼痕はほぼ全面に残る	外：	-	密、径1㎜以下の砂粒を多く含む	外：	にぶい黄褐10YR5/3
												内：	-		内：	にぶい黄2.5Y6/3
33‐11	31	縄文土器	深鉢	突帯文	N6	SR3	-	-	-	-	刺突文	外：	条痕	密、径1㎜以下の砂粒を若干含む	外：	暗灰黄2.5Y4/2
												内：	条痕		内：	灰黄2.5Y7/2
33‐12	31	縄文土器	深鉢	突帯文	N5	SR3	-	-	-	-	磨滅していて調整不明、刻目突帯文	外：	-	やや粗、径2㎜以下の砂粒を多く含む	外：	明黄灰2.5Y7/6
												内：	-		内：	明黄褐10YR6/6
33‐13	31	縄文土器	深鉢	突帯文	N5	SR3	-	-	-	-	外内面共に磨滅している、刻目突帯文、二条突帯、一部煤残る	外：	ナデ	密、径2㎜以下の砂粒を多く含む	外：	褐灰10YR5/1
												内：	ナデ？		内：	黒褐10YR3/1
33‐14	31	縄文土器	深鉢	突帯文	N6	SR3	-	-	-	-	刻目突帯文、二条突帯、胴部突帯	外：	ナデヵ	やや粗、径3㎜大の砂粒をわずかに含む、径1㎜以下の砂粒を多く含む	外：	灰黄褐10YR5/2
												内：	二枚貝条痕		内：	灰N4/
33‐15	31	縄文土器	深鉢	突帯文	N6	SR3	-	-	-	-	刻目突帯文、二条突帯	外：	二枚貝条痕	やや粗、径3㎜大の砂粒をわずかに含む、径1㎜以下の砂粒を多く含む	外：	浅黄2.5Y7/3
												内：	二枚貝条痕		内：	黄灰2.5Y5/1
34‐1	31	縄文土器	深鉢	-	N5	SR3	-	-	-	-	内面磨滅調整不明	外：	二枚貝条痕・ナデ	密、径1㎜以下の砂粒を多く含む	外：	浅黄橙7.5YR8/6
												内：	-		内：	灰白2.5Y8/2
34‐2	31	縄文土器	浅鉢	-	N6	SR3	-	-	-	-	沈線状の段	外：	ミガキ	やや粗、径1㎜以下の砂粒を多く含む	外：	灰黄褐10YR6/2
												内：	ミガキ		内：	暗灰N3/
34‐3	31	縄文土器	浅鉢	-	N6	SR3	-	-	-	-	接合しているのがわかる	外：	ミガキ	密、径1㎜以下の砂粒を多く含む	外：	黒5Y2/1
												内：	ミガキ		内：	黒2.5Y2/1
34‐4	31	縄文土器	浅鉢	-	N5	SR3	-	-	-	-	-	外：	ミガキ	やや粗、径1㎜以下の砂粒を多く含む	外：	黒N＊1.5/
												内：	ミガキ		内：	灰7.5Y4/1
36‐1	32	縄文土器	深鉢	-	L5	-	3層	-	-	-	-	外：	巻貝条痕	密、径1㎜以下の砂粒を多く含む	外：	暗灰黄2.5Y4/2
												内：	巻貝条痕ヵ		内：	にぶい黄褐10YR5/3
36‐2	32	縄文土器	浅鉢	-	L5	-	3層	-	-	-	三田谷文様土器 火をうけているよう（破面も） →彩文土器（49-1）の様相に似る、内面風化している	外：	ヨコ方向のミガキヵ	◊1㎜未満の粒子を多く含む（特に灰白色粒子）	外：	灰黄2.5Y6/2、黄灰2.5Y4/1
												内：	ヨコ方向のミガキ		内：	暗灰黄2.5Y5/2

挿図番号	図版番号	種別	器種	併行型式(時期)	gd	遺構	層位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	特徴	調整		胎土	色調	
36‐3	32	縄文土器	深鉢	-	M6	-	3層	-	-	-	条痕ヵ、内面磨滅のため不明	外：	条痕ヵ	やや粗、径1㎜以下の砂粒を多く含む	外：	にぶい黄橙10YR7/3
												内：	-		内：	にぶい橙7.5YR7/4
36‐4	32	縄文土器	注口土器	-	L5	-	3層	-	-	-	全面磨滅していて調整不明	外：	-	やや粗、径3㎜以下の砂粒を多く含む	外：	灰白2.5Y8/2
												内：	-		内：	灰白2.5Y8/2
36‐5	32	縄文土器	深鉢	突帯文	L6	-	3層	-	-	-	突帯、斜行するV字の刻目	外：	ナデ	5㎜以下の砂粒	外：	灰黄褐10YR6/2
												内：	ナデ		内：	にぶい黄褐10YR5/3
36‐6	32	縄文土器	深鉢	突帯文	L6	-	3層	-	-	-	突帯、斜行V字	外：	ナデ	3㎜以下の砂粒	外：	灰黄2.5Y7/2
												内：	ナデ		内：	オリ‐ブ黒7.5Y3/1
36‐7	32	縄文土器	深鉢	突帯文	L6	-	3層	-	-	-	突帯、斜めV(Ⅰ)字形の刻目、垂下隆帯	外：	ナデ	2㎜以下の砂礫を含む	外：	灰白2.5Y8/2
												内：	ナデ		内：	浅黄2.5Y7/3
36‐8	32	縄文土器	深鉢	突帯文	L4	-	3層	-	-	-	突帯、V字形の刻目	外：	ナデ	1㎜以下の砂礫	外：	黒褐10YR3/2
												内：	ナデ		内：	にぶい黄橙10YR6/3
36‐9	32	縄文土器	深鉢	突帯文	L4	-	3層	-	-	-	突帯、V字形	外：	ナデ	5㎜以下の砂粒	外：	灰黄2.5Y7/2
												内：	ナデ		内：	灰黄2.5Y7/2
36‐10	32	縄文土器	深鉢	突帯文	L4	-	3層	-	-	-	突帯、縦および斜め方向にI字形の刻目	外：	ナデ	4㎜以下の砂粒	外：	灰黄2.5Y7/2
												内：	ナデ		内：	灰白2.5Y8/2
36‐11	32	縄文土器	深鉢	突帯文	L4	-	3層	-	-	-	突帯、斜行I字形	外：	ナデ	4㎜以下の砂粒	外：	にぶい黄橙10YR7/4
												内：	ナデ		内：	灰黄2.5Y7/2
36‐12	32	縄文土器	深鉢	突帯文	L5	-	3層	-	-	-	突帯、斜めI字、やや磨滅、刻目斜行	外：	ナデ	3㎜以下の砂粒	外：	灰黄褐10YR5/2
												内：	ナデ		内：	にぶい黄橙10YR7/2
36‐13	32	縄文土器	深鉢	突帯文	-	-	3層	-	-	-	斜めI字、刻目	外：	ナデ	3㎜以下の砂粒	外：	にぶい黄褐10YR5/3
												内：	ナデ		内：	にぶい黄橙10YR7/2
36‐14	32	縄文土器	深鉢	突帯文	L4	-	3層	-	-	-	突帯、不整形の刺突	外：	ナデ	4㎜以下の砂粒	外：	灰黄褐10YR6/2
												内：	ナデ		内：	にぶい黄橙10YR7/2
36‐15	32	縄文土器	深鉢	突帯文	L6	-	3層	-	-	-	突帯、円形刺突？（磨滅している）	外：	ナデ	5㎜以下の砂粒	外：	にぶい黄橙10YR7/3
												内：	ナデ		内：	にぶい橙5YR7/4
36‐16	32	縄文土器	深鉢	突帯文	L4	-	3層	-	-	-	突帯、管状の工具による刺突	外：	ナデ	3㎜以下の砂粒	外：	にぶい黄2.5Y6/3
												内：	ナデ		内：	灰黄褐10YR6/2
36‐17	32	縄文土器	深鉢	突帯文	L6	-	3層	-	-	-	突帯、円形状の刺突、内面磨滅	外：	ナデ	4㎜以下の砂粒	外：	灰白2.5Y8/1
												内：	磨滅		内：	赤橙10R6/6
36‐18	32	縄文土器	深鉢	突帯文	M4	-	3層	34.2	-	-	（無刻目）突帯文、内外面磨滅	外：	磨滅	7㎜以下の砂粒を含む	外：	灰黄褐10YR7/2
												内：	磨滅		内：	灰黄2..5Y7/2
36‐19	32	縄文土器	深鉢	突帯文	L5	-	3層	-	-	-	（無刻目）突帯文	外：	ナデ	3㎜以下の砂粒	外：	褐灰10YR5/1
												内：	ナデ		内：	褐灰10YR5/1
36‐20	32	縄文土器	深鉢	突帯文	M5	-	3層	-	-	-	（無刻目）突帯文	外：	ナデ	4㎜以下の砂粒	外：	灰黄2.5Y6/2
												内：	ナデ		内：	黄灰2.5Y4/2
36‐21	32	縄文土器	深鉢	突帯文	M5	-	3層	-	-	-	（無刻目）突帯文	外：	ナデ	2㎜以下の砂粒	外：	灰黄褐10YR5/2
												内：	ナデ		内：	灰黄褐10YR4/2

挿図番号	図版番号	種別	器種	併行型式(時期)	gd	遺構	層位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	特徴	調整		胎土	色調	
36‐22	32	縄文土器	深鉢	突帯文	L4	-	3層	-	-	-	（無刻目）突帯文	外：	ナデ	2㎜以下の砂粒	外：	褐灰10YR5/1
												内：	ナデ		内：	黒7.5Y2/1
36‐23	32	縄文土器	浅鉢	突帯文	M6	-	3層	-	-	-	沈線文、口縁端部欠損	外：	ミガキ	1㎜以下の砂粒を含む	外：	暗灰黄2.5Y5/2
												内：	ミガキ・ナデ		内：	黒N2/
36‐24	32	弥生土器	甕	前期ヵ	M4	-	3層	-	-	8.2	内外面磨滅により調整不明	外：	-	密、（1㎜以下の石英、3㎜以下の長石、4㎜以下の砂粒、赤色粒子を多量に含む）	外：	10YR7/3にぶい黄橙、5YR7/4にぶい橙
												内：	-		内：	10YR7/3にぶい黄橙
38‐1	33	縄文土器	深鉢	突帯文	M5・M6	-	3～5層	-	-	-	口縁端部D字形、突帯V字形	外：	ナデ	3㎜以下の砂粒を含む	外：	暗オリ‐ブ褐2.5Y3/3
												内：	ナデ		内：	灰黄2.5Y6/2
38‐2	33	縄文土器	深鉢	突帯文	M5・M6	-	3～5層	-	-	-	口縁端部斜行I字形、突帯、V字形	外：	ナデ	5㎜以下の砂粒を含む	外：	黒N＊1.5/
												内：	ナデ		内：	灰黄2.5Y7/2
38‐3	33	縄文土器	深鉢	突帯文	M5・M6	-	3～5層	-	-	-	口縁端部刺突(丸みのある工具で刺突)、突帯、不整形なV字	外：	ナデ	4㎜以下の砂粒を含む	外：	オリ‐ブ黒7.5Y3/1
												内：	ナデ		内：	オリ‐ブ黒7.5Y3/1
38‐4	33	縄文土器	深鉢	突帯文	M5・M6	-	3～5層	-	-	-	口縁端部I字形、突帯V字形	外：	ナデ	5㎜以下の砂粒を含む	外：	黒N＊1.5/
												内：	ナデ		内：	灰5Y4/1
38‐5	33	縄文土器	深鉢	突帯文	M5・M6	-	3～5層	-	-	-	突帯、D字形刻目、口縁端部面取り	外：	ナデ	6㎜以下の砂粒を含む	外：	にぶい黄橙10YR7/3
												内：	ナデ		内：	にぶい黄橙10YR7/2
38‐6	33	縄文土器	深鉢	突帯文	M5・M6	-	3～5層	-	-	-	突帯、V字形の刻目	外：	ナデ	2㎜以下の砂粒を含む	外：	黄灰2.5Y5/1
												内：	ナデ		内：	灰7.5Y4/1
39‐1	33・34	縄文土器	深鉢	孔列（文）土器	L6	-	5層	-	-	-	孔列（文）土器 穿孔（外から内へ）	外：	ナデ	3㎜以下の砂粒を含む	外：	にぶい橙5YR6/4
												内：	ナデ		内：	橙5YR6/8
39‐2	34	縄文土器	深鉢	-	L4	-	5層	-	-	-	口縁端部V字形の刻目	外：	ナデ	4㎜以下の砂粒	外：	黄灰2.5Y4/1
												内：	ナデ		内：	黄灰2.5Y4/1
39‐3	34	縄文土器	深鉢	-	L4	-	5層	-	-	-	口縁端部刻目、丸い棒側面押し付け	外：	ナデ	4㎜以下の砂粒	外：	にぶい褐7.5YR5/3
												内：	ナデ		内：	にぶい黄橙10YR6/3
39‐4	34	縄文土器	深鉢	突帯文	M4～M6	-	5層	-	-	-	突帯逆D字、口縁端部V字状の刻目	外：	ナデ	2㎜以下の砂粒を含む	外：	黒2.5Y3/2
												内：	ナデ		内：	黒7.5Y2/1
39‐5	34	縄文土器	深鉢	-	M6	-	5層	-	-	-	突帯、D字形の刻目	外：	ナデ	2㎜以下の砂粒を含む	外：	にぶい黄褐10YR5/3
												内：	ナデ		内：	黒N2/
39‐6	34	縄文土器	深鉢	突帯文	M4～M6	-	5層	-	-	-	突帯、V字形の刻目	外：	ナデ	2㎜以下の砂粒を含む	外：	黒褐2.5Y3/2
												内：	ナデ		内：	暗灰黄2.5Y5/2
39‐7	34	縄文土器	A	突帯文	L7	-	5層	-	-	-	突帯、V字形の刻目	外：	ナデ	3㎜以下の砂粒	外：	灰黄褐10YR4/2
												内：	ナデ		内：	黄灰2.5Y4/1
39‐8	34	縄文土器	深鉢	突帯文	M4～M6	-	5層	-	-	-	突帯、V字形の刻目	外：	ナデ	3㎜以下の砂粒	外：	暗灰黄2.5Y5/2
												内：	ナデ		内：	浅黄2.5Y7/3
39‐9	34	縄文土器	深鉢	突帯文	M5	-	5層	-	-	-	突帯、V字形の刻目	外：	ナデ	3㎜以下の砂礫を含む	外：	暗灰黄2.5Y5/2
												内：	ナデ		内：	灰黄褐10YR5/2
39‐10	34	縄文土器	深鉢	-	M6	-	5層	-	-	-	突帯、逆D字、I字形の刻目	外：	ナデ	2㎜以下の砂粒	外：	暗灰黄2.5Y5/2
												内：	ナデ		内：	黄灰2.5Y6/1

挿図番号	図版番号	種別	器種	併行型式(時期)	gd	遺構	層位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	特徴	調整		胎土	色調	
39‐11	34	縄文土器	深鉢	突帯文	M6	-	5層	-	-	-	突帯、V字形の刻目	外：	ナデ	2㎜以下の砂粒	外：	灰黄褐10YR5/2
												内：	ナデ		内：	灰5Y6/1
39‐12	34	縄文土器	深鉢	突帯文	M6	-	5層	-	-	-	突帯、V字形の刻目	外：	ナデ	3㎜以下の砂粒	外：	灰黄褐10YR5/2
												内：	ナデ		内：	にぶい黄橙10YR5/3
39‐13	34	縄文土器	深鉢	-	L6	-	5層	-	-	-	突帯、V字形の刻目	外：	ナデ	2㎜以下の砂粒	外：	灰黄褐10YR4/2
												内：	ナデ		内：	黒7.5Y2/1
39‐14	34	縄文土器	浅鉢	-	M6	-	5層	-	-	-	外面磨滅のため不明、波状口縁となる	外：	磨滅	2㎜以下の砂粒	外：	浅黄2.5Y7/3
												内：	弱いミガキ		内：	灰黄2.5Y6/2
39‐15	34	縄文土器	浅鉢	突帯文	M6	-	5層	-	-	-	-	外：	ミガキ	2㎜以下の砂粒	外：	褐灰10YR5/1
												内：	ミガキ		内：	暗灰N3/
39‐16	34	縄文土器	浅鉢	-	M5	-	5層	-	-	-	磨滅の為不明	外：	磨滅	3㎜以下の砂粒	外：	明褐7.5YR5/8
												内：	磨滅		内：	灰白10YR7/1
39‐17	34	縄文土器	浅鉢	突帯文	M6	-	5層	-	-	-	磨滅の為不明	外：	ミガキ・磨滅	3㎜以下の砂粒	外：	黄灰2.5Y6/1
												内：	磨滅		内：	にぶい橙7.5YR7/4
39‐18	34	縄文土器	浅鉢	-	M6	-	5層	-	-	-	-	外：	ミガキ	1㎜以下の砂粒を含む	外：	褐灰10YR4/1
												内：	ミガキ		内：	黄灰2.5Y4/1
39‐19	34	縄文土器	浅鉢	-	M6	-	5層	-	-	-	外面磨滅の為不明	外：	磨滅	2㎜以下の砂粒	外：	灰黄褐10YR6/2
												内：	ミガキ		内：	灰N4/
40‐1	34	縄文土器	深鉢	-	M6	-	5〜6層	-	-	-	二枚貝条痕、口縁端部V字形の刻目	外：	ナデ	4㎜以下の砂粒を含む	外：	灰黄2.5Y7/2
												内：	ナデ		内：	灰黄2.5Y7/2
40‐2	34	縄文土器	深鉢	突帯文	M6	-	5〜6層	-	-	-	突帯、縦方向の押引、口縁端部縦方向の押引	外：	ナデ	2㎜以下の砂粒を含む	外：	にぶい黄褐10YR5/3
												内：	ナデ		内：	にぶい黄褐10YR5/3
40‐3	34	縄文土器	-	突帯文	M6	-	5〜6層	-	-	-	突帯文、口縁端部C字形の刻目、縦方向に押引、V字形の刻目、突帯‐縦方向に棒状工具を押引	外：	ナデ	3㎜以下の砂粒を含む	外：	灰黄褐10YR4/2
												内：	ナデ		内：	灰黄褐10YR4/2
40‐4	34	縄文土器	深鉢	-	M6	-	5〜6層	-	-	-	突帯、D字形の刻目、V字形の刻目	外：	ナデ	6㎜以下の砂粒	外：	黒N＊1.5/
												内：	ナデ		内：	黒N＊1.5/
40‐5	34	縄文土器	深鉢	突帯文	M6	-	5〜6層	-	-	-	突帯、D字形の刻目、口縁端部D字形の刻目	外：	ナデ	3㎜以下の砂粒	外：	灰黄褐10YR4/2
												内：	ナデ		内：	黒N＊1.5/
40‐6	34	縄文土器	深鉢	突帯文	M4	-	5〜6層	-	-	-	突帯、斜めV字形の刻目、口縁端部V字形の刻目	外：	ナデ	5㎜以下の砂粒を含む	外：	黄灰2.5Y4/1
												内：	ナデ		内：	灰白2.5Y8/2
40‐7	34	縄文土器	深鉢	突帯文	M6	-	5〜6層	-	-	-	突帯、口縁端部D字形刻目、V字形の刻目（棒の側面押しあてる）	外：	ナデ	3㎜以下の砂粒	外：	にぶい黄橙10YR5/3
												内：	ナデ		内：	橙5YR6/6
40‐8	34	縄文土器	深鉢	突帯文	M6	-	5〜6層	-	-	-	突帯、ごく浅いD字形、口縁端部D字形（押引）	外：	ナデ	3㎜以下の砂粒	外：	灰白10YR8/2
												内：	ナデ		内：	灰白2.5Y7/1
40‐9	34	縄文土器	深鉢	-	M6	-	5〜6層	-	-	-	突帯、V字形の刻目	外：	ナデ	5㎜以下の砂粒	外：	灰黄褐10YR4/2
												内：	ナデ		内：	灰N4/
40‐10	34	縄文土器	深鉢	突帯文	M6	-	5〜6層	-	-	-	突帯‐V字形の刻目、口縁端部V字形の刻目	外：	ナデ	2㎜以下の砂粒	外：	灰黄褐10YR5/2
												内：	ナデ		内：	黒褐10YR3/1

挿図番号	図版番号	種別	器種	併行型式(時期)	gd	遺構	層位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	特徴	調整		胎土	色調	
40‐11	34	縄文土器	深鉢	-	M6	-	5〜6層	-	-	-	突帯、ヘラによる楕円形の刻目	外：	ナデ	2㎜以下の砂粒	外：	灰黄褐10YR4/2
												内：	ナデ		内：	灰黄2.5Y7/2
40‐12	34	縄文土器	深鉢	-	M6	-	5〜6層	-	-	-	突帯、D字形刻目	外：	ナデ	5㎜以下の砂粒を含む	外：	灰黄2.5Y7/2
												内：	ナデ		内：	にぶい黄橙10YR6/4
40‐13	34	縄文土器	深鉢	突帯文	M6	-	5〜6層	-	-	-	突帯、D字形刻目	外：	ナデ	2㎜以下の砂粒を含む	外：	灰黄褐10YR5/2
												内：	ナデ		内：	黄灰2.5Y6/1
40‐14	34	縄文土器	深鉢	突帯文	M6	-	5〜6層	-	-	-	突帯、斜めI字形の刻目	外：	ナデ	3㎜以下の砂粒	外：	黄灰2.5Y6/1
												内：	ナデ		内：	にぶい黄橙10YR7/2
40‐15	34	縄文土器	深鉢	突帯文	M6	-	5〜6層	-	-	-	突帯、D字形刻目	外：	ナデ	2㎜以下の砂粒を含む	外：	灰白2.5Y7/1
												内：	ナデ		内：	灰白2.5Y8/1
40‐16	34	縄文土器	深鉢	突帯文	M6	-	5〜6層	-	-	-	突帯、V字形刻目	外：	ナデ	4㎜以下の砂粒	外：	灰白5Y7/1
												内：	ナデ		内：	黄灰2.5Y5/1
40‐17	34	縄文土器	深鉢	-	M6	-	5〜6層	-	-	-	突帯、V字形刻目	外：	ナデ	2㎜以下の砂粒	外：	黄灰2.5Y4/1
												内：	ナデ・二枚貝条痕		内：	黒褐2.5Y3/1
40‐18	34	縄文土器	深鉢	-	M6	-	5〜6層	-	-	-	突帯、V字形刻目	外：	ナデ	3㎜以下の砂粒	外：	灰黄2.5Y6/2
												内：	ナデ		内：	灰5Y6/1
40‐19	34	縄文土器	深鉢	-	M6	-	5〜6層	-	-	-	突帯、D字形の刻目	外：	ナデ・二枚貝条痕	3㎜以下の砂粒を含む	外：	灰白2.5Y7/1
												内：	ナデ		内：	黄灰2.5Y4/1
40‐20	34	縄文土器	深鉢	-	M6	-	5〜6層	-	-	-	突帯、D字形の刻目	外：	ナデ・二枚貝条痕	2㎜以下の砂粒を含む	外：	灰黄2.5Y6/2
												内：	ナデ・二枚貝条痕		内：	黒5Y2/1
40‐21	34	縄文土器	深鉢	突帯文	M6	-	5〜6層	-	-	-	突帯‐V字形の刻目（二枚貝の可能性あり）	外：	ナデ	4㎜以下の砂粒を含む	外：	黒褐2.5Y3/1
												内：	ナデ		内：	黒褐2.5Y3/2
40‐22	34	縄文土器	深鉢	-	M6	-	5〜6層	-	-	-	突帯‐V字形の刻目	外：	ナデ	2㎜以下の砂粒	外：	暗灰黄2.5Y5/2
												内：	ナデ		内：	黄灰2.5Y4/1
40‐23	35	縄文土器	浅鉢	-	M6	-	5〜6層	-	-	-	-	外：	ミガキ	2㎜以下の砂粒を含む	外：	褐灰10YR4/1
												内：	ミガキ		内：	黒7.5Y2/1
40‐24	35	縄文土器	浅鉢	-	M6	-	5〜6層	-	-	-	-	外：	ミガキ	2㎜以下の砂粒を含む	外：	灰黄褐10YR5/2
												内：	ミガキ		内：	黄灰2.5Y4/1
40‐25	35	縄文土器	浅鉢	突帯文	M4	-	5〜6層	-	-	-	-	外：	ミガキ	1㎜以下の砂粒を含む	外：	灰5Y4/1
												内：	ミガキ		内：	灰5Y4/1
40‐26	35	縄文土器	浅鉢	突帯文	M6	-	5〜6層	-	-	-	-	外：	ミガキ	1㎜以下の砂粒を含む	外：	黄灰2.5Y4/1
												内：	ミガキ		内：	灰5Y4/1
40‐27	35	縄文土器	浅鉢	突帯文	L6	-	5〜6層	-	-	-	-	外：	ミガキ	1㎜以下の砂粒を含む	外：	黒N2/
												内：	ミガキ		内：	暗灰N3/
40‐28	35	縄文土器	浅鉢	突帯文	M6	-	5〜6層	-	-	-	-	外：	ミガキ	2㎜以下の砂粒を含む	外：	黒5Y2/1
												内：	ミガキ		内：	灰5Y4/1
40‐29	35	縄文土器	浅鉢	突帯文	M4	-	5〜6層	-	-	-	-	外：	ミガキ	1㎜以下の砂粒を含む	外：	黒7.5Y2/1
												内：	ミガキ		内：	黒5Y2/1

挿図番号	図版番号	種別	器種	併行型式(時期)	gd	遺構	層位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	特徴	調整		胎土	色調	
40‐30	35	縄文土器	浅鉢	突帯文	M4	-	5〜6層	-	-	-	外面に炭化物付着	外：	ナデ	5㎜以下の砂粒を含む	外：	黄灰2.5Y4/1
												内：	ナデ		内：	黄灰2.5Y5/1
40‐31	35	縄文土器	浅鉢	突帯文	M6	-	5〜6層	-	-	-	研磨	外：	ミガキ・ナデ	2㎜以下の砂粒を含む	外：	灰黄2.5Y7/2
												内：	ミガキ		内：	灰黄2.5Y6/2
40‐32	35	縄文土器	浅鉢	突帯文	M4	-	5〜6層	-	-	-	外面黒色磨研、穀物混入の可能性あり	外：	ミガキ	1㎜以下の砂粒を含む	外：	オリ‐ブ黒5Y3/1
												内：	粗いミガキ		内：	黄灰2.5Y4/1
40‐33	35	縄文土器	浅鉢	突帯文	M6	-	5〜6層	-	-	-	-	外：	ミガキ	1㎜以下の砂粒を含む	外：	黄灰2.5Y4/1
												内：	ミガキ		内：	黒2.5Y2/1
40‐34	35	縄文土器	浅鉢	-	L6	-	5〜6層	-	-	6.0	底部凹んでいる	外：	ミガキ・ナデ	3㎜以下の砂粒を含む	外：	灰黄2.5Y7/2
												内：	弱いミガキ		内：	黄灰2.5Y5/1
40‐35	35	縄文土器	浅鉢	-	M6	-	5〜6層	-	-	7.6	-	外：	ナデ	2㎜以下の砂粒を含む	外：	にぶい黄橙10YR6/3
												内：	ナデ		内：	にぶい黄橙10YR7/4
47‐1	35	縄文土器	深鉢	突帯文	L4	土器だまり1	6層	-	-	-	口縁端部D、V字形の刻目、突帯‐D字形の刻目	外：	ナデ・二枚貝条痕	5㎜以下の砂粒	外：	にぶい黄橙10YR7/3
												内：	ナデ		内：	にぶい黄橙10YR7/2
47‐2	35	縄文土器	深鉢	突帯文	L4	土器だまり1	6層	-	-	-	刻目突帯、内面磨滅していて調整不明	外：	-	密、径1㎜未満の砂粒を多く含む	外：	暗灰黄2.5Y4/2
												内：	-		内：	黄灰2.5Y5/1
47‐3	35	縄文土器	深鉢	突帯文	L4	土器だまり1	6層	-	-	-	刻目突帯	外：	-	密、1〜4㎜大の砂粒をわずかに含み、径1㎜未満の砂粒を多く含む	外：	黒N2/
												内：	-		内：	黒N＊1.5/
47‐4	35	縄文土器	浅鉢	突帯文	L4	土器だまり1	6層	23.4	-	-	-	外：	ミガキ	1㎜以下の砂粒を含む	外：	灰黄褐10YR6/2
												内：	ミガキ		内：	橙7.5YR6/6
47‐6	36	縄文土器	深鉢	突帯文	L5	土器だまり1	6層	-	-	-	刻目	外：	条痕	◌1〜4㎜の粒子を含む	外：	灰5Y4/1
												内：	条痕		内：	オリ‐ブ黒5Y3/1
47‐7	36	縄文土器	浅鉢	-	M5	土器だまり1	6層	-	-	-	煤痕残る、1条ヘラ沈線	外：	-	密、径0.5㎜以下の砂粒を多く含む	外：	黒7.5Y2/1
												内：	ミガキ		内：	黒7.5Y2/1
47‐8	36	縄文土器	深鉢	突帯文	M5	土器だまり1	6層	-	-	-	口縁端部刻目、刻目突帯文	外：	-	密、径1mm以下の砂粒を多く含む	外：	灰白2.5Y7/1
												内：	-		内：	黒2.5Y2/1
47‐9	36	縄文土器	深鉢	突帯文	M5	土器だまり1	6層	-	-	-	刻目、刻目突帯文	外：	巻貝条痕ヵ	密、径1㎜以下の砂粒を多く含む	外：	にぶい黄橙10YR7/2
												内：	巻貝条痕ヵ		内：	褐灰10YR4/1
47‐10	36	縄文土器	深鉢	突帯文	L5	土器だまり1	6層	-	-	-	（口縁端部、口縁部）刻目、（施文主体は二枚貝ヵ）	外：	ナデヵ	◌1〜2㎜の砂粒を含む	外：	灰7.5Y4/1
												内：	ヨコ方向のハケメのような調整		内：	オリ‐ブ黒5Y3/1
47‐11	36	縄文土器	深鉢	突帯文	M5	土器だまり1	6層	-	-	-	口縁端部刻目、刻目突帯文	外：	条痕	密、径0.5㎜以下の砂粒を多く含む	外：	暗灰N3/
												内：	条痕		内：	オリ‐ブ黒5Y3/1
47‐12	36	縄文土器	深鉢	突帯文	M5	土器だまり1	6層	-	-	-	口縁端部刻目、刻目突帯文	外：	-	密、径1㎜以下の砂粒を多く含む	外：	にぶい黄橙10YR7/2
												内：	-		内：	褐灰10YR4/1
47‐13	36	縄文土器	深鉢	突帯文	M5	土器だまり1	6層	-	-	-	口縁端部刻目、刻目突帯文、うすく煤残る、全体的に磨滅している	外：	-	密、径1㎜以下の砂粒を多く含む	外：	灰白7.5Y8/1
												内：	-		内：	黒N2/
47‐14	36	縄文土器	深鉢	突帯文	L5	土器だまり1	6層	-	-	-	口縁端部刻目、刻目突帯文	外：	巻貝条痕・ナデ	密、径2㎜以下の砂粒を多く含む	外：	にぶい黄橙10YR7/2
												内：	巻貝条痕		内：	暗灰黄2.5YR5/2

挿図番号	図版番号	種別	器種	併行型式(時期)	gd	遺構	層位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	特徴	調整		胎土	色調	
47‐15	36	縄文土器	深鉢	突帯文	M5	土器だまり1	6層	-	-	-	刻目突帯文、内面磨滅していて不明	外：	条痕ヵ	密、径1㎜未満の砂粒を多く含む	外：	黒褐2.5Y3/1
												内：	ナデヵ		内：	灰黄褐10YR5/2
47‐16	36	縄文土器	深鉢	突帯文	L4	土器だまり1	6層	-	-	-	刻目突帯文、二条突帯	外：	ミガキ	密、径1㎜以下の砂粒を多く含む	外：	灰黄2.5Y6/2
												内：	ミガキ		内：	暗灰黄2.5Y4/2
47‐17	36	縄文土器	深鉢	突帯文	M4	土器だまり1	6層	-	-	-	刻目突帯文、煤一部残る、全体磨滅していて調整不明	外：	-	密、径2㎜以下の砂粒を多く含む	外：	灰黄褐10YR4/2
												内：	-		内：	にぶい黄橙10YR7/3
47‐18	36	縄文土器	浅鉢	-	M5	土器だまり1	6層	-	-	-	-	外：	ミガキ	密、径1㎜以下の砂粒をわずかに含む	外：	黒5Y2/1
												内：	ミガキ		内：	灰5Y5/1
47‐19	36	縄文土器	浅鉢	-	M5	土器だまり1	6層	-	-	-	煤痕残る、沈線	外：	粗いミガキ	やや粗、径0.5㎜以下の砂粒を多く含む	外：	黒褐2.5Y3/1
												内：	ミガキ		内：	黒7.5Y2/1
47‐20	36	縄文土器	深鉢	-	L4	土器だまり1	6層	-	-	-	-	外：	条痕	密、径1㎜以下の砂粒を多く含む	外：	灰黄2.5Y7/2
												内：	巻貝条痕		内：	黄灰2.5Y5/1
47‐21	36	縄文土器	深鉢	-	L4	土器だまり1	6層	-	-	-	沈線文、刺突文、内面磨滅していて調整不明	外：	ミガキ	密、径2㎜以下の砂粒を多く含む	外：	にぶい黄2.5Y6/3
												内：	-		内：	黄灰2.5Y4/1
47‐22	36	縄文土器	深鉢	突帯文	M4	土器だまり1	6層	(26.6)	-	-	口縁端部刻目、刻目突帯文、煤痕残る、内面磨滅していて調整不明	外：	条痕	密、径2～3㎜大の砂粒を若干含み、径1㎜以下の砂粒を多く含む	外：	暗オリ‐ブ褐2.5Y3/3
												内：	-		内：	暗灰黄2.5Y5/2
48‐1	36	縄文土器	深鉢	突帯文	M5	土器だまり1	6層	-	-	-	口縁端部刻目、刻目突帯文、穿孔3×3㎜、全面磨滅していて調整不明	外：	-	密、径1㎜以下の砂粒を多く含む	外：	黄灰2.5Y6/1
												内：	-		内：	黒N＊1.5/
48‐2	36	縄文土器	深鉢	突帯文	M5	土器だまり1	6層	-	-	-	口縁端部刻目、刻目突帯文、内面磨滅していて調整不明	外：	巻貝条痕	密、径1㎜以下の砂粒を多く含む	外：	にぶい黄橙10YR6/4
												内：	-		内：	黒褐10YR3/1
48‐3	36	縄文土器	深鉢	突帯文	M5	土器だまり1	6層	-	-	-	口縁端部刻目、刻目突帯文、煤薄く残る、内面は磨滅していて調整不明、煤薄く残る、内面は磨滅していて調整不明	外：	巻貝条痕	密、径1㎜以下の砂粒を多く含む	外：	灰黄2.5Y6/2
												内：	-		内：	灰黄褐10YR5/2
48‐4	36	縄文土器	深鉢	突帯文	M5	土器だまり1	6層	-	-	-	口縁端部刻目、刻目突帯文、うすく煤残る、磨滅していて調整不明	外：	-	密、径1㎜以下の砂粒を多く含む	外：	灰黄褐10YR6/2
												内：	-		内：	灰黄褐10YR5/2
48‐5	36	縄文土器	深鉢	突帯文	M5	土器だまり1	6層	-	-	-	焼痕残る、口縁端部刻目、刻目突帯文	外：	粗いミガキ	やや粗、径2㎜以下の砂粒を多く含む	外：	褐灰5YR5/1
												内：	ナデ・指頭圧痕		内：	にぶい黄褐10YR5/3
48‐6	36	縄文土器	深鉢	突帯文	M4	土器だまり1	6層	-	-	-	刻目突帯文、口縁端部刻目、磨滅していて調整不明	外：	-	密、径4㎜以下の砂粒を多く含む	外：	灰白2.5Y8/1
												内：	-		内：	黄灰2.5Y5/1
48‐7	36	縄文土器	深鉢	突帯文	L4	土器だまり1	6層	-	-	-	刻目突帯文、口縁端部刻目、磨滅していて調整不明、内面煤残る	外：	-	密、径1㎜未満の砂粒を若干含む	外：	黒10YR2/1
												内：	-		内：	黒N＊1.5/
48‐8	36	縄文土器	深鉢	突帯文	M4	土器だまり1	6層	-	-	-	刻目突帯文、口縁端部刻目、磨滅していて調整不明	外：	-	やや粗、径1㎜以下の砂粒を多く含む	外：	褐灰10YR6/1
												内：	-		内：	灰白10YR7/1
48‐9	36	縄文土器	深鉢	突帯文	M5	土器だまり1	6層	-	-	-	刻目突帯文、口縁端部刻目、外面煤残る	外：	-	密、径2㎜以下の砂粒を若干含む	外：	黒N＊1.5/
												内：	-		内：	褐灰10YR4/1
48‐10	36	縄文土器	深鉢	突帯文	L4	土器だまり1	6層	-	-	-	-	外：	-	密、径1㎜以下の砂粒を多く含む	外：	灰黄2.5Y7/2
												内：	-		内：	暗灰黄2.5Y5/2
48‐11	36	縄文土器	深鉢	突帯文	L4	土器だまり1	6層	-	-	-	口縁端部刻目、刻目突帯文	外：	粗いミガキ	密、径2～1㎜大の砂粒をわずかに含み、径1㎜未満の砂粒を多く含む	外：	灰黄2.5Y6/2
												内：	粗いミガキ		内：	黄灰2.5Y4/1

挿図番号	図版番号	種別	器種	併行型式(時期)	gd	遺構	層位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	特徴	調整		胎土	色調	
48‐12	36	縄文土器	深鉢	突帯文	L4	土器だまり1	6層	-	-	-	刻目突帯文、口縁端部刻目	外：	粗いミガキ	やや粗、径2㎜以下の砂粒を多く含む	外：	暗灰黄2.5Y5/2
												内：	粗いミガキ		内：	灰黄2.5Y6/2
48‐13	36	縄文土器	深鉢	突帯文	L4	土器だまり1	6層	-	-	-	口縁端部刻目、刻目突帯文、外面一部に煤残る	外：	ミガキヵ	密、径2㎜以下の砂粒を多く含む	外：	灰黄褐10YR6/2
												内：	粗いミガキ		内：	灰黄褐10YR5/2
48‐14	36	縄文土器	深鉢	突帯文	C4	土器だまり1	6層	-	-	-	口縁端部刻目、刻目突帯文、穿孔	外：	-	密、径0.5㎜以下の砂粒を多く含む	外：	灰黄褐10YR5/2
												内：	-		内：	灰黄2.5Y6/2
48‐15	36	縄文土器	深鉢	突帯文	L4	土器だまり1	6層	-	-	-	口縁端部刻目、刻目突帯文、磨滅していて調整不明	外：	-	密、径2～3㎜大の砂粒をわずかに含み、径1㎜以下の砂粒を多く含む	外：	灰黄2.5Y7/2
												内：	-		内：	黄灰2.5Y6/1
48‐16	36	縄文土器	深鉢	突帯文	M4	土器だまり1	6層	-	-	-	口縁端部刻目、刻目突帯、外面煤のこる	外：	-	やや粗、径1㎜以下の砂粒を多く含む	外：	にぶい黄褐10YR4/3
												内：	-		内：	灰黄褐10YR4/2
48‐17	36	縄文土器	深鉢	突帯文	M4	土器だまり1	6層	-	-	-	口縁端部刻目、刻目突帯文、全面磨滅していて調整不明	外：	-	やや粗、径2㎜以下の砂粒を多く含む	外：	橙5YR6/6
												内：	-		内：	灰黄褐10YR6/2
48‐18	36	縄文土器	深鉢	突帯文	-	土器だまり1	6層	-	-	-	刻目突帯、口縁端部刻目、全面磨滅していて調整不明	外：	-	やや粗、径0.5㎜以下の砂粒を多く含む	外：	にぶい黄2.5Y6/3
												内：	-		内：	にぶい黄橙10YR6/4
48‐19	36	縄文土器	深鉢	突帯文	L5	土器だまり1	6層	-	-	-	磨滅している、口縁端部刻目、刻目突帯	外：	-	密、径1㎜以下の砂粒を多く含む	外：	橙5YR6/6、灰白2.5Y8/2
												内：	粗いミガキヵ		内：	明赤褐2.5YR5/8、灰白2.5Y8/1
48‐20	36	縄文土器	深鉢	突帯文	L5	土器だまり1	6層	-	-	-	口縁端部V字、突帯V字	外：	ナデ	5㎜以下の砂礫	外：	にぶい黄橙10YR6/3
												内：	ナデ		内：	にぶい黄橙10YR6/4
48‐21	36	縄文土器	深鉢	突帯文	L4	土器だまり1	6層	-	-	-	口縁端部刻目、刻目突帯、全面磨滅していて調整不明	外：	-	密、径2～3㎜大の砂粒をわずかに含む径1㎜以下の砂粒を多く含む	外：	灰黄2.5Y7/2
												内：	-		内：	灰白2.5Y7/1
48‐22	37	縄文土器	深鉢	突帯文	L4	土器だまり1	6層	-	-	-	磨滅のため調整不明、刻目突帯文	外：	-	密、径1㎜以下の砂粒を若干含む	外：	暗灰黄2.5Y5/2
												内：	-		内：	暗灰黄2.5Y5/2
48‐23	37	縄文土器	深鉢	突帯文	L4	土器だまり1	6層	-	-	-	煤痕薄くのこる、磨滅していて調整不明、刻目突帯文	外：	-	密、径0.5㎜以下の砂粒を多く含む	外：	灰黄2.5Y6/2
												内：	-		内：	灰黄2.5Y7/2
48‐24	37	縄文土器	深鉢	突帯文	M5	土器だまり1	6層	-	-	-	磨滅していて調整不明、刻目突帯文	外：	-	密、径0.5㎜以下の砂粒を若干含む	外：	にぶい黄褐10YR5/3
												内：	-		内：	にぶい黄褐10YR6/4
48‐25	37	縄文土器	深鉢	突帯文	M5	土器だまり1	6層	-	-	-	刻目突帯文	外：	-	密、径1㎜未満の砂粒を若干含む	外：	にぶい黄橙10YR6/4
												内：	-		内：	黒10YR2/1
48‐26	37	縄文土器	深鉢	突帯文	L4	土器だまり1	6層	-	-	-	刻目	外：	ミガキヵ	φ1㎜前後の砂粒を含む	外：	灰オリ‐ブ5Y4/2
												内：	ミガキヵ		内：	オリ‐ブ黒7.5Y3/1
48‐27	37	縄文土器	深鉢	突帯文	L4	土器だまり1	6層	-	-	-	（口縁部）刻目	外：	ナデヵ	φ1～2㎜の砂粒を含む	外：	灰黄2.5Y7/2
												内：	ナデヵ		内：	浅黄2.5Y7/3
48‐28	37	縄文土器	深鉢	突帯文	L4	土器だまり1	6層	-	-	-	（口縁部）刻目	外：	条痕・ナデ	長さ6㎜の石材(ヵ)を含む（剥片ヵ）、φ1㎜前後の砂粒を含む	外：	灰オリ‐ブ5Y5/3
												内：	ナデヵ		内：	灰オリ‐ブ7.5Y5/2
48‐29	37	縄文土器	深鉢	突帯文	L4	土器だまり1	6層	-	-	-	（口縁部）刻目	外：	ナデヵ	φ1～2㎜の砂粒を含む	外：	灰5Y4/1
												内：	条痕ヵ		内：	灰オリ‐ブ5Y5/3
48‐30	37	縄文土器	深鉢	突帯文	L4	土器だまり1	6層	-	-	-	（口縁部）刻目、一辺2～3mの立方体の空隙あり（3カ所くらい）	外：	ナデヵ	φ1～2㎜の砂粒を含む	外：	灰黄2.5Y6/2
												内：	ナデヵ		内：	灰白5Y7/2

挿図番号	図版番号	種別	器種	併行型式(時期)	gd	遺構	層位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	特徴	調整		胎土	色調	
48‐31	37	縄文土器	深鉢	突帯文	L4	土器だまり1	6層	-	-	-	刻目突帯文、全面煤痕	外：	-	やや粗、径1㎜未満の砂粒を多く含む	外：	黒N＊1.5/
												内：	-		内：	暗灰黄2.5Y5/2
48‐32	37	縄文土器	深鉢	突帯文	-	土器だまり1	6層	-	-	-	刻目突帯文	外：	-	密、径1㎜未満の砂粒を多く含む	外：	黄灰2.5Y4/1
												内：	ミガキ？		内：	黒N2/
48‐33	37	縄文土器	深鉢	突帯文	L4	土器だまり1	6層	-	-	-	焼痕一部残る、刻目突帯文、磨滅していて調整不明	外：	-	やや粗、径2㎜未満の砂粒を多く含む	外：	灰白2.5Y7/1
												内：	-		内：	黄灰2.5Y6/1
48‐34	37	縄文土器	深鉢	突帯文	L4	土器だまり1	6層	-	-	-	刻目突帯文	外：	-	やや粗、径1㎜未満の砂粒を多く含む	外：	黒N＊1.5/
												内：	-		内：	暗灰黄2.5Y5/2
48‐35	37	縄文土器	深鉢	突帯文	L4	土器だまり1	6層	-	-	-	刻目突帯文	外：	-	密、径1㎜以下の砂粒を若干含む	外：	黒N＊1.5/
												内：	-		内：	黒N＊1.5/
48‐36	37	縄文土器	深鉢	突帯文	M5	土器だまり1	6層	-	-	-	磨滅していて調整不明	外：	-	密、径2㎜以下の砂粒を若干含む	外：	灰白5Y7/1
												内：	-		内：	灰7.5Y4/1
48‐37	37	縄文土器	深鉢	突帯文	M5	土器だまり1	6層	-	-	-	（口縁端部外面）刻目、粘土貼り付けかどうかはよくわからない	外：	ナデヵ	φ1～2㎜の砂粒を含む	外：	オリ‐ブ黒7.5Y3/1
												内：	条痕ヵ		内：	黄褐2.5Y5/3
48‐38	37	縄文土器	深鉢	突帯文	L4	土器だまり1	6層	-	-	-	全体的に磨滅している、刻目突帯文	外：	-	密、径0.5㎜以下の砂粒を多く含む	外：	オリ‐ブ灰2.5Y4/3
												内：	-		内：	黄灰2.5Y4/1
48‐39	37	縄文土器	深鉢	突帯文	L5	土器だまり1	6層	-	-	-	刻目突帯文、煤残る	外：	-	密、径1㎜以下の砂粒を多く含む	外：	褐灰10YR6/1
												内：	条痕・ナデ		内：	灰黄2.5Y7/2
48‐40	37	縄文土器	深鉢	突帯文	L4	土器だまり1	6層	-	-	-	内面磨滅していて調整不明、全面煤残る、二条突帯、口縁端部刻目、刻目突帯文	外：	-	やや粗、径1㎜以下の砂粒を多く含む	外：	黒N2/
												内：	指頭圧痕		内：	灰黄2.5Y6/2
48‐41	37	縄文土器	深鉢	突帯文	L4	土器だまり1	6層	-	-	-	（口縁部）二条の（突帯）刻目、刻目より下条痕ヵ、（刻目間はナデヵ）、外面煤のため不明	外：	（ナデヵ）・条痕ヵ	φ1～3㎜の砂粒を含む	外：	オリ‐ブ黄5Y6/3
												内：	ナデヵ		内：	灰オリ‐ブ5Y4/2
48‐42	37	縄文土器	深鉢	突帯文	M5	土器だまり1	6層	-	-	-	刻目突帯文、二条突帯、煤痕残る	外：	-	密、径1㎜以下の砂粒を多く含む	外：	灰黄2.5Y6/2
												内：	-		内：	黒N＊1.5/
48‐43	37	縄文土器	深鉢	突帯文	M4	土器だまり1	6層	-	-	-	磨滅していて調整不明、二条突帯、刻目突帯文	外：	粗いミガキ	やや粗、径1㎜以下の砂粒を多く含む	外：	浅黄2.5Y7/3
												内：	-		内：	暗灰黄2.5Y5/2
48‐44	37	縄文土器	深鉢	突帯文	M5	土器だまり1	6層	-	-	-	磨滅の為、調整不明、刻目突帯文	外：	-	やや粗、径1㎜以下の砂粒を多く含む	外：	にぶい黄橙10YR6/3
												内：	-		内：	灰黄褐10YR4/2
48‐45	37	縄文土器	深鉢	-	L4	土器だまり1	6層	-	-	-	-	外：	ナデヵ	φ1～2㎜の砂粒を含む	外：	灰黄2.5Y7/2、にぶい橙7.5Y7/4
												内：	ナデヵ		内：	黄灰2.5Y4/1
49‐1	38	縄文土器	浅鉢	-	M5	土器だまり1	6層	12.6	-	-	（口縁部外面）彩文、破面部分も熱を受けて変色している、また赤色の塗料も一部は熱（？）により溶けて付着している可能性あり、熱による変色部分内‐オリ‐ブ黒5Y3/1、色調外側‐黄褐2.5Y5/4～暗灰黄2.5Y4/2	外：	（口縁端部）ヨコ方向のミガキ	φ1㎜未満の砂粒を少し含むがきめ細かい	外：	（赤彩部分）赤10R4/8、（口縁端部）赤黒10R17/1
												内：	ヨコ方向のミガキ		内：	暗灰黄2.5Y5/2
49‐2	37	縄文土器	(浅鉢もしくは鉢ヵ)	-	L4	土器だまり1	6層	(18.0)	-	-	まもうしている（調整不明）、内外面赤彩	外：	ミガキ	φ1㎜の粒子をわずかに含む	外：	橙5YR6/6、明褐灰7.5YR7/2
												内：	ミガキ		内：	橙5YR6/6、明褐灰7.5YR7/2
49‐3	37	縄文土器	浅鉢	-	L4	土器だまり1	6層	-	-	-	-	外：	ミガキ	密、径2㎜未満の砂粒を多く含む	外：	黄灰2.5Y4/1
												内：	ミガキ		内：	暗灰黄2.5Y5/2
49‐4	37	縄文土器	浅鉢	-	M4	土器だまり1	6層	-	-	-	ていねいなミガキ	外：	ミガキ	密、径0.5㎜以下の砂粒を多く含む	外：	灰白2.5Y7/1
												内：	ミガキ		内：	黄灰2.5Y6/1

挿図番号	図版番号	種別	器種	併行型式(時期)	gd	遺構	層位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	特徴	調整		胎土	色調	
49－5	37	縄文土器	浅鉢	-	L4	土器だまり1	6層	-	-	-	全面磨滅していて調整不明	外：	-	密、径0.5㎜未満の砂粒を多く含む	外：	灰黄褐10YR6/2
												内：	-		内：	にぶい黄橙10YR7/3
49－6	37	縄文土器	浅鉢	-	L5	土器だまり1	6層	-	-	-	端部平ら	外：	ミガキ	密、径0.5㎜以下の砂粒を多く含む	外：	黄灰2.5Y4/1
												内：	ミガキ		内：	灰黄2.5Y7/2
49－7	37	縄文土器	浅鉢	-	M5	土器だまり1	6層	-	-	-	-	外：	ミガキ	密、径0.5㎜以下の砂粒を若干含む	外：	黒7.5Y2/1
												内：	ミガキ		内：	灰7.5Y4/1
49－8	37	縄文土器	浅鉢	-	L4	土器だまり1	6層	-	-	-	-	外：	ミガキ	密、径0.5㎜以下の砂粒を多く含む	外：	黒5Y2/1
												内：	ミガキ		内：	黒7.5Y2/1
49－11	37	縄文土器	深鉢	-	L4	土器だまり1	6層	-	-	-	口縁端部刻目（原体竹管）、内面磨滅のため調整不明	外：	条痕のちナデ	密、径5㎜以下の砂粒を多く含む	外：	にぶい黄橙10YR7/3
												内：	-		内：	灰白2.5Y7/1
49－12	37	縄文土器	深鉢	-	L5	土器だまり1	6層	-	-	-	口縁端部丸い棒の側面で押圧、口縁端部刻目、表面磨滅	外：	-	4㎜以下の砂粒を含む	外：	灰白10YR8/1
												内：	-		内：	褐灰10YR6/1
49－13	38	縄文土器	深鉢	-	M5	土器だまり1	6層	-	-	-	炭化物が土器の表面に付着、どんぐりの炭化物	外：	条痕	◌1～2㎜の粒子を含む	外：	にぶい橙2.5Y6/4、灰褐5YR5/2
												内：	-		内：	灰7.5Y6/1、黒N2/
49－14	37	縄文土器	（浅鉢、鉢、椀ヵ）	-	M4	土器だまり1	6層	-	-	-	赤彩、（幅約3㎜長さ5㎜）外面炭化物？のつまった孔あり	外：	ヨコ方向のミガキ（下半に一部タテ方向のミガキ）	◌1㎜未満の粒子をごくわずかに含むきめ細かい	外：	にぶい橙7.5YR7/4、明赤褐2.5YR5/6（よく残っているところ）
												内：	ミガキ		内：	灰黄2.5Y7/2、灰5Y5/1
49－15	37	縄文土器	浅鉢	突帯文	-	土器だまり1	6層	-	-	-	-	外：	ミガキ・ケズリ	5㎜以下の砂粒を含む	外：	暗灰黄2.5Y5/2
												内：	ミガキ		内：	黄灰2.5Y4/1
49－16	37	縄文土器	浅鉢	-	M4	土器だまり1	6層	-	-	-	-	外：	ナデ	密、径1㎜以下の砂粒を多く含む	外：	灰黄2.5Y7/2
												内：	ナデ・条痕ヵ		内：	灰白2.5Y8/2
51－1	39	縄文土器	-	-	L6	-	6層	-	-	-	口縁端部上面斜めD字の刻目、外面口縁下に沈線文	外：	ナデ	2㎜以下の砂粒を含む	外：	灰黄褐10YR5/2
				-								内：	ナデ、巻貝条痕のちナデ		内：	灰黄褐10YR5/2
51－2	39	縄文土器	深鉢	-	L7	-	6層	-	-	-	棒の先端押引ヵ？磨滅してはっきりしない	外：	ナデ	5㎜以下の砂粒を含む	外：	にぶい橙5YR6/4
				-								内：	ナデ		内：	灰5Y4/1
51－3	39	縄文土器	深鉢	-	L6	-	6層	-	-	-	口縁端部上面D字V字形の刻目	外：	ナデ	3㎜以下の砂粒を含む	外：	灰黄褐10YR5/2
				-								内：	ナデ		内：	黄灰2.5Y6/1
51－4	39	縄文土器	深鉢	-	L7	-	6層	-	-	-	口縁端部上面に刺突文、あまり風化していない、埋蔵状況が違うのか？	外：	条痕	◌1～3㎜の粒子を含む	外：	灰白7.5Y7/1、灰5Y4/1
												内：	条痕・風化		内：	灰白7.5Y7/1、にぶい橙7.5Y7/4
51－5	39	縄文土器	深鉢	突帯文	L5	-	6層	-	-	-	口縁端部上面にD字形刻目、突帯文にV字形の刻目	外：	ナデ	5㎜以下の砂粒含む	外：	褐灰10YR4/1
												内：	ナデ		内：	灰黄褐10YR4/2
51－6	39	縄文土器	深鉢	突帯文	L5	-	6層	-	-	-	補修孔あり、内外両面から穿つ、口縁端部上面と突帯文に|字形の刻目、	外：	ナデ	2㎜以下の砂粒を含む	外：	灰黄褐10YR5/2
												内：	ナデ		内：	褐灰10R5/1
51－7	39	縄文土器	深鉢	突帯文	L5	-	6層	-	-	-	口縁端部上面に不整形の工具による刺突、突帯文に斜めのV字形？の刻目	外：	ナデ	6㎜以下の砂粒を含む	外：	灰黄2.5Y6/2
												内：	ナデ		内：	黒N*1.5/
51－8	39	縄文土器	深鉢	突帯文	M4	-	6層	-	-	-	口縁端部上面、突帯文に刻目、内面磨滅していて調整不明	外：	条痕	密、径3㎜以下の砂粒わずかに含み、径1㎜未満の砂粒多く含む	外：	浅黄橙10YR8/3
												内：	調整不明		内：	にぶい黄橙10YR7/2
51－9	39	縄文土器	深鉢	突帯文	L5	-	6層	-	-	-	突帯文にD字形の刻目	外：	ナデ	2㎜以下の砂粒を含む	外：	灰黄2.5Y7/2
												内：	ナデ		内：	黒褐2.5Y3/1

挿図番号	図版番号	種別	器種	併行型式(時期)	gd	遺構	層位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	特徴	調整		胎土	色調	
51‐10	39	縄文土器	浅鉢	-	L6	-	6層	-	-	-	-	外：	ナデ	2㎜以下の砂粒を含む	外：	にぶい黄褐10YR4/3
												内：	ナデ、ミガキ		内：	黒N*1.5/
51‐11	39	縄文土器	浅鉢	突帯文	M4	-	6層	-	-	-	-	外：	ミガキ	3㎜以下の砂粒を含む含む	外：	オリ‐ブ黒5Y3/1
												内：	ミガキ		内：	暗灰黄2.5Y5/2
51‐12	39	縄文土器	深鉢	突帯文	M5	-	6層	-	-	-	内口縁端部に竹管によるC字形の刻目、突帯文に逆C字形の刻目	外：	ナデ	2㎜以下の砂粒を含む	外：	にぶい橙7.5YR5/3
												内：	ナデ		内：	にぶい黄橙10YR7/3
51‐13	39	縄文土器	深鉢	突帯文	M6	-	6層	30.6	-	34.6	口縁端部上面に竹管によるC字形押引、上の突帯文は欠損（刺突）、下の突帯文は竹管による押引、突帯（胴部）	外：	ナデ	3㎜以下の砂粒を含む	外：	にぶい黄橙10YR7/2
												内：	ナデ		内：	にぶい黄橙10YR7/2
51‐14	39	縄文土器	深鉢	突帯文	M5	-	6層	-	-	-	突帯‐棒の側面押し付け	外：	ナデ	4㎜以下の砂粒を含む	外：	にぶい黄橙10YR7/2
												内：	ナデ		内：	にぶい黄橙10YR7/2
51‐15	39	縄文土器	深鉢	突帯文	M5	-	6層	-	-	-	外口縁端部の突帯文に刻目、（口縁部）（貼付突帯）刻目、孔あり	外：	（巻貝ヵ）条痕	◇5㎜灰白粒子を含む、◇1～3㎜の砂粒を含む	外：	灰黄2.5Y7/2
												内：	（巻貝ヵ）条痕		内：	灰オリ‐ブ5Y6/2
51‐16	39	縄文土器	深鉢	突帯文	L5	-	6層	-	-	-	突帯文にD字形の刻目	外：	二枚貝条痕、ナデ	3㎜以下の砂粒を含む	外：	橙5YR7/6
												内：	二枚貝条痕、ナデ		内：	灰黄2.5Y7/2
51‐17	39	縄文土器	深鉢	突帯文	L5	-	6層	-	-	-	突帯文にV字形の刻目　棒の側面押引	外：	ナデ	4㎜以下の砂粒を含む	外：	灰黄2.5Y7/2
												内：	ナデ		内：	灰7.5Y4/1
51‐18	39	縄文土器	浅鉢	-	M5	-	6層	-	-	-	-	外：	ミガキ	2㎜以下の砂粒を含む	外：	黒5Y2/1
												内：	ミガキ		内：	黒7.5Y2/1
51‐19	39	縄文土器	浅鉢	-	L4	-	6層	-	-	-	-	外：	ミガキ	3㎜以下の砂粒を含む	外：	暗灰黄2.5Y5/2
												内：	ミガキ		内：	灰黄2.5Y6/2
52‐1	40	縄文土器	深鉢	-	M6	-	6層	-	-	-	口縁端部上面に不整形の刺突	外：	ナデ	2㎜以下の砂粒を含む	外：	黒褐2.5Y3/2
												内：	ナデ		内：	灰黄2.5Y6/2
52‐2	40	縄文土器	深鉢	-	M6	-	6層	-	-	-	口縁端部上面に角棒状の工具による刺突	外：	ナデ	6㎜以下の砂粒を含む	外：	橙2.5YR6/6
												内：	ナデ		内：	黒7.5Y2/1
52‐3	40	縄文土器	深鉢	-	M5	-	6層	-	-	-	口縁端部上面に角棒状の工具による刺突、突帯文に二又状工具による刺突	外：	ナデ	5㎜以下の砂粒を含む	外：	灰黄褐10YR6/2
												内：	ナデ		内：	にぶい黄橙10YR7/2
52‐4	40	縄文土器	深鉢	突帯文	M6	-	6層	-	-	-	口縁端部上面にD字形の刻目、突帯文にD字形の刻目	外：	ナデ	5㎜以下の砂粒を含む	外：	灰黄褐10YR5/2
												内：	ナデ		内：	灰黄褐10YR6/2
52‐5	40	縄文土器	深鉢	突帯文	M5	-	6層	-	-	-	内口縁端部にD字形の刻目、突帯文に逆D字形の刻目、内面ナデ工具痕あり	外：	ナデ・工具痕あり	3㎜以下の砂粒を含む	外：	灰黄褐10YR4/2
												内：	ナデ		内：	黒N*1.5/
52‐6	40	縄文土器	深鉢	突帯文	M6	-	6層	-	-	-	口縁端部上面にV字形の刻目、突帯文にD字形の刻目	外：	ナデ	4㎜以下の砂粒を含む	外：	にぶい黄橙10YR7/2
												内：	ナデ		内：	褐灰10YR4/1
52‐7	40	縄文土器	深鉢	突帯文	L5	-	6層	-	-	-	口縁端部上面にV字形の刻目、突帯文にV字形の刻目	外：	ナデ	3㎜以下の砂粒を含む	外：	灰黄2.5Y6/2
												内：	ナデ		内：	灰黄2.5Y7/2
52‐8	40	縄文土器	深鉢	突帯文	M6	-	6層	-	-	-	口縁端部上面にV字形の刻目、突帯文にV字形の刻目、突帯文上の外面に爪の痕あり	外：	ナデ	3㎜以下の砂粒を含む	外：	にぶい黄橙10YR5/3
												内：	ナデ		内：	にぶい黄橙10YR7/3
52‐9	40	縄文土器	深鉢	突帯文	M6	-	6層	-	-	-	口縁端部上面にV字形の刻目、突帯文にV字形の刻目	外：	ナデ	2㎜以下の砂粒を含む	外：	黒N*1.5/
												内：	ナデ		内：	灰黄2.5Y6/2

挿図番号	図版番号	種別	器種	併行型式(時期)	gd	遺構	層位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	特徴	調整		胎土	色調	
52‐10	40	縄文土器	深鉢	突帯文	M5	-	6層	-	-	-	外口縁端部に刻目、突帯文に刻目、、全体煤のこる、条痕（原体不明）＋ナデ、刻目原体は放射肋のない二枚貝ヵ	外：	巻貝条痕ヵ	密、径1㎜以下の砂粒多く含む	外：	褐灰10YR4/1
												内：	条痕　ナデ		内：	黒褐10YR3/1
52‐11	40	縄文土器	深鉢	突帯文	L6	-	6層	-	-	-	口縁端部上面にV字形の刻目、突帯文にV字形の刻目	外：	ナデ	2㎜以下の砂粒を多く含む	外：	黒褐10YR3/1
												内：	ナデ		内：	黒5Y2/1
52‐12	40	縄文土器	深鉢	突帯文	L6	-	6層	-	-	-	口縁端部上面にやや不整形のV字形の刻目、突帯文にV字形の刻目	外：	ナデ	2㎜以下の砂粒を多く含む	外：	黄灰2.5Y6/1
												内：	ナデ		内：	褐灰10YR4/1
52‐13	40	縄文土器	深鉢	突帯文	L5	-	6層	-	-	-	口縁端部上面にヘラによる刻目、D字形ヵ、突帯文にV字形の刻目	外：	ナデ	2㎜以下の砂粒を多く含む	外：	褐7.5YR4/3
												内：	ナデ		内：	黒褐10YR2/2
52‐14	40	縄文土器	深鉢	突帯文	M6	-	6層	-	-	-	突帯文に角棒状の工具による斜めの刺突	外：	ナデ	4㎜以下の砂粒を含む	外：	にぶい黄橙10YR6/3
												内：	ナデ		内：	灰黄褐10YR5/2
52‐15	40	縄文土器	深鉢	突帯文	L6	-	6層	-	-	-	突帯文に丸い棒の側面を押し当てる	外：	ナデ	2㎜以下の砂粒を含む	外：	灰黄2.5Y6/2
												内：	ナデ		内：	暗灰N3/
52‐16	40	縄文土器	深鉢	突帯文	M6	-	6層	-	-	-	突帯文にD字形の刻目	外：	ナデ	2㎜以下の砂粒を含む	外：	にぶい黄橙10YR7/3
												内：	ナデ		内：	黒2.5GY2/1
52‐17	40	縄文土器	深鉢	突帯文	M5	-	6層	-	-	-	突帯文に刻目、原体は放射肋のない二枚貝ヵ、磨滅していて調整不明	外：	ナデ	密、径1㎜以下の砂粒を含む	外：	灰白2.5Y7/1
												内：	ナデ		内：	黄灰2.5Y6/1
52‐18	40	縄文土器	深鉢	突帯文	M5	-	6層	-	-	-	口縁端部上面折り曲げているか、突帯文に刻目、明確でないD字形の刻目ヵ	外：	ナデ	2㎜以下の砂粒を含む	外：	黒褐10YR3/1
												内：	ナデ		内：	褐灰10YR4/1
52‐19	40	縄文土器	深鉢	突帯文	L6	-	6層	-	-	-	突帯文にV字形の刻目	外：	ナデ	6㎜以下の砂粒を含む	外：	黄灰2.5Y5/1
												内：	ナデ		内：	黒7.5Y2/1
52‐20	40	縄文土器	深鉢	突帯文	L6	-	6層	-	-	-	突帯文にV字形の刻目	外：	ナデ	5㎜以下の砂粒を含む	外：	褐7.5YR4/3
												内：	ナデ		内：	にぶい橙7.5YR6/4
52‐21	40	縄文土器	深鉢	突帯文	M5	-	6層	-	-	-	口縁部、胴部の突帯文あり、共にV字形の刻目、二条突帯	外：	ナデ	2㎜以下の砂粒を含む	外：	黒N2/
												内：	ナデ		内：	黒2.5Y2/1
52‐22	40	縄文土器	深鉢	突帯文	M6	-	6層	-	-	-	口縁部、胴部の突帯文あり、共に丸い棒側面を押し付ける刻目	外：	ナデ	3㎜以下の砂粒を含む	外：	褐灰10YR5/1
												内：	ナデ		内：	黄灰2.5YR5/1
52‐23	40	縄文土器	深鉢	突帯文	M6	-	6層	-	-	-	口縁部、胴部に突帯文あり、共にV字形の刻目	外：	ナデ	3㎜以下の砂粒を含む	外：	褐灰10YR4/1
												内：	ナデ		内：	褐灰10YR5/1
52‐24	40	縄文土器	深鉢	突帯文	M6	-	6層	-	-	-	口縁部、胴部に突帯文あり（二条突帯）、共にD、V字形の刻目あり、V字多い、炭化物付着	外：	ナデ	5㎜以下の砂粒を含む	外：	黒褐2.5Y3/1
												内：	ナデ		内：	灰黄褐10YR4/2
52‐25	40	縄文土器	深鉢	突帯文	L6	-	6層	-	-	-	突帯文にD字形の刻目あり	外：	ナデ、条痕、ケズリ	3㎜以下の砂粒を含む	外：	黒褐10YR3/1
												内：	ナデ		内：	灰黄褐10YR6/2
52‐26	40	縄文土器	深鉢	突帯文	M5	-	6層	-	-	-	突帯文にV字形の刻目あり	外：	ナデ	3㎜以下の砂粒を含む	外：	灰黄褐10YR4/2
												内：	ナデ		内：	黒N*1.5/
52‐27	40	縄文土器	深鉢	突帯文	M5	-	6層	-	-	-	突帯文にV字形の刻目あり、棒の側面を押圧ヵ	外：	ナデ	2㎜以下の砂粒を含む	外：	黒N2/
												内：	ナデ		内：	灰黄2.5Y6/2
52‐28	40	縄文土器	深鉢	突帯文	M5	-	6層	-	-	-	突帯文に刻目あり、V字形ヵ	外：	ナデ	4㎜以下の砂粒を含む	外：	灰黄褐10YR4/2
												内：	ナデ		内：	にぶい黄橙10YR6/3

挿図番号	図版番号	種別	器種	併行型式(時期)	gd	遺構	層位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	特徴	調整		胎土	色調	
53‐1	41	縄文土器	浅鉢ヵ	-	L6	-	6層	18.2	-	-	-	外：	ミガキ	2㎜以下の砂粒を含む	外：	灰黄2.5Y7/2
												内：	ミガキ		内：	浅黄2.5Y7/3
53‐2	41	縄文土器	浅鉢	-	L6	-	6層	20.8	-	-	-	外：	ミガキ	1㎜以下の砂粒を含む	外：	黄灰2.5Y4/1
												内：	ミガキ		内：	灰黄2.5Y6/2
53‐3	41	縄文土器	浅鉢	-	L5	-	6層	-	-	-	-	外：	ミガキ	1㎜以下の砂粒を含む	外：	暗灰黄2.5Y5/2
												内：	ミガキ		内：	黄灰2.5Y4/1
53‐4	41	縄文土器	浅鉢	-	L6	-	6層	-	-	-	-	外：	ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	外：	にぶい橙7.5YR6/4
												内：	ナデ		内：	灰黄2.5Y7/2
53‐5	41	縄文土器	浅鉢	突帯文	M6	-	6層	-	-	-	-	外：	ミガキ	1㎜以下の砂粒を含む	外：	黒褐2.5Y3/1
												内：	ミガキ		内：	黒7.5Y2/1
53‐6	41	縄文土器	浅鉢	-	H5	-	6層	-	-	-	外面に一条の沈線文	外：	ミガキ	密、径1㎜以下の砂粒を多く含む	外：	灰黄2.5Y6/2
												内：	丁寧なナデ、ミガキ		内：	オリ‐ブ黒5Y3/1
53‐7	41	縄文土器	浅鉢	-	M6	-	6層	-	-	-	外口縁に一条の沈線文	外：	ミガキ	密、径1㎜未満の砂粒多くを含む	外：	黒5Y2/1
												内：	ミガキ		内：	黒7.5Y2/1
53‐8	38・41	縄文土器	-	-	M6	-	6層	(12.0)	-	-	彩文土器、黒色に焼成もしくは焼成後黒色塗料（ヵ）塗布のち部分的に赤彩ヵ、ケズリのち粗いミガキもしくはナデヵ	外：	-	きめ細かい、◇1㎜未満の砂粒をわずかに含む	外：	赤10R5/8、黒褐10YR3/1
												内：	ケズリ？のちナデoR粗いミガキ		内：	明赤褐2.5YR5/8、黒褐10YR3/1
56‐1	42	縄文土器	深鉢	突帯文	N6	P41	7層	-	-	-	外面、口縁部、胴部に刻みのある突帯が付く、外面煤付着　二条突帯	外：	ナデ・二枚貝による条痕	粗、2㎜以下の雲母、4㎜以下の砂粒を多量に含む2㎜以下の石英・長石を含む	外：	褐灰10YR5/1
												内：	二枚貝による条痕		内：	褐灰10YR4/1
56‐2	42	縄文土器	浅鉢	-	N6	P40	6層	-	-	-	胴部「く」の字形に屈曲し、屈曲部上の外面に沈線を施す、※磨滅していて調整よく分からない	外：	ミガキ	やや粗、（1.5㎜以下の石英、3㎜以下の長石、砂粒を多量に含む）	外：	灰黄褐10YR5/2
												内：	ミガキ		内：	灰黄褐10YR5/2
56‐3	42	縄文土器	深鉢	-	M6	P42	7層	-	-	-	口縁内外面に押引き状の刺突文を施す、外面煤付着	外：	条痕	密、（1㎜以下の雲母（金・黒）、石英、長石、4㎜以下の砂粒を多く含む）	外：	にぶい黄橙10YR6/3
												内：	ナデ		内：	灰黄褐10YR6/2
56‐4	42	縄文土器	浅鉢	-	M5	P55	7層	-	-	-	波状口縁、外面煤付着	外：	ヘラミガキ	密、（1㎜以下の石英、長石、砂粒を含む）	外：	黒2.5Y2/1
												内：	ヘラミガキ		内：	黒褐2.5Y3/1
56‐5	41	縄文土器	深鉢	-	-	P59	7層	(28.6)	(22.0)	(5.5)	内外面に部分的に焼痕残る、口縁端部刻目	外：	二枚貝条痕	やや粗、径5㎜以下の砂粒を多く含む	外：	灰白5Y7/2
												内：	-		内：	灰黄2.5Y7/2
59‐1	43	縄文土器	深鉢	-	L6	土器だまり4	-	-	-	-	口縁端部に2枚貝による刻み	外：	ナデ	やや密、3㎜以下の雲母、砂粒、2㎜以下の石英、長石を多量に含む	外：	にぶい黄橙10YR7/3
												内：	ナデ		内：	灰黄2.5Y6/2
59‐2	43	縄文土器	深鉢	-	L6	土器だまり4	-	-	-	-	口縁端部に刻み、内外面ともス付着	外：	ナデ	やや密、1㎜未満の石英、1.5㎜以下の著席、2㎜以下の砂粒多く含む	外：	黒褐10YR3/1
												内：	ナデ		内：	黒褐10YR3/1
59‐3	43	縄文土器	深鉢	-	L6	土器だまり4	-	-	-	-	口縁内面に刺突文、外面煤付着	外：	ナデ	密、1㎜以下雲母、石英、2㎜以下の長石、3㎜以下の砂粒を多く含む	外：	灰黄褐10YR5/2
												内：	ナデ		内：	にぶい橙7.5YR7/4
59‐4	43	縄文土器	深鉢	-	L6	土器だまり4	-	-	-	-	内外面磨滅のため、調整不明（ナデヵ）	外：	ナデヵ	粗、1.5㎜以下の石英、長石、1㎜以下の雲母、5㎜以下の砂粒を多量に含む	外：	黒褐10YR3/2
												内：	ナデヵ		内：	灰黄褐10YR5/2
59‐5	43	縄文土器	浅鉢	-	L6	土器だまり4	-	-	-	-	波状口縁、口縁端部に刻み、口縁に沈線	外：	ミガキ	やや密、1㎜以下の雲母、石英、1.5㎜以下の長石、2㎜以下の砂粒を多く含む	外：	黒褐10YR3/2
												内：	ミガキ		内：	黒10YR2/1
59‐6	43	縄文土器	浅鉢	-	L6	土器だまり4	-	-	-	-	屈曲部にケズリ	外：	ミガキ　ケズリ	密、2㎜以下の石英、長石、砂粒を多く、0.5㎜以下の雲母を少し含む	外：	灰黄2.5Y6/2
												内：	ミガキ		内：	灰オリ‐ブ5Y6/2

挿図番号	図版番号	種別	器種	併行型式(時期)	gd	遺構	層位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	特徴	調整		胎土	色調	
59－7	43	縄文土器	浅鉢	-	L6	土器だまり4	-	-	-	-	波状口縁、口縁端部にリボン状突起	外：	ミガキ	やや密、1㎜以下の石英、長石、砂粒を多く含む	外：	褐7.5YR4/3～黒褐7.5YR3/1
												内：	ミガキ		内：	灰黄褐10YR5/2～黒褐10YR3/1
59－8	42	縄文土器	浅鉢	-	L6	土器だまり4	-	-	-	-	外面煤付着	外：	条痕	やや密、2㎜以下の石英、長石、3㎜以下の砂粒を多く含む	外：	黒褐10YR3/2
												内：	ナデ		内：	灰黄褐10YR4/2
61－1	43	縄文土器	深鉢	篠原式ヵ	M5	-	7層	-	-	-	外面、斜行する沈線文、径不明	外：	ナデ、条痕	5㎜以下の砂粒を多く含む	外：	灰黄褐10YR6/2
												内：	ナデ		内：	灰黄褐10YR6/2
61－2	43	縄文土器	深鉢	篠原式ヵ	M6	-	7層	-	-	-	口縁端部に刻目（竹管による押引）	外：	ナデ	3㎜以下の砂粒を含む	外：	橙5YR6/8
												内：	ナデ		内：	橙7.5YR6/6
61－3	43	縄文土器	深鉢	篠原式ヵ	L6	-	7層	-	-	-	口縁部斜めD字刻目	外：	ナデ	4㎜以下の砂粒を含む	外：	灰黄褐10YR6/2
												内：	ナデ		内：	橙5YR6/6
61－4	43	縄文土器	深鉢	-	M5	-	7層	-	-	-	-	外：	ナデ	3㎜以下の砂粒を含む	外：	灰黄褐10YR5/2
												内：	ナデ		内：	灰黄褐10YR5/2
61－5	43	縄文土器	深鉢	-	L5	-	7層	-	-	-	-	外：	二枚貝条痕	4㎜以下の砂粒を含む	外：	にぶい黄橙10YR6/3
												内：	ナデ、二枚貝条痕		内：	灰黄褐10YR4/2
61－6	43	縄文土器	深鉢	-	L5	-	7層	-	-	-	-	外：	二枚貝条痕	4㎜以下の砂粒を含む	外：	黒褐10YR3/1
												内：	ナデ、二枚貝条痕		内：	灰黄褐10YR4/2
61－7	42	縄文土器	深鉢	突帯文	L5	-	7層	-	-	-	口縁端部O字形刻目、突帯O字形刻目	外：	-	3㎜以下の砂粒を含む	外：	黄灰2.5Y6/1
												内：	ナデ		内：	浅黄2.5Y7/4
61－8	42	縄文土器	深鉢	突帯文	M4	-	7層	-	-	-	突帯D字形刻目、口縁端部D字形刻目	外：	ナデ・条痕	5㎜以下の砂粒を含む	外：	にぶい黄橙10YR6/4
												内：	ナデ		内：	褐灰10R4/1
62－1	44	縄文土器	-	突帯文	-	-	7層	-	-	-	口縁端部にD字形刻目　突帯はV字形刻目	外：	ナデ、巻貝条痕	4㎜以下の砂粒を含む	外：	灰黄褐10YR5/2
												内：	ナデ、巻貝条痕		内：	にぶい黄橙10R7/2
62－2	44	縄文土器	深鉢	突帯文	L6	-	7層	-	-	-	突帯にO字形の刻目、口縁端部にO字形、棒の側面押し付け	外：	ナデ・二枚貝	5㎜以下の砂粒を含む	外：	にぶい黄2.5Y6/3
												内：	ナデ		内：	にぶい橙5YR6/4
62－3	44	縄文土器	深鉢	突帯文	L5	-	7層	-	-	-	口縁端部D字形刻目、突帯文はD字刻目、台形上向き	外：	ナデ	3㎜以下の砂粒を含む	外：	黄灰2.5Y5/1
												内：	ナデ		内：	灰5Y5/1
62－4	44	縄文土器	深鉢	突帯文	L4	-	7層	-	-	-	口縁端部V字形刻目、突帯文はV字刻目	外：	ナデ	3㎜以下の砂粒を含む	外：	黒褐2.5Y3/2
												内：	ナデ		内：	暗灰黄2.5Y5/2
62－5	44	縄文土器	深鉢	突帯文	L4	-	7層	-	-	-	口縁端部V字形刻目、突帯文はV字刻目	外：	ナデ	3㎜以下の砂粒を含む	外：	にぶい黄橙10YR7/2
												内：	ナデ		内：	灰黄2.5Y7/2
62－6	44	縄文土器	深鉢	突帯文	M4	-	7層	-	-	-	口縁端部V字形刻目、突帯文はV字刻目	外：	ナデ	3㎜以下の砂粒を含む	外：	黒褐10YR3/1
												内：	ナデ		内：	黒褐10YR3/2
62－7	44	縄文土器	深鉢	突帯文	L4	-	7層	-	-	-	口縁端部V字形刻目、突帯文はV字刻目	外：	ナデ	4㎜以下の砂粒を含む	外：	暗灰黄2.5Y5/2
												内：	ナデ		内：	オリ－ブ黒7.5Y3/1
62－8	44	縄文土器	深鉢	突帯文	L6	-	7層	-	-	-	二条突帯、口縁端部棒側面刻目（棒側面による押圧）	外：	ナデ	2㎜以下の砂粒を含む	外：	にぶい黄橙10YR7/3
												内：	ナデ		内：	にぶい黄橙10YR7/2
62－9	44	縄文土器	深鉢	突帯文	L6	-	7層	-	-	-	突帯文　二又状工具、二枚貝条痕	外：	ナデ、二枚貝条痕	2㎜以下の砂粒を含む	外：	灰黄2.5Y7/2
												内：	ナデ、二枚貝条痕		内：	灰黄2.5Y7/2

挿図番号	図版番号	種別	器種	併行型式(時期)	gd	遺構	層位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	特徴	調整		胎土	色調	
62‐10	44	縄文土器	深鉢	突帯文	L4	-	7層	-	-	-	突帯文、D字形刻目	外：	ナデ	2mm以下の砂粒を含む	外：	褐灰10YR4/1
												内：	ナデ		内：	黒N2/
62‐11	44	縄文土器	深鉢	突帯文	M5	-	7層	-	-	-	突帯文、V字形刻目ヵ	外：	ナデ	3mm以下の砂粒を含む	外：	黒N*1.5/
												内：	ナデ		内：	にぶい黄橙10YR6/3
62‐12	44	縄文土器	浅鉢	-	L4	-	7層	-	-	-	-	外：	ミガキ	1mm以下の砂粒を含む	外：	灰白10YR7/1
												内：	ミガキ		内：	にぶい黄橙10YR7/2
62‐13	44	縄文土器	浅鉢	-	M5	-	7層	-	-	-	外面の口縁下沈線文	外：	ミガキ	1mm以下の砂粒を含む	外：	灰黄褐10YR6/2
												内：	ナデ		内：	灰黄褐10YR6/2
62‐14	44	縄文土器	浅鉢	-	L6	-	7層	-	-	-	-	外：	ミガキ	3mm以下の砂粒を含む	外：	灰黄2.5Y7/2
												内：	ミガキ		内：	黄灰2.5Y4/1
62‐15	44	縄文土器	浅鉢	-	L5	-	7層	-	-	-	外面の口縁下沈線文	外：	ナデ	2mm以下の砂粒を含む	外：	黒褐10YR3/1
												内：	ナデ		内：	褐灰10YR4/1
62‐16	44	縄文土器	浅鉢	突帯文	L4	-	7層	-	-	-	-	外：	ミガキ	3mm以下の砂粒を含む	外：	にぶい黄橙10YR7/2
												内：	ミガキ		内：	黄灰2.5Y6/1
62‐17	44	縄文土器	浅鉢	-	M5	-	7層	-	-	-	沈線のちミガキ	外：	ミガキ	1mm以下の砂粒を含む	外：	褐灰10YR4/1
												内：	ミガキ		内：	灰5Y4/1
62‐18	44	縄文土器	浅鉢	篠原式ヵ	L5	-	7層	-	-	-	-	外：	条痕・ミガキ	◇1mm前後の砂粒を少し含む、[同]以下の砂粒を含む、◇1mm未満の赤褐色粒子を含む、断面に◇5mmの炭化物？あり	外：	灰5Y4/1
												内：	ミガキ		内：	オリ‐ブ黄5Y6/3
62‐19	44	縄文土器	浅鉢	-	L5	-	7層	-	-	-	-	外：	弱いミガキ	2mm以下の砂粒を含む	外：	褐灰10YR5/1
												内：	弱いミガキ		内：	にぶい黄橙10YR7/2
62‐20	44	縄文土器	浅鉢	-	L6	-	7層	-	-	-	補修孔あり、波頂部に二つの刻目、外面沈線文、鉤手状口縁	外：	ミガキ	2mm以下の砂粒を含む	外：	黒*1.5/
												内：	ミガキ		内：	黒5Y2/1
62‐21	44	縄文土器	浅鉢	突帯文	L4	-	7層	-	-	-	-	外：	ミガキ	3mm以下の砂粒を含む	外：	灰黄褐10YR5/2
												内：	ミガキ		内：	灰黄褐10YR6/2
62‐22	44	縄文土器	浅鉢	-	L6	-	7層	-	-	6.1	-	外：	ナデ	5mm以下の砂粒を含む	外：	にぶい黄橙10YR7/2
												内：	ミガキ		内：	褐灰10YR4/1
62‐23	44	縄文土器	浅鉢	-	-	-	7層	-	-	8.4	-	外：	ナデ	2mm以下の砂粒を含む	外：	浅黄2.5Y7/3
												内：	ナデ		内：	黒褐2.5Y3/1
62‐24	44	縄文土器	浅鉢	-	-	-	7層	-	-	5.3	底部は完形で残る	外：	条痕（ケズリ）、ナデ、弱いミガキ	4mm以下の砂粒を含む	外：	灰白10YR7/1
												内：	ナデ、弱いミガキ		内：	にぶい黄橙10YR7/2
62‐25	44	縄文土器	浅鉢	-	M5	-	7層	-	-	-	磨滅していて調整不明	外：	不明・ミガキヵ	密、径1mm以下の砂粒若干含む	外：	灰黄2.5Y7/2
												内：	不明・ミガキヵ		内：	灰黄2.5Y6/2
63‐1	45	縄文土器	深鉢	-	L5	-	7層	-	-	-	口縁端部上面に刻目、焼痕残る	外：	ミガキ・ナデ	密、径1mm以下の砂粒若干含む	外：	灰黄2.5Y6/2
												内：	二枚貝条痕		内：	浅黄2.5Y7/3
63‐2	45	縄文土器	浅鉢	-	L5、M5	-	7層	(39.2)	-	-	外面口縁屈曲部上に沈線文、内面使用痕ヵ、一条の沈線	外：	粗いミガキ	密、径1mm以下の砂粒多く含む	外：	黒7.5Y2/1
												内：	丁寧なミガキ		内：	灰オリ‐ブ5Y5/2
63‐3	45	縄文土器	深鉢	-	M5	-	7層	(44.8)	-	-	-	外：	-	やや粗、径2mm以下の砂粒多く含む	外：	にぶい黄褐10YR4/3
												内：	-		内：	にぶい黄橙10YR7/2

挿図番号	図版番号	種別	器種	併行型式(時期)	gd	遺構	層位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	特徴	調整		胎土	色調	
63‐4	45	縄文土器	深鉢	-	N6	-	7層	-	-	-	口縁端部に一条の刻目突帯、刻目突帯文、（口縁端部）刻目	外：	ナデ	◌0.5㎜～2㎜の砂粒（灰色）を含む、（◌2㎜の黒色物質を含む）	外：	暗灰黄2.5Y4/2
												内：	ナデ		内：	灰5Y4/1
63‐5	-	縄文土器	深鉢	-	L4	-	7層	(15.2)	10.4	-	外面煤付着	外：	条痕	密、（2㎜以下の雲母、長石、石英、4㎜以下の砂粒を多量に含む）	外：	灰黄褐10YR5/2～灰黄褐6/2
												内：	ナデ		内：	浅黄2.5Y7/3～灰黄2.5Y6/2
63‐6	45	縄文土器	浅鉢	-	M5	-	7層	-	-	-	-	外：	ミガキ	密、径1㎜以下の砂粒多く含む	外：	灰黄2.5Y6/2
												内：	ミガキ		内：	灰白2.5Y7/1
63‐7	45	縄文土器	浅鉢	-	N5	-	7層	28.2	15.4	(5.6)	-	外：	ミガキ、二枚貝条痕	密、径2㎜大の砂粒若干含み、径1㎜以下の砂粒多く含む	外：	黒N2/
												内：	ミガキ		内：	黄灰2.5Y4/1
68‐1	46	縄文土器	深鉢ヵ	(原田式新段階)	N5	土器だまり2	7層	-	-	-	坏状突起、粘土貼付、口縁端部外面に一部浮文、巻貝条痕文、口縁端部内面に二枚貝条痕	外：	-	◌1㎜未満の赤橙色粒子を少し含む◌1～3㎜の砂粒を多く含む	外：	灰白5Y8/2
												内：	ナデヵ		内：	灰白5Y8/2
68‐2	46	縄文土器	深鉢	(原田式新段階)	(N5)	土器だまり2	7層	-	-	-	口縁端部刻目（刺突文）	外：	巻貝条痕ヵ	◌1㎜前後の赤橙色粒子を少し含む、◌1㎜前後の砂粒を少し含む◌0.5㎜以下の黒光りする物質を含む（石英ヵ）	外：	灰5Y4/1
												内：	ナデヵ		内：	オリ‐ブ黄5Y6/3
68‐3	46	縄文土器	深鉢ヵ	-	N6	土器だまり2	7層	-	-	-	口縁端部刻目（刺突文ヵ）、工具痕あり	外：	二枚貝条痕ヵ	◌1～3㎜の黒灰色物質を含む◌1～3㎜の赤橙色粒子を含む◌1～3㎜の灰白色粒子を含む◌1㎜の砂粒を含む	外：	灰白2.5Y8/2
												内：	ナデヵ		内：	灰黄2.5Y7/2
68‐4	46	縄文土器	深鉢	-	N6	土器だまり2	7層	-	-	-	風化のため調整不明（わかりにくい）、有機物の痕跡ヵあり	外：	（条痕ヵ）	◌1～2㎜の赤褐色物質を含む◌1～3㎜の砂粒を含む	外：	灰黄褐10YR5/2
												内：	（条痕ヵ）		内：	にぶい黄褐10YR5/3
68‐5	46	縄文土器	浅鉢	-	N6・N5	土器だまり2	7層	(24.2)	-	-	方形浅鉢、波状口縁、全体にス付着	外：	ミガキ・ケズリ	密（2㎜未満の雲母・石英・長石、3㎜以下の砂粒を多く含む）	外：	暗灰黄2.5Y5/2～黒2.5Y2/1
												内：	ミガキ		内：	灰黄褐10YR5/2～10YR2/1
68‐6	46	縄文土器	深鉢	-	N6	土器だまり2	7層	(30.0)	-	-	磨滅していて調整わかりにくい	外：	貝殻条痕ヵ	密、径2～6㎜大の砂粒をわずかに含み、径1㎜以下の砂粒を多く含む	外：	にぶい黄橙10YR7/3
												内：	貝殻条痕ヵ		内：	にぶい黄橙10YR7/2
68‐7	46	縄文土器	深鉢	-	N5・N6	土器だまり2	7層	-	-	-	口縁端部に刻み、胴部外面にス付着	外：	条痕	密（2㎜以下の雲母・石英・長石、4㎜以下の砂粒を多量に含む）	外：	条痕
												内：	ナデ		内：	ナデ
69‐1	47	縄文土器	深鉢	-	N7	土器だまり2	7層	(26.8)	-	-	胴部（肩部）外面に刺突文、口縁部内面に黒斑	外：	ナデ・条痕	やや密、（2㎜以下の雲母、石英、長石、5㎜以下の砂を多量に含む）	外：	灰黄2.5Y7/2～淡黄2.5Y8/3
												内：	ナデ		内：	灰白2.5Y8/2
69‐2	47	縄文土器	深鉢	-	M5	土器だまり2	7層	-	-	-	-	外：	条痕	密、（1㎜以下の雲母・石英・長石、2㎜以下の砂粒を多く含む）	外：	黒褐10YR3/2
												内：	ナデ・ミガキ		内：	褐7.5Y4/3～褐灰10YR4/1
69‐3	47	縄文土器	浅鉢	篠原式	M5	土器だまり2	7層	-	-	-	（口縁部一箇所穿孔）、穿孔した時の土器の表面に工具痕が弧状に残っている、焼成後両面穿孔ヵ（穿孔部分はあまり摩耗していないよう）	外：	ミガキ	◌1～2㎜の砂粒を少し含む	外：	黄灰2.5Y5/1
												内：	ミガキ（口縁端部1箇所穿孔）		内：	灰オリ‐ブ5Y4/2
69‐4	47	縄文土器	深鉢	篠原式	N5	土器だまり2	7層	32.0	-	-	刻目（刺突文）、タテ方向の粗いミガキヵ	外：	条痕、タテ方向の粗いミガキヵ	◌1～4㎜の赤褐色粒子を少し含む、◌1～3㎜の砂粒を含む	外：	褐灰10YR4/1
												内：	条痕		内：	暗灰黄2.5Y5/2
69‐5	47	縄文土器	深鉢	-	M6	土器だまり2	7層	-	-	-	（口縁端部）刻目	外：	条痕	◌1㎜前後の砂粒を含む	外：	灰白5Y7/2
												内：	条痕		内：	オリ‐ブ黄5Y6/3
69‐6	47	縄文土器	深鉢	-	M6	土器だまり2	7層	-	-	-	口縁部刻目、風化のため調整不明、胴部突帯	外：	-	◌1㎜未満の赤橙色粒子を含む◌1～3㎜の砂粒を含む	外：	淡黄2.5Y8/3
												内：	-		内：	灰白5Y8/2
69‐7	47	縄文土器	深鉢？	篠原式	M6・N5	土器だまり2	7層	-	-	-	浮文？突起状に（粘土貼付）、櫛状工具によるカキ目？、条痕、タテ方向もしくはナナメ方向の粗いミガキ、条痕のち部分的ナデヵ	外：	浮文（突起状に粘土的な1箇所）、条痕（のち部分的に粗いミガキ）	◌1～2㎜の赤褐色粒子を含む◌1～2㎜の砂粒を多く含む	外：	黒褐2.5Y3/2
												内：	条痕（のち部分的にナデヵ）		内：	灰黄2.5Y6/2

挿図番号	図版番号	種別	器種	併行型式(時期)	gd	遺構	層位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	特徴	調整		胎土	色調	
69‐8	47	縄文土器	深鉢	-	M6	土器だまり2	7層	(32～40)	-	-	固く、比重が大きい	外：	条痕	◇1～2㎜の砂粒を含む	外：	灰白5Y7/2
												内：	条痕		内：	灰白10YR7/1
69‐9	47	縄文土器	浅鉢	(原田式新段階)	N6	土器だまり2	7層	-	-	-	風化のため調整不明	外：	-	◇1～3㎜の砂粒を含む	外：	灰5Y6/1
												内：	-		内：	灰オリ‐ブ5Y6/2
70‐1	48	縄文土器	深鉢	-	M5・6	土器だまり2	7層	(29.7)	-	-	口縁端部に刻み、外面口縁部～肩部、内面、胴部に煤付着	外：	二枚貝条痕（口縁端部ナデ）	密、（2㎜以下の雲母・石英・長石、4㎜以下の砂粒を多量に含む）	外：	にぶい黄橙10YR7/2～灰黄褐10YR6/2
												内：	口縁部二枚貝条痕、頸部～胴部ナデ		内：	黒10YR2/1～黒褐10YR3/2
70‐2	48	縄文土器	深鉢	(原田式新段階)	-	土器だまり2	7層	-	-	-	（口縁端部）刻目ヵ	外：	条痕	◇1～2㎜の砂粒を含む◇1㎜の赤橙色物質を含む	外：	灰黄2.5Y7/2
												内：	条痕ヵ		内：	浅黄2.5Y7/3
70‐3	48	縄文土器	深鉢	-	N5	土器だまり2	7層	-	-	-	刻目	外：	条痕	密、径1㎜以下の砂粒を多く含む	外：	灰白2.5Y8/1
												内：	条痕・刻目		内：	黄灰2.5Y4/1
70‐4	49	縄文土器	深鉢	-	M6	土器だまり2	7層	(30.8)	-	-	連続刺突文、円形浮文、刺突文	外：	二枚貝条痕	やや粗、径3㎜以下の砂粒を多く含む	外：	灰白2.5Y8/1
												内：	指頭圧痕、ナデ、巻貝条痕のちナデ		内：	灰白2.5Y8/2
70‐5	48	縄文土器	深鉢	-	N5・M5	土器だまり2	7層	(30.6)	-	-	胴部（肩部）外面に刺突文、ほぼ全体に煤付着	外：	条痕	やや密（2㎜以下の雲母、石英、長石、4㎜以下の砂粒を多く含む）	外：	にぶい黄褐10YR5/3～にぶい黄橙10YR7/2
												内：	ナデ		内：	にぶい黄橙10YR7/2～黒褐10YR3/1
70‐6	48	縄文土器	深鉢	篠原式	N5	土器だまり2	7層	-	-	-	（口縁部）刺突文、黄灰色物質？付着ヵ	外：	条痕（巻貝ヵ）	◇1～2㎜の赤橙色HⅢ粒子を含む◇1～2㎜の灰白色HⅢ粒子を含む	外：	灰黄2.5Y7/2
												内：	条痕（巻貝ヵ）		内：	灰黄2.5Y6/2
71‐1	49	縄文土器	深鉢ヵ	-	M5	土器だまり2	7層	-	-	-	風化のため調整不明	外：	-	◇1～2㎜の砂粒を含む	外：	暗灰黄2.5Y4/2
												内：	-		内：	暗灰黄2.5Y4/2
71‐2	49	縄文土器	深鉢	-	M5	土器だまり2	7層	-	-	-	-	外：	ナデ	密、（1㎜以下の石英、2㎜以下の長石、4㎜以下の砂粒を多く含む）	外：	灰黄褐10YR4/2、灰黄2.5Y7/2
												内：	ミガキ		内：	黄灰2.5Y4/1～灰白2.5Y8/、灰黄褐10YR4/2
71‐3	49	縄文土器	深鉢	-	M5	土器だまり2	7層	-	-	-	口縁ひじょうに薄い	外：	ナデ	やや粗、（2㎜以下の石英・長石・砂粒を多く含む）	外：	橙5YR6/6
												内：	ナデ		内：	灰黄褐10YR4/2
71‐4	49	縄文土器	浅鉢ヵ	-	M5	土器だまり2	7層	-	-	-	刻目は粘土貼り付けでなく、粘土接合部ヵ、（口縁端部）一条の沈線、（体部）一条の沈線、刻目状（刺突文）、条痕のちミガキヵ	外：	ミガキ	◇1～5㎜の赤橙色物質を含む◇1～3㎜の砂粒を含む	外：	暗灰黄2.5Y5/2
												内：	条痕のちミガキヵ		内：	暗灰黄2.5Y5/2
71‐5	49	縄文土器	浅鉢ヵ	(原田式新段階)	M6	土器だまり2	7層	-	-	-	浮文	外：	ミガキ	◇1㎜前後の砂粒を含む	外：	灰オリ‐ブ7.5Y4/2
												内：	ミガキ		内：	灰オリ‐ブ7.5Y4/2
71‐6	49	縄文土器	浅鉢	-	M5	土器だまり2	7層	(28.8)	-	-	刺突、ナデ、肩部の刺突ヵ	外：	ナデ・刺突	やや粗、径1㎜以下の砂粒を多く含む	外：	灰黄褐10YR6/2
												内：	粗いミガキ		内：	暗黄灰2.5Y5/2
71‐7	49	縄文土器	浅鉢	(原田式新段階)	N5・M5	土器だまり2	7層	-	-	-	風化が激しい	外：	ミガキ	◇1～2㎜の砂粒を少し含む1㎜未満の粒子を多く含む	外：	灰オリ‐ブ5Y4/2
												内：	ミガキ		内：	灰白5Y4/1
71‐8	49	縄文土器	浅鉢ヵ	(原田式新段階)	M5	土器だまり2	7層	-	-	-	-	外：	ミガキ	◇1㎜未満の粒子を含む◇5㎜前後の淡赤橙色物質を含む	外：	灰オリ‐ブ7.5Y4/2
												内：	ミガキ		内：	オリ‐ブ黒7.5Y3/2
71‐9	49	縄文土器	浅鉢	-	N5・M5	土器だまり2	7層	(33.0)	14.4	-	方形浅鉢、波状口縁	外：	口縁部～胴部屈曲部上ミガキ・胴部屈曲部以下条痕	密、（1㎜以下の石英・2㎜以下の石英・5㎜以下の砂粒を多く含む1㎜以下の雲母も含む）	外：	灰黄褐10YR4/2～灰黄2.5Y7/2
												内：	ミガキ・粗いミガキ		内：	褐灰10YR4/1～黒褐10YR3/1
71‐10	49	縄文土器	浅鉢	-	M5	土器だまり2	7層	-	-	-	ところどころに二枚貝腹縁部痕が残る	外：	ミガキ・（二枚貝条痕のちケズリ）、粗いケズリ	◇1～2㎜の砂粒を含む◇1㎜未満の粒子を多く含む	外：	オリ‐ブ黒7.5Y3/1
												内：	ミガキ		内：	オリ‐ブ黒7.5Y3/2

挿図番号	図版番号	種別	器種	併行型式(時期)	gd	遺構	層位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	特徴	調整		胎土	色調	
71‐11	49	縄文土器	浅鉢	-	N5	土器だまり2	7層	-	-	-	外面に粗いミガキもしくは条痕ヵ、二枚貝条痕	外：	（口縁部）ミガキ・（底部）粗いミガキもしくは条痕ヵ・二枚貝条痕ヵ・	◇1〜2㎜の赤橙色粒子（？）を含む◇1〜3㎜の砂粒を少し含む◇1㎜未満の粒子を多く含む	外：	黄灰2.5Y4/1
												内：	ミガキ		内：	黄灰2.5Y4/1
71‐12	50	縄文土器	深鉢	篠原式	N5	土器だまり2	7層	-	-	-	口縁端部に刻み、外面煤付着	外：	二枚貝条痕	やや密、（2㎜以下の雲母・石英・長石、3㎜以下の砂粒を多量に含む）	外：	灰黄2.5Y6/2〜橙5YR6/8
												内：	ナデ		内：	にぶい橙7.5YR6/4〜灰黄2.5Y6/2
71‐13	50	縄文土器	深鉢	-	N5	土器だまり2	7層	-	-	-	口縁端部に刻み、肩部外面に刺突文	外：	二枚貝条痕・ナデ	やや密（2㎜以下の雲母、1㎜以下の石英・長石、5㎜以下の砂粒を多量に含む）	外：	灰黄褐10YR5/2
												内：	ナデ		内：	灰黄2.5Y7/2〜黄灰2.5Y5/1(灰Ｎ4/)
71‐14	50	縄文土器	深鉢	-	N5	土器だまり2	7層	-	-	-	刻目、煤痕のこる	外：	二枚貝条痕	やや粗（径2㎜以下の砂粒を多く含む）	外：	にぶい黄2.5Y6/3
												内：	-		内：	灰黄2.5Y7/2
71‐15	50	縄文土器	深鉢ヵ	-	M5	土器だまり2	7層	-	-	-	（口縁端部）刻目、風化のため調整不明、幅約1㎜、長さ約3㎜の孔あり、焼成前（有機質の痕跡ヵ）	外：	-	◇1㎜前後の砂粒を含む	外：	灰黄2.5Y7/2
												内：	条痕		内：	暗灰黄2.5Y4/2
71‐16	50	縄文土器	深鉢	-	M5	土器だまり2	7層	-	-	-	（端部）刻目（刺突文）、二枚貝条痕ヵ	外：	ナデヵ・（端部）刻目（刺突）	◇1〜3㎜の砂粒を含む	外：	灰白5Y7/2
												内：	一部二枚貝条痕ヵ・ナデヵ		内：	灰オリ‐ブ5Y5/2
71‐17	50	縄文土器	深鉢	-	N5	土器だまり2	7層	-	-	-	口縁端部に刻み	外：	ナデ	密、（2㎜未満の雲母・石英・長石、5㎜未満の砂粒を多く含む）	外：	にぶい黄2.5Y6/3
												内：	ナデ		内：	灰黄2.5Y6/2
72‐1	51	縄文土器	深鉢	-	M5	土器だまり2	7層	(38.4)	-	-	口縁内面に孔列文、連続刺突文	外：	ナデ、巻貝条痕	密、径1㎜の砂粒多く含む	外：	灰黄褐10YR5/2
												内：	ナデ		内：	灰黄2.5Y7/2
72‐2	50	縄文土器	深鉢	-	M5	土器だまり2	7層	-	-	-	口縁内部に孔列文、内面有機物質？ありヵ、風化のため調整不明	外：	調整不明	◇1㎜未満の赤橙色物質少し含む、◇1〜2㎜前後の赤褐色粒子を含む、◇1〜3㎜の砂粒を含む	外：	浅黄2.5Y7/3
												内：	調整不明		内：	浅黄橙10YR8/3
72‐3	50	縄文土器	深鉢	-	M5	土器だまり2	7層	-	-	-	口縁内部に孔列文、磨滅していて調整不明、刺突文	外：	ナデ・条痕・二枚貝条痕	密、径2㎜以下の砂粒を多く含む	外：	にぶい黄橙10YR6/4
												内：	調整不明		内：	にぶい黄橙10YR7/4
72‐4	50	縄文土器	深鉢ヵ	-	M5	土器だまり2	7層	-	-	-	口縁内部に孔列文、風化のため調整不明、刺突文	外：	調整不明	◇1〜2㎜前後の砂粒を含む	外：	灰黄褐10YR5/2
												内：	調整不明		内：	にぶい黄橙10YR5/3
72‐5	50	縄文土器	深鉢ヵ	篠原式	N5	土器だまり2	7層	-	-	-	原田式　口縁内部に孔列文、口縁部断面に黒色粒子を含む(有機物が炭化したものかどうかはわからない)	外：	条痕（巻貝ヵ）	◇3〜4㎜の黒色粒子を含む	外：	オリ‐ブ黒5Y3/1
												内：	条痕（巻貝ヵ）		内：	黄褐2.5Y5/3
72‐6	50	縄文土器	深鉢	-	N5	土器だまり2	7層	-	-	-	外面煤付着	外：	ナデ	やや密、2㎜以下の石英、長石、4㎜以下の砂粒を多く含む	外：	灰黄2.5Y7/2
												内：	ナデ		内：	灰黄2.5Y6/2
72‐7	52	縄文土器	浅鉢ヵ	(原田式新段階)	M5	土器だまり2	7層	-	-	-	原田式新段階　口縁端部上面に刻目、（ミガキのち黒色物質付着）	外：	ミガキ（のち黒色物質付着顔料ヵ）	◇1〜3㎜以下の砂粒を含む、◇1㎜未満の粒子を含む	外：	オリ‐ブ黒7.5Y3/1
												内：	ミガキ		内：	暗オリ‐ブ5Y4/3
72‐8	52	縄文土器	浅鉢	篠原式	M5	土器だまり2	7層	-	-	-	原田式　内面孔なり（有機物痕ではないかもしれない）	外：	ミガキ	◇2㎜の赤橙色粒子を含む、◇1〜2㎜の砂粒を少し含む	外：	暗灰黄2.5Y5/2
												内：	(口縁部）ミガキ、（底部）二枚貝条痕		内：	暗灰黄2.5Y5/2
72‐9	52	縄文土器	浅鉢	篠原式	M5	土器だまり2	7層	-	-	-	原田式　内面一部黒色物質付着（外面もヵ）、外面一部赤色に変色している	外：	ミガキ	◇1㎜の赤橙色粒子を少し含む、◇1〜2㎜の砂粒を少し含む	外：	黄灰2.5Y4/1
												内：	ミガキ（一部黒色物質付着）		内：	褐灰10YR4/1
72‐10	52	縄文土器	浅鉢	-	N5	土器だまり2	7層	-	-	-	-	外：	ミガキ、二枚貝条痕	密、径0.5㎜以下の砂粒多く含む	外：	黒褐2.5Y3/1
												内：	ミガキ		内：	黒2.5Y2/1
72‐11	52	縄文土器	浅鉢	-	M5	土器だまり2	7層	-	-	-	-	外：	ミガキ	密、径1㎜以下の砂粒多く含む	外：	オリ‐ブ黒7.5Y3/1
												内：	-		内：	灰7.5Y4/1

挿図番号	図版番号	種別	器種	併行型式(時期)	gd	遺構	層位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	特徴	調整		胎土	色調	
72‐13	51	縄文土器	深鉢	-	N5	土器だまり2	7層	-	-	-	（口縁端部）刺突文(口引文）、内面孔あり	外：	条痕（巻貝ヵ）	◇1㎜前後の赤褐色粒子砂粒少し含む、◇1～3㎜の灰白色粒子を含む	外：	黄灰2.5Y4/1
												内：	条痕（巻貝ヵ）		内：	にぶい黄2.5Y6/3
72‐14	52	縄文土器	浅鉢	篠原式	N5	土器だまり2	7層	-	-	-	外表面有機物痕ヵあり	外：	（口縁部）ミガキ、（底部）二枚貝条痕ヵ	◇1㎜の赤橙色粒子を少し含む、◇1㎜未満の粒子を多く含む	外：	灰75Y4/1
												内：	ミガキ		内：	オリ‐ブ黒10YY3/2
75‐1	53	縄文土器	粗製深鉢	篠原式	L6	-	8層	-	-	-	内口縁に方形工具による刺突、外口縁に巻貝頂部による刺突、肋間広い二枚貝？条痕、ナデ指の痕残る、外面煤わずかに残る	外：	条痕　二枚貝ヵ	密、径4㎜以下の砂粒含む	外：	灰黄褐10YR4/2
												内：	条痕		内：	にぶい黄橙10YR7/2
75‐2	53	縄文土器	深鉢ヵ	篠原式	M5	-	8層	-	-	-	口縁端部上面に刻目、外面孔あり、外面（巻貝ヵ）条痕	外：	巻貝条痕ヵ	◇1～2㎜の赤橙色物質を少し含み、◇1～3㎜の砂粒含む	外：	暗灰黄2.5Y5/2
												内：	ナデヵ		内：	にぶい黄2.5Y6/3
75‐3	53	縄文土器	浅鉢	-	N6	-	8層	-	-	-	口縁端部面あり、ほぼ全面煤残る	外：	ミガキ	密、径1㎜未満の砂粒多く含む	外：	灰黄褐10YR5/2
												内：	ミガキ　ケズリ様の調整		内：	灰黄褐10YR4/2
76‐1	53	縄文土器	鉢	後期崎ヶ鼻式	L6	-	10層	-	-	-	擬口縁内径接合痕あり、口縁と胴部の縄文は原体同じ、口縁外部縄文RL、胴部外面羽状縄文RL	外：	縄文　羽状縄文RL	密、径1㎜～0.5㎜砂粒を多く含む、径1㎜未満の赤橙色粒子を含むか	外：	灰白10YRY8/2
												内：	ナデ　巻貝条痕ヵ		内：	灰白2.5Y8/2
76‐2	53	縄文土器	深鉢	-	M6	-	10層	-	-	-	外面若干煤残る	外：	ナデ	密、径2～0.5㎜大の雲母を含む砂粒多く含む	外：	灰黄褐10YR6/2
												内：	ナデ		内：	灰白10YR7/1
76‐3	53	縄文土器	深鉢	-	M6	-	10層	-	-	-	外面若干煤残る、全体磨滅している、調整不明	外：	ナデ	密、径3～0.5㎜大の砂粒多く含む	外：	にぶい赤褐5YR5/4
												内：	ナデ		内：	にぶい橙7.5YR6/4
76‐4	53	縄文土器	深鉢	-	M6	-	10層	(22.8)	-	-	外面一部煤残る	外：	ミガキ・ヨコ方向ミガキ	密、径2㎜以下の砂粒多く含む	外：	灰黄2.5Y7/2
												内：	タテ方向ミガキ		内：	にぶい黄橙10YR7/3
76‐5	53	縄文土器	深鉢	-	M5	-	10層	-	-	-	口縁端部下にわずかに稜線ヵ、内面条痕見えるが磨滅して原体不明、磨滅の為調整不明	外：	条痕ヵ	密、径2㎜以下の砂粒多く含む	外：	灰白2.5Y8/1
												内：	調整不明		内：	灰白2.5Y7/1
76‐6	53	縄文土器	深鉢	篠原式ヵ	M5	-	10層	-	-	-	口縁端部下にわずかに稜、内面磨滅	外：	調整不明	密、径2㎜以下の砂粒多く含む	外：	灰黄2.5Y7/2
												内：	巻貝条痕ヵ		内：	灰白2.5Y7/1
76‐7	53	縄文土器	深鉢	篠原式ヵ	M5	-	10層	-	-	-	磨滅していて調整不明	外：	巻貝条痕 ナデ	密、径3㎜未満の砂粒多く含む	外：	灰白10YR8/2
												内：	調整不明		内：	灰白5Y8/1
76‐8	53	縄文土器	浅鉢	-	M5	-	10層	(28.0)	-	-	口縁端部刻目	外：	ミガキ	密、径1㎜以下の砂粒多く含む	外：	灰白5YR7/2
												内：	ミガキ　二枚貝条痕		内：	灰白5Y5/1
76‐9	53	縄文土器	深鉢	-	L5	-	10層	(28.2)	-	-	-	外：	ナデ？	密、径1㎜未満の砂粒多く含む	外：	黒褐10YR3/1
												内：	粗いミガキ		内：	灰黄褐10YR6/2
77‐1	52	縄文土器	注口土器	後期元住吉山Ⅱ式～宮滝式	M6	-	10層	(21.0)	23.0	(16.0)	外面口縁、頸部屈曲部、肩部に凹線、凹線上に扇状圧痕（4箇所ヵ）、凹線内ナデ、凹線は描線後に扇状圧痕、扇状圧痕の周囲に粘土はみ出し、肩部の凹線は注口部分で途切れる、焼成良好	外：	ナデ　巻貝条痕	径1㎜以下の石英、長石粒多く含む	外：	褐灰10YR5/1
												内：	ミガキとナデ 粗いミガキとナデ		内：	浅黄2.5Y7/3
78‐1	53	縄文土器	深鉢	後期崎ヶ鼻式ヵ	M6	-	11層	-	-	-	外面縄文LR、磨滅の為調整不明	外：	ナデ　縄文LR	密、径3㎜大の砂粒多く含むが、径1㎜以下の砂粒多く含む	外：	灰黄2.5Y7/2
												内：	調整不明		内：	灰白2.5Y8/2
78‐2	53	縄文土器	浅鉢ヵ	-	M6	-	11層	-	-	-	磨滅の為調整不明	外：	調整不明	密、径2㎜以下の砂粒多く含む	外：	褐灰7.5YR6/1
												内：	調整不明		内：	褐灰10YR6/1
78‐3	54	縄文土器	深鉢	-	M6	-	11層	-	-	-	-	外：	-	密、径2㎜以下の砂粒多く含む	外：	灰黄2.5Y7/2
												内：	ナデヵ		内：	浅黄2.5Y7/3

挿図番号	図版番号	種別	器種	併行型式(時期)	gd	遺構	層位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	特徴	調整		胎土	色調	
78‐4	53	縄文土器	深鉢	-	M6	-	11層	-	-	-	外面磨滅調整不明	外：	調整不明	密、径2㎜以下の砂粒多く含む	外：	灰黄2.5Y6/2
												内：	巻貝条痕　ナデ		内：	灰白2.5Y8/2
78‐5	53	縄文土器	浅鉢	後期宮滝式ヵ	M6	-	11層	-	-	-	外面　沈線文、凹点線　一部煤残る	外：	ミガキ	密、径2㎜未満の砂粒多く含む、雲母含	外：	灰黄褐10YR5/2
												内：	ミガキ		内：	暗灰N3/
86‐1	54	須恵器	高杯脚部ヵ	-	B9	-	-	-	-	(17.8)	-	外：	回転ケズリ後回転ナデ	1㎜大の白色砂含む、2㎜大の黒色砂含む、石英微細粒わずかに含む	外：	灰N4/
												内：	回転ケズリ後回転ナデ		内：	灰N6/
86‐2	54	須恵器	長頸壺ヵ	-	B9	-	-	-	-	(9.2)	-	外：	回転ケズリ後回転ナデ	蜜、1㎜大の白色砂、黒色砂含む	外：	灰白N7/
												内：	回転ケズリ後回転ナデ 回転糸切りのち軽いナデ		内：	灰N6/
86‐3	54	須恵器	杯	-	B9	-	-	-	-	(17.1)	-	外：	回転ケズリ後回転ナデ	蜜、1㎜大の白色砂、黒色砂含む	外：	灰N4/
												内：	回転ケズリ後回転ナデ　切りはなしは回転糸切り		内：	灰N6/
86‐4	54	須恵器	壷	-	B9	河道跡	-	-	-	(12.6)	底部内面に自然釉付着	外：	回転ヘラケズリ後回転ナデ	1㎜大の白色砂粒含む、3㎜大の黒色砂粒含む	外：	灰白N7/
												内：	回転ヘラケズリ後回転ナデ ヘラ切りヵ		内：	灰N6/
86‐5	54	土師器	杯	-	B9	-	-	-	-	(6.8)	-	外：	ケズリ後回転ナデ	蜜、1㎜～4㎜大の石、1㎜～2㎜大の長石、微細な石英粒含む	外：	浅黄橙10YR8/3～橙5YR7/6
												内：	ケズリ後回転ナデ、回転糸切り後軽いナデヵ		内：	淡橙5YR8/4
86‐6	54	土師器	皿ヵ	-	-	河道跡	暗灰色土	-	-	(4.3)	-	外：	ケズリ後回転ナデ	1㎜大の長石粒含む	外：	浅黄橙10YR8/3
												内：	ケズリ後回転ナデ、回転糸切り後軽いナデヵ		内：	灰白10YR8/2
86‐7	54	土師器	柱状高台皿	-	A9	-	暗灰褐色土	-	-	3.6	-	外：	ナデ	蜜、1.5㎜大の砂粒、2㎜大の長石粒含む	外：	浅黄橙7.5YR8/4
												内：	ナデ　糸切り（静止か、回転か不明）		内：	浅黄橙7.5YR8/6
86‐8	54	磁器	中国青花	-	A10	水路遺構	暗緑色土（砂混じる、黒瓦の出る層、埋土	-	-	(6.3)	見込みの文様は牡丹ヵ、高台に砂止め痕、高台内面に「宣徳年製」の銘あり	外：	回転ナデ	-	外：	灰N4/
												内：	回転ナデ		内：	灰N6/
86‐9	54	陶器	石見焼鉢	-	B9	-	8層	-	-	(17.1)	幕末～明治	外：	灰白5Y7/2	灰白5Y7/1	外：	灰N4/
												内：	灰白5Y7/3		内：	灰N6/

gdはグリッドを表す

石器観察表

挿図番号	図版番号	石材	器種	gd	遺構	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	特徴
18-7	26	（泥質片岩）	打製石斧	L4	SX1	3層	8.9	6.8	2.0		破損したなどのため再利用（再加工されたヵ）
18-8	26	デイサイト	擦石/敲石	L4	SX1	3層	7.7	7.0	4.7		側縁にも細かな敲打痕あり
23-6	26	碧玉	石鏃	L4(orL5)	SK2	3層	(1.6)	(1.15)	0.3		
23-7	26	（碧玉）	石鏃	L4	SK2	3層					
30-15	28	流紋岩	打製石斧	L7	SR1	砂礫層	19.3	9.8	3.4		
32-1	30	安山岩	石鏃	N5	SR2	砂礫層	1.7	1.25	0.25		
32-2	30	凝灰岩	擦石/敲石	N4	SR2（排水溝）	青灰砂礫層	10.3	7.6	4.5		
32-3	30	デイサイト	擦石/敲石	O4	SR2	灰色砂礫層	10.01	8.85	5.25	480	
32-4	30	凝灰岩	擦石/敲石	N4	SR2（排水溝）	青灰砂礫層	10.4	9.1	5.9	455	
32-5	30	砂岩	石皿		SR2	砂礫層	(27.3)	16.7	5.4	(3660)	欠損品ヵ、片面に木の実を擦った痕ヵ
34-5	31	緑色片岩	磨製石斧	M4	SR3		(12.6)	4.6	3.1	304	刃部欠損
36-25	33	ー	（擦石ヵ）	L4	-	黄灰色粘土	8.1	8.0	4.0	33.8	両面利用、特に片側の側面及び片面平坦面の利用頻度は高い　川原石を利用
39-20	33	安山岩	石錘	M6	-	5層					先端僅かに欠くが基部までほぼ完形
47-5	35	（安山岩）	磨製石斧		土器だまり1	6層	9.9	4.6	1.4	96	
49-9	38	安山岩	石錘	M5	土器だまり1	6層	3.7	1.9	1.0		
49-10	38	安山岩	石鏃	M4	土器だまり1	6層	1.8	1.2	3.5		
51-20	39	泥質片岩	打製石斧	M5	-	6層	(11)	(7.8)	(2.6)	(348)	
53-9	41	（玉随）	スクレイパー	L6	-	6層	5.6	5.8	3.5		
62-26	44	サヌカイト	スクレイパー	M5	-	7層	4.0	4.4	0.9		
63-8	45	流紋岩	打製石斧	L5	-	7層	13.2	7.9	1.7	192	欠損した石鏃を再び石鏃として利用したものと思われる、両端同位置に刃潰れ
69-10	47	泥質片岩	打製石斧	-	土器だまり2	7層	13.4	5.8	2.3	230	基部近くの片側面に刃潰れ
72-12	51	サヌカイト	石錐	M5	土器だまり2	7層	(8.7)	(1.5)	(0.6)	7	先端部分欠損
73-1	51	デイサイト	磨石/敲石	M5	土器だまり2	7層	11	12.3	6.4		
77-2	52	凝灰岩	敲石	M5	-	10層	14.8	7.2	4.8		
77-3	52	安山岩	打製石斧	M6	-	10層	11.0	7.5	2.4		
86-10	54	砂岩	砥石	-	河道跡	暗灰色土	8.5	7.4	3.2	(200)	砥面は非常に滑らか、両面共に緩やかな陵が見られる
86-11	54	砂岩	砥石	-	河道跡	5-⑧層　暗灰色土	4.75	9.3	5	332	砥面は非常に滑らか、自然面、一部煤付着

gdはグリッドを表す

木器観察表

挿図番号	図版番号	種別	器種	区	遺構	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	特徴	木取り
14-13	25	木製品	杭	M4		2層	17.4	6.7	2		
14-14	25	木製品	杭	M4		2層	10.5	6.7	2.6		
14-15	25	木製品	杭	M4		2層	11.1	(2.1)	(11.5)		
14-16	25	木製品	杭	M4		2層	11.1	(2.3)	(3.3)		

gdはグリッドを表す